

平成 29 年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業

**妊娠婦に対するメンタルヘルスケアのための
保健・医療の連携体制に関する調査研究**

報告書

平成 30(2018)年3月

 MUFG
三菱UFJリサーチ&コンサルティング

妊産婦に対するメンタルヘルスケアのための保健・医療の連携体制に関する調査研究 報告書

■ ■ 目次 ■ ■

第1章 調査研究事業の概要	1
1. 事業の背景・目的	1
2. 事業内容と実施方法	1
3. 体制	3
4. 成果の公表方法	4
第2章 産婦アンケート調査の結果	5
第1節 回収状況	5
第2節 回答者の基本情報	5
1. 基本属性	5
2. 本人・夫の就労状況	8
3. 今回の出産の状況	13
第3節 妊娠・出産、産後期間の不安感や負担感と必要な支援	22
1. 心配ごと・悩み等を相談できる相手	22
2. 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援	29
3. 妊娠が分かった時の気持ち	67
4. 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担	70
5. 妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービス	97
6. 「産後うつ」の認知状況	106
7. 国や自治体に期待する産前・産後の支援(自由記入)	107
第3章 自治体調査の結果	111
第1節 回収状況等	111
第2節 市区町村アンケート結果	112
1. 回答自治体の保健医療資源の状況	112
2. メンタルヘルスケアに係る受診勧奨	123
3. 妊産婦のメンタルヘルスに特化した事業	126
4. 関係機関との連携体制	129
5. メンタルヘルスケアの取組を進めていく上で必要な支援	147
第3節 都道府県アンケート結果	150
1. 市区町村が行う妊産婦のメンタルヘルスケアに対する支援	150
2. 妊産婦のメンタルヘルスケアに特化した事業	153
3. 実施・強化したい取組	156
4. 妊産婦のメンタルヘルスケアに関する意見	159
第4章 事例調査の結果	161
第5章 まとめ	173
調査票	181

第1章 調査研究事業の概要

第1章 調査研究事業の概要

1. 事業の背景・目的

厚生労働省では、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を提供できるよう体制の整備を推進しているところである。

妊産婦に対するメンタルヘルスケアに当たっては、都道府県、市町村による保健サービスと産科、小児科、精神科等の医療機関による医療サービスとの連携体制が構築されることが重要である。

本調査研究では、まず、メンタルヘルスケアに関する妊産婦のニーズを明らかにすることを目的とする。

次に、メンタルヘルスケアの実施状況および関係者・機関の連携体制について、全国の実態を把握・分析するとともに、先進的な事例について詳しく調査し、事例集としてとりまとめ、公表することで地域に即した連携体制の在り方を示すことを目的とする。

2. 事業内容と実施方法

(1) メンタルヘルスケアに関する妊産婦のニーズ調査（産婦調査）

市の協力を得て、3～4か月児健康診査の機会を活用して、産後の女性を対象に、不安の状況や受けているサポートの状況、メンタルヘルスケアに関するニーズを把握するための調査を実施した。妊娠中や出産直後の不安の状況なども、時系列で把握できるような質問を設けた。

調査は、調査票を用いた自記式のアンケートとし、市職員から産婦に配付、記入後の調査票は市職員に提出または郵送にて事務局に返送してもらった。

【調査実施概要】

- 調査対象地域：全国から協力が得られた16市（3～4か月児健康診査を集団で実施している市）
- 調査対象者：3～4か月児健康診査の受診児の母親。平成29年11月～12月の期間に各市で設定した調査日に受診した児の母親全員。4,000人程度を想定。
- 調査方法：自記式アンケート
- 配付・回収方法：健康診査の会場にて、市職員が調査対象者に調査票を配付、記入後の調査票はその場で市職員が回収または郵送にて事務局へ返送した。市職員がその場で回収する場合も、調査対象者は個別の封筒にいれて、封をして自治体職員に提出し、自治体職員は開封せずにそのまままとめて事務局に返送した。1月30日で回収を締切とした。

○主な調査内容：

- ・本人の基本属性（年齢、家族構成等）、就労状況
- ・不安・負担等
- ・家族等からの支援の状況、行政・民間サービスの利用状況、サービスのニーズ
- ・「産後うつ」の認知度／等

（2）地域の保健・医療の連携体制に関する実態調査・分析（自治体調査）

全国の都道府県・市区町村（全数）を対象に妊産婦に対するメンタルヘルスケアの実施状況や連携体制の実態等について紙面調査を実施した。調査結果については人口規模や保健・医療資源等の状況等を踏まえた分析を行った。

【調査実施概要】

①市区町村調査

○調査対象：市区町村全数（1,741件）

○調査方法：郵送調査

○調査期間：平成29年11月15日発送、12月6日締切、ただし、回収状況を踏まえ、12月19日まで回収期限を延長した。

○主な調査内容：

- ・自治体内の保健医療資源
- ・妊産婦に対する受診勧奨の状況
- ・妊産婦に対する支援事業の実施体制、実施内容、実施状況
- ・メンタルヘルスケアにかかる地域の連携体制の構築状況、構築のための取組みの実施状況（地域での関係者の会議の開催／等）／等

②都道府県調査

○調査対象：都道府県全数（47件）

○調査方法：電子メールにファイルを添付し送付、入力後のファイルを電子メールで返送

○調査期間：平成29年12月19日発信、12月28日締切、ただし、回収状況を踏まえ、平成30年1月30日まで期限を延長した。

○主な調査内容：

- ・市区町村に対する支援の取り組みの実施状況、今後の取り組み意向
- ・妊産婦のメンタルヘルスケアに特化した事業の状況／等

(3) 事例調査

他自治体の参考となるような好事例について、訪問聞き取り調査を実施した。対象は5自治体とした。訪問は12月～3月に行った。

【対象自治体】

- 大分県
- 福岡市（福岡県）
- 函館市（北海道）
- 須坂市・小布施町（長野県）
- 内灘町（石川県）

なお、事例を整理する際の視点としては、①連携体制について、図式化等含めて、とりまとめるとともに、②連携体制の運用上の工夫をとりまとめた。

3. 体制

事業の進め方や調査票の設計、集計・分析結果について議論するために、有識者、自治体職員等からなる調査研究委員会を設置した。会議は3回行った。

【調査研究委員会委員】（五十音順、○：委員長）

- 秋山 千枝子 あきやま子どもクリニック 院長
- 奥苑 さやか 福岡市こども未来局こども部こども発達支援課保健師
- 小泉 典章 長野県精神保健福祉センター 所長
- 清水 久美恵 大分県健康づくり支援課母子保健班 保健師
- 鈴木 俊治 葛飾赤十字産院 副院長
- 福島 富士子 東邦大学 教授
- 宮岡 等 北里大学東病院 病院長
- 本 弘美 石川県内灘町町民福祉部保険年金課副参事兼保健センター所長

【オブザーバー】

- 厚生労働省 子ども家庭局 母子保健課

【事務局】 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

- 星芝 由美子 主任研究員
- 関 恵子 主任研究員
- 村井 佐知子 副主任研究員
- 丹羽 麻一子 コンサルタント
- 吉竹 一将 チーフコンサルタント

【調査研究委員会の議題等】

	開催日	議題
第1回	10月25日	<ul style="list-style-type: none">・事業の進め方・調査の実施方法・調査票案（産婦調査・自治体調査）・事例調査の進め方・対象自治体候補
第2回	2月16日	<ul style="list-style-type: none">・事例調査の進捗報告・市区町村アンケートの結果報告・都道府県アンケートの結果報告・産婦調査の進捗報告・報告書目次案について
第3回	3月19日	<ul style="list-style-type: none">・産婦調査結果の報告・事例調査の報告・報告書案について

4. 成果の公表方法

本事業の成果をとりまとめた本報告書は、三菱UFJリサーチ&コンサルティングのホームページにて公開する。

第2章 産婦アンケート調査

第2節 産婦アンケート調査の結果

第1節 回収状況

有効回収数は1,900件、回収率は41.8%であった。

総配布数	4,541件
有効回収数	1,900件
回収率	41.8%

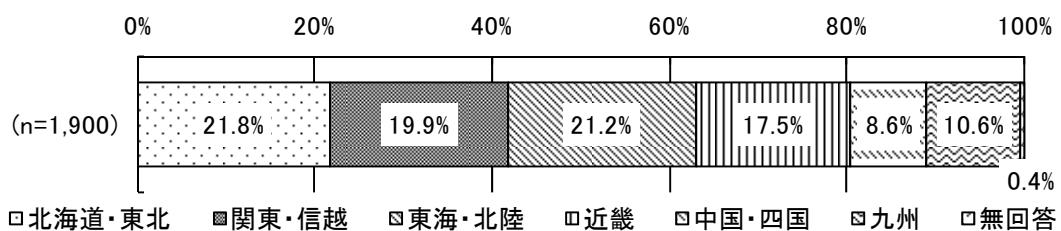
第2節 回答者の基本情報

1. 基本属性

(1) 住まい

住まいは「北海道・東北」が21.8%、「東海・北陸」が21.2%であった。

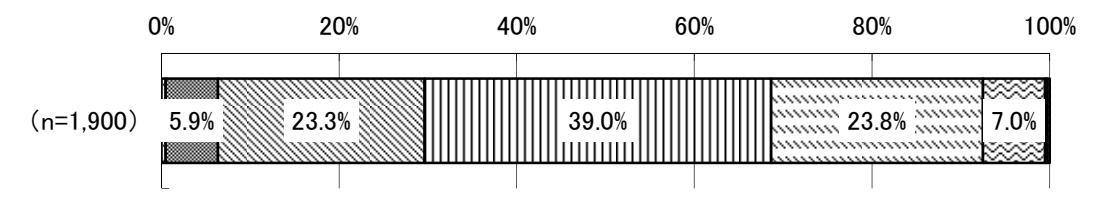
図表2-1 住まい(F1)



(2) 年齢

年齢は「30~34歳」が39.0%であった。「35~39歳」は23.8%、「25~29歳」は23.3%であった。

図表2-2 年齢(F2)

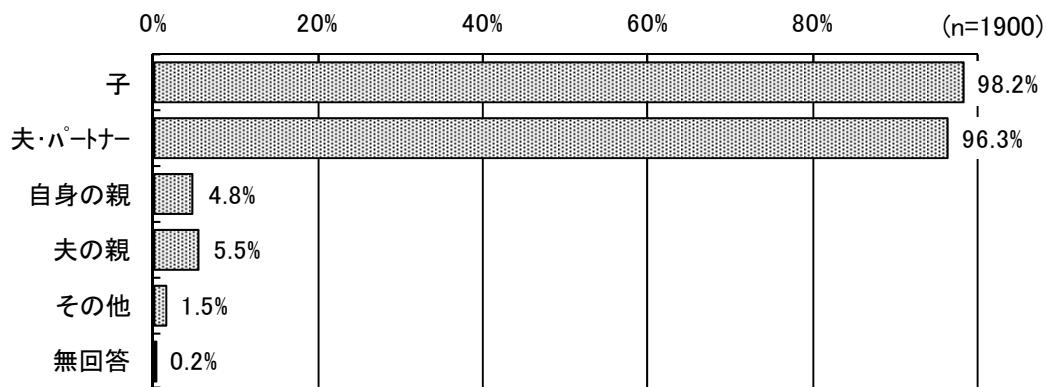


□19歳以下 ■20~24歳 □25~29歳 □30~34歳 □35~39歳 □40~44歳 □45歳以上 □無回答

(3) 同居家族

同居家族は「子」が98.2%、「夫・パートナー」が96.3%であった。「夫の親」が5.5%、「あなたの親」(自身の親)が4.8%であった。

図表2-3 同居家族(F3) (複数回答)



【年齢別】

「あなたの親」について、年齢別にみると、「20~24歳」で16.1%、「夫の親」について年齢別にみると、「20~24歳」で9.8%であった。

図表2-4 年齢別 同居家族(F3) (複数回答)

	合計	同居家族					
		子	夫・パートナー	あなたの親	夫の親	その他	無回答
全体	1,900	1,865	1,830	92	104	28	4
	100.0%	98.2%	96.3%	4.8%	5.5%	1.5%	0.2%
19歳以下	9	9	8	2	2	1	0
	100.0%	100.0%	88.9%	22.2%	22.2%	11.1%	0.0%
20~24歳	112	111	100	18	11	6	0
	100.0%	99.1%	89.3%	16.1%	9.8%	5.4%	0.0%
25~29歳	442	434	426	22	23	7	0
	100.0%	98.2%	96.4%	5.0%	5.2%	1.6%	0.0%
30~34歳	741	729	722	24	32	10	0
	100.0%	98.4%	97.4%	3.2%	4.3%	1.3%	0.0%
35~39歳	453	445	439	21	31	3	0
	100.0%	98.2%	96.9%	4.6%	6.8%	0.7%	0.0%
40~44歳	133	131	129	5	4	1	0
	100.0%	98.5%	97.0%	3.8%	3.0%	0.8%	0.0%
45歳以上	4	4	4	0	0	0	0
	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※上段：回答数 下段：割合 (以下、同じ)

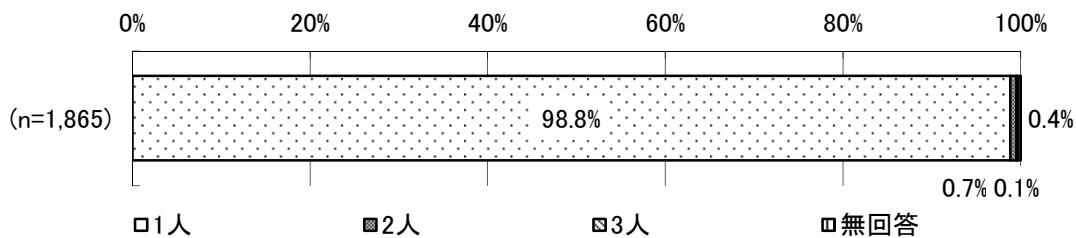
(4) 子の人数

① 今回の出産によるもの

「子」と同居している場合、今回の出産による子の人数は、「1人」が98.8%であった。

「2人」は0.7%（13件）、「3人」は0.1%（2件）であった。

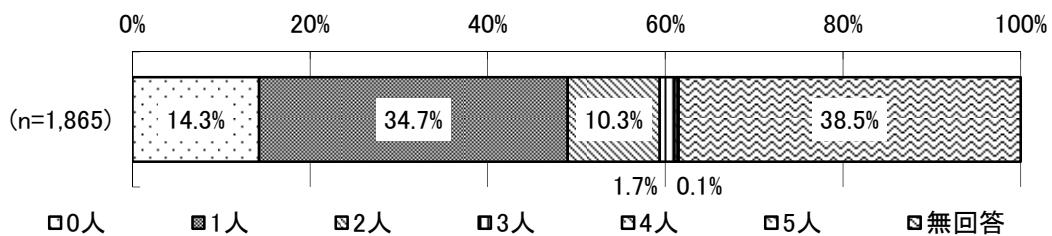
図表2-5 今回の出産による子の人数(F3sq1)



② 今回の出産以外によるもの（上の子）

「子」と同居している場合、今回の出産以外による子の人数は「1人」が34.7%であった。「0人」が14.3%であった。

図表2-6 今回の出産以外の子の人数(F3sq2)

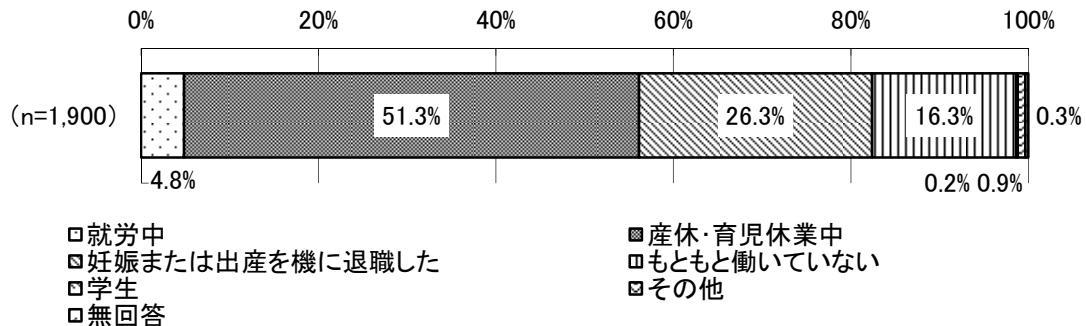


2. 本人・夫の就労状況

(1) 本人の現在の就労状況

現在の就労状況は、「産休・育児休業中」が 51.3%で最も高かった。次いで、「妊娠または出産を機に退職した」が 26.3%、「もともと働いていない」が 16.3%であった。

図表 2-7 現在の就労状況(F4)



【年齢別】

年齢別にみると、「20~24 歳」では、「妊娠または出産を機に退職した」が 42.9%であった。

「25~29 歳」は「産休・育児休業中」が 47.7%、「30~34 歳」では 56.1%、「35~39 歳」では 54.5%、「40~44 歳」では 50.4%であった。

図表 2-8 年齢別 現在の就労状況(F4)

	合計	現在の就労状況						
		就労中	産休・育児休業中	妊娠または出産を機に退職した	もともと働いていない	学生	その他	無回答
全体	1,900	92 100.0%	4.8% 51.3%	499 26.3%	309 16.3%	3 0.2%	17 0.9%	6 0.3%
19 歳以下		9 100.0%	2 22.2%	1 11.1%	4 44.4%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%
20~24 歳		112 100.0%	4 3.6%	30 26.8%	48 42.9%	25 22.3%	2 1.8%	3 2.7%
25~29 歳		442 100.0%	12 2.7%	211 47.7%	139 31.4%	77 17.4%	0 0.0%	3 0.7%
30~34 歳		741 100.0%	33 4.5%	416 56.1%	185 25.0%	102 13.8%	0 0.0%	4 0.5%
35~39 歳		453 100.0%	31 6.8%	247 54.5%	90 19.9%	78 17.2%	1 0.2%	5 1.1%
40~44 歳		133 100.0%	9 6.8%	67 50.4%	32 24.1%	24 18.0%	0 0.0%	1 0.8%
45 歳以上		4 100.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%

【出産回数別】

出産回数が、「1回」では、「産休・育児休業中」が 56.3%、「妊娠または出産を機に退職した」が 29.3%であった。

出産回数が、「2回」では「産休・育児休業中」が 46.8%、「もともと働いていない」が 22.2%であった。

「3回以上」では、「産休・育児休業中」が 44.2%、「もともと働いていない」が 25.2%であった。

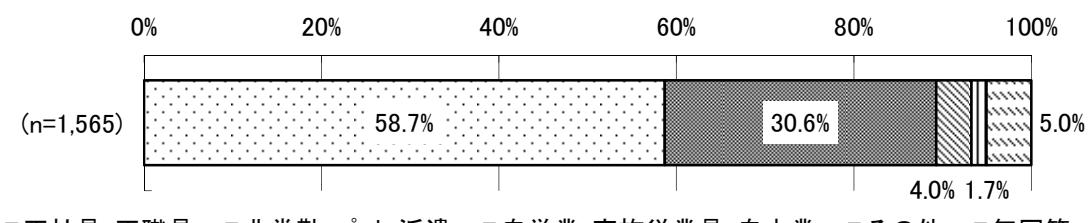
図表 2-9 出産回数別 現在の就労状況(F4)

	合計	現在の就労状況						
		就労中	産休・育児休業中	妊娠または出産を機に退職した	もともと働いていない	学生	その他	無回答
全体	1,900	92	974	499	309	3	17	6
	100.0%	4.8%	51.3%	26.3%	16.3%	0.2%	0.9%	0.3%
1回	999	29	562	293	101	2	12	0
	100.0%	2.9%	56.3%	29.3%	10.1%	0.2%	1.2%	0.0%
2回	649	41	304	155	144	1	3	1
	100.0%	6.3%	46.8%	23.9%	22.2%	0.2%	0.5%	0.2%
3回以上	242	21	107	51	61	0	1	1
	100.0%	8.7%	44.2%	21.1%	25.2%	0.0%	0.4%	0.4%

(2) 本人の就労形態

「就労中」「産休・育児休業中」「妊娠または出産を機に退職した」場合に、就労形態をたずねた。「正社員・正職員」が 58.7%で最も高く、次いで、「非常勤・パート・派遣」が 30.6%であった。

図表 2-10 就労形態(F4sq1)



【就労状況別】

就労中では「自営業・家族従業員・自由業」が40.2%、「非常勤・パート・派遣」が35.9%であった。

「産休・育児休業中」では「正社員・正職員」が75.9%、「非常勤・パート・派遣」が17.5%であった。

「妊娠または出産を機に退職した」では「非常勤・パート・派遣」が55.3%、「正社員・正職員」が31.9%であった。

図表 2-11 就労状況別 就労形態(F4sq1)

	合計	就労形態				
		正社員・正職員	非常勤・パート・派遣	自営業・家族従業員・自由業	その他	無回答
全体	1,565 100.0%	918 58.7%	479 30.6%	62 4.0%	27 1.7%	79 5.0%
就労中	92 100.0%	20 21.7%	33 35.9%	37 40.2%	2 2.2%	0 0.0%
産休・育児休業中	974 100.0%	739 75.9%	170 17.5%	16 1.6%	14 1.4%	35 3.6%
妊娠または出産を機に退職した	499 100.0%	159 31.9%	276 55.3%	9 1.8%	11 2.2%	44 8.8%

産休・育児休業中の場合、本人の就労形態別の年齢をみると、「正社員・正職員」では「30～34歳」が44.0%であった。「非常勤・パート・派遣」では「30～34歳」が37.6%であった。

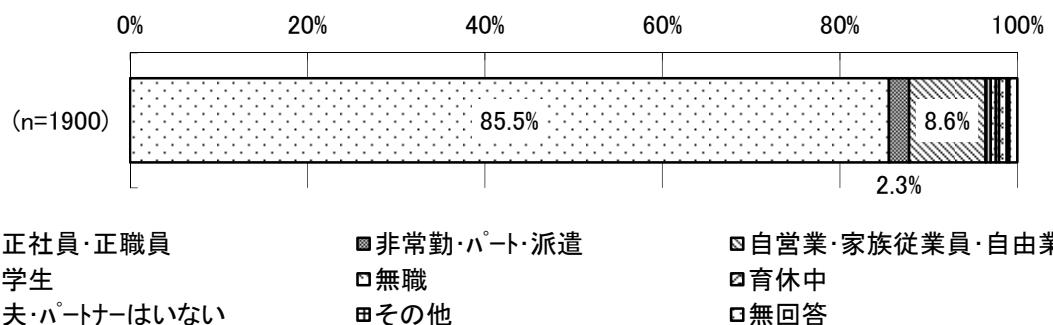
図表 2-12 (産休・育児休業中の場合)就労形態別 年齢(F2)

	合計	年齢							
		19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳以上	無回答
産休・育児休業中	974 100.0%	1 0.1%	30 3.1%	211 21.7%	416 42.7%	247 25.4%	67 6.9%	1 0.1%	1 0.1%
正社員・正職員	739 100.0%	1 0.1%	15 2.0%	160 21.7%	325 44.0%	188 25.4%	48 6.5%	1 0.1%	1 0.1%
非常勤・パート・派遣	170 100.0%	0 0.0%	10 5.9%	36 21.2%	64 37.6%	48 28.2%	12 7.1%	0 0.0%	0 0.0%
自営業・家族従業員・自由業	16 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 43.8%	5 31.3%	2 12.5%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
その他	14 100.0%	0 0.0%	2 14.3%	1 7.1%	7 50.0%	2 14.3%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	35 100.0%	0 0.0%	3 8.6%	7 20.0%	15 42.9%	7 20.0%	3 8.6%	0 0.0%	0 0.0%

(3) 夫の就労状況

夫の就労状況は、「正社員・正職員」が 85.5%で最も高かった。次いで、「自営業・家族従業員・自由業（8.6%）」、「非常勤・パート・派遣（2.3%）」であった。

図表 2-13 夫の就労状況(F5)



合計	正社員・正職員	非常勤・パート・派遣	自営業・家族従業員・自由業	学生	無職	育休中	夫・パートナーはない	その他	無回答
1,900	1,625	43	164	11	11	7	16	6	17
100.0%	85.5%	2.3%	8.6%	0.6%	0.6%	0.4%	0.8%	0.3%	0.9%

【年齢別】

年齢別にみると、いずれも「正社員・正職員」が最も多く、その割合は「20～24歳」では76.8%であった。

図表 2-14 年齢別 夫の就労状況(F5)

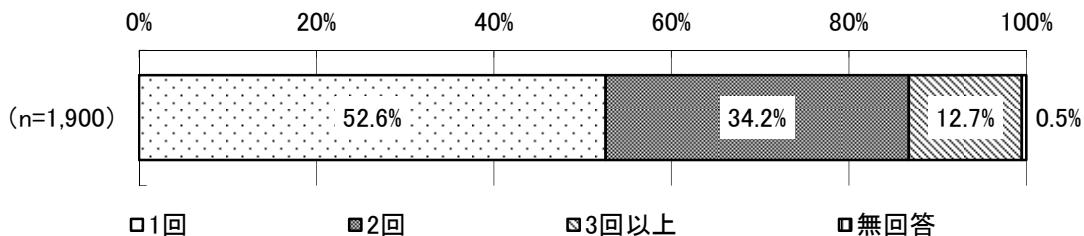
	合計	夫の就労状況								
		正社員・正職員	非常勤・パート・派遣	自営業・家族従業員・自由業	学生	無職	育休中	夫・パートナーはいな い	その他	無回答
全体	1,900 100.0%	1,625 85.5%	43 2.3%	164 8.6%	11 0.6%	11 0.6%	7 0.4%	16 0.8%	6 0.3%	17 0.9%
19歳以下	9 100.0%	6 66.7%	0 0.0%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～24歳	112 100.0%	86 76.8%	3 2.7%	13 11.6%	2 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	6 5.4%	0 0.0%	2 1.8%
25～29歳	442 100.0%	381 86.2%	13 2.9%	36 8.1%	3 0.7%	1 0.2%	2 0.5%	4 0.9%	1 0.2%	1 0.2%
30～34歳	741 100.0%	660 89.1%	9 1.2%	52 7.0%	3 0.4%	2 0.3%	4 0.5%	4 0.5%	4 0.5%	3 0.4%
35～39歳	453 100.0%	381 84.1%	12 2.6%	45 9.9%	1 0.2%	6 1.3%	1 0.2%	1 0.2%	1 0.2%	5 1.1%
40～44歳	133 100.0%	109 82.0%	6 4.5%	15 11.3%	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.8%
45歳以上	4 100.0%	2 50.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

3. 今回の出産の状況

(1) 出産回数

出産回数は、「1回」が52.6%で最も高かった。次いで、「2回(34.2%)」、「3回以上(12.7%)」であった。

図表 2-15 出産回数(F6)



【年齢別】

年齢別にみると、「20～24歳」では出産回数が「1回」が72.3%、「25～29歳」では69.0%であった。

「30～34歳」では「1回」が50.3%、「2回」が38.6%であった。

「35～39歳」では「1回」が38.2%、「2回」が38.4%であった。

「40～44歳」では「1回」が42.1%、「2回」が33.1%であった。

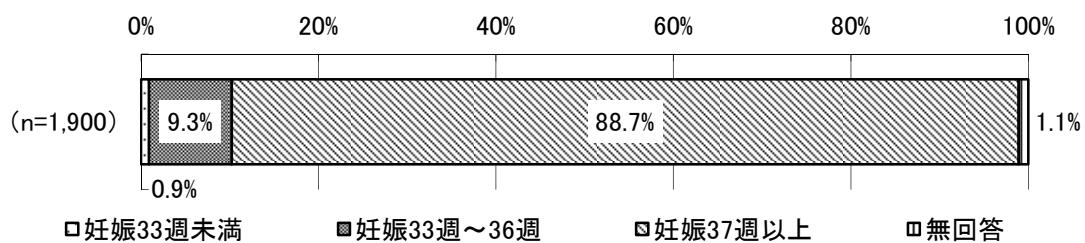
図表 2-16 年齢別 出産回数(F6)

	合計	出産回数			
		1回	2回	3回以上	無回答
全体	1,900 100.0%	999 52.6%	649 34.2%	242 12.7%	10 0.5%
19歳以下	9 100.0%	9 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～24歳	112 100.0%	81 72.3%	29 25.9%	2 1.8%	0 0.0%
25～29歳	442 100.0%	305 69.0%	115 26.0%	22 5.0%	0 0.0%
30～34歳	741 100.0%	373 50.3%	286 38.6%	80 10.8%	2 0.3%
35～39歳	453 100.0%	173 38.2%	174 38.4%	106 23.4%	0 0.0%
40～44歳	133 100.0%	56 42.1%	44 33.1%	32 24.1%	1 0.8%
45歳以上	4 100.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%

(2) 今回の出産週数

今回の出産週数は、「妊娠 37 週以上」が 88.7% であった。「妊娠 33 週～36 週」が 9.3% であった。

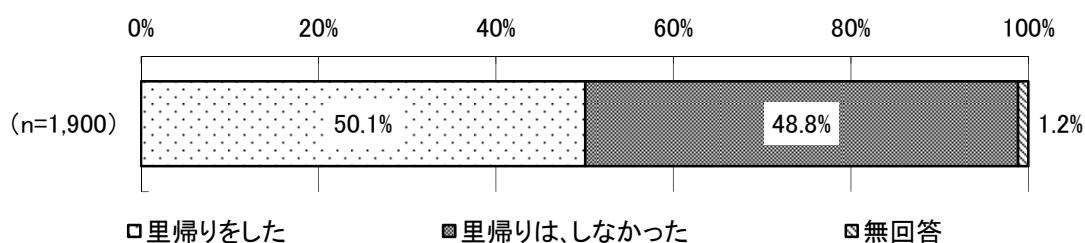
図表 2-17 今回の出産週数(F7)



(3) 出産にあたっての里帰り

出産にあたっての里帰りは、「里帰りをした」が 50.1%、「里帰りは、しなかった」が 48.8% であった。

図表 2-18 出産にあたっての里帰り(F8)



【年齢別】

年齢が「25～29 歳」では、出産にあたって「里帰りをした」が 62.7%、「30～34 歳」では 52.0%で半数以上であった。「20～24 歳」では、出産にあたって「里帰りは、しなかつた」が 50.9%、「35～39 歳」では 58.7%、「40～44 歳」では 60.2%で半数以上であった。

図表 2-19 年齢別 出産にあたっての里帰り(F8)

	合計	里帰りの有無		
		里帰りをした	里帰りは、しなかつた	無回答
全体	1,900 100.0%	951 50.1%	927 48.8%	22 1.2%
19 歳以下	9 100.0%	3 33.3%	6 66.7%	0 0.0%
20～24 歳	112 100.0%	50 44.6%	57 50.9%	5 4.5%
25～29 歳	442 100.0%	277 62.7%	162 36.7%	3 0.7%
30～34 歳	741 100.0%	385 52.0%	353 47.6%	3 0.4%
35～39 歳	453 100.0%	184 40.6%	266 58.7%	3 0.7%
40～44 歳	133 100.0%	50 37.6%	80 60.2%	3 2.3%
45 歳以上	4 100.0%	0 0.0%	3 75.0%	1 25.0%

【出産回数 1回の場合のみ：年齢別】

出産回数が1回の人に限定してみた場合、年齢が「25～29歳」では、出産にあたって「里帰りをした」が68.5%、「30～34歳」では62.5%で6割以上であった。「20～24歳」では、出産にあたって「里帰りは、しなかった」が46.9%、「35～39歳」では45.7%、「40～44歳」では42.9%で4割以上であった。

図表 2-20 年齢別 出産にあたっての里帰り(F8)

	合計	里帰りの有無		
		里帰りをした	里帰りは、しなかった	無回答
全体	999 100.0%	606 60.7%	382 38.2%	11 1.1%
19歳以下	9 100.0%	3 33.3%	6 66.7%	0 0.0%
20～24歳	81 100.0%	39 48.1%	38 46.9%	4 4.9%
25～29歳	305 100.0%	209 68.5%	94 30.8%	2 0.7%
30～34歳	373 100.0%	233 62.5%	139 37.3%	1 0.3%
35～39歳	173 100.0%	91 52.6%	79 45.7%	3 1.7%
40～44歳	56 100.0%	31 55.4%	24 42.9%	1 1.8%
45歳以上	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%

【妻の就労状況別】

妻の就労状況別には、「産休・育児休業中」では、出産にあたって「里帰りをした」が 52.1%、「妊娠または出産を機に退職した」では 52.9%であった。「就労中」では、出産にあたって「里帰りは、しなかった」が 57.6%、「もともと働いていない」では 55.3%であった。

図表 2-21 妻の就労状況別 出産にあたっての里帰り(F8)

	合計	里帰りの有無		
		里帰りをした	里帰りは、しなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	951 50.1%	927 48.8%	22 1.2%
就労中	92 100.0%	36 39.1%	53 57.6%	3 3.3%
産休・育児休業中	974 100.0%	507 52.1%	458 47.0%	9 0.9%
妊娠または出産を機に退職した	499 100.0%	264 52.9%	233 46.7%	2 0.4%
もともと働いていない	309 100.0%	135 43.7%	171 55.3%	3 1.0%
学生	3 100.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
その他	17 100.0%	8 47.1%	8 47.1%	1 5.9%

【出産回数別】

出産回数が「1回」では、出産にあたって「里帰りをした」が 60.7%で約 6 割であった。「2回」では、出産にあたって「里帰りは、しなかった」が 55.3%、「3回以上」では 76.4%であった。

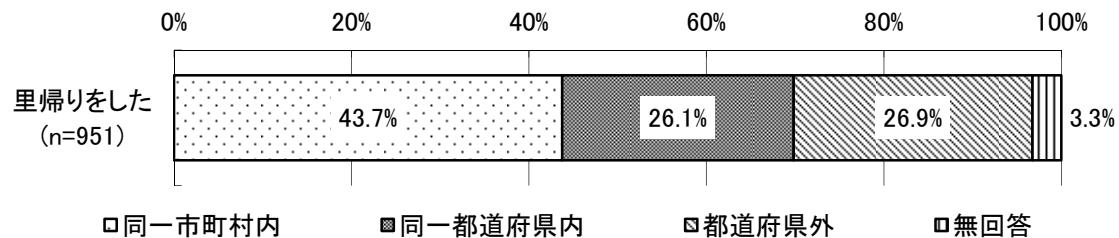
図表 2-22 出産回数別 出産にあたっての里帰り(F8)

	合計	里帰りの有無		
		里帰りをした	里帰りは、しなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	951 50.1%	927 48.8%	22 1.2%
1回	999 100.0%	606 60.7%	382 38.2%	11 1.1%
2回	649 100.0%	287 44.2%	359 55.3%	3 0.5%
3回以上	242 100.0%	54 22.3%	185 76.4%	3 1.2%

① 出産にあたっての里帰り（場所）

里帰りした場合、里帰りの場所は、「同一市町村内」が 43.7%で最も高かった。次いで、「都道府県外（26.9%）」、「同一都道府県内（26.1%）」がほぼ同数であった。

図表 2-23 出産にあたっての里帰り（場所）(F8sq1)



【年齢別】

都道府県外について、年齢別にみると「25～29歳」では 31.0%であった。

図表 2-24 年齢別 出産にあたっての里帰り（場所）(F8sq1)

	合計	里帰り先の場所			
		同一市町村内	同一都道府県内	都道府県外	無回答
全体	951	416	248	256	31
	100.0%	43.7%	26.1%	26.9%	3.3%
19歳以下	3	2	1	0	0
	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
20～24歳	50	25	10	12	3
	100.0%	50.0%	20.0%	24.0%	6.0%
25～29歳	277	110	71	86	10
	100.0%	39.7%	25.6%	31.0%	3.6%
30～34歳	385	173	96	104	12
	100.0%	44.9%	24.9%	27.0%	3.1%
35～39歳	184	78	60	42	4
	100.0%	42.4%	32.6%	22.8%	2.2%
40～44歳	50	26	10	12	2
	100.0%	52.0%	20.0%	24.0%	4.0%
45歳以上	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【出産回数別】

「都道府県外」について、出産回数別にみると、「1回」では 29.9%、「2回」では 22.0%、「3回以上」では 18.5%であった。

図表 2-25 出産回数別 出産にあたっての里帰り(場所)(F8sq1)

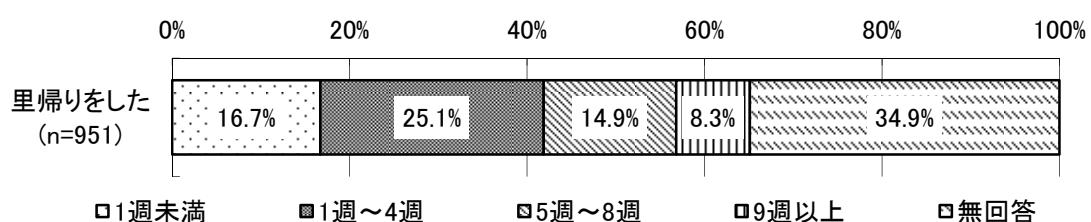
	合計	里帰り先の場所			
		同一市町村内	同一都道府県内	都道府県外	無回答
全体	951 100.0%	416 43.7%	248 26.1%	256 26.9%	31 3.3%
1回	606 100.0%	240 39.6%	165 27.2%	181 29.9%	20 3.3%
2回	287 100.0%	141 49.1%	74 25.8%	63 22.0%	9 3.1%
3回以上	54 100.0%	33 61.1%	9 16.7%	10 18.5%	2 3.7%

② 里帰り期間:産前

産前の里帰り期間は「1週～4週」が 25.1%、「1週未満」が 16.7%であった。

平均値は 5.7 週、中央値は 4.0 週であった。

図表 2-26 里帰り期間:産前(F8sq2)



図表 2-27 里帰り期間:産前(F8sq2)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
F8sq2 里帰り期間:産前_週間	619	5.7	8.6	4.0

【年齢別】

年齢別にみると、「20～24 歳」では、平均 7.2 週、「40～44 歳」では平均 4.2 週であった。

図表 2-28 年齢別 里帰り期間: 産前(F8sq2)

	件数	平均	標準偏差	中央値
全体	619	5.7	8.6	4.0
19 歳以下	2	12.0	17.0	12.0
20～24 歳	24	7.2	10.9	4.0
25～29 歳	192	6.3	9.1	4.0
30～34 歳	258	5.1	7.5	4.0
35～39 歳	113	5.9	9.6	3.0
40～44 歳	29	4.2	6.8	3.0
45 歳以上	0	-	-	-

【出産回数別】

出産回数が「1 回」では、平均 5.8 週、「3 回以上」では平均 2.6 週であった。

図表 2-29 出産回数別 里帰り期間: 産前(F8sq2)

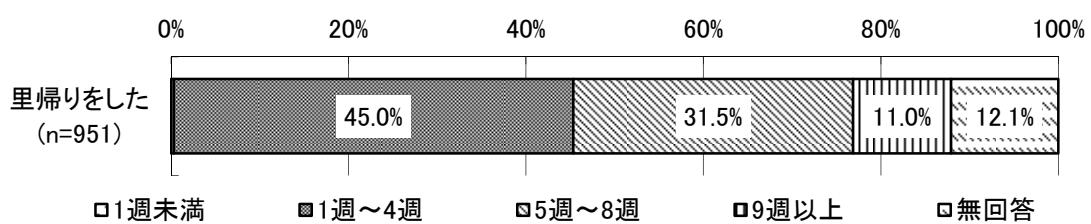
	件数	平均	標準偏差	中央値
全体	619	5.7	8.6	4.0
1 回	403	5.8	8.5	4.0
2 回	181	6.0	9.3	3.0
3 回以上	33	2.6	2.9	1.0

③ 里帰り期間: 産後

産後の里帰り期間は「1 週～4 週」が 45.0%、「5 週～8 週」が 31.5% であった。

平均値は 5.8 週、中央値は 4.0 週であった。

図表 2-30 里帰り期間: 産後(F8sq3)



図表 2-31 里帰り期間: 産後(F8sq3)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
F8sq3 里帰り期間: 産後_週間	836	5.8	3.8	4.0

【年齢別】

年齢別にみると、「20～24 歳」では、平均 5.1 週、「40～44 歳」では平均 6.8 週であった。

図表 2-32 年齢別 里帰り期間:産後(F8sq3)

	件数	平均	標準偏差	中央値
全体	836	5.8	3.8	4.0
19 歳以下	2	11.5	6.4	11.5
20～24 歳	41	5.1	2.7	4.0
25～29 歳	241	6.1	4.0	5.0
30～34 歳	351	5.8	3.9	4.0
35～39 歳	158	5.4	3.4	4.0
40～44 歳	41	6.8	4.5	5.0
45 歳以上	0	-	-	-

【出産回数別】

出産回数が「1 回」では、平均 6.3 週、「3 回以上」では平均 3.6 週であった。

図表 2-33 出産回数別 里帰り期間:産後(F8sq3)

	件数	平均	標準偏差	中央値
全体	836	5.8	3.8	4.0
1 回	547	6.3	4.0	5.0
2 回	246	5.1	3.3	4.0
3 回以上	40	3.6	2.1	4.0

第3節 妊娠・出産、産後期間の不安感や負担感と必要な支援

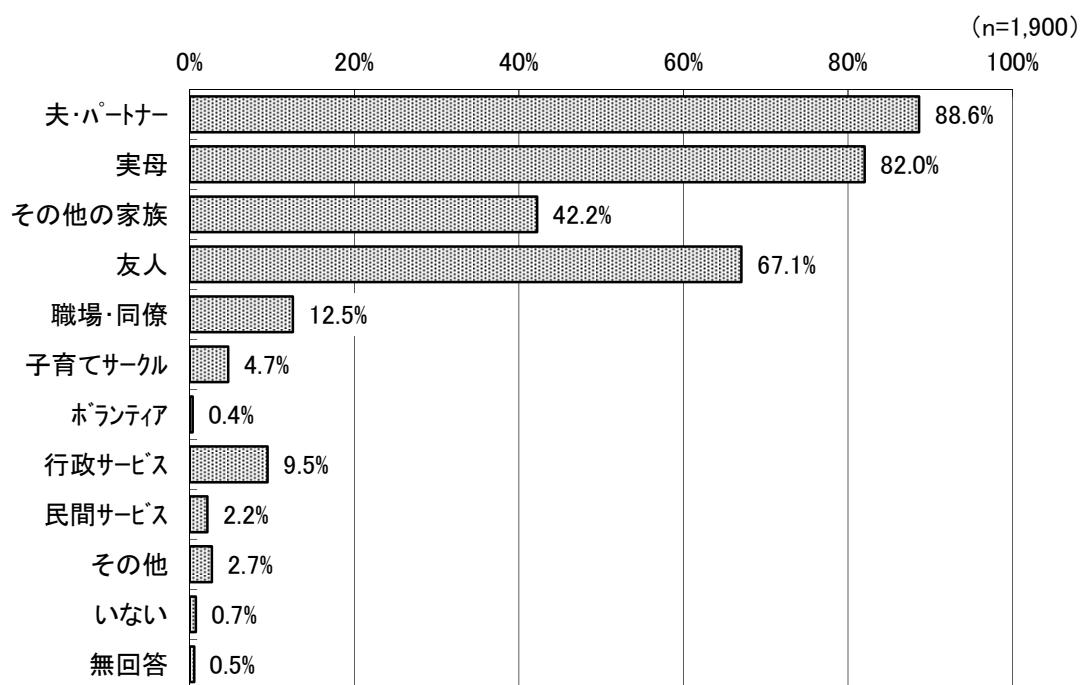
1. 心配ごと・悩み等を相談できる相手

家事や育児、その他心配ごと・悩み等を相談できる相手は「夫・パートナー」が88.6%で最も高かった。次いで、「実母（82.0%）」、「友人（67.1%）」であった。

また、「行政サービス」が9.5%、「子育てサークル」が4.7%、「民間サービス」が2.2%であった。

「いない」が0.7%であった。

図表2-34 心配ごと・悩み等を相談できる相手(Q1)（複数回答）



【年齢別】

心配ごと・悩み等を相談できる相手について、「20～24 歳」では「実母」が 83.0%で最も高かった。

また、「職場・同僚」についてみると、「30～34 歳」で 14.3%、「35～39 歳」で 14.3%、「40～44 歳」で 15.0%であった。

「行政サービス」についてみると、「35～39 歳」では 13.7%であった。

図表 2-35 年齢別 心配ごと・悩み等を相談できる相手(Q1) (複数回答)

	合計	心配ごと・悩み等を相談できる相手											
		夫・パートナー	実母	その他の家族	友人	職場・同僚	子育てサークル	ボランティア	行政サービス	民間サービス	その他	いない	無回答
全体	1,900	1,684	1,558	802	1,274	238	89	7	180	41	51	14	10
	100.0%	88.6%	82.0%	42.2%	67.1%	12.5%	4.7%	0.4%	9.5%	2.2%	2.7%	0.7%	0.5%
19 歳以下	9	6	6	5	5	2	0	0	1	0	1	0	0
	100.0%	66.7%	66.7%	55.6%	55.6%	22.2%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
20～24 歳	112	86	93	49	67	2	3	1	7	3	1	1	0
	100.0%	76.8%	83.0%	43.8%	59.8%	1.8%	2.7%	0.9%	6.3%	2.7%	0.9%	0.9%	0.0%
25～29 歳	442	391	385	177	292	43	16	2	35	4	9	4	3
	100.0%	88.5%	87.1%	40.0%	66.1%	9.7%	3.6%	0.5%	7.9%	0.9%	2.0%	0.9%	0.7%
30～34 歳	741	671	620	310	497	106	36	2	63	22	24	5	1
	100.0%	90.6%	83.7%	41.8%	67.1%	14.3%	4.9%	0.3%	8.5%	3.0%	3.2%	0.7%	0.1%
35～39 歳	453	406	342	196	319	65	24	2	62	9	13	3	1
	100.0%	89.6%	75.5%	43.3%	70.4%	14.3%	5.3%	0.4%	13.7%	2.0%	2.9%	0.7%	0.2%
40～44 歳	133	119	109	64	90	20	10	0	11	3	2	1	0
	100.0%	89.5%	82.0%	48.1%	67.7%	15.0%	7.5%	0.0%	8.3%	2.3%	1.5%	0.8%	0.0%
45 歳以上	4	4	2	1	3	0	0	0	1	0	1	0	0
	100.0%	100.0%	50.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%

【同居家族別】

「自身の親」と同居している場合、心配ごと・悩み等を相談できる相手として「実母」が 90.2%で最も高かった。

「夫の親」と同居している場合では、「夫・パートナー」が 89.4%で最も高く、「実母」は 79.8%であった。「その他の家族」は 57.7%であった。

図表 2-36 同居家族別 心配ごと・悩み等を相談できる相手(Q1) (複数回答)

	合計	心配ごと・悩み等を相談できる相手											
		夫・パートナー	実母	その他の家族	友人	職場・同僚	子育てサークル	ボランティア	行政サービス	民間サービス	その他	いらない	
全体	1,900	1,684	1,558	802	1,274	238	89	7	180	41	51	14	10
	100.0%	88.6%	82.0%	42.2%	67.1%	12.5%	4.7%	0.4%	9.5%	2.2%	2.7%	0.7%	0.5%
子	1,865	1,654	1,532	794	1,251	231	89	7	177	39	50	14	6
	100.0%	88.7%	82.1%	42.6%	67.1%	12.4%	4.8%	0.4%	9.5%	2.1%	2.7%	0.8%	0.3%
夫・パートナー	1,830	1,654	1,505	774	1,240	229	88	6	176	41	48	13	5
	100.0%	90.4%	82.2%	42.3%	67.8%	12.5%	4.8%	0.3%	9.6%	2.2%	2.6%	0.7%	0.3%
自身の親	92	66	83	34	62	13	2	0	5	1	3	0	0
	100.0%	71.7%	90.2%	37.0%	67.4%	14.1%	2.2%	0.0%	5.4%	1.1%	3.3%	0.0%	0.0%
夫の親	104	93	83	60	71	16	5	0	17	2	2	1	1
	100.0%	89.4%	79.8%	57.7%	68.3%	15.4%	4.8%	0.0%	16.3%	1.9%	1.9%	1.0%	1.0%
その他	28	21	24	16	15	2	0	0	3	1	2	0	0
	100.0%	75.0%	85.7%	57.1%	53.6%	7.1%	0.0%	0.0%	10.7%	3.6%	7.1%	0.0%	0.0%

【妻の就労状況別】

「職場・同僚」についてみると、妻が「就労中」の場合、21.7%、「産休・育児休業中」では20.6%であった。

「子育てサークル」についてみると、「妊娠または出産を機に退職した」では6.0%、「もともと働いていない」では6.5%であった。

図表 2-37 妻の就労状況別 心配ごと・悩み等を相談できる相手（複数回答）

	合計	心配ごと・悩み等を相談できる相手					
		夫・ パートナー	実母	その他 の家族	友人	職場・ 同僚	子育て サークル
全体	1,900 100.0%	1,684 88.6%	1,558 82.0%	802 42.2%	1,274 67.1%	238 12.5%	89 4.7%
就労中	92 100.0%	73 79.3%	69 75.0%	42 45.7%	60 65.2%	20 21.7%	2 2.2%
産休・育児休業中	974 100.0%	884 90.8%	806 82.8%	415 42.6%	636 65.3%	201 20.6%	37 3.8%
妊娠または出産を機 に退職した	499 100.0%	427 85.6%	413 82.8%	201 40.3%	351 70.3%	14 2.8%	30 6.0%
もともと働いていない	309 100.0%	284 91.9%	252 81.6%	135 43.7%	211 68.3%	2 0.6%	20 6.5%
学生	3 100.0%	2 66.7%	3 100.0%	2 66.7%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%
その他	17 100.0%	12 70.6%	13 76.5%	6 35.3%	13 76.5%	0 0.0%	0 0.0%

	合計	心配ごと・悩み等を相談できる相手（つづき）					
		ボランティア	行政 サービス	民間 サービス	その他	いない	無回答
全体	1,900 100.0%	7 0.4%	180 9.5%	41 2.2%	51 2.7%	14 0.7%	10 0.5%
就労中	92 100.0%	1 1.1%	8 8.7%	3 3.3%	3 3.3%	1 1.1%	0 0.0%
産休・育児休業中	974 100.0%	2 0.2%	84 8.6%	23 2.4%	26 2.7%	3 0.3%	3 0.3%
妊娠または出産を機 に退職した	499 100.0%	3 0.6%	53 10.6%	5 1.0%	9 1.8%	3 0.6%	2 0.4%
もともと働いていない	309 100.0%	1 0.3%	33 10.7%	10 3.2%	13 4.2%	6 1.9%	0 0.0%
学生	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	17 100.0%	0 0.0%	2 11.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.9%	1 5.9%

【出産回数別】

心配ごと・悩み等を相談できる相手として「夫・パートナー」は出産回数が「1回」では、88.2%、「2回」では88.8%、「3回以上」では91.7%と、1回と2回はほぼ同じで、3回以上でやや増えていた。

「実母」は出産回数が「1回」で84.6%、「2回」では80.6%、「3回以上」では76.4%と回数が多くなるにつれ、減少していた。

図表 2-38 出産回数別 心配ごと・悩み等を相談できる相手（複数回答）

	合計	心配ごと・悩み等を相談できる相手											
		夫・パートナー	実母	その他の家族	友人	職場・同僚	子育てサークル	ボランティア	行政サービス	民間サービス	その他	いない	
全体	1,900	1,684	1,558	802	1,274	238	89	7	180	41	51	14	10
	100.0%	88.6%	82.0%	42.2%	67.1%	12.5%	4.7%	0.4%	9.5%	2.2%	2.7%	0.7%	0.5%
1回	999	881	845	417	669	131	44	6	97	20	22	7	3
	100.0%	88.2%	84.6%	41.7%	67.0%	13.1%	4.4%	0.6%	9.7%	2.0%	2.2%	0.7%	0.3%
2回	649	576	523	273	447	77	36	0	61	17	21	4	1
	100.0%	88.8%	80.6%	42.1%	68.9%	11.9%	5.5%	0.0%	9.4%	2.6%	3.2%	0.6%	0.2%
3回以上	242	222	185	109	154	29	9	1	21	4	7	3	1
	100.0%	91.7%	76.4%	45.0%	63.6%	12.0%	3.7%	0.4%	8.7%	1.7%	2.9%	1.2%	0.4%

【里帰り別】

「里帰りをした」場合は、心配ごと・悩み等を相談できる相手として「実母」が 90.1% であった。「夫・パートナー」は 88.7% であった。

「里帰りは、しなかった」場合は、「夫・パートナー」が 89.3% で、「実母」は 74.0% であった。

行政サービスは、「里帰りをした」場合は 8.1%、「里帰りは、しなかった」場合は 11.1% であった。

図表 2-39 里帰り別 心配ごと・悩み等を相談できる相手（複数回答）

	合計	心配ごと・悩み等を相談できる相手					
		夫・ パートナー	実母	その他 の家族	友人	職場・ 同僚	子育て サークル
全体	1,900 100.0%	1,684 88.6%	1,558 82.0%	802 42.2%	1,274 67.1%	238 12.5%	89 4.7%
里帰りをした	951 100.0%	844 88.7%	857 90.1%	393 41.3%	640 67.3%	129 13.6%	45 4.7%
→同一市町村内	416 100.0%	368 88.5%	377 90.6%	181 43.5%	291 70.0%	57 13.7%	16 3.8%
→同一都道府県内	248 100.0%	223 89.9%	224 90.3%	104 41.9%	170 68.5%	35 14.1%	14 5.6%
→都道府県外	256 100.0%	226 88.3%	229 89.5%	96 37.5%	158 61.7%	32 12.5%	14 5.5%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	27 87.1%	27 87.1%	12 38.7%	21 67.7%	5 16.1%	1 3.2%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	828 89.3%	686 74.0%	403 43.5%	623 67.2%	107 11.5%	44 4.7%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	12 54.5%	15 68.2%	6 27.3%	11 50.0%	2 9.1%	0 0.0%

	合計	心配ごと・悩み等を相談できる相手(つづき)					
		ボランティア	行政 サービス	民間 サービス	その他	いない	無回答
全体	1,900 100.0%	7 0.4%	180 9.5%	41 2.2%	51 2.7%	14 0.7%	10 0.5%
里帰りをした	951 100.0%	3 0.3%	77 8.1%	14 1.5%	23 2.4%	4 0.4%	5 0.5%
→同一市町村内	416 100.0%	0 0.0%	28 6.7%	7 1.7%	12 2.9%	1 0.2%	2 0.5%
→同一都道府県内	248 100.0%	0 0.0%	24 9.7%	0 0.0%	4 1.6%	2 0.8%	2 0.8%
→都道府県外	256 100.0%	3 1.2%	25 9.8%	7 2.7%	7 2.7%	1 0.4%	1 0.4%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	4 0.4%	103 11.1%	27 2.9%	27 2.9%	10 1.1%	1 0.1%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%	4 18.2%

【妊娠が分かった時の気持ち別】

「嬉しかった」では、心配ごと・悩み等を相談できる相手として「夫・パートナー」が90.1%、「実母」が83.6%であった。「予定外だが嬉しかった」では、「夫・パートナー」が89.3%、「実母」が80.5%であった。

「とまどった」では「夫・パートナー」が76.6%、「実母」が68.8%、「不安が大きかった」では「夫・パートナー」が78.7%、「実母」が74.7%であった。

「行政サービス」についてみると、「不安が大きかった」で10.7%であった。

図表 2-40 妊娠が分かった時の気持ち別 心配ごと・悩み等を相談できる相手（複数回答）

	合計	心配ごと・悩み等を相談できる相手					
		夫・ パートナー	実母	その他 の家族	友人	職場・ 同僚	子育て サークル
全体	1,900 100.0%	1,684 88.6%	1,558 82.0%	802 42.2%	1,274 67.1%	238 12.5%	89 4.7%
嬉しかった	1,424 100.0%	1,283 90.1%	1,191 83.6%	607 42.6%	980 68.8%	185 13.0%	72 5.1%
予定外だが嬉しかった	298 100.0%	266 89.3%	240 80.5%	134 45.0%	197 66.1%	37 12.4%	16 5.4%
とまどった	77 100.0%	59 76.6%	53 68.8%	28 36.4%	47 61.0%	9 11.7%	1 1.3%
不安が大きかった	75 100.0%	59 78.7%	56 74.7%	29 38.7%	43 57.3%	7 9.3%	0 0.0%
困った	9 100.0%	8 88.9%	7 77.8%	2 22.2%	3 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
特になんとも思わなかった	5 100.0%	2 40.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

	合計	心配ごと・悩み等を相談できる相手(つづき)					
		ボランティア	行政 サービス	民間 サービス	その他	いない	無回答
全体	1,900 100.0%	7 0.4%	180 9.5%	41 2.2%	51 2.7%	14 0.7%	10 0.5%
嬉しかった	1,424 100.0%	6 0.4%	141 9.9%	33 2.3%	42 2.9%	6 0.4%	5 0.4%
予定外だが嬉しかった	298 100.0%	0 0.0%	25 8.4%	6 2.0%	5 1.7%	4 1.3%	1 0.3%
とまどった	77 100.0%	0 0.0%	5 6.5%	1 1.3%	1 1.3%	2 2.6%	0 0.0%
不安が大きかった	75 100.0%	1 1.3%	8 10.7%	1 1.3%	2 2.7%	1 1.3%	0 0.0%
困った	9 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特になんとも思わなかった	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%

2. 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

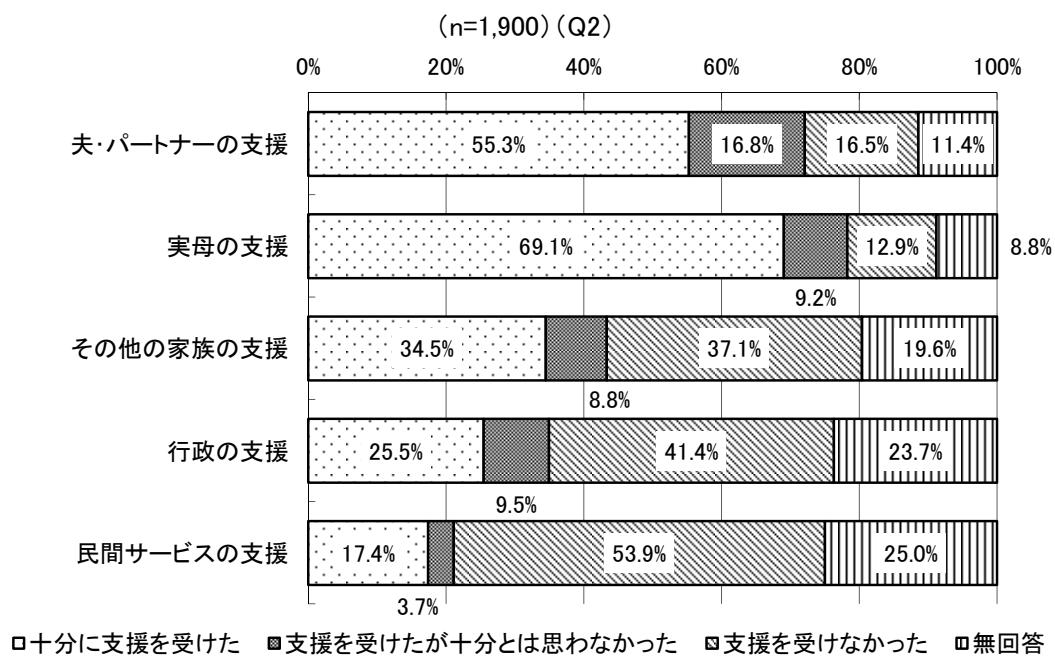
今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援の状況をたずねた。

【内容別】

(1) 自身の体調や母乳・授乳などの相談

自身の体調や母乳・授乳などの相談は、「十分に支援を受けた」は「実母」が 69.1%、「夫・パートナー」が 55.3% であった。

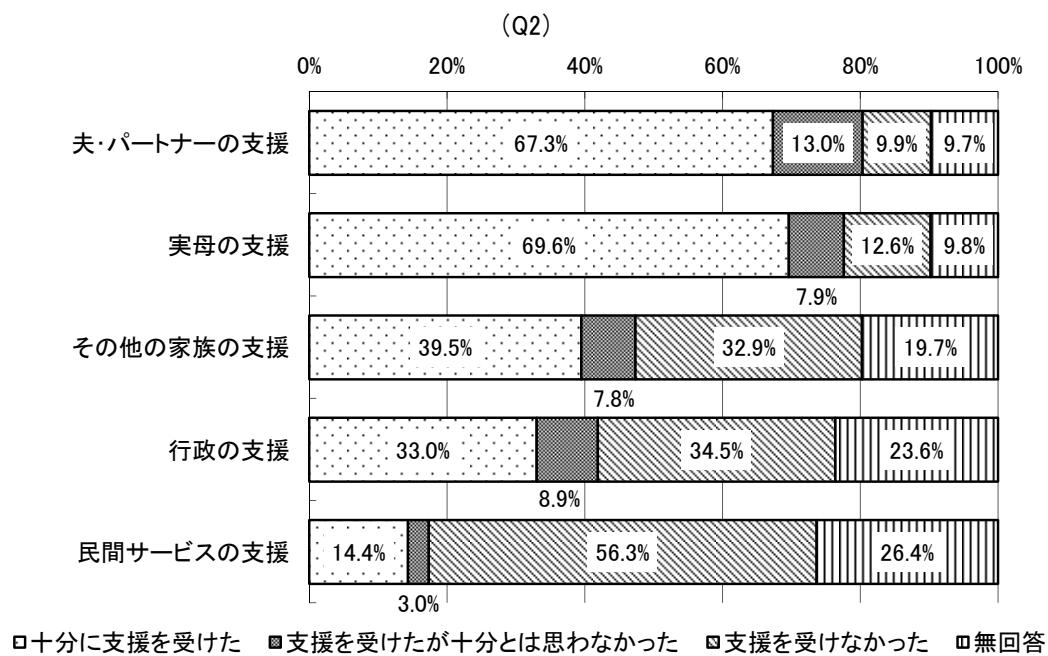
図表 2-41 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 自身の体調や母乳・授乳などの相談



(2) 赤ちゃんの健康や発達についての相談

赤ちゃんの健康や発達についての相談は、「十分に支援を受けた」は「実母」が 69.6%、「夫・パートナー」が 67.3%であった。

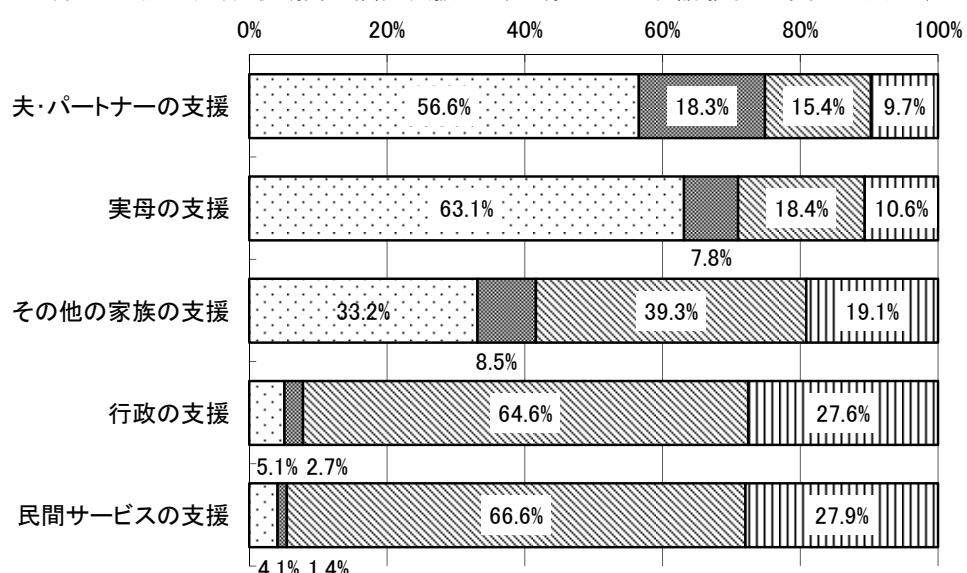
図表 2-42 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 赤ちゃんの健康や発達についての相談(n=1,900)



(3) 日中の赤ちゃんの世話(授乳や沐浴など)

日中の赤ちゃんの世話(授乳や沐浴など)は、「十分に支援を受けた」は「実母」が 63.1%、「夫・パートナー」が 56.6%であった。

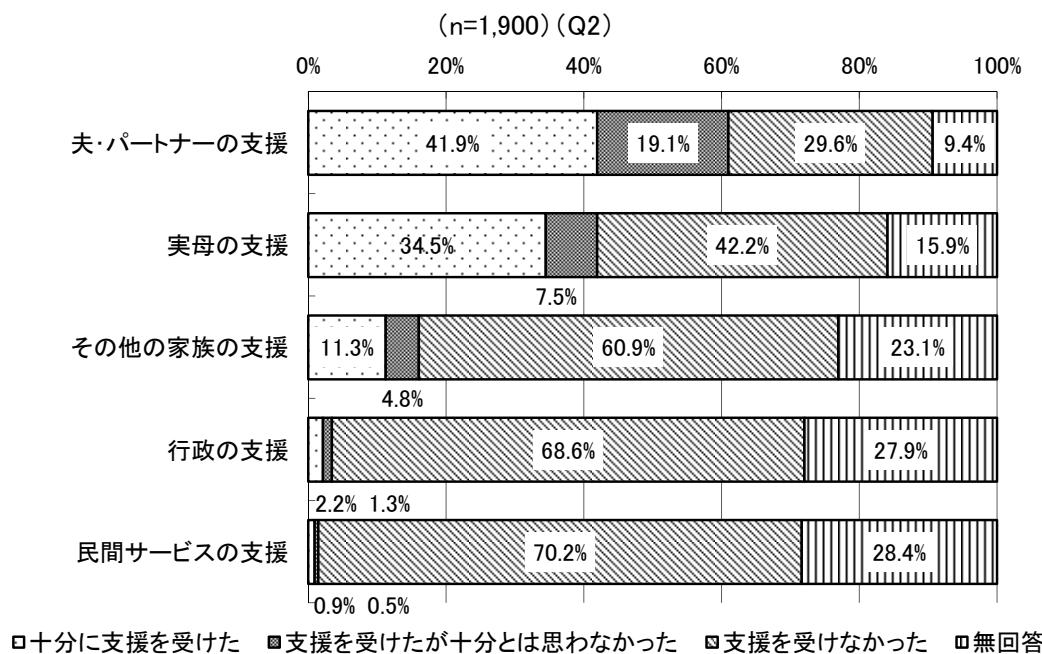
図表 2-43 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 日中の赤ちゃんの世話(授乳や沐浴など)(n=1,900) (Q2)



(4) 夜間の赤ちゃんの世話（夜泣きなど）

夜間の赤ちゃんの世話（夜泣きなど）は、「十分に支援を受けた」は「夫・パートナー」が41.9%、「実母」が34.5%であった。

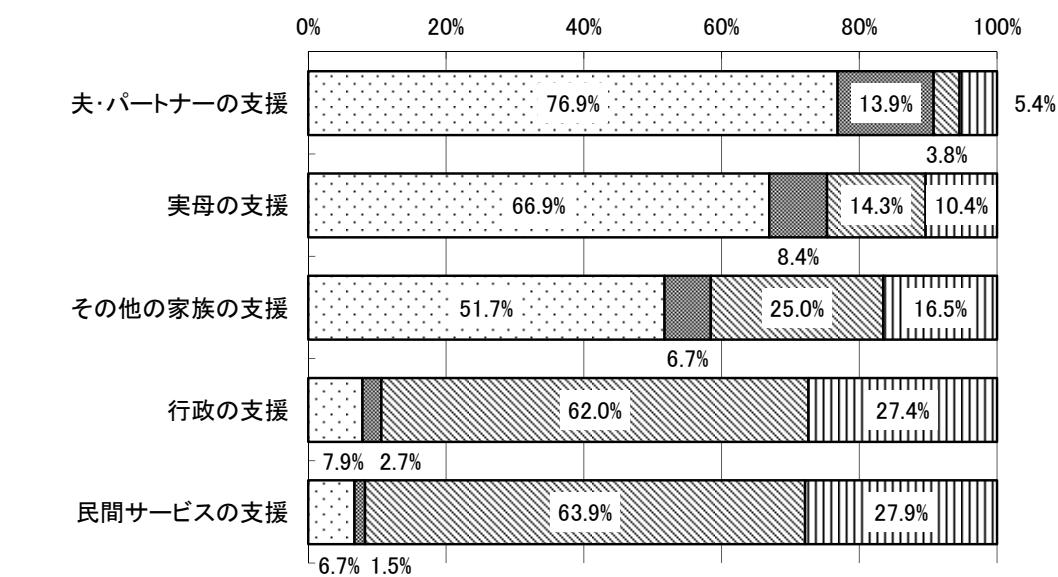
図表2-44 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 夜間の赤ちゃんの世話（夜泣きなど）



(5) 上の子の世話

上の子の世話は、「十分に支援を受けた」は「夫・パートナー」が76.9%、「実母」が66.9%であった。

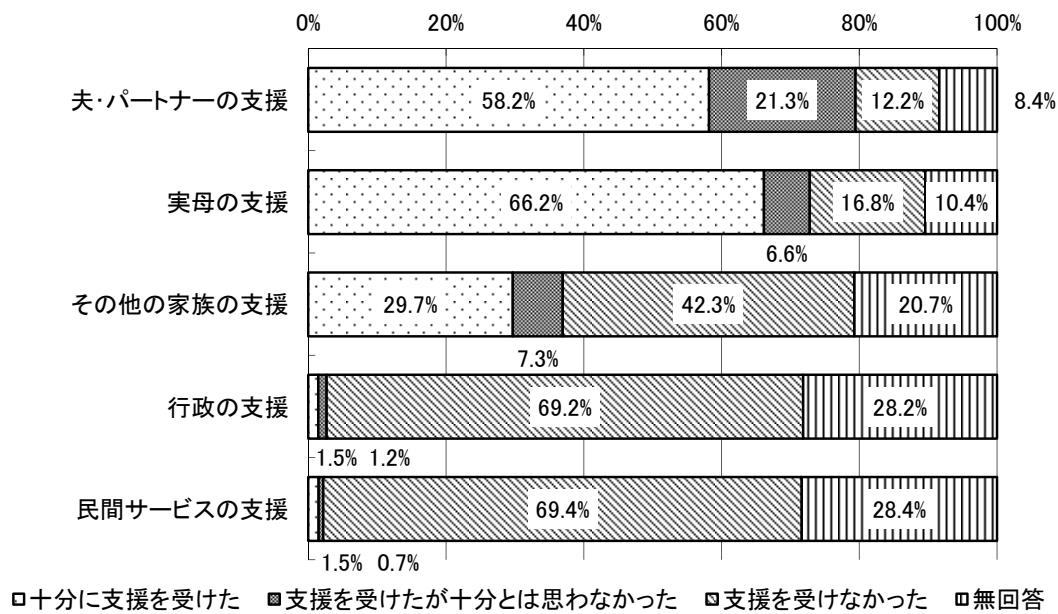
図表2-45 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 上の子の世話(n=847) (Q2)



(6) 家事(食事、洗濯、掃除、等)

家事(食事、洗濯、掃除、等)は、「十分に支援を受けた」は「実母」が 66.2%、「夫・パートナー」が 58.2%であった。

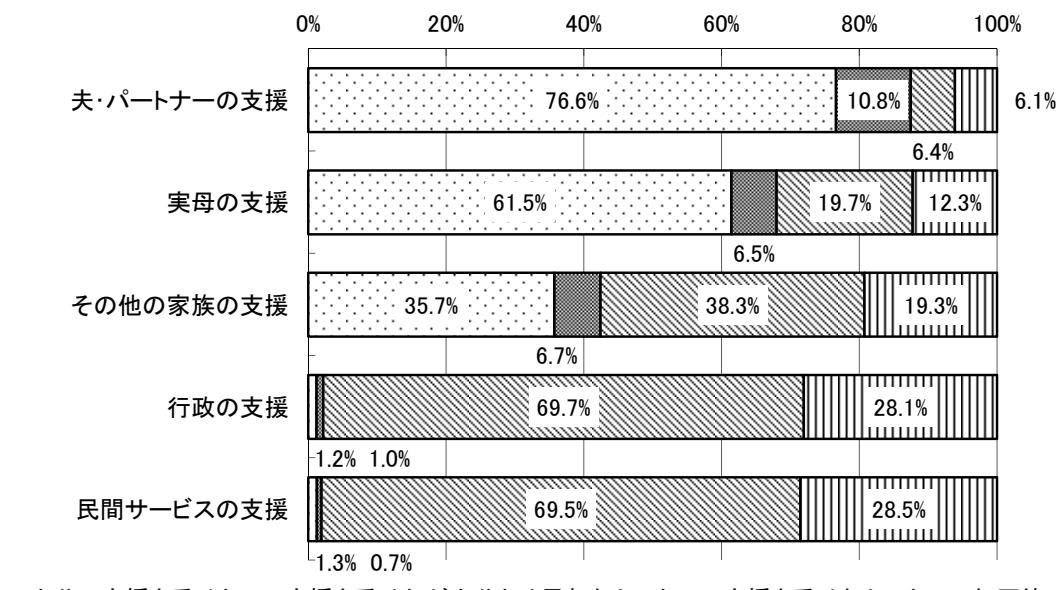
図表 2-46 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 家事(食事、洗濯、掃除、等)(n=1,900)(Q2)



(7) 外出時のサポート

外出時のサポートは、「十分に支援を受けた」は「夫・パートナー」が 76.6%、「実母」が 61.5%であった。

図表 2-47 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 外出時のサポート(n=1,900)(Q2)

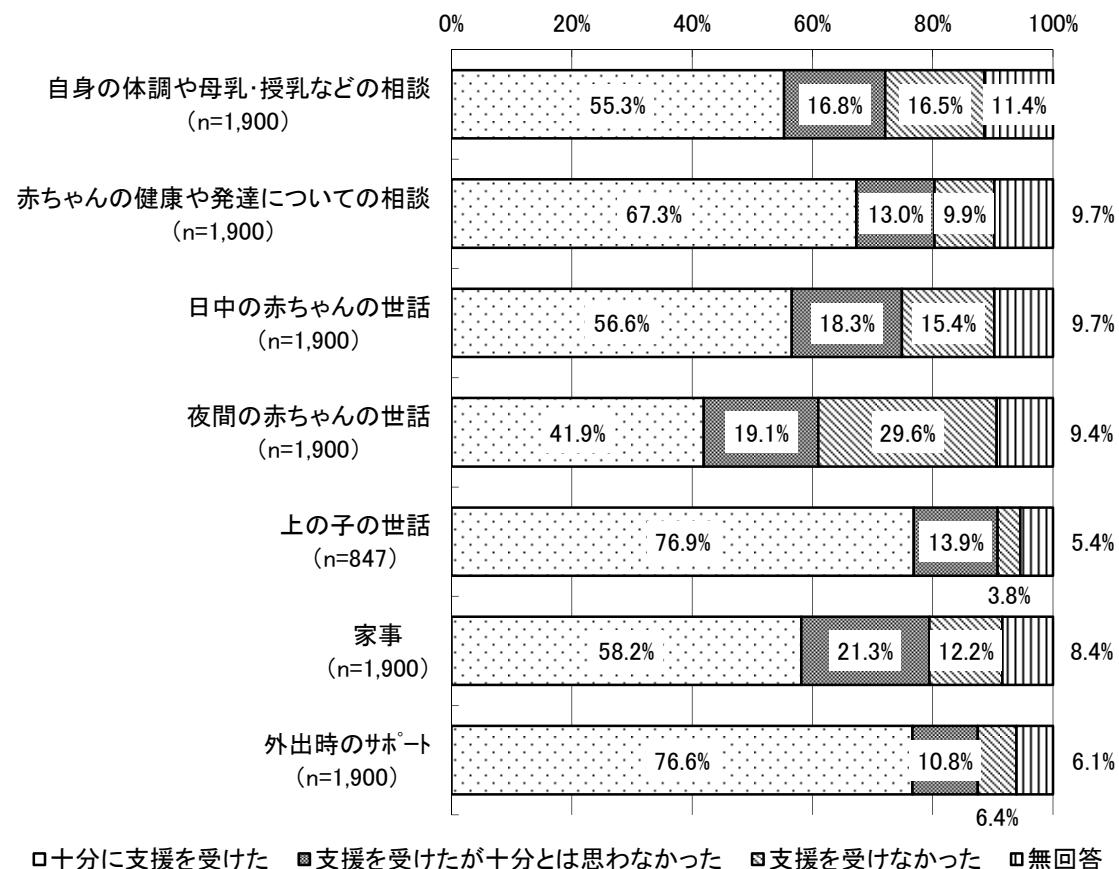


【相手先別】

(8) 夫・パートナーの相談・支援

夫・パートナーから、「十分に支援を受けた」は、「上の子の世話」が 76.9%、「外出時のサポート」が 76.6%、「赤ちゃんの健康や発達についての相談」が 67.3%であった。

図表 2-48 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 ①夫・パートナー(Q2①)



□十分に支援を受けた □支援を受けたが十分とは思わなかった □支援を受けなかった □無回答

【年齢別】

自身の体調や母乳・授乳などの相談について夫・パートナーから「十分に支援を受けた」についてみると「25～29歳」で57.9%であった。「支援を受けたが十分とは思わなかった」についてみると「40～44歳」が25.6%、「35～39歳」が19.6%であった。

図表 2-49 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援
自身の体調や母乳・授乳などの相談 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	自身の体調や母乳・授乳などの相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,050 55.3%	320 16.8%	313 16.5%	217 11.4%
19歳以下	9 100.0%	7 77.8%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%
20～24歳	112 100.0%	62 55.4%	13 11.6%	20 17.9%	17 15.2%
25～29歳	442 100.0%	256 57.9%	68 15.4%	71 16.1%	47 10.6%
30～34歳	741 100.0%	415 56.0%	115 15.5%	135 18.2%	76 10.3%
35～39歳	453 100.0%	248 54.7%	89 19.6%	66 14.6%	50 11.0%
40～44歳	133 100.0%	58 43.6%	34 25.6%	20 15.0%	21 15.8%
45歳以上	4 100.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%

赤ちゃんの健康や発達についての相談は、「十分に支援を受けた」についてみると「25～29歳」で69.2%であった。「支援を受けたが十分とは思わなかった」についてみると「40～44歳」が20.3%であった。

図表 2-50 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援
赤ちゃんの健康や発達についての相談 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	赤ちゃんの健康や発達についての相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,279 67.3%	247 13.0%	189 9.9%	185 9.7%
19歳以下	9 100.0%	8 88.9%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%
20～24歳	112 100.0%	75 67.0%	11 9.8%	10 8.9%	16 14.3%
25～29歳	442 100.0%	306 69.2%	54 12.2%	39 8.8%	43 9.7%
30～34歳	741 100.0%	502 67.7%	97 13.1%	77 10.4%	65 8.8%
35～39歳	453 100.0%	307 67.8%	57 12.6%	50 11.0%	39 8.6%
40～44歳	133 100.0%	77 57.9%	27 20.3%	13 9.8%	16 12.0%
45歳以上	4 100.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%

日中の赤ちゃんの世話（授乳や沐浴など）は、「十分に支援を受けた」についてみると「25～29歳」で63.3%であった。「支援を受けなかった」については、「40～44歳」で19.5%であった。「支援を受けたが十分とは思わなかった」については「30～34歳」で20.5%であった。

図表2-51 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

日中の赤ちゃんの世話 ①夫・パートナー（Q2①）

	合計	日中の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,075 56.6%	347 18.3%	293 15.4%	185 9.7%
19歳以下	9 100.0%	6 66.7%	3 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
20～24歳	112 100.0%	73 65.2%	10 8.9%	15 13.4%	14 12.5%
25～29歳	442 100.0%	280 63.3%	73 16.5%	47 10.6%	42 9.5%
30～34歳	741 100.0%	404 54.5%	152 20.5%	125 16.9%	60 8.1%
35～39歳	453 100.0%	244 53.9%	87 19.2%	79 17.4%	43 9.5%
40～44歳	133 100.0%	65 48.9%	22 16.5%	26 19.5%	20 15.0%
45歳以上	4 100.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%

夜間の赤ちゃんの世話（夜泣きなど）は、「十分に支援を受けた」についてみると「20～24歳」で46.4%であった。

図表2-52 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

夜間の赤ちゃんの世話 ①夫・パートナー（Q2①）

	合計	夜間の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	797 41.9%	362 19.1%	563 29.6%	178 9.4%
19歳以下	9 100.0%	4 44.4%	2 22.2%	3 33.3%	0 0.0%
20～24歳	112 100.0%	52 46.4%	20 17.9%	22 19.6%	18 16.1%
25～29歳	442 100.0%	199 45.0%	90 20.4%	114 25.8%	39 8.8%
30～34歳	741 100.0%	311 42.0%	130 17.5%	241 32.5%	59 8.0%
35～39歳	453 100.0%	177 39.1%	91 20.1%	141 31.1%	44 9.7%
40～44歳	133 100.0%	50 37.6%	28 21.1%	42 31.6%	13 9.8%
45歳以上	4 100.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%

上の子の世話は、「十分に支援を受けた」についてみると、「25～29歳」で83.2%であった。「支援を受けたが十分とは思わなかった」については「40～44歳」で19.4%であった。

図表2-53 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

上の子の世話 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	上の子の世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかつた	無回答
全体	847 100.0%	651 76.9%	118 13.9%	32 3.8%	46 5.4%
19歳以下	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～24歳	23 100.0%	18 78.3%	1 4.3%	1 4.3%	3 13.0%
25～29歳	137 100.0%	114 83.2%	12 8.8%	4 2.9%	7 5.1%
30～34歳	350 100.0%	269 76.9%	52 14.9%	15 4.3%	14 4.0%
35～39歳	263 100.0%	198 75.3%	39 14.8%	10 3.8%	16 6.1%
40～44歳	72 100.0%	50 69.4%	14 19.4%	2 2.8%	6 8.3%
45歳以上	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

家事（食事、洗濯、掃除、等）は、「十分に支援を受けた」についてみると「25～29歳」で61.8%であった。「支援を受けたが十分とは思わなかった」については、「40～44歳」で27.8%であった。

図表2-54 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 家事 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	家事			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかつた	無回答
全体	1,900 100.0%	1,105 58.2%	404 21.3%	231 12.2%	160 8.4%
19歳以下	9 100.0%	5 55.6%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%
20～24歳	112 100.0%	66 58.9%	18 16.1%	12 10.7%	16 14.3%
25～29歳	442 100.0%	273 61.8%	85 19.2%	50 11.3%	34 7.7%
30～34歳	741 100.0%	437 59.0%	158 21.3%	94 12.7%	52 7.0%
35～39歳	453 100.0%	255 56.3%	102 22.5%	59 13.0%	37 8.2%
40～44歳	133 100.0%	67 50.4%	37 27.8%	14 10.5%	15 11.3%
45歳以上	4 100.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%

外出時のサポートは、「十分に支援を受けた」についてみると「25～29 歳」で 81.7% であった。

図表 2-55 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

外出時のサポート ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	外出時のサポート			
		十分に 支援を受けた	支援を受けたが十分 とは思わなかった	支援を 受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,456 76.6%	206 10.8%	122 6.4%	116 6.1%
19 歳以下	9 100.0%	6 66.7%	1 11.1%	1 11.1%	1 11.1%
20～24 歳	112 100.0%	88 78.6%	8 7.1%	6 5.4%	10 8.9%
25～29 歳	442 100.0%	361 81.7%	36 8.1%	25 5.7%	20 4.5%
30～34 歳	741 100.0%	574 77.5%	80 10.8%	50 6.7%	37 5.0%
35～39 歳	453 100.0%	328 72.4%	63 13.9%	30 6.6%	32 7.1%
40～44 歳	133 100.0%	94 70.7%	18 13.5%	10 7.5%	11 8.3%
45 歳以上	4 100.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%

【出産回数別】

自身の体調や母乳・授乳などの相談は、出産回数が「1回」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が55.8%、「2回」では54.2%、「3回以上」では56.2%であった。

図表 2-56 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

自身の体調や母乳・授乳などの相談 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	自身の体調や母乳・授乳などの相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,050 55.3%	320 16.8%	313 16.5%	217 11.4%
1回	999 100.0%	557 55.8%	170 17.0%	158 15.8%	114 11.4%
2回	649 100.0%	352 54.2%	115 17.7%	113 17.4%	69 10.6%
3回以上	242 100.0%	136 56.2%	35 14.5%	42 17.4%	29 12.0%

赤ちゃんの健康や発達についての相談は、出産回数が「1回」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が66.8%、「2回」では68.3%、「3回以上」では67.8%であった。

図表 2-57 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

赤ちゃんの健康や発達についての相談 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	赤ちゃんの健康や発達についての相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,279 67.3%	247 13.0%	189 9.9%	185 9.7%
1回	999 100.0%	667 66.8%	142 14.2%	89 8.9%	101 10.1%
2回	649 100.0%	443 68.3%	81 12.5%	72 11.1%	53 8.2%
3回以上	242 100.0%	164 67.8%	24 9.9%	28 11.6%	26 10.7%

日中の赤ちゃんの世話（授乳や沐浴など）は、出産回数が「1回」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が59.8%、「2回」では54.5%、「3回以上」では49.6%であった。

図表 2-58 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

日中の赤ちゃんの世話 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	日中の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,075 56.6%	347 18.3%	293 15.4%	185 9.7%
1回	999 100.0%	597 59.8%	178 17.8%	128 12.8%	96 9.6%
2回	649 100.0%	354 54.5%	123 19.0%	115 17.7%	57 8.8%
3回以上	242 100.0%	120 49.6%	46 19.0%	49 20.2%	27 11.2%

夜間の赤ちゃんの世話（夜泣きなど）は、出産回数が「1回」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が46.5%であった。

「2回」では、「十分に支援を受けた」が38.1%、「支援を受けなかった」が35.1%であった。

「3回以上」では「支援を受けなかった」が38.4%であった。

図表 2-59 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

夜間の赤ちゃんの世話 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	夜間の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	797 41.9%	362 19.1%	563 29.6%	178 9.4%
1回	999 100.0%	465 46.5%	203 20.3%	241 24.1%	90 9.0%
2回	649 100.0%	247 38.1%	120 18.5%	228 35.1%	54 8.3%
3回以上	242 100.0%	82 33.9%	38 15.7%	93 38.4%	29 12.0%

上の子の世話は、出産回数が「2回」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が78.7%、「3回以上」では73.0%であった。

図表 2-60 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

上の子の世話 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	上の子の世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	847 100.0%	651 76.9%	118 13.9%	32 3.8%	46 5.4%
1回	7 100.0%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	4 57.1%
2回	616 100.0%	485 78.7%	88 14.3%	18 2.9%	25 4.1%
3回以上	222 100.0%	162 73.0%	29 13.1%	14 6.3%	17 7.7%

家事（食事、洗濯、掃除、等）は、出産回数が「1回」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が61.0%、「2回」では55.9%、「3回以上」では54.1%であった。

図表 2-61 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

家事 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	家事			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,105 58.2%	404 21.3%	231 12.2%	160 8.4%
1回	999 100.0%	609 61.0%	208 20.8%	104 10.4%	78 7.8%
2回	649 100.0%	363 55.9%	147 22.7%	86 13.3%	53 8.2%
3回以上	242 100.0%	131 54.1%	46 19.0%	41 16.9%	24 9.9%

外出時のサポートは、出産回数が「1回」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が79.7%、「2回」では73.5%、「3回以上」では74.0%であった。

図表 2-62 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

外出時のサポート ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	外出時のサポート			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,456 76.6%	206 10.8%	122 6.4%	116 6.1%
1回	999 100.0%	796 79.7%	92 9.2%	55 5.5%	56 5.6%
2回	649 100.0%	477 73.5%	89 13.7%	47 7.2%	36 5.5%
3回以上	242 100.0%	179 74.0%	24 9.9%	20 8.3%	19 7.9%

【里帰り別】

自身の体調や母乳・授乳などの相談は、「里帰りをした」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が53.5%、「里帰りは、しなかった」では57.6%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が54.8%、「同一都道府県内」では55.6%、「都道府県外」では50.8%であった。

図表 2-63 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

自身の体調や母乳・授乳などの相談 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	自身の体調や母乳・授乳などの相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,050 55.3%	320 16.8%	313 16.5%	217 11.4%
里帰りをした	951 100.0%	509 53.5%	155 16.3%	175 18.4%	112 11.8%
→同一市町村内	416 100.0%	228 54.8%	67 16.1%	74 17.8%	47 11.3%
→同一都道府県内	248 100.0%	138 55.6%	43 17.3%	43 17.3%	24 9.7%
→都道府県外	256 100.0%	130 50.8%	42 16.4%	53 20.7%	31 12.1%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	13 41.9%	3 9.7%	5 16.1%	10 32.3%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	534 57.6%	159 17.2%	136 14.7%	98 10.6%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	7 31.8%	6 27.3%	2 9.1%	7 31.8%

赤ちゃんの健康や発達についての相談は、「里帰りをした」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が 67.1%、「里帰りは、しなかった」では 67.9%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が 68.0%、「同一都道府県内」では 73.0%、「都道府県外」では 60.9%であった。「都道府県外」では、「支援を受けなかった」が 14.8%であった。

図表 2-64 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援
赤ちゃんの健康や発達についての相談 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	赤ちゃんの健康や発達についての相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,279 67.3%	247 13.0%	189 9.9%	185 9.7%
里帰りをした	951 100.0%	638 67.1%	122 12.8%	98 10.3%	93 9.8%
→同一市町村内	416 100.0%	283 68.0%	54 13.0%	40 9.6%	39 9.4%
→同一都道府県内	248 100.0%	181 73.0%	31 12.5%	17 6.9%	19 7.7%
→都道府県外	256 100.0%	156 60.9%	34 13.3%	38 14.8%	28 10.9%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	18 58.1%	3 9.7%	3 9.7%	7 22.6%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	629 67.9%	122 13.2%	90 9.7%	86 9.3%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	12 54.5%	3 13.6%	1 4.5%	6 27.3%

日中の赤ちゃんの世話（授乳や沐浴など）は、「里帰りをした」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が 56.6%、「里帰りは、しなかった」では 56.9%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が 59.9%、「同一都道府県内」では 58.9%、「都道府県外」では 48.4%であった。

図表 2-65 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

日中の赤ちゃんの世話 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	日中の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,075 56.6%	347 18.3%	293 15.4%	185 9.7%
里帰りをした	951 100.0%	538 56.6%	179 18.8%	138 14.5%	96 10.1%
→同一市町村内	416 100.0%	249 59.9%	64 15.4%	60 14.4%	43 10.3%
→同一都道府県内	248 100.0%	146 58.9%	52 21.0%	31 12.5%	19 7.7%
→都道府県外	256 100.0%	124 48.4%	60 23.4%	43 16.8%	29 11.3%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	19 61.3%	3 9.7%	4 12.9%	5 16.1%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	527 56.9%	166 17.9%	152 16.4%	82 8.8%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	10 45.5%	2 9.1%	3 13.6%	7 31.8%

夜間の赤ちゃんの世話（夜泣きなど）は、「里帰りをした」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が43.0%、「里帰りは、しなかった」では41.1%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が44.7%、「同一都道府県内」では43.5%であった。「都道府県外」では、「支援を受けたが十分とは思わなかった」が23.0%であった。

図表2-66 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

夜間の赤ちゃんの世話 ①夫・パートナー（Q2①）

	合計	夜間の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	797 41.9%	362 19.1%	563 29.6%	178 9.4%
里帰りをした	951 100.0%	409 43.0%	181 19.0%	271 28.5%	90 9.5%
→同一市町村内	416 100.0%	186 44.7%	77 18.5%	116 27.9%	37 8.9%
→同一都道府県内	248 100.0%	108 43.5%	41 16.5%	76 30.6%	23 9.3%
→都道府県外	256 100.0%	102 39.8%	59 23.0%	71 27.7%	24 9.4%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	13 41.9%	4 12.9%	8 25.8%	6 19.4%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	381 41.1%	177 19.1%	288 31.1%	81 8.7%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	7 31.8%	4 18.2%	4 18.2%	7 31.8%

上の子の世話は、「里帰りをした」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が 79.0%、「里帰りは、しなかった」では 75.4%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が 77.4%、「同一都道府県内」では 85.4%、「都道府県外」では 75.0%であった。

図表 2-67 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

上の子の世話 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	上の子の世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	847 100.0%	651 76.9%	118 13.9%	32 3.8%	46 5.4%
里帰りをした	329 100.0%	260 79.0%	43 13.1%	8 2.4%	18 5.5%
→同一市町村内	168 100.0%	130 77.4%	24 14.3%	4 2.4%	10 6.0%
→同一都道府県内	82 100.0%	70 85.4%	9 11.0%	1 1.2%	2 2.4%
→都道府県外	68 100.0%	51 75.0%	10 14.7%	3 4.4%	4 5.9%
→里帰り場所【無回答】	11 100.0%	9 81.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%
里帰りは、しなかった	512 100.0%	386 75.4%	75 14.6%	23 4.5%	28 5.5%
里帰りの有無【無回答】	6 100.0%	5 83.3%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%

家事（食事、洗濯、掃除、等）は、「里帰りをした」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が57.8%、「里帰りは、しなかった」では58.7%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が56.7%、「同一都道府県内」では63.7%、「都道府県外」では54.7%であった。

図表2-68 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

家事 ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	家事			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,105 58.2%	404 21.3%	231 12.2%	160 8.4%
里帰りをした	951 100.0%	550 57.8%	202 21.2%	120 12.6%	79 8.3%
→同一市町村内	416 100.0%	236 56.7%	94 22.6%	48 11.5%	38 9.1%
→同一都道府県内	248 100.0%	158 63.7%	44 17.7%	29 11.7%	17 6.9%
→都道府県外	256 100.0%	140 54.7%	62 24.2%	38 14.8%	16 6.3%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	16 51.6%	2 6.5%	5 16.1%	8 25.8%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	544 58.7%	200 21.6%	109 11.8%	74 8.0%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	11 50.0%	2 9.1%	2 9.1%	7 31.8%

外出時のサポートは、「里帰りをした」では夫・パートナーから「十分に支援を受けた」が77.5%、「里帰りは、しなかった」では76.3%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が75.7%、「同一都道府県内」では81.0%、「都道府県外」では77.3%であった。

図表2-69 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

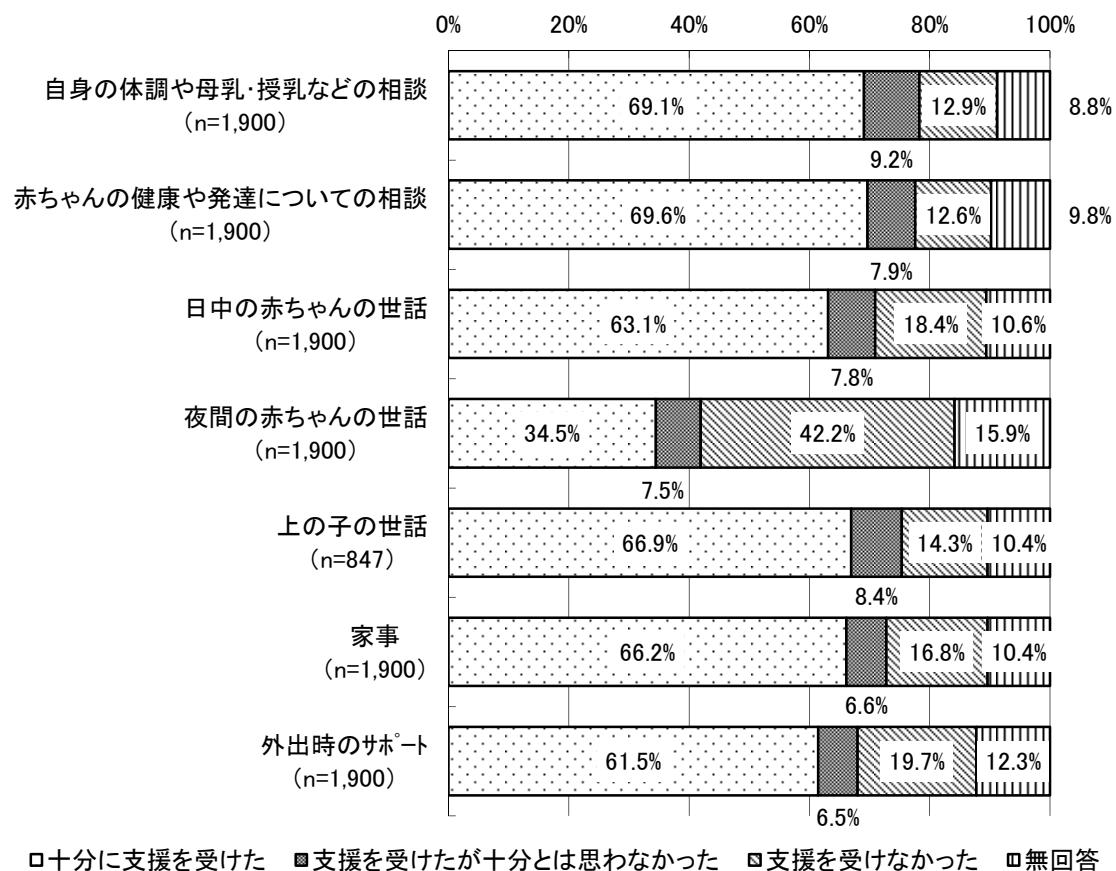
外出時のサポート ①夫・パートナー(Q2①)

	合計	外出時のサポート			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,456 76.6%	206 10.8%	122 6.4%	116 6.1%
里帰りをした	951 100.0%	737 77.5%	100 10.5%	63 6.6%	51 5.4%
→同一市町村内	416 100.0%	315 75.7%	50 12.0%	24 5.8%	27 6.5%
→同一都道府県内	248 100.0%	201 81.0%	23 9.3%	14 5.6%	10 4.0%
→都道府県外	256 100.0%	198 77.3%	26 10.2%	22 8.6%	10 3.9%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	23 74.2%	1 3.2%	3 9.7%	4 12.9%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	707 76.3%	106 11.4%	56 6.0%	58 6.3%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	12 54.5%	0 0.0%	3 13.6%	7 31.8%

(9) 実母の相談・支援

実母から、「十分に支援を受けた」は、「赤ちゃんの健康や発達についての相談」が 69.6%、「自身の体調や母乳・授乳などの相談」が 69.1%、「上の子の世話」が 66.9%、「家事」が 66.2%であった。

図表 2-70 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 ②実母(Q2②)



□十分に支援を受けた □支援を受けたが十分とは思わなかった □支援を受けなかつた □無回答

【年齢別】

自身の体調や母乳・授乳などの相談は、実母から「十分に支援を受けた」についてみると、「25～29歳」で76.5%であった。

図表 2-71 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

自身の体調や母乳・授乳などの相談 ②実母(Q2②)

	合計	自身の体調や母乳・授乳などの相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,312 69.1%	175 9.2%	246 12.9%	167 8.8%
19歳以下	9 100.0%	7 77.8%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%
20～24歳	112 100.0%	75 67.0%	6 5.4%	16 14.3%	15 13.4%
25～29歳	442 100.0%	338 76.5%	39 8.8%	37 8.4%	28 6.3%
30～34歳	741 100.0%	521 70.3%	62 8.4%	102 13.8%	56 7.6%
35～39歳	453 100.0%	284 62.7%	53 11.7%	76 16.8%	40 8.8%
40～44歳	133 100.0%	84 63.2%	15 11.3%	13 9.8%	21 15.8%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%

赤ちゃんの健康や発達についての相談は、実母から「十分に支援を受けた」についてみると、「25～29歳」では79.6%であった。「支援を受けなかった」については「35～39歳」で18.5%であった。

図表 2-72 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

赤ちゃんの健康や発達についての相談 ②実母(Q2②)

	合計	赤ちゃんの健康や発達についての相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,323 69.6%	151 7.9%	240 12.6%	186 9.8%
19歳以下	9 100.0%	7 77.8%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%
20～24歳	112 100.0%	80 71.4%	5 4.5%	12 10.7%	15 13.4%
25～29歳	442 100.0%	352 79.6%	28 6.3%	32 7.2%	30 6.8%
30～34歳	741 100.0%	534 72.1%	53 7.2%	95 12.8%	59 8.0%
35～39歳	453 100.0%	266 58.7%	49 10.8%	84 18.5%	54 11.9%
40～44歳	133 100.0%	81 60.9%	16 12.0%	15 11.3%	21 15.8%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%

日中の赤ちゃんの世話（授乳や沐浴など）は、実母から「十分に支援を受けた」についてみると、「25～29歳」では70.8%であった。「支援を受けなかった」については「35～39歳」が23.2%、「40～44歳」では19.5%であった。

図表2-73 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

日中の赤ちゃんの世話 ②実母(Q2②)

	合計	日中の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,199 63.1%	149 7.8%	350 18.4%	202 10.6%
19歳以下	9 100.0%	5 55.6%	1 11.1%	3 33.3%	0 0.0%
20～24歳	112 100.0%	72 64.3%	4 3.6%	19 17.0%	17 15.2%
25～29歳	442 100.0%	313 70.8%	35 7.9%	61 13.8%	33 7.5%
30～34歳	741 100.0%	475 64.1%	63 8.5%	136 18.4%	67 9.0%
35～39歳	453 100.0%	260 57.4%	34 7.5%	105 23.2%	54 11.9%
40～44歳	133 100.0%	72 54.1%	12 9.0%	26 19.5%	23 17.3%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%

夜間の赤ちゃんの世話（夜泣きなど）は、「20～24歳」では実母から「十分に支援を受けた」が39.3%、「25～29歳」では41.0%であった。「30～34歳」では「支援を受けなかった」が44.4%、「35～39歳」では46.8%、「40～44歳」では39.8%であった。

図表2-74 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

夜間の赤ちゃんの世話 ②実母(Q2②)

	合計	夜間の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	655 34.5%	142 7.5%	801 42.2%	302 15.9%
19歳以下	9 100.0%	3 33.3%	1 11.1%	4 44.4%	1 11.1%
20～24歳	112 100.0%	44 39.3%	5 4.5%	39 34.8%	24 21.4%
25～29歳	442 100.0%	181 41.0%	40 9.0%	164 37.1%	57 12.9%
30～34歳	741 100.0%	252 34.0%	59 8.0%	329 44.4%	101 13.6%
35～39歳	453 100.0%	137 30.2%	27 6.0%	212 46.8%	77 17.0%
40～44歳	133 100.0%	37 27.8%	10 7.5%	53 39.8%	33 24.8%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%

上の子の世話は、「25～29歳」では実母から「十分に支援を受けた」が74.5%、「30～34歳」では71.4%であった。「支援を受けたが十分とは思わなかった」についてみると、「35～39歳」では11.4%、「40～44歳」では13.9%であった。

図表2-75 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 上の子の世話 ②実母(Q2②)

	合計	上の子の世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	847 100.0%	567 66.9%	71 8.4%	121 14.3%	88 10.4%
19歳以下	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～24歳	23 100.0%	13 56.5%	0 0.0%	5 21.7%	5 21.7%
25～29歳	137 100.0%	102 74.5%	4 2.9%	18 13.1%	13 9.5%
30～34歳	350 100.0%	250 71.4%	27 7.7%	43 12.3%	30 8.6%
35～39歳	263 100.0%	165 62.7%	30 11.4%	45 17.1%	23 8.7%
40～44歳	72 100.0%	37 51.4%	10 13.9%	10 13.9%	15 20.8%
45歳以上	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%

家事（食事、洗濯、掃除、等）は、実母から「十分に支援を受けた」についてみると、「25～29歳」で73.1%であった。

図表2-76 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 家事 ②実母(Q2②)

	合計	家事			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,257 66.2%	126 6.6%	319 16.8%	198 10.4%
19歳以下	9 100.0%	5 55.6%	0 0.0%	4 44.4%	0 0.0%
20～24歳	112 100.0%	62 55.4%	6 5.4%	24 21.4%	20 17.9%
25～29歳	442 100.0%	323 73.1%	26 5.9%	61 13.8%	32 7.2%
30～34歳	741 100.0%	511 69.0%	48 6.5%	116 15.7%	66 8.9%
35～39歳	453 100.0%	273 60.3%	32 7.1%	94 20.8%	54 11.9%
40～44歳	133 100.0%	81 60.9%	14 10.5%	20 15.0%	18 13.5%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%

外出時のサポートは、実母から「十分に支援を受けた」についてみると、「25～29歳」で68.6%であった。

図表 2-77 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

外出時のサポート ②実母(Q2②)

	合計	外出時のサポート			
		十分に 支援を受けた	支援を受けたが十分 とは思わなかった	支援を 受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,168 61.5%	124 6.5%	375 19.7%	233 12.3%
19歳以下	9 100.0%	5 55.6%	0 0.0%	3 33.3%	1 11.1%
20～24歳	112 100.0%	64 57.1%	5 4.5%	21 18.8%	22 19.6%
25～29歳	442 100.0%	303 68.6%	31 7.0%	68 15.4%	40 9.0%
30～34歳	741 100.0%	472 63.7%	46 6.2%	141 19.0%	82 11.1%
35～39歳	453 100.0%	248 54.7%	33 7.3%	113 24.9%	59 13.0%
40～44歳	133 100.0%	74 55.6%	9 6.8%	29 21.8%	21 15.8%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%

【出産回数別】

自身の体調や母乳・授乳などの相談は、出産回数が「1回」では実母から「十分に支援を受けた」が74.3%、「2回」では65.9%、「3回以上」では57.0%であった。「3回以上」では「支援を受けなかった」が20.2%で、出産回数が多くなるほど支援を受けなかった割合が高くなかった。

図表 2-78 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

自身の体調や母乳・授乳などの相談 ②実母(Q2②)

	合計	自身の体調や母乳・授乳などの相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,312 69.1%	175 9.2%	246 12.9%	167 8.8%
1回	999 100.0%	742 74.3%	93 9.3%	99 9.9%	65 6.5%
2回	649 100.0%	428 65.9%	58 8.9%	98 15.1%	65 10.0%
3回以上	242 100.0%	138 57.0%	24 9.9%	49 20.2%	31 12.8%

赤ちゃんの健康や発達についての相談は、出産回数が「1回」では実母から「十分に支援を受けた」が75.6%、「2回」では66.7%であった。「3回以上」では「支援を受けなかった」が20.7%であった。出産回数が多くなるほど支援を受けなかった割合が高くなかった。

図表 2-79 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

赤ちゃんの健康や発達についての相談 ②実母(Q2②)

	合計	赤ちゃんの健康や発達についての相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,323 69.6%	151 7.9%	240 12.6%	186 9.8%
1回	999 100.0%	755 75.6%	71 7.1%	95 9.5%	78 7.8%
2回	649 100.0%	433 66.7%	57 8.8%	95 14.6%	64 9.9%
3回以上	242 100.0%	131 54.1%	23 9.5%	50 20.7%	38 15.7%

日中の赤ちゃんの世話（授乳や沐浴など）は、出産回数が「1回」では実母から「十分に支援を受けた」が69.6%であった。「支援を受けなかった」についてみると「2回」では21.6%、「3回以上」では26.0%であった。

図表 2-80 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

日中の赤ちゃんの世話 ②実母(Q2②)

	合計	日中の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,199 63.1%	149 7.8%	350 18.4%	202 10.6%
1回	999 100.0%	695 69.6%	72 7.2%	147 14.7%	85 8.5%
2回	649 100.0%	386 59.5%	53 8.2%	140 21.6%	70 10.8%
3回以上	242 100.0%	115 47.5%	24 9.9%	63 26.0%	40 16.5%

夜間の赤ちゃんの世話（夜泣きなど）は、出産回数が「1回」では実母から「十分に支援を受けた」が42.8%であった。「2回」では「支援を受けなかった」が48.4%、「3回以上」では55.4%であった。出産回数が多くなるほど支援を受けなかった割合が高くなかった。

図表 2-81 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

夜間の赤ちゃんの世話 ②実母(Q2②)

	合計	夜間の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	655 34.5%	142 7.5%	801 42.2%	302 15.9%
1回	999 100.0%	428 42.8%	84 8.4%	352 35.2%	135 13.5%
2回	649 100.0%	184 28.4%	43 6.6%	314 48.4%	108 16.6%
3回以上	242 100.0%	41 16.9%	15 6.2%	134 55.4%	52 21.5%

上の子の世話は、出産回数が「2回」では実母から「十分に支援を受けた」が70.6%、「3回以上」では59.0%であった。

図表 2-82 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

上の子の世話 ②実母 (Q2②)

	合計	上の子の世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	847 100.0%	567 66.9%	71 8.4%	121 14.3%	88 10.4%
1回	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	5 71.4%
2回	616 100.0%	435 70.6%	46 7.5%	82 13.3%	53 8.6%
3回以上	222 100.0%	131 59.0%	25 11.3%	37 16.7%	29 13.1%

家事（食事、洗濯、掃除、等）は、出産回数が「1回」では実母から「十分に支援を受けた」が71.1%であった。「支援を受けなかった」についてみると、「2回」では19.3%、「3回以上」では22.3%であった。

図表 2-83 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

家事 ②実母 (Q2②)

	合計	家事			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,257 66.2%	126 6.6%	319 16.8%	198 10.4%
1回	999 100.0%	710 71.1%	54 5.4%	140 14.0%	95 9.5%
2回	649 100.0%	419 64.6%	41 6.3%	125 19.3%	64 9.9%
3回以上	242 100.0%	125 51.7%	31 12.8%	54 22.3%	32 13.2%

外出時のサポートは、出産回数が「1回」では実母から「十分に支援を受けた」が 66.2% であった。「支援を受けなかった」についてみると「2回」では 21.7%、「3回以上」では 27.3% であった。出産回数が多くなるほど支援を受けなかった割合が高くなつた。

図表 2-84 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

外出時のサポート ②実母(Q2②)

	合計	外出時のサポート			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,168 61.5%	124 6.5%	375 19.7%	233 12.3%
1回	999 100.0%	661 66.2%	57 5.7%	168 16.8%	113 11.3%
2回	649 100.0%	387 59.6%	49 7.6%	141 21.7%	72 11.1%
3回以上	242 100.0%	118 48.8%	18 7.4%	66 27.3%	40 16.5%

【里帰り別】

自身の体調や母乳・授乳などの相談は、「里帰りをした」では実母から「十分に支援を受けた」が80.1%であった。「里帰りは、しなかった」では「十分に支援を受けた」が58.3%で、「支援を受けなかつた」が19.0%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が81.7%、「同一都道府県内」では79.4%、「都道府県外」では78.9%であった。

図表2-85 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

自身の体調や母乳・授乳などの相談 ②実母(Q2②)

	合計	自身の体調や母乳・授乳などの相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかつた	支援を受けなかつた	無回答
全体	1,900 100.0%	1,312 69.1%	175 9.2%	246 12.9%	167 8.8%
里帰りをした	951 100.0%	762 80.1%	69 7.3%	68 7.2%	52 5.5%
→同一市町村内	416 100.0%	340 81.7%	25 6.0%	29 7.0%	22 5.3%
→同一都道府県内	248 100.0%	197 79.4%	19 7.7%	20 8.1%	12 4.8%
→都道府県外	256 100.0%	202 78.9%	24 9.4%	18 7.0%	12 4.7%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	23 74.2%	1 3.2%	1 3.2%	6 19.4%
里帰りは、しなかつた	927 100.0%	540 58.3%	104 11.2%	176 19.0%	107 11.5%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	10 45.5%	2 9.1%	2 9.1%	8 36.4%

赤ちゃんの健康や発達についての相談は、「里帰りをした」では実母から「十分に支援を受けた」が81.8%であった。「里帰りは、しなかった」では「十分に支援を受けた」が57.5%で、「支援を受けなかった」が19.5%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が83.9%、「同一都道府県内」では82.3%、「都道府県外」では79.3%であった。

図表2-86 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

赤ちゃんの健康や発達についての相談 ②実母(Q2②)

	合計	赤ちゃんの健康や発達についての相談			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,323 69.6%	151 7.9%	240 12.6%	186 9.8%
里帰りをした	951 100.0%	778 81.8%	59 6.2%	58 6.1%	56 5.9%
→同一市町村内	416 100.0%	349 83.9%	17 4.1%	24 5.8%	26 6.3%
→同一都道府県内	248 100.0%	204 82.3%	21 8.5%	11 4.4%	12 4.8%
→都道府県外	256 100.0%	203 79.3%	20 7.8%	21 8.2%	12 4.7%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	22 71.0%	1 3.2%	2 6.5%	6 19.4%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	533 57.5%	91 9.8%	181 19.5%	122 13.2%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	12 54.5%	1 4.5%	1 4.5%	8 36.4%

日中の赤ちゃんの世話（授乳や沐浴など）は、「里帰りをした」では実母から「十分に支援を受けた」が78.0%であった。「里帰りは、しなかった」では「十分に支援を受けた」が47.9%で「支援を受けなかった」が29.0%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が79.8%、「同一都道府県内」では79.0%、「都道府県外」では75.4%であった。

図表 2-87 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

日中の赤ちゃんの世話 ②実母(Q2②)

	合計	日中の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,199 63.1%	149 7.8%	350 18.4%	202 10.6%
里帰りをした	951 100.0%	742 78.0%	60 6.3%	80 8.4%	69 7.3%
→同一市町村内	416 100.0%	332 79.8%	22 5.3%	34 8.2%	28 6.7%
→同一都道府県内	248 100.0%	196 79.0%	17 6.9%	17 6.9%	18 7.3%
→都道府県外	256 100.0%	193 75.4%	17 6.6%	29 11.3%	17 6.6%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	21 67.7%	4 12.9%	0 0.0%	6 19.4%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	444 47.9%	88 9.5%	269 29.0%	126 13.6%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	13 59.1%	1 4.5%	1 4.5%	7 31.8%

夜間の赤ちゃんの世話（夜泣きなど）は、「里帰りをした」では実母から「十分に支援を受けた」が46.3%であった。「里帰りは、しなかった」では「十分に支援を受けた」が22.2%で「支援を受けなかった」が53.9%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が46.9%、「同一都道府県内」では48.4%、「都道府県外」では44.5%であった。

図表2-88 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

夜間の赤ちゃんの世話 ②実母(Q2②)

	合計	夜間の赤ちゃんの世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	655 34.5%	142 7.5%	801 42.2%	302 15.9%
里帰りをした	951 100.0%	440 46.3%	91 9.6%	301 31.7%	119 12.5%
→同一市町村内	416 100.0%	195 46.9%	35 8.4%	136 32.7%	50 12.0%
→同一都道府県内	248 100.0%	120 48.4%	24 9.7%	77 31.0%	27 10.9%
→都道府県外	256 100.0%	114 44.5%	29 11.3%	80 31.3%	33 12.9%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	11 35.5%	3 9.7%	8 25.8%	9 29.0%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	206 22.2%	47 5.1%	500 53.9%	174 18.8%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	9 40.9%	4 18.2%	0 0.0%	9 40.9%

上の子の世話は、「里帰りをした」では実母から「十分に支援を受けた」が80.5%であった。「里帰りは、しなかった」では「十分に支援を受けた」が58.2%、「支援を受けなかつた」が20.5%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が79.2%、「同一都道府県内」では76.8%、「都道府県外」では89.7%であった。

図表2-89 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

上の子の世話 ②実母(Q2②)

	合計	上の子の世話			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかつた	支援を受けなかつた	無回答
全体	847 100.0%	567 66.9%	71 8.4%	121 14.3%	88 10.4%
里帰りをした	329 100.0%	265 80.5%	21 6.4%	16 4.9%	27 8.2%
→同一市町村内	168 100.0%	133 79.2%	10 6.0%	10 6.0%	15 8.9%
→同一都道府県内	82 100.0%	63 76.8%	8 9.8%	5 6.1%	6 7.3%
→都道府県外	68 100.0%	61 89.7%	3 4.4%	1 1.5%	3 4.4%
→里帰り場所【無回答】	11 100.0%	8 72.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 27.3%
里帰りは、しなかった	512 100.0%	298 58.2%	50 9.8%	105 20.5%	59 11.5%
里帰りの有無【無回答】	6 100.0%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%

家事（食事、洗濯、掃除、等）は、「里帰りをした」では実母から「十分に支援を受けた」が 80.3%であった。「里帰りは、しなかった」では「十分に支援を受けた」が 51.7%、「支援を受けなかった」が 27.1%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が 81.3%、「同一都道府県内」では 79.4%、「都道府県外」では 80.1%であった。

図表 2-90 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

家事 ②実母(Q2②)

	合計	家事			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,257 66.2%	126 6.6%	319 16.8%	198 10.4%
里帰りをした	951 100.0%	764 80.3%	47 4.9%	68 7.2%	72 7.6%
→同一市町村内	416 100.0%	338 81.3%	22 5.3%	25 6.0%	31 7.5%
→同一都道府県内	248 100.0%	197 79.4%	13 5.2%	18 7.3%	20 8.1%
→都道府県外	256 100.0%	205 80.1%	11 4.3%	25 9.8%	15 5.9%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	24 77.4%	1 3.2%	0 0.0%	6 19.4%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	479 51.7%	78 8.4%	251 27.1%	119 12.8%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	14 63.6%	1 4.5%	0 0.0%	7 31.8%

外出時のサポートは、「里帰りをした」では実母から「十分に支援を受けた」が73.8%であった。「里帰りは、しなかった」では「十分に支援を受けた」が49.1%、「支援を受けなかった」が29.7%であった。

また、里帰りをした場合、里帰りの場所が「同一市町村内」では、「十分に支援を受けた」が75.7%、「同一都道府県内」および「都道府県外」では73.0%であった。

図表2-91 里帰り別 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援

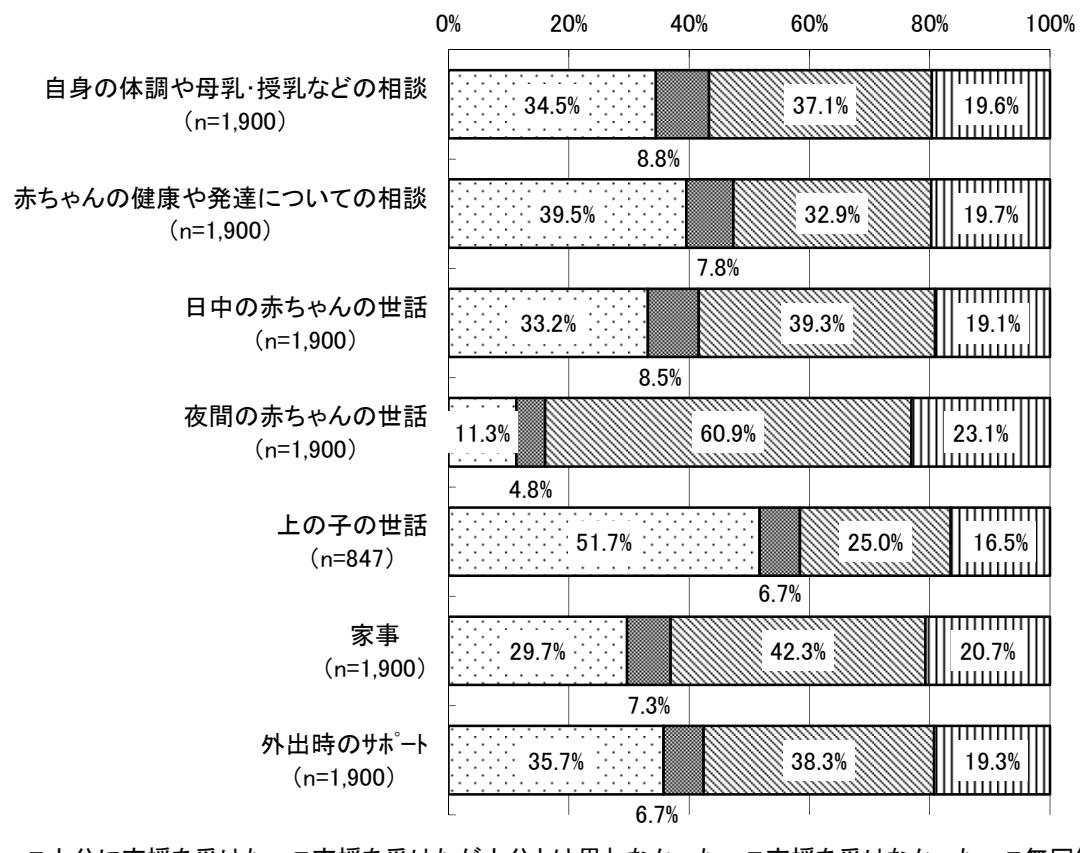
外出時のサポート ②実母(Q2②)

	合計	外出時のサポート			
		十分に支援を受けた	支援を受けたが十分とは思わなかった	支援を受けなかった	無回答
全体	1,900 100.0%	1,168 61.5%	124 6.5%	375 19.7%	233 12.3%
里帰りをした	951 100.0%	702 73.8%	58 6.1%	100 10.5%	91 9.6%
→同一市町村内	416 100.0%	315 75.7%	22 5.3%	38 9.1%	41 9.9%
→同一都道府県内	248 100.0%	181 73.0%	22 8.9%	24 9.7%	21 8.5%
→都道府県外	256 100.0%	187 73.0%	12 4.7%	36 14.1%	21 8.2%
→里帰り場所【無回答】	31 100.0%	19 61.3%	2 6.5%	2 6.5%	8 25.8%
里帰りは、しなかった	927 100.0%	455 49.1%	65 7.0%	275 29.7%	132 14.2%
里帰りの有無【無回答】	22 100.0%	11 50.0%	1 4.5%	0 0.0%	10 45.5%

(10) その他の家族の相談・支援

その他の家族から、「十分に支援を受けた」は、「上の子の世話」が51.7%、「赤ちゃんの健康や発達についての相談」が39.5%、「外出時のサポート」が35.7%であった。

図表 2-92 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 ③その他の家族(Q2③)

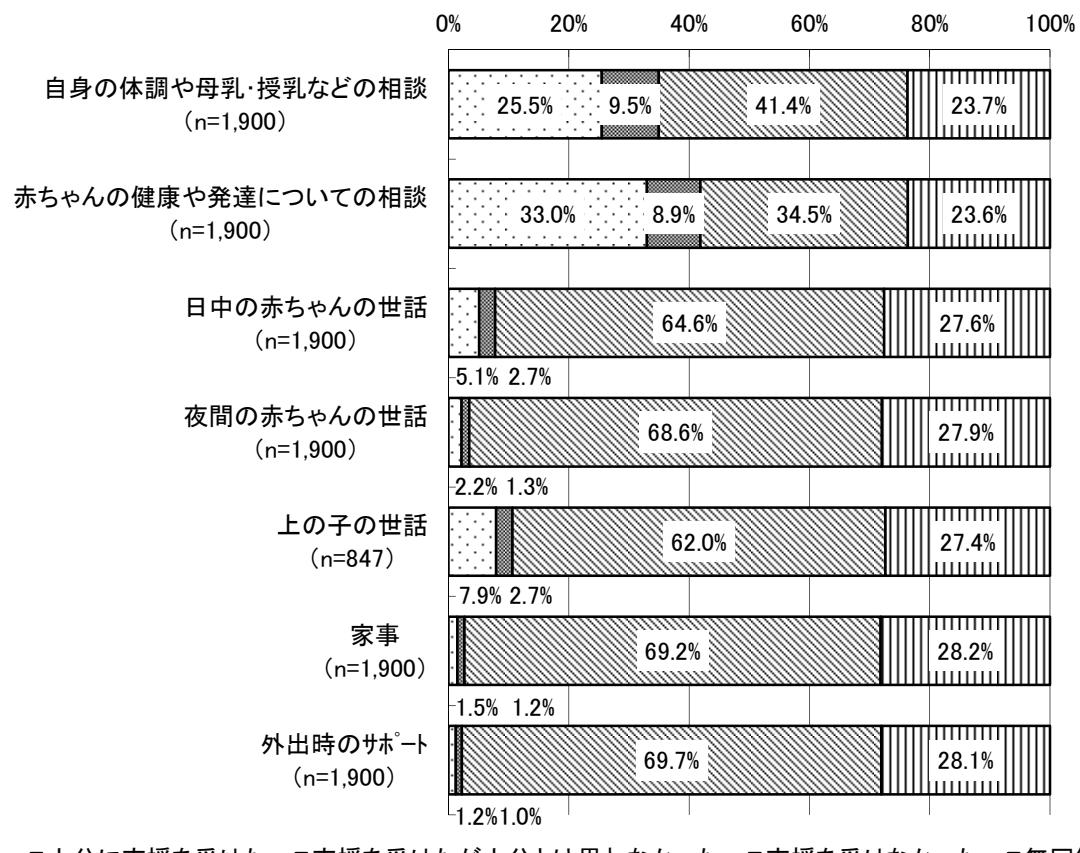


□十分に支援を受けた □支援を受けたが十分とは思わなかつた □支援を受けなかつた □無回答

(11) 行政(市・県)の相談・支援

行政(市・県)から、「十分に支援を受けた」は、「赤ちゃんの健康や発達についての相談」が33.0%、「体調や母乳・授乳などの相談」が25.5%であった。

図表2-93 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 ④行政(市・県)(Q2④)

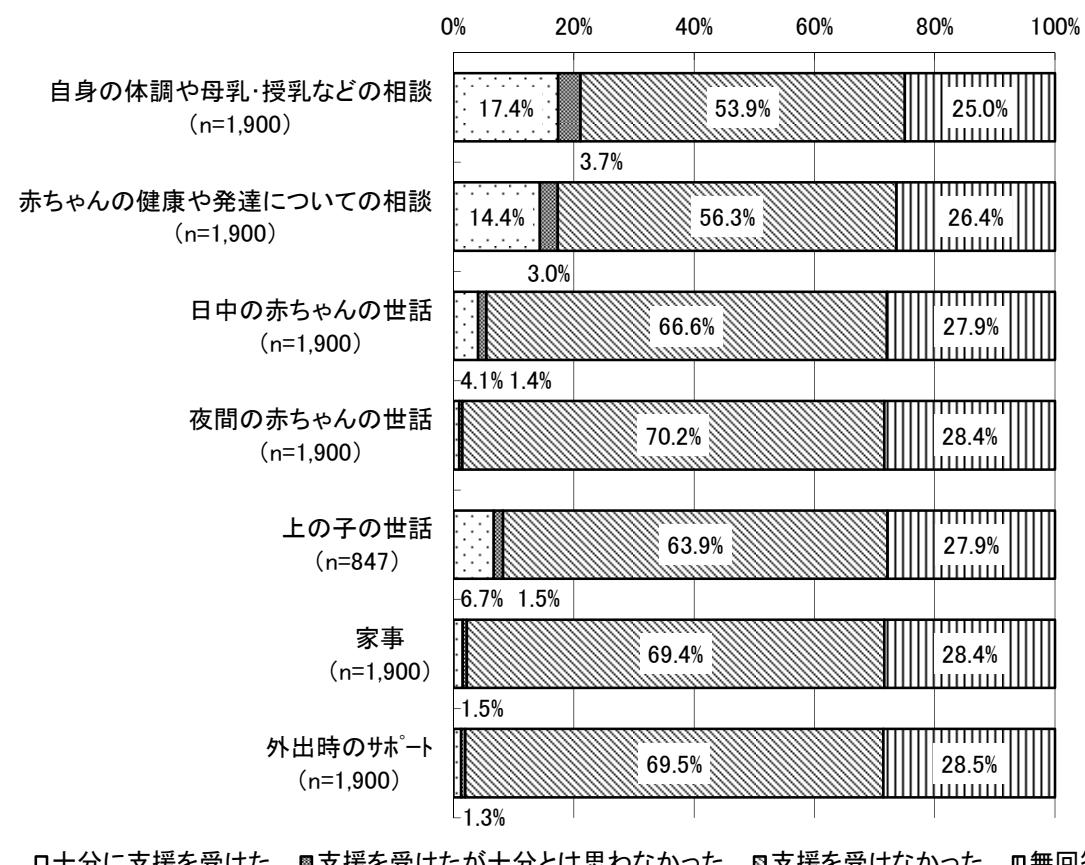


□十分に支援を受けた □支援を受けたが十分とは思わなかった □支援を受けなかった □無回答

(12) 民間サービスの相談・支援

民間サービスから、「十分に支援を受けた」は、「体調や母乳・授乳などの相談」が 17.4%、「赤ちゃんの健康や発達についての相談」が 14.4%であった。

図表 2-94 今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援 ⑤民間サービス(Q2⑤)



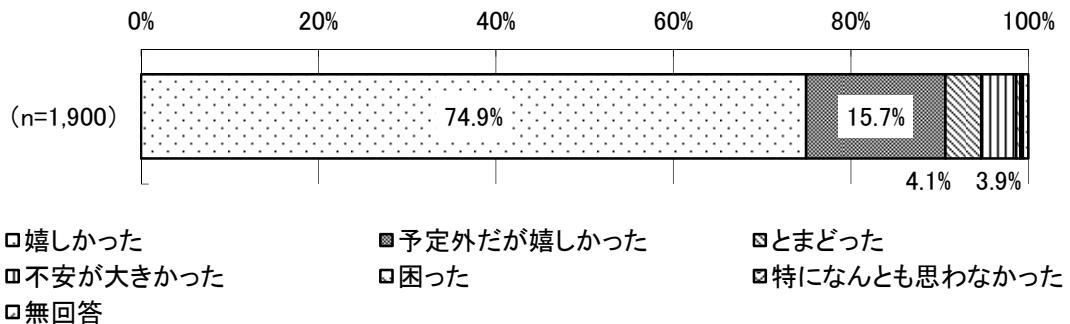
□十分に支援を受けた ■支援を受けたが十分とは思わなかった □支援を受けなかった □無回答

3. 妊娠が分かった時の気持ち

妊娠が分かった時の気持ちでは、「嬉しかった」が 74.9%で最も高く、次いで、「予定外だが嬉しかった」が 15.7%であった。

「とまどった」が 4.1% (77 件)、「不安が大きかった」が 3.9% (75 件)、「困った」が 0.5% (9 件)、「特になんとも思わなかった」が 0.3% (5 件) であった。

図表 2-95 妊娠が分かった時の気持ち(Q3)



【年齢別】

「20～24 歳」では、妊娠が分かった時の気持ちでは、「嬉しかった」が 59.8%、「予定外だが嬉しかった」が 24.1%であった。「25～29 歳」では「嬉しかった」が 72.9%、「予定外だが嬉しかった」が 20.1%であった。「30～34 歳」では、「嬉しかった」が 78.5%、「35～39 歳」では 75.7%、「40～44 歳」では 78.2%であった。

「20～24 歳」では「不安が大きかった」が 8.0%、「40～44 歳」では 7.5%であった。

図表 2-96 年齢別 妊娠が分かった時の気持ち(Q3)

	合計	妊娠が分かった時の気持ち						
		嬉しかった	予定外だが嬉しかった	とまどった	大きかった	不安が	困った	特になんとも
全体	1,900 100.0%	1,424 74.9%	298 15.7%	77 4.1%	75 3.9%	9 0.5%	5 0.3%	12 0.6%
19 歳以下	9 100.0%	2 22.2%	2 22.2%	2 22.2%	3 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～24 歳	112 100.0%	67 59.8%	27 24.1%	7 6.3%	9 8.0%	1 0.9%	0 0.0%	1 0.9%
25～29 歳	442 100.0%	322 72.9%	89 20.1%	12 2.7%	13 2.9%	2 0.5%	1 0.2%	3 0.7%
30～34 歳	741 100.0%	582 78.5%	97 13.1%	33 4.5%	21 2.8%	5 0.7%	1 0.1%	2 0.3%
35～39 歳	453 100.0%	343 75.7%	69 15.2%	18 4.0%	19 4.2%	1 0.2%	3 0.7%	0 0.0%
40～44 歳	133 100.0%	104 78.2%	14 10.5%	5 3.8%	10 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
45 歳以上	4 100.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%

【妻の就労状況別】

妻が「就労中」では「嬉しかった」が 70.7%、「産休・育児休業中」では 76.2%、「妊娠または出産を機に退職した」では 73.7%、「もともと働いていない」では 75.4%であった。

図表 2-97 妻の就労状況別 妊娠が分かった時の気持ち(Q3)

	合計	妊娠が分かった時の気持ち						
		嬉しかった	嬉しかったが予定外だった	とまどった	大き不かつがた	困った	思ひなんかつた	無回答
全体	1,900 100.0%	1,424 74.9%	298 15.7%	77 4.1%	75 3.9%	9 0.5%	5 0.3%	12 0.6%
就労中	92 100.0%	65 70.7%	12 13.0%	8 8.7%	6 6.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%
産休・育児休業中	974 100.0%	742 76.2%	155 15.9%	33 3.4%	32 3.3%	6 0.6%	3 0.3%	3 0.3%
妊娠または出産を機に退職した	499 100.0%	368 73.7%	80 16.0%	26 5.2%	20 4.0%	3 0.6%	0 0.0%	2 0.4%
もともと働いていない	309 100.0%	233 75.4%	48 15.5%	9 2.9%	15 4.9%	0 0.0%	2 0.6%	2 0.6%
学生	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	17 100.0%	14 82.4%	3 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

【夫の就労状況別】

夫が「正社員・正職員」では、「嬉しかった」が 76.5%、「自営業・家族従業員・自由業」では 71.3%であった。

図表 2-98 夫の就労状況別 妊娠が分かった時の気持ち(Q3)

	合計	妊娠が分かった時の気持ち						
		嬉しかった	嬉しかったが予定外だった	とまどった	大きかった不安がかった	困った	思ひなんなかつた	無回答
全体	1,900 100.0%	1,424 74.9%	298 15.7%	77 4.1%	75 3.9%	9 0.5%	5 0.3%	12 0.6%
正社員・正職員	1,625 100.0%	1,243 76.5%	251 15.4%	58 3.6%	56 3.4%	7 0.4%	3 0.2%	7 0.4%
非常勤・パート・派遣	43 100.0%	25 58.1%	7 16.3%	3 7.0%	8 18.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
自営業・家族従業員・自由業	164 100.0%	117 71.3%	25 15.2%	12 7.3%	6 3.7%	2 1.2%	1 0.6%	1 0.6%
学生	11 100.0%	5 45.5%	1 9.1%	2 18.2%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無職	11 100.0%	8 72.7%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
育休中	7 100.0%	6 85.7%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
夫・パートナーはいない	16 100.0%	9 56.3%	6 37.5%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	6 100.0%	5 83.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

【出産回数別】

出産回数が「1回」では、「嬉しかった」が 75.5%、「2回」では 82.4%であった。「3回以上」では、「嬉しかった」が 54.1%、「予定外だが嬉しかった」が 30.6%であった。

図表 2-99 出産回数別 妊娠が分かった時の気持ち(Q3)

	合計	妊娠が分かった時の気持ち						
		嬉しかった	嬉しかったが予定外だった	とまどった	大きかった不安がかった	困った	思ひなんなかつた	無回答
全体	1,900 100.0%	1,424 74.9%	298 15.7%	77 4.1%	75 3.9%	9 0.5%	5 0.3%	12 0.6%
1回	999 100.0%	754 75.5%	149 14.9%	39 3.9%	48 4.8%	4 0.4%	1 0.1%	4 0.4%
2回	649 100.0%	535 82.4%	75 11.6%	15 2.3%	17 2.6%	2 0.3%	3 0.5%	2 0.3%
3回以上	242 100.0%	131 54.1%	74 30.6%	23 9.5%	10 4.1%	3 1.2%	1 0.4%	0 0.0%

4. 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担

今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担について、回答の割合が高い上位3位までの項目は、いずれも産後2週未満の時期で「自分の体のトラブル（56.1%）」「十分な睡眠がとれない（54.2%）」「妊娠・出産・育児による体の疲れ（53.4%）」であった。

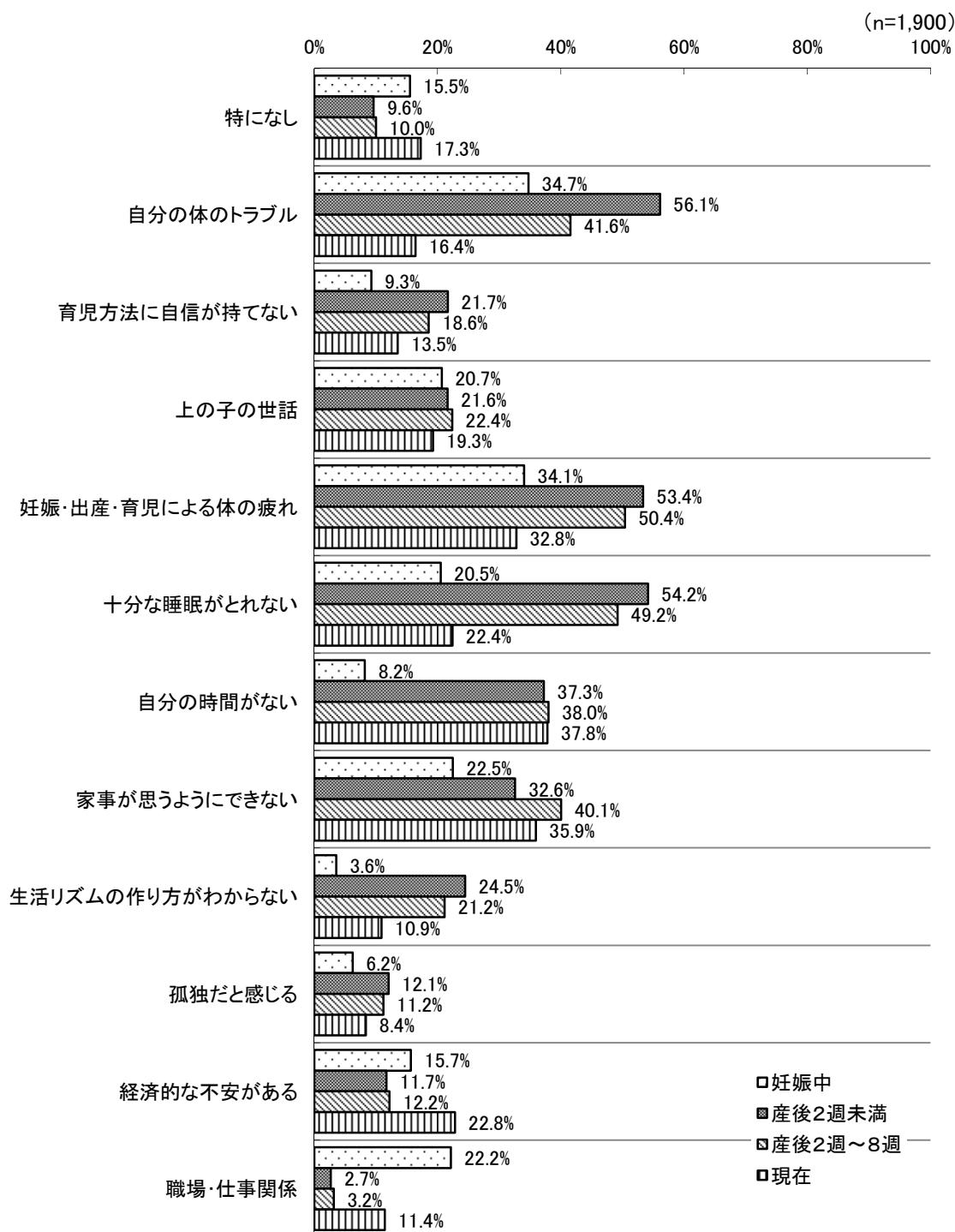
時期別に詳しくみると、妊娠中は、「自分の体のトラブル」が34.7%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が34.1%で、「家事が思うようにできない」が22.5%、「職場・仕事関係」が22.2%であった。

産後2週未満は、「自分の体のトラブル」が56.1%、「十分な睡眠がとれない」が54.2%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が53.4%であった。

産後2週から8週は、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が50.4%、「十分な睡眠がとれない」が49.2%で、「自分の体のトラブル（41.6%）」「家事が思うようにできない（40.1%）」「自分の時間がない（38.0%）」であった。

現在は、「自分の時間がない」が37.8%、「家事が思うようにできない」が35.9%で、「妊娠・出産・育児による体の疲れ（32.8%）」であった。

図表 2-100 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担(Q4) (複数回答)

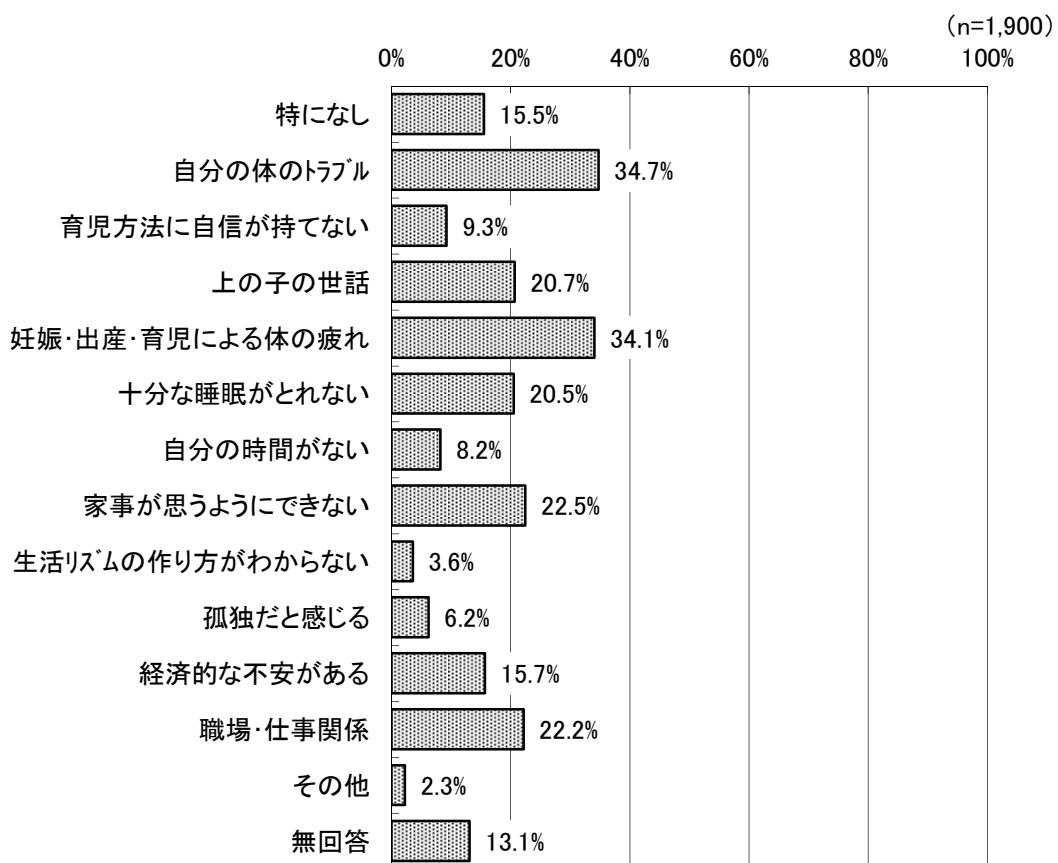


【時期別】

(1) 妊娠中

妊娠中は、「自分の体のトラブル」が34.7%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が34.1%で上位であった。次いで「家事が思うようにできない」が22.5%、「職場・仕事関係」が22.2%であった。

図表 2-101 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ①妊娠中(Q4①) (複数回答)



【年齢別】

妊娠中に感じた不安や負担は「20～24歳」「25～29歳」「30～34歳」「35～39歳」で「自分の体のトラブル」が最も高かった。また、「35～39歳」「40～44歳」では「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が最も高かった。

「特になし」についてみると「20～24歳」で21.4%、「25～29歳」では19.0%であった。「孤独だと感じる」については「20～24歳」で14.3%であった。「経済的な不安がある」については、「20～24歳」が25.0%であった。

図表2-102 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ①妊娠中(Q4①) (複数回答)

	合計	不安や負担_妊娠中						
		特になし	自分の体のトラブル	育児方法に自信が持てない	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない	自分の時間がない
全体	1,900 100.0%	295 15.5%	660 34.7%	176 9.3%	393 20.7%	647 34.1%	390 20.5%	156 8.2%
19歳以下	9 100.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 44.4%	3 33.3%	1 11.1%
20～24歳	112 100.0%	24 21.4%	30 26.8%	14 12.5%	9 8.0%	23 20.5%	22 19.6%	5 4.5%
25～29歳	442 100.0%	84 19.0%	132 29.9%	54 12.2%	59 13.3%	120 27.1%	82 18.6%	25 5.7%
30～34歳	741 100.0%	107 14.4%	286 38.6%	69 9.3%	187 25.2%	283 38.2%	152 20.5%	69 9.3%
35～39歳	453 100.0%	57 12.6%	174 38.4%	35 7.7%	111 24.5%	174 38.4%	106 23.4%	46 10.2%
40～44歳	133 100.0%	20 15.0%	36 27.1%	4 3.0%	26 19.5%	41 30.8%	24 18.0%	9 6.8%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

	合計	不安や負担_妊娠中(つづき)						
		家事が思うようにできない	生活リズムの作り方がわからない	孤独だと感じる	経済的な不安がある	職場・仕事関係	その他	無回答
全体	1,900 100.0%	427 22.5%	68 3.6%	118 6.2%	298 15.7%	421 22.2%	43 2.3%	249 13.1%
19歳以下	9 100.0%	2 22.2%	3 33.3%	0 0.0%	3 33.3%	2 22.2%	0 0.0%	3 33.3%
20～24歳	112 100.0%	24 21.4%	6 5.4%	16 14.3%	28 25.0%	12 10.7%	1 0.9%	27 24.1%
25～29歳	442 100.0%	72 16.3%	20 4.5%	38 8.6%	78 17.6%	88 19.9%	5 1.1%	69 15.6%
30～34歳	741 100.0%	182 24.6%	23 3.1%	40 5.4%	104 14.0%	182 24.6%	22 3.0%	72 9.7%
35～39歳	453 100.0%	122 26.9%	14 3.1%	18 4.0%	67 14.8%	112 24.7%	10 2.2%	53 11.7%
40～44歳	133 100.0%	24 18.0%	1 0.8%	6 4.5%	18 13.5%	23 17.3%	5 3.8%	22 16.5%
45歳以上	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%

【妻の就労状況別】

「経済的な不安がある」についてみると、妻が「就労中」では、22.8%、「妊娠または出産を機に退職した」では21.8%であった。

「職場・仕事関係」については、「産休・育児休業中」が33.5%であった。

さらに、産休・育児休業中の人について、妻の就労形態別にみると、「正社員・正職員」では「職場・仕事関係」が36.4%であった。

図表 2-103 妻の就労状況別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ①妊娠中(Q4①) (複数回答)

		合計	不安や負担_妊娠中						
			特になし	自分の体のトラブル	自信が持てない	育児方法に	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がない
妻の就労状況	全体	1,900 100.0%	295 15.5%	660 34.7%	176 9.3%	393 20.7%	647 34.1%	390 20.5%	156 8.2%
	就労中	92 100.0%	19 20.7%	27 29.3%	5 5.4%	18 19.6%	26 28.3%	14 15.2%	7 7.6%
	産休・育児休業中	974 100.0%	140 14.4%	336 34.5%	81 8.3%	193 19.8%	344 35.3%	203 20.8%	75 7.7%
	妊娠または出産を機に退職した	499 100.0%	72 14.4%	192 38.5%	66 13.2%	94 18.8%	164 32.9%	115 23.0%	46 9.2%
	もともと働いていない	309 100.0%	59 19.1%	94 30.4%	22 7.1%	87 28.2%	104 33.7%	53 17.2%	28 9.1%
	学生	3 100.0%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%
	その他	17 100.0%	3 17.6%	9 52.9%	2 11.8%	1 5.9%	6 35.3%	3 17.6%	0 0.0%
妻の就労形態 (産休・育児休業中)	正社員・正職員	739 100.0%	110 14.9%	267 36.1%	62 8.4%	145 19.6%	281 38.0%	161 21.8%	55 7.4%
	非常勤・パート・派遣	170 100.0%	18 10.6%	49 28.8%	15 8.8%	38 22.4%	47 27.6%	31 18.2%	14 8.2%
	自営業・家族従業員・自由業	16 100.0%	1 6.3%	7 43.8%	0 0.0%	4 25.0%	5 31.3%	3 18.8%	2 12.5%
	その他	14 100.0%	3 21.4%	3 21.4%	0 0.0%	1 7.1%	3 21.4%	3 21.4%	1 7.1%

		合計	不安や負担_妊娠中(つづき)						
			家事が思うようにできない	生活リズムの作り方がわからない	孤独だと感じる	不安がある	経済的な	職場・仕事関係	その他
妻の就労状況	全体	1,900 100.0%	427 22.5%	68 3.6%	118 6.2%	298 15.7%	421 22.2%	43 2.3%	249 13.1%
	就労中	92 100.0%	16 17.4%	1 1.1%	2 2.2%	21 22.8%	21 22.8%	2 2.2%	11 12.0%
	産休・育児休業中	974 100.0%	219 22.5%	28 2.9%	48 4.9%	125 12.8%	326 33.5%	24 2.5%	124 12.7%
	妊娠または出産を機に退職した	499 100.0%	111 22.2%	22 4.4%	42 8.4%	109 21.8%	70 14.0%	8 1.6%	72 14.4%
	もどもと働いていない	309 100.0%	74 23.9%	15 4.9%	25 8.1%	40 12.9%	1 0.3%	8 2.6%	36 11.7%
	学生	3 100.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%
	その他	17 100.0%	5 29.4%	1 5.9%	1 5.9%	1 5.9%	2 11.8%	1 5.9%	3 17.6%
(産休・育児休業中)	正社員・正職員	739 100.0%	172 23.3%	23 3.1%	33 4.5%	72 9.7%	269 36.4%	18 2.4%	78 10.6%
	非常勤・パート・派遣	170 100.0%	35 20.6%	5 2.9%	9 5.3%	41 24.1%	51 30.0%	4 2.4%	31 18.2%
	自営業・家族従業員・自由業	16 100.0%	4 25.0%	0 0.0%	4 25.0%	7 43.8%	3 18.8%	1 6.3%	2 12.5%
	その他	14 100.0%	2 14.3%	0 0.0%	2 14.3%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	6 42.9%

【出産回数別】

「自分の体のトラブル」についてみると、出産回数が「1回」では38.0%であった。「育児方法に自信が持てない」については、出産回数が「1回」で12.9%であった。「職場・仕事関係」については、出産回数「1回」で25.4%であった。

図表 2-104 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ①妊娠中(Q4①) (複数回答)

	合計	不安や負担_妊娠中						
		特になし	自分の体のトラブル	自信が持てない	育児方法に	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がない
全体	1,900 100.0%	295 15.5%	660 34.7%	176 9.3%	393 20.7%	647 34.1%	390 20.5%	156 8.2%
1回	999 100.0%	157 15.7%	380 38.0%	129 12.9%	4 0.4%	326 32.6%	212 21.2%	32 3.2%
2回	649 100.0%	100 15.4%	216 33.3%	37 5.7%	295 45.5%	233 35.9%	132 20.3%	85 13.1%
3回以上	242 100.0%	36 14.9%	63 26.0%	10 4.1%	93 38.4%	87 36.0%	45 18.6%	39 16.1%

	合計	不安や負担_妊娠中(つづき)						
		家事が思うようにできな	生活リズムの作り方	孤独だと感じる	経済的な不安がある	職場・仕事関係	その他	無回答
全体	1,900 100.0%	427 22.5%	68 3.6%	118 6.2%	298 15.7%	421 22.2%	43 2.3%	249 13.1%
1回	999 100.0%	210 21.0%	48 4.8%	76 7.6%	164 16.4%	254 25.4%	19 1.9%	136 13.6%
2回	649 100.0%	158 24.3%	14 2.2%	31 4.8%	81 12.5%	119 18.3%	20 3.1%	82 12.6%
3回以上	242 100.0%	58 24.0%	5 2.1%	11 4.5%	53 21.9%	47 19.4%	4 1.7%	27 11.2%

【妊娠が分かった時の気持ち別】

「とまどった」では、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が 36.4%で最も高く、次いで、「経済的な不安がある」が 35.1%であった。

「不安が大きかった」では「自分の体のトラブル」「妊娠・出産・育児による体の疲れ」がそれぞれ 37.3%、「経済的な不安がある」が 30.7%であった。

図表 2-105 妊娠が分かった時の気持ち別

今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ①妊娠中(Q4①) (複数回答)

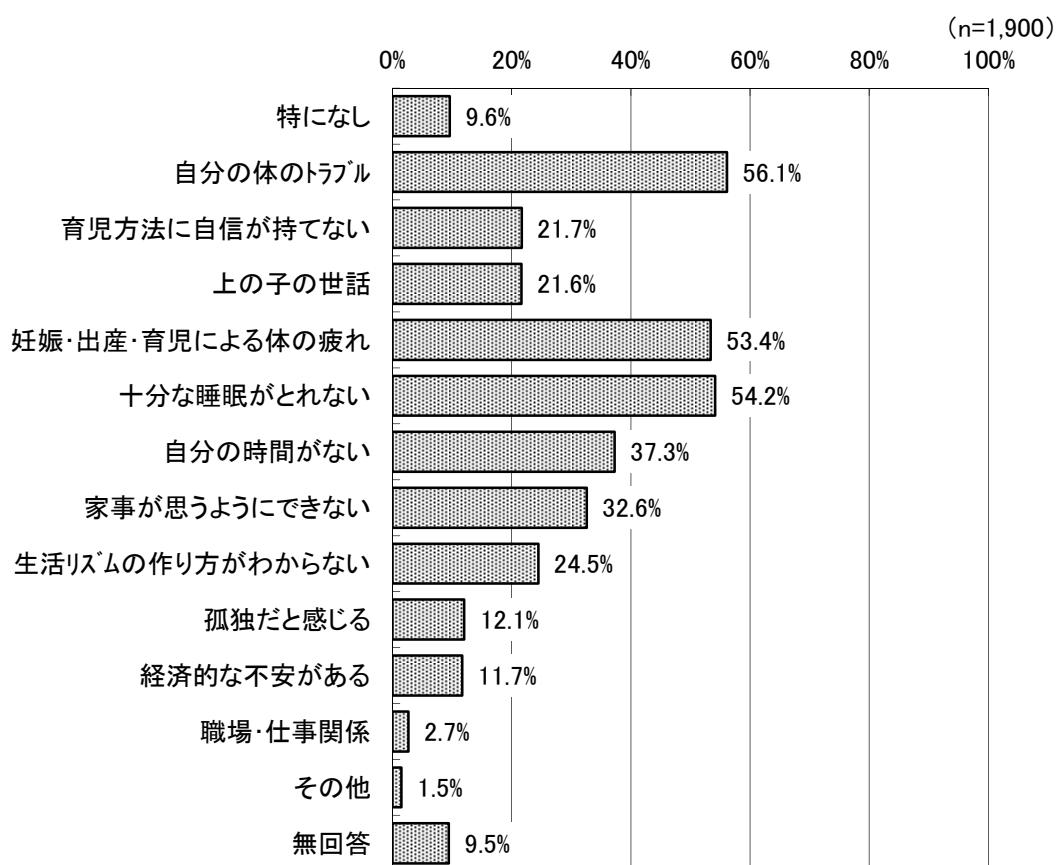
	合計	不安や負担_妊娠中						
		特になし	自分の体のトラブル	育児方法に自信が持てない	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない	自分の時間がない
全体	1,900 100.0%	295 15.5%	660 34.7%	176 9.3%	393 20.7%	647 34.1%	390 20.5%	156 8.2%
嬉しかった	1,424 100.0%	245 17.2%	504 35.4%	105 7.4%	289 20.3%	483 33.9%	279 19.6%	104 7.3%
予定外だが嬉しかった	298 100.0%	37 12.4%	101 33.9%	41 13.8%	64 21.5%	102 34.2%	66 22.1%	30 10.1%
とまどった	77 100.0%	6 7.8%	19 24.7%	16 20.8%	21 27.3%	28 36.4%	21 27.3%	9 11.7%
不安が大きかった	75 100.0%	5 6.7%	28 37.3%	10 13.3%	15 20.0%	28 37.3%	19 25.3%	9 12.0%
困った	9 100.0%	0 0.0%	4 44.4%	4 44.4%	2 22.2%	3 33.3%	3 33.3%	4 44.4%
特になんとも思わなかった	5 100.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%

	合計	不安や負担_妊娠中(つづき)						
		家事が思うようにできない	生活リズムの作り方がわかららない	孤独だと感じる	経済的な不安がある	職場・仕事関係	その他	無回答
全体	1,900 100.0%	427 22.5%	68 3.6%	118 6.2%	298 15.7%	421 22.2%	43 2.3%	249 13.1%
嬉しかった	1,424 100.0%	319 22.4%	40 2.8%	67 4.7%	175 12.3%	307 21.6%	30 2.1%	180 12.6%
予定外だが嬉しかった	298 100.0%	65 21.8%	15 5.0%	27 9.1%	69 23.2%	68 22.8%	8 2.7%	44 14.8%
とまどった	77 100.0%	18 23.4%	5 6.5%	10 13.0%	27 35.1%	18 23.4%	1 1.3%	9 11.7%
不安が大きかった	75 100.0%	20 26.7%	6 8.0%	10 13.3%	23 30.7%	22 29.3%	4 5.3%	7 9.3%
困った	9 100.0%	2 22.2%	1 11.1%	3 33.3%	4 44.4%	4 44.4%	0 0.0%	2 22.2%
特になんとも思わなかった	5 100.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%

(2) 産後2週未満

産後2週未満では、感じた不安や負担は「自分の体のトラブル」が56.1%、「十分な睡眠がとれない」が54.2%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が53.4%であった。

図表2-106 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ②産後2週未満(Q4②) (複数回答)



【年齢別】

産後2週未満に感じた不安や負担は、「20～24歳」「25～29歳」「30～34歳」「40～44歳」では「自分の体のトラブル」が最も高かった。また、「35～39歳」では「十分な睡眠がとれない」が54.7%で最も高かった。

「孤独だと感じる」についてみると、「20～24歳」で17.0%であった。

図表2-107 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ②産後2週未満(Q4②) (複数回答)

	合計	不安や負担_産後2週未満						
		特になし	自分の体のトラブル	育児方法に自信が持てない	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない	自分の時間がない
全体	1,900 100.0%	183 9.6%	1,066 56.1%	412 21.7%	411 21.6%	1,014 53.4%	1,029 54.2%	708 37.3%
19歳以下	9 100.0%	1 11.1%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%	2 22.2%	4 44.4%	3 33.3%
20～24歳	112 100.0%	18 16.1%	57 50.9%	23 20.5%	6 5.4%	44 39.3%	48 42.9%	30 26.8%
25～29歳	442 100.0%	53 12.0%	247 55.9%	107 24.2%	61 13.8%	229 51.8%	234 52.9%	163 36.9%
30～34歳	741 100.0%	60 8.1%	431 58.2%	175 23.6%	195 26.3%	427 57.6%	418 56.4%	295 39.8%
35～39歳	453 100.0%	42 9.3%	241 53.2%	82 18.1%	119 26.3%	239 52.8%	248 54.7%	172 38.0%
40～44歳	133 100.0%	7 5.3%	83 62.4%	22 16.5%	29 21.8%	69 51.9%	73 54.9%	43 32.3%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

	合計	不安や負担_産後2週未満(つづき)						
		家事が思うようにできない	生活リズムの作り方がわからない	孤独だと感じる	経済的な不安がある	職場・仕事関係	その他	無回答
全体	1,900 100.0%	619 32.6%	465 24.5%	229 12.1%	222 11.7%	51 2.7%	29 1.5%	180 9.5%
19歳以下	9 100.0%	2 22.2%	4 44.4%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%
20～24歳	112 100.0%	25 22.3%	19 17.0%	19 17.0%	18 16.1%	2 1.8%	1 0.9%	18 16.1%
25～29歳	442 100.0%	120 27.1%	119 26.9%	56 12.7%	57 12.9%	11 2.5%	3 0.7%	42 9.5%
30～34歳	741 100.0%	254 34.3%	180 24.3%	96 13.0%	81 10.9%	16 2.2%	17 2.3%	54 7.3%
35～39歳	453 100.0%	173 38.2%	108 23.8%	50 11.0%	49 10.8%	19 4.2%	5 1.1%	48 10.6%
40～44歳	133 100.0%	43 32.3%	32 24.1%	8 6.0%	14 10.5%	3 2.3%	3 2.3%	14 10.5%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%

【妻の就労状況別】

「経済的な不安がある」についてみると、妻が「就労中」では、17.4%、「妊娠または出産を機に退職した」では15.4%であった。

図表 2-108 妻の就労状況別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ②産後2週未満(Q4②) (複数回答)

		合計	不安や負担_産後2週未満						
			特になし	自分の体のトラブル	自信が持てない	育児方法に	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がない
妻の就労状況	全体	1,900 100.0%	183 9.6%	1,066 56.1%	412 21.7%	411 21.6%	1,014 53.4%	1,029 54.2%	708 37.3%
	就労中	92 100.0%	17 18.5%	32 34.8%	5 5.4%	21 22.8%	38 41.3%	41 44.6%	23 25.0%
	産休・育児休業中	974 100.0%	75 7.7%	593 60.9%	228 23.4%	206 21.1%	564 57.9%	541 55.5%	387 39.7%
	妊娠または出産を機に退職した	499 100.0%	43 8.6%	267 53.5%	124 24.8%	100 20.0%	262 52.5%	279 55.9%	184 36.9%
	もともと働いていない	309 100.0%	44 14.2%	159 51.5%	49 15.9%	83 26.9%	135 43.7%	152 49.2%	108 35.0%
	学生	3 100.0%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	2 66.7%	2 66.7%
	その他	17 100.0%	2 11.8%	10 58.8%	5 29.4%	1 5.9%	10 58.8%	12 70.6%	3 17.6%
妻の就労形態 (産休・育児休業中)	正社員・正職員	739 100.0%	56 7.6%	469 63.5%	186 25.2%	155 21.0%	448 60.6%	431 58.3%	304 41.1%
	非常勤・パート・派遣	170 100.0%	15 8.8%	81 47.6%	36 21.2%	41 24.1%	78 45.9%	74 43.5%	56 32.9%
	自営業・家族従業員・自由業	16 100.0%	1 6.3%	12 75.0%	2 12.5%	4 25.0%	12 75.0%	9 56.3%	9 56.3%
	その他	14 100.0%	1 7.1%	9 64.3%	0 0.0%	2 14.3%	8 57.1%	9 64.3%	7 50.0%

		合計	不安や負担_産後 2 週未満(つづき)						
			家事が思うようにできない	生活リズムの作り方がわからない	孤独だと感じる	不安がある	経済的な	職場・仕事関係	その他
妻の就労状況	全体	1,900 100.0%	619 32.6%	465 24.5%	229 12.1%	222 11.7%	51 2.7%	29 1.5%	180 9.5%
	就労中	92 100.0%	26 28.3%	11 12.0%	5 5.4%	16 17.4%	7 7.6%	2 2.2%	13 14.1%
	産休・育児休業中	974 100.0%	328 33.7%	256 26.3%	108 11.1%	91 9.3%	31 3.2%	12 1.2%	77 7.9%
	妊娠または出産を機に退職した	499 100.0%	165 33.1%	132 26.5%	75 15.0%	77 15.4%	7 1.4%	8 1.6%	55 11.0%
	もどもと働いていない	309 100.0%	93 30.1%	60 19.4%	34 11.0%	33 10.7%	2 0.6%	6 1.9%	32 10.4%
	学生	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	2 66.7%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	17 100.0%	6 35.3%	3 17.6%	5 29.4%	3 17.6%	4 23.5%	1 5.9%	2 11.8%
(産休・育児休業中)	正社員・正職員	739 100.0%	258 34.9%	199 26.9%	86 11.6%	58 7.8%	22 3.0%	10 1.4%	40 5.4%
	非常勤・パート・派遣	170 100.0%	53 31.2%	40 23.5%	16 9.4%	25 14.7%	9 5.3%	1 0.6%	27 15.9%
	自営業・家族従業員・自由業	16 100.0%	6 37.5%	7 43.8%	5 31.3%	3 18.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%
	その他	14 100.0%	5 35.7%	3 21.4%	0 0.0%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 14.3%

【出産回数別】

出産回数が「1回」では、「自分の体のトラブル」が 68.6%、「十分な睡眠がとれない」が 64.8%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が 61.2%で6割を超えていた。

「育児方法に自信が持てない」が 34.6%、「自分の時間がない」が 42.4%、「家事が思うようにできない」が 35.0%、「生活リズムの作り方がわからない」が 35.3%、「孤独だと感じる」が 17.8%で、いずれも回数が少ないほうが高い割合であった。

「特になし」についてみると、「3回以上」で 18.2%であった。また、「経済的な不安がある」については、「3回以上」で 19.4%であった。

図表 2-109 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ②産後2週未満(Q4②)(複数回答)

	合計	不安や負担_産後 2 週未満						
		特 に な し	自 分 の 体 の ト ラ ブ ル	自 信 が 持 て な い	育 児 方 法 に 不 足 す る	上 の 子 の 世 話	妊 娠 ・ 出 産 ・ 育 児 に よ る 体 の 疲 れ	十 分 な 睡 眠 が と れ な い
全体	1,900 100.0%	183 9.6%	1,066 56.1%	412 21.7%	411 21.6%	1,014 53.4%	1,029 54.2%	708 37.3%
1回	999 100.0%	63 6.3%	685 68.6%	346 34.6%	5 0.5%	611 61.2%	647 64.8%	424 42.4%
2回	649 100.0%	74 11.4%	292 45.0%	51 7.9%	325 50.1%	304 46.8%	282 43.5%	213 32.8%
3回以上	242 100.0%	44 18.2%	84 34.7%	14 5.8%	81 33.5%	95 39.3%	95 39.3%	70 28.9%

	合計	不安や負担_産後 2 週未満 (つづき)						
		家 事 が 思 う よ う に で き な い	生 活 リ ズ ム の 作 り 方 が わ か ら な い	孤 独 だ と 感 じ る	不 安 が あ る	經 済 的 な 状 況	職 場 ・ 仕 事 関 係	其 他
全体	1,900 100.0%	619 32.6%	465 24.5%	229 12.1%	222 11.7%	51 2.7%	29 1.5%	180 9.5%
1回	999 100.0%	350 35.0%	353 35.3%	178 17.8%	117 11.7%	26 2.6%	17 1.7%	60 6.0%
2回	649 100.0%	206 31.7%	84 12.9%	41 6.3%	58 8.9%	15 2.3%	12 1.8%	84 12.9%
3回以上	242 100.0%	63 26.0%	26 10.7%	10 4.1%	47 19.4%	10 4.1%	0 0.0%	34 14.0%

【妊娠が分かった時の気持ち別】

「不安が大きかった」では「自分の体のトラブル」が 65.3% であった。

「育児方法に自信が持てない」についてみると、「とまどった」で 32.5%、「不安が大きかった」で 32.0% であった。

「経済的な不安がある」については、「とまどった」では 33.8% であった。

図表 2-110 妊娠が分かった時の気持ち別

今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ②産後2週未満(Q4②) (複数回答)

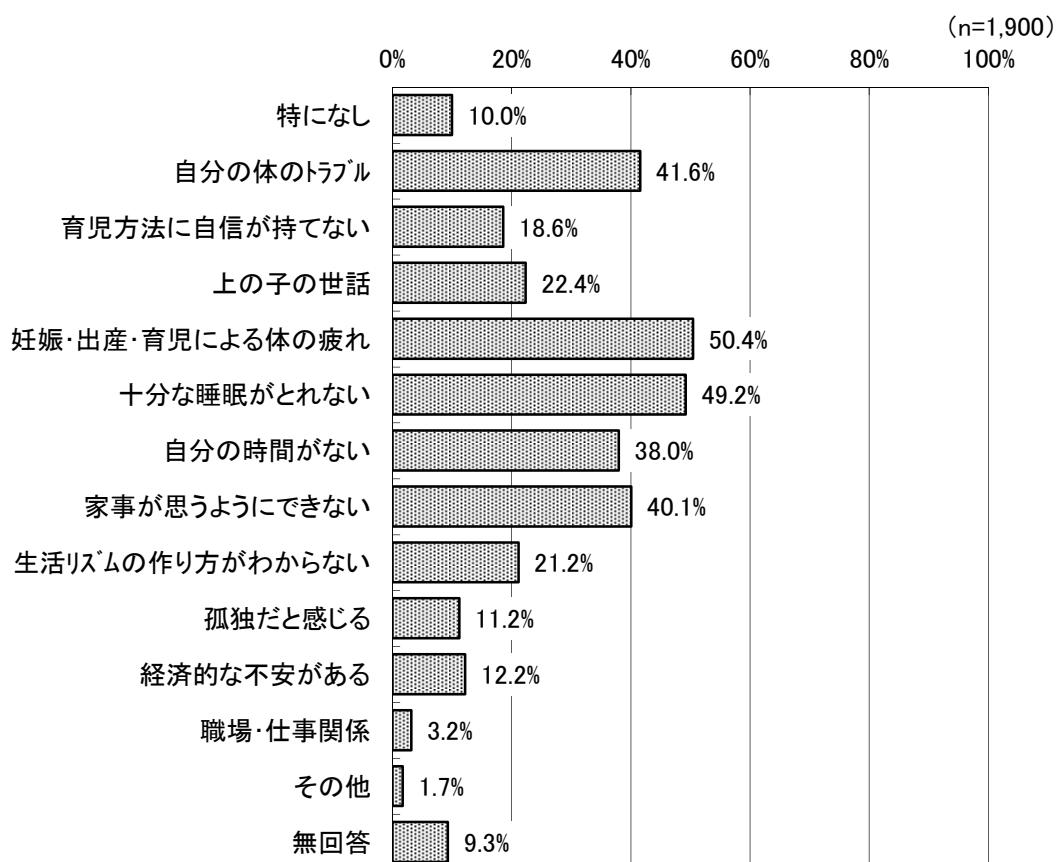
	合計	不安や負担_産後 2 週未満						
		特になし	自分の体のトラブル	育児方法に自信が持てない	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない	自分の時間がない
全体	1,900 100.0%	183 9.6%	1,066 56.1%	412 21.7%	411 21.6%	1,014 53.4%	1,029 54.2%	708 37.3%
嬉しかった	1,424 100.0%	143 10.0%	821 57.7%	296 20.8%	323 22.7%	778 54.6%	778 54.6%	527 37.0%
予定外だが嬉しかった	298 100.0%	31 10.4%	148 49.7%	62 20.8%	57 19.1%	144 48.3%	158 53.0%	111 37.2%
とまどった	77 100.0%	4 5.2%	38 49.4%	25 32.5%	19 24.7%	44 57.1%	40 51.9%	30 39.0%
不安が大きかった	75 100.0%	2 2.7%	49 65.3%	24 32.0%	8 10.7%	37 49.3%	43 57.3%	34 45.3%
困った	9 100.0%	0 0.0%	4 44.4%	4 44.4%	2 22.2%	4 44.4%	5 55.6%	3 33.3%
特になんとも思わなかった	5 100.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%

	合計	不安や負担_産後 2 週未満(つづき)						
		家事が思うようにできない	生活リズムの作り方がわからぬ	孤独だと感じる	経済的な不安がある	職場・仕事関係	その他	無回答
全体	1,900 100.0%	619 32.6%	465 24.5%	229 12.1%	222 11.7%	51 2.7%	29 1.5%	180 9.5%
嬉しかった	1,424 100.0%	472 33.1%	340 23.9%	151 10.6%	126 8.8%	31 2.2%	23 1.6%	122 8.6%
予定外だが嬉しかった	298 100.0%	88 29.5%	81 27.2%	42 14.1%	48 16.1%	10 3.4%	4 1.3%	38 12.8%
とまどった	77 100.0%	22 28.6%	20 26.0%	17 22.1%	26 33.8%	4 5.2%	2 2.6%	9 11.7%
不安が大きかった	75 100.0%	30 40.0%	20 26.7%	16 21.3%	18 24.0%	5 6.7%	0 0.0%	5 6.7%
困った	9 100.0%	4 44.4%	1 11.1%	2 22.2%	4 44.4%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%
特になんとも思わなかった	5 100.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%

(3) 産後2週～8週

産後2週～8週では、感じた不安や負担は「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が50.4%、「十分な睡眠がとれない」が49.2%、「自分の体のトラブル(41.6%)」「家事が思うようにできない(40.1%)」「自分の時間がない(38.0%)」であった。

図表2-111 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ③産後2週～8週(Q4③) (複数回答)
答)



【年齢別】

産後2週～8週に感じた不安や負担は、「20～24歳」では「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が37.5%、「30～34歳」で55.1%、「35～39歳」では50.8%、「40～44歳」では55.6%であった。「25～29歳」は「十分な睡眠がとれない」が47.1%であった。

図表2-112 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ③産後2週～8週(Q4③) (複数回答)

	合計	不安や負担_産後2週～8週						
		特になし	自分の体のトラブル	自信が持てない育児方法に	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない	自分の時間がない
全体	1,900 100.0%	190 10.0%	790 41.6%	353 18.6%	425 22.4%	958 50.4%	935 49.2%	722 38.0%
19歳以下	9 100.0%	1 11.1%	2 22.2%	3 33.3%	0 0.0%	2 22.2%	5 55.6%	3 33.3%
20～24歳	112 100.0%	19 17.0%	38 33.9%	14 12.5%	6 5.4%	42 37.5%	40 35.7%	30 26.8%
25～29歳	442 100.0%	53 12.0%	173 39.1%	89 20.1%	58 13.1%	199 45.0%	208 47.1%	165 37.3%
30～34歳	741 100.0%	61 8.2%	331 44.7%	149 20.1%	203 27.4%	408 55.1%	382 51.6%	306 41.3%
35～39歳	453 100.0%	48 10.6%	193 42.6%	83 18.3%	126 27.8%	230 50.8%	228 50.3%	175 38.6%
40～44歳	133 100.0%	6 4.5%	50 37.6%	15 11.3%	30 22.6%	74 55.6%	67 50.4%	42 31.6%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%

	合計	不安や負担_産後2週～8週(つづき)						
		家事ができないと思うよ	生活リズムの作り方がわからぬ	孤独だと感じ	不安がある	経済的な	職場・仕事関係	その他
全体	1,900 100.0%	761 40.1%	402 21.2%	213 11.2%	232 12.2%	60 3.2%	33 1.7%	177 9.3%
19歳以下	9 100.0%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%
20～24歳	112 100.0%	32 28.6%	14 12.5%	11 9.8%	16 14.3%	4 3.6%	1 0.9%	24 21.4%
25～29歳	442 100.0%	169 38.2%	111 25.1%	50 11.3%	56 12.7%	14 3.2%	5 1.1%	45 10.2%
30～34歳	741 100.0%	315 42.5%	157 21.2%	94 12.7%	90 12.1%	17 2.3%	16 2.2%	51 6.9%
35～39歳	453 100.0%	190 41.9%	95 21.0%	50 11.0%	53 11.7%	22 4.9%	7 1.5%	42 9.3%
40～44歳	133 100.0%	52 39.1%	23 17.3%	8 6.0%	14 10.5%	3 2.3%	4 3.0%	12 9.0%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%

【妻の就労状況別】

就労中では、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が 41.3%、「十分な睡眠がとれない」が 40.2%であった。「産休・育児休業中」ではそれぞれ 52.6%、52.0%、「妊娠または出産を機に退職した」ではそれぞれ 51.7%、49.9%であった。

「経済的な不安がある」についてみると、妻が「就労中」では、18.5%、「妊娠または出産を機に退職した」では 15.2%であった。

図表 2-113 妻の就労状況別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ③産後2週～8週(Q4③) (複数回答)

		合計	不安や負担_産後 2 週～8 週						
			特になし	自分の体のトラブル	自信が持てない	育児方法に	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない
妻の就労状況	全体	1,900 100.0%	190 10.0%	790 41.6%	353 18.6%	425 22.4%	958 50.4%	935 49.2%	722 38.0%
	就労中	92 100.0%	20 21.7%	20 21.7%	5 5.4%	18 19.6%	38 41.3%	37 40.2%	25 27.2%
	産休・育児休業中	974 100.0%	78 8.0%	434 44.6%	187 19.2%	219 22.5%	512 52.6%	506 52.0%	394 40.5%
	妊娠または出産を機に退職した	499 100.0%	44 8.8%	207 41.5%	107 21.4%	105 21.0%	258 51.7%	249 49.9%	191 38.3%
	もともと働いていない	309 100.0%	44 14.2%	117 37.9%	49 15.9%	82 26.5%	139 45.0%	130 42.1%	107 34.6%
	学生	3 100.0%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	2 66.7%
	その他	17 100.0%	2 11.8%	8 47.1%	4 23.5%	1 5.9%	8 47.1%	10 58.8%	3 17.6%
妻の就労形態(産休・育児休業中)	正社員・正職員	739 100.0%	60 8.1%	335 45.3%	155 21.0%	161 21.8%	401 54.3%	400 54.1%	307 41.5%
	非常勤・パート・派遣	170 100.0%	13 7.6%	70 41.2%	24 14.1%	45 26.5%	77 45.3%	73 42.9%	58 34.1%
	自営業・家族従業員・自由業	16 100.0%	1 6.3%	8 50.0%	3 18.8%	4 25.0%	11 68.8%	9 56.3%	8 50.0%
	その他	14 100.0%	1 7.1%	7 50.0%	1 7.1%	2 14.3%	7 50.0%	6 42.9%	8 57.1%

		合計	不安や負担_産後 2 週～8 週(つづき)						
			家事が思うようにできない	生活リズムの作り方がわからない	孤独だと感じる	不安がある	経済的な	職場・仕事関係	その他
妻の就労状況	全体	1,900 100.0%	761 40.1%	402 21.2%	213 11.2%	232 12.2%	60 3.2%	33 1.7%	177 9.3%
	就労中	92 100.0%	24 26.1%	8 8.7%	4 4.3%	17 18.5%	10 10.9%	2 2.2%	12 13.0%
	産休・育児休業中	974 100.0%	416 42.7%	233 23.9%	119 12.2%	104 10.7%	34 3.5%	16 1.6%	80 8.2%
	妊娠または出産を機に退職した	499 100.0%	206 41.3%	110 22.0%	59 11.8%	76 15.2%	9 1.8%	8 1.6%	43 8.6%
	もどもと働いていない	309 100.0%	107 34.6%	47 15.2%	26 8.4%	31 10.0%	3 1.0%	6 1.9%	38 12.3%
	学生	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	17 100.0%	6 35.3%	3 17.6%	4 23.5%	2 11.8%	4 23.5%	1 5.9%	3 17.6%
(産休・育児休業中)	正社員・正職員	739 100.0%	324 43.8%	184 24.9%	95 12.9%	68 9.2%	25 3.4%	13 1.8%	53 7.2%
	非常勤・パート・派遣	170 100.0%	67 39.4%	34 20.0%	16 9.4%	28 16.5%	9 5.3%	2 1.2%	19 11.2%
	自営業・家族従業員・自由業	16 100.0%	7 43.8%	4 25.0%	3 18.8%	3 18.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%
	その他	14 100.0%	6 42.9%	3 21.4%	3 21.4%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%

【出産回数別】

出産回数が「1回」では、「十分な睡眠がとれない」が 59.5%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が 55.9%で「自分の体のトラブル」が 50.5%であった。「育児方法に自信が持てない」が 28.9%、「自分の時間がない」が 44.4%、「家事が思うようにできない」が 45.3%、「生活リズムの作り方がわからない」が 32.4%、「孤独だと感じる」が 15.5%で、いずれも回数が少ないほうが高い割合であった。

「特になし」についてみると、「3回以上」で 16.1%、また、「経済的な不安がある」については、「3回以上」が 19.0%であった。

図表 2-114 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ③産後2週～8週
(Q4③)(複数回答)

	合計	不安や負担_産後 2 週～8 週						
		特になし	自分の体のトラブル	自信が持てない	育児方法に	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない
全体	1,900 100.0%	190 10.0%	790 41.6%	353 18.6%	425 22.4%	958 50.4%	935 49.2%	722 38.0%
1回	999 100.0%	74 7.4%	504 50.5%	289 28.9%	6 0.6%	558 55.9%	594 59.5%	444 44.4%
2回	649 100.0%	75 11.6%	207 31.9%	48 7.4%	326 50.2%	293 45.1%	244 37.6%	215 33.1%
3回以上	242 100.0%	39 16.1%	76 31.4%	16 6.6%	92 38.0%	105 43.4%	92 38.0%	62 25.6%

	合計	不安や負担_産後 2 週～8 週(つづき)						
		家事が思うようにできな	生活リズムの作り方	孤独だと感じる	不安がある	経済的な	職場・仕事関係	その他
全体	1,900 100.0%	761 40.1%	402 21.2%	213 11.2%	232 12.2%	60 3.2%	33 1.7%	177 9.3%
1回	999 100.0%	453 45.3%	324 32.4%	155 15.5%	125 12.5%	31 3.1%	18 1.8%	69 6.9%
2回	649 100.0%	236 36.4%	65 10.0%	43 6.6%	61 9.4%	20 3.1%	14 2.2%	80 12.3%
3回以上	242 100.0%	71 29.3%	13 5.4%	15 6.2%	46 19.0%	9 3.7%	1 0.4%	25 10.3%

【妊娠が分かった時の気持ち別】

「とまどった」では「自分の体のトラブル」が 50.6%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が 61.0%、「十分な睡眠がとれない」が 59.7%であった。

「育児方法に自信が持てない」についてみると、「とまどった」では 27.3%、「不安が大きかった」では 25.3%であった。

また、「経済的な不安がある」についてみると、「とまどった」では 32.5%であった。

図表 2-115 妊娠が分かった時の気持ち別

今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ③産後2週～8週(Q4③) (複数回答)

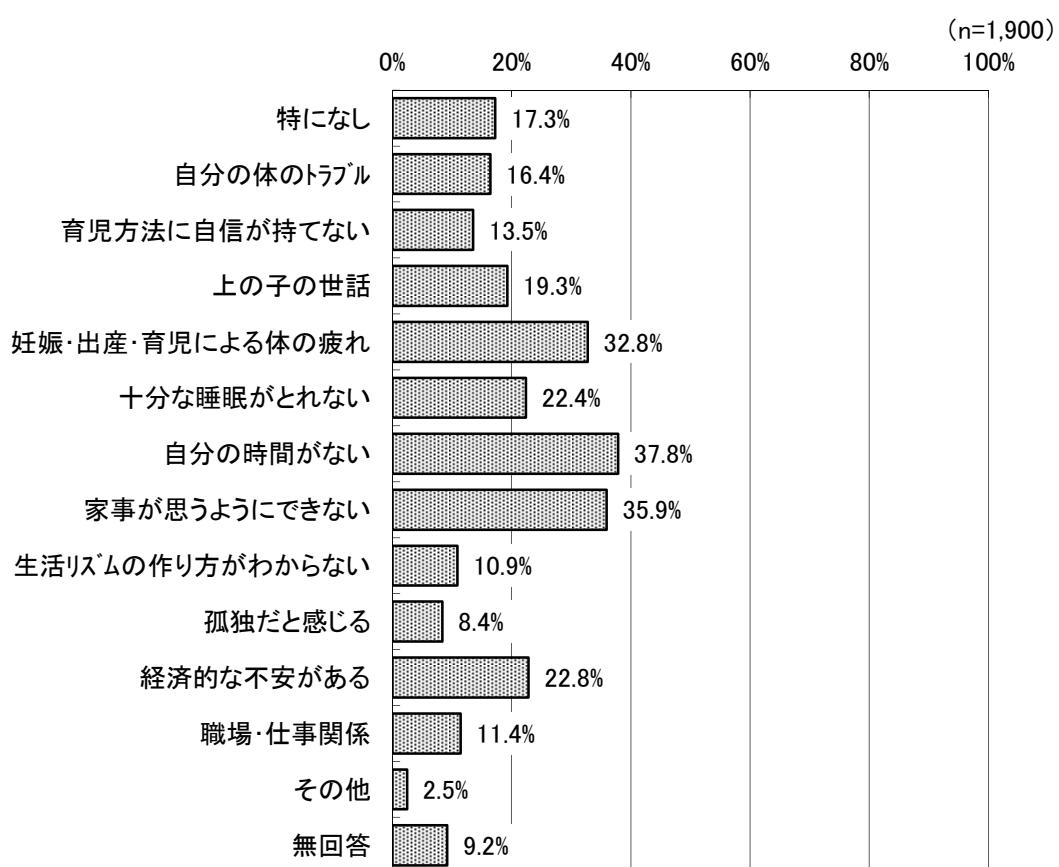
	合計	不安や負担_産後 2 週～8 週						
		特になし	自分の体のトラブル	育児方法に自信が持てない	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない	自分の時間がない
全体	1,900 100.0%	190 10.0%	790 41.6%	353 18.6%	425 22.4%	958 50.4%	935 49.2%	722 38.0%
嬉しかった	1,424 100.0%	150 10.5%	593 41.6%	250 17.6%	327 23.0%	712 50.0%	695 48.8%	540 37.9%
予定外だが嬉しかった	298 100.0%	30 10.1%	116 38.9%	58 19.5%	68 22.8%	147 49.3%	146 49.0%	111 37.2%
とまどった	77 100.0%	4 5.2%	39 50.6%	21 27.3%	16 20.8%	47 61.0%	46 59.7%	32 41.6%
不安が大きかった	75 100.0%	3 4.0%	35 46.7%	19 25.3%	9 12.0%	41 54.7%	39 52.0%	32 42.7%
困った	9 100.0%	0 0.0%	4 44.4%	4 44.4%	3 33.3%	7 77.8%	5 55.6%	6 66.7%
特になんとも思わなかった	5 100.0%	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%

	合計	不安や負担_産後 2 週～8 週(つづき)						
		家事が思うようにできない	生活リズムの作り方がわからぬ	孤独だと感じる	経済的な不安がある	職場・仕事関係	その他	無回答
全体	1,900 100.0%	761 40.1%	402 21.2%	213 11.2%	232 12.2%	60 3.2%	33 1.7%	177 9.3%
嬉しかった	1,424 100.0%	577 40.5%	293 20.6%	141 9.9%	135 9.5%	38 2.7%	26 1.8%	130 9.1%
予定外だが嬉しかった	298 100.0%	112 37.6%	70 23.5%	42 14.1%	48 16.1%	12 4.0%	4 1.3%	28 9.4%
とまどった	77 100.0%	28 36.4%	18 23.4%	15 19.5%	25 32.5%	4 5.2%	2 2.6%	6 7.8%
不安が大きかった	75 100.0%	36 48.0%	19 25.3%	10 13.3%	20 26.7%	5 6.7%	1 1.3%	6 8.0%
困った	9 100.0%	6 66.7%	1 11.1%	3 33.3%	4 44.4%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%
特になんとも思わなかった	5 100.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%

(4) 現在

現在感じている不安や負担は、「自分の時間がない」が 37.8%、「家事が思うようにできない」が 35.9%であった。「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が 32.8%であった。

図表 2-116 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ④現在 (Q4④) (複数回答)



【年齢別】

「20～24歳」では「家事が思うようにできない」が最も高く、次いで「経済的な不安がある」が28.6%であった。

「25～29歳」「30～34歳」では「自分の時間がない」が最も高く、次いで「家事が思うようにできない」であった。

「35～39歳」では「自分の時間がない」が最も高く、次いで「妊娠・出産・育児による体の疲れ」であった。

「40～44歳」では「自分の時間がない」が最も高く、次いで「妊娠・出産・育児による体の疲れ」と「家事が思うようにできない」がそれぞれ33.1%であった。

図表2-117 年齢別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ④現在(Q4④) (複数回答)

	合計	不安や負担_現在						
		特になし	自分の体のトラブル	育児方法に自信が持てない	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない	自分の時間がない
全体	1,900 100.0%	328 17.3%	312 16.4%	257 13.5%	366 19.3%	623 32.8%	426 22.4%	719 37.8%
19歳以下	9 100.0%	2 22.2%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	3 33.3%	0 0.0%	3 33.3%
20～24歳	112 100.0%	29 25.9%	10 8.9%	13 11.6%	9 8.0%	30 26.8%	20 17.9%	22 19.6%
25～29歳	442 100.0%	86 19.5%	76 17.2%	63 14.3%	49 11.1%	110 24.9%	75 17.0%	158 35.7%
30～34歳	741 100.0%	120 16.2%	126 17.0%	111 15.0%	157 21.2%	260 35.1%	191 25.8%	306 41.3%
35～39歳	453 100.0%	69 15.2%	76 16.8%	59 13.0%	122 26.9%	174 38.4%	110 24.3%	182 40.2%
40～44歳	133 100.0%	18 13.5%	21 15.8%	9 6.8%	27 20.3%	44 33.1%	28 21.1%	46 34.6%
45歳以上	4 100.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%

	合計	不安や負担 現在(つづき)						
		家事が思うようにできない	生活リズムの作り方がわからない	孤独だと感じる	経済的な不安がある	職場・仕事関係	その他	無回答
全体	1,900 100.0%	683 35.9%	207 10.9%	159 8.4%	434 22.8%	217 11.4%	47 2.5%	175 9.2%
19歳以下	9 100.0%	2 22.2%	3 33.3%	1 11.1%	4 44.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%
20～24歳	112 100.0%	34 30.4%	13 11.6%	12 10.7%	32 28.6%	9 8.0%	1 0.9%	18 16.1%
25～29歳	442 100.0%	142 32.1%	52 11.8%	33 7.5%	98 22.2%	44 10.0%	8 1.8%	48 10.9%
30～34歳	741 100.0%	301 40.6%	92 12.4%	70 9.4%	170 22.9%	93 12.6%	18 2.4%	60 8.1%
35～39歳	453 100.0%	160 35.3%	35 7.7%	36 7.9%	104 23.0%	58 12.8%	12 2.6%	29 6.4%
40～44歳	133 100.0%	44 33.1%	12 9.0%	7 5.3%	25 18.8%	13 9.8%	7 5.3%	18 13.5%
45歳以上	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%

【妻の就労状況別】

「就労中」では「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が34.8%で最も高かった。、「産休・育児休業中」では「自分の時間がない」が37.0%、「妊娠または出産を機に退職した」では40.1%で最も高かった。

図表 2-118 妻の就労状況別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ④現在 (Q4④)(複数回答)

		合計	不安や負担_現在						
			特になし	自分の体のトラブル	育児方法に自信が持てない	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない	自分の時間がない
妻の就労状況	全体	1,900 100.0%	328 17.3%	312 16.4%	257 13.5%	366 19.3%	623 32.8%	426 22.4%	719 37.8%
	就労中	92 100.0%	19 20.7%	9 9.8%	3 3.3%	15 16.3%	32 34.8%	20 21.7%	29 31.5%
	産休・育児休業中	974 100.0%	155 15.9%	156 16.0%	127 13.0%	181 18.6%	304 31.2%	206 21.1%	360 37.0%
	妊娠または出産を機に退職した	499 100.0%	84 16.8%	86 17.2%	81 16.2%	89 17.8%	164 32.9%	118 23.6%	200 40.1%
	もともと働いていない	309 100.0%	62 20.1%	55 17.8%	44 14.2%	78 25.2%	115 37.2%	76 24.6%	122 39.5%
	学生	3 100.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	2 66.7%	1 33.3%	3 100.0%
	その他	17 100.0%	5 29.4%	3 17.6%	1 5.9%	2 11.8%	6 35.3%	5 29.4%	5 29.4%
妻の就労形態 (産休・育児休業中)	正社員・正職員	739 100.0%	115 15.6%	121 16.4%	91 12.3%	130 17.6%	233 31.5%	156 21.1%	277 37.5%
	非常勤・パート・派遣	170 100.0%	27 15.9%	24 14.1%	27 15.9%	41 24.1%	54 31.8%	40 23.5%	64 37.6%
	自営業・家族従業員・自由業	16 100.0%	2 12.5%	4 25.0%	1 6.3%	3 18.8%	5 31.3%	6 37.5%	6 37.5%
	その他	14 100.0%	3 21.4%	3 21.4%	2 14.3%	2 14.3%	6 42.9%	3 21.4%	4 28.6%

		合計	不安や負担_現在(つづき)						
			家事が思うようにできな い	生活リズムの作り 方がわから ない	孤独だ と感じる	経済的 な不安 がある	職場・仕 事関係	その他	無回答
妻の就 労状 況	全体	1,900 100.0%	683 35.9%	207 10.9%	159 8.4%	434 22.8%	217 11.4%	47 2.5%	175 9.2%
	就労中	92 100.0%	27 29.3%	5 5.4%	1 1.1%	22 23.9%	16 17.4%	3 3.3%	13 14.1%
	産休・ 育児休業中	974 100.0%	335 34.4%	109 11.2%	74 7.6%	214 22.0%	156 16.0%	29 3.0%	78 8.0%
	妊娠または出産を 機に退職した	499 100.0%	199 39.9%	58 11.6%	59 11.8%	139 27.9%	31 6.2%	9 1.8%	51 10.2%
	もどもと働いて いない	309 100.0%	113 36.6%	31 10.0%	24 7.8%	51 16.5%	10 3.2%	5 1.6%	32 10.4%
	学生	3 100.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	17 100.0%	7 41.2%	3 17.6%	1 5.9%	4 23.5%	3 17.6%	1 5.9%	0 0.0%
妻の就 労形 態 (産休・ 育児休 業中)	正社員・正職員	739 100.0%	258 34.9%	87 11.8%	56 7.6%	146 19.8%	117 15.8%	25 3.4%	62 8.4%
	非常勤・パート・ 派遣	170 100.0%	60 35.3%	15 8.8%	15 8.8%	54 31.8%	32 18.8%	3 1.8%	9 5.3%
	自営業・家族従業 員・自由業	16 100.0%	6 37.5%	3 18.8%	2 12.5%	5 31.3%	3 18.8%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	14 100.0%	3 21.4%	3 21.4%	1 7.1%	4 28.6%	1 7.1%	0 0.0%	3 21.4%

【出産回数別】

出産回数が「1回」の場合「家事が思うようにできない」が39.2%で最も高かった。「2回」では「上の子の世話」が43.6%で最も高かった。「3回以上」では「妊娠・出産・育児の疲れ」が32.6%、「上の子の世話」が32.2%であった。

「経済的な不安がある」についてみると、「3回以上」では29.8%であった。

図表 2-119 出産回数別 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ④現在(Q4④)(複数回答)

	合計	不安や負担_現在						
		特になし	自分の体のトラブル	自信が持てない	育児方法に	上の子の世話	妊娠・出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない
全体	1,900 100.0%	328 17.3%	312 16.4%	257 13.5%	366 19.3%	623 32.8%	426 22.4%	719 37.8%
1回	999 100.0%	169 16.9%	180 18.0%	172 17.2%	4 0.4%	318 31.8%	230 23.0%	382 38.2%
2回	649 100.0%	107 16.5%	95 14.6%	72 11.1%	283 43.6%	226 34.8%	137 21.1%	261 40.2%
3回以上	242 100.0%	47 19.4%	36 14.9%	13 5.4%	78 32.2%	79 32.6%	59 24.4%	76 31.4%

	合計	不安や負担_現在(つづき)						
		家事が思うようにできない	生活リズムの作り方	孤独だと感じる	不安がある	経済的な	職場・仕事関係	その他
全体	1,900 100.0%	683 35.9%	207 10.9%	159 8.4%	434 22.8%	217 11.4%	47 2.5%	175 9.2%
1回	999 100.0%	392 39.2%	166 16.6%	100 10.0%	240 24.0%	132 13.2%	21 2.1%	91 9.1%
2回	649 100.0%	226 34.8%	33 5.1%	50 7.7%	122 18.8%	64 9.9%	21 3.2%	61 9.4%
3回以上	242 100.0%	65 26.9%	8 3.3%	9 3.7%	72 29.8%	21 8.7%	4 1.7%	21 8.7%

【妊娠が分かった時の気持ち別】

「嬉しかった」では「自分の時間がない」が 36.3%、「予定外だが嬉しかった」では 38.9%、「不安が大きかった」では 57.3%で最も高かった。「とまどった」では「経済的な不安がある」が 44.2%で最も高かった。

図表 2-120 妊娠が分かった時の気持ち別

今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担 ④現在(Q4④)(複数回答)

	合計	不安や負担_現在						
		特になし	自分の体のトラブル	自信が持てない	育児方法による子の世話	妊娠出産・育児による体の疲れ	十分な睡眠がとれない	自分の時間がない
全体	1,900 100.0%	328 17.3%	312 16.4%	257 13.5%	366 19.3%	623 32.8%	426 22.4%	719 37.8%
嬉しかった	1,424 100.0%	274 19.2%	220 15.4%	166 11.7%	278 19.5%	452 31.7%	305 21.4%	517 36.3%
予定外だが嬉しかった	298 100.0%	37 12.4%	53 17.8%	51 17.1%	60 20.1%	97 32.6%	71 23.8%	116 38.9%
とまどった	77 100.0%	8 10.4%	16 20.8%	18 23.4%	14 18.2%	26 33.8%	19 24.7%	33 42.9%
不安が大きかった	75 100.0%	4 5.3%	15 20.0%	17 22.7%	9 12.0%	38 50.7%	24 32.0%	43 57.3%
困った	9 100.0%	0 0.0%	4 44.4%	4 44.4%	3 33.3%	7 77.8%	4 44.4%	7 77.8%
特になんとも思わなかった	5 100.0%	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	2 40.0%	3 60.0%	2 40.0%	2 40.0%

	合計	不安や負担_現在(つづき)						
		家事ができないよう	生活リズムの作り方がわからない	孤独だと感じる	不安がある	経済的な	職場・仕事関係	その他
全体	1,900 100.0%	683 35.9%	207 10.9%	159 8.4%	434 22.8%	217 11.4%	47 2.5%	175 9.2%
嬉しかった	1,424 100.0%	495 34.8%	139 9.8%	111 7.8%	270 19.0%	144 10.1%	32 2.2%	132 9.3%
予定外だが嬉しかった	298 100.0%	114 38.3%	40 13.4%	23 7.7%	94 31.5%	44 14.8%	10 3.4%	31 10.4%
とまどった	77 100.0%	32 41.6%	13 16.9%	12 15.6%	34 44.2%	14 18.2%	3 3.9%	3 3.9%
不安が大きかった	75 100.0%	34 45.3%	12 16.0%	8 10.7%	30 40.0%	12 16.0%	1 1.3%	5 6.7%
困った	9 100.0%	5 55.6%	3 33.3%	3 33.3%	6 66.7%	3 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
特になんとも思わなかった	5 100.0%	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%

5. 妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービス

妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービスは、全体でみると、現在の「子どもの発達・発育チェック」が 58.7%で最も高かった。次いで、「現在：日帰りで休息・利用できる場（54.7%）」、「現在：育児の相談（51.8%）」、「産後 2 週未満：自分の体のトラブルへの助言（50.9%）」であった。

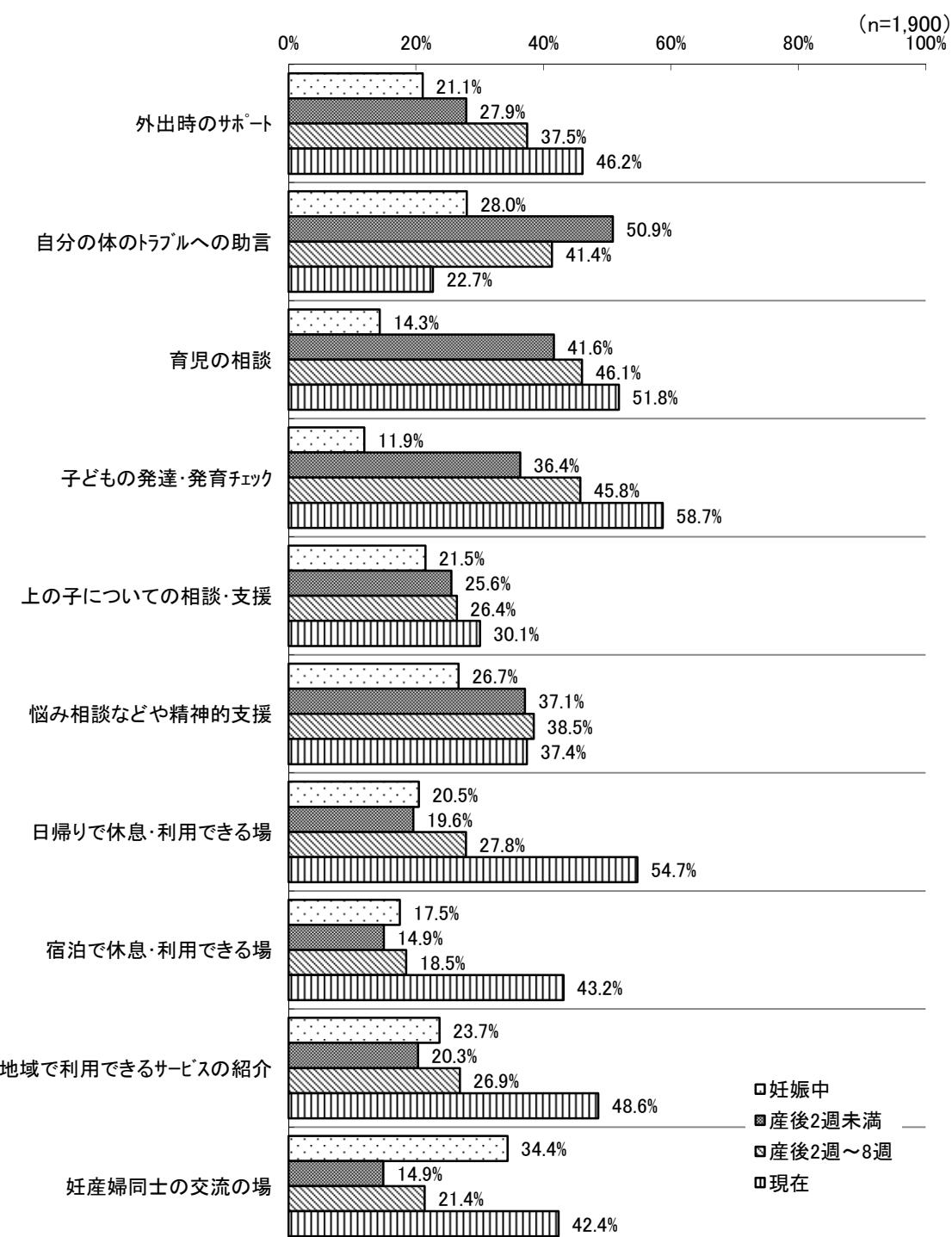
時期別にみると、妊娠中は、「妊娠婦同士の交流の場」が 34.4%で最も高かった。次いで、「自分の体のトラブルへの助言（28.0%）」であった。

産後 2 週未満は「自分の体のトラブルへの助言」が 50.9%で最も高かった。次いで、「育児の相談（41.6%）」、「悩み相談などや精神的支援（37.1%）」であった。

産後 2 週から 8 週は、「育児の相談」が 46.1%、「子どもの発達・発育チェック」が 45.8%、次いで、「自分の体のトラブルへの助言（41.4%）」であった。

現在は、「子どもの発達・発育チェック」が 58.7%で最も高かった。次いで、「日帰りで休息・利用できる場（54.7%）」、「育児の相談（51.8%）」であった。

図表 2-121 妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービス(Q5) (複数回答)



【出産回数別】

半数以上の人が必要としているサービスとしては、出産回数が「1回」の人が「産後2週未満」「産後2週～8週」「現在」で「育児の相談」、「産後2週未満」で「自分の体のトラブルへの助言」、「産後2週～8週」「現在」で「子ども発達・発育チェック」、「現在」で「日帰りで休息・利用できる場」、「地域で利用できるサービスの紹介」「妊娠婦同士の交流の場」であった。また、出産回数が「2回」の人では「現在」で「上の子についての相談・支援」が55.6%、「日帰りで休息・利用できる場」が52.1%であった。出産回数が「3回以上」の人では、「現在」で「日帰りで休息・利用できる場」が51.7%であった。

図表2-122 出産回数別 妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービス(Q5) (複数回答)

		合計	必要なサービス											
			外出時のサポート	自分の体のトラブルへの助言	育児の相談	子どもの発達・発育チェック	上の子についての相談・支援	悩み相談などや精神的支援	日帰りで休息・利用できる場	宿泊で休息・利用できる場	地域で利用できるサービスの紹介	妊娠婦同士の交流の場	その他	無回答
①妊娠中	全体	1,900 100.0%	400 21.1%	532 28.0%	272 14.3%	226 11.9%	408 21.5%	507 26.7%	389 20.5%	332 17.5%	450 23.7%	653 34.4%	19 1.0%	577 30.4%
	1回	999 100.0%	211 21.1%	323 32.3%	149 14.9%	118 11.8%	88 8.8%	296 29.6%	177 17.7%	166 16.6%	249 24.9%	358 35.8%	8 0.8%	290 29.0%
	2回	649 100.0%	141 21.7%	164 25.3%	93 14.3%	84 12.9%	247 38.1%	158 24.3%	151 23.3%	122 18.8%	143 22.0%	206 31.7%	7 1.1%	203 31.3%
	3回以上	242 100.0%	47 19.4%	43 17.8%	29 12.0%	24 9.9%	72 29.8%	52 21.5%	61 25.2%	44 18.2%	58 24.0%	87 36.0%	4 1.7%	79 32.6%
②産後2週未満	全体	1,900 100.0%	530 27.9%	967 50.9%	791 41.6%	691 36.4%	486 25.6%	705 37.1%	372 19.6%	284 14.9%	386 20.3%	283 14.9%	20 1.1%	446 23.5%
	1回	999 100.0%	264 26.4%	585 58.6%	501 50.2%	431 43.1%	105 10.5%	448 44.8%	180 18.0%	142 14.2%	233 23.3%	176 17.6%	11 1.1%	201 20.1%
	2回	649 100.0%	190 29.3%	292 45.0%	214 33.0%	201 31.0%	298 45.9%	186 28.7%	138 21.3%	107 16.5%	107 16.5%	76 11.7%	6 0.9%	169 26.0%
	3回以上	242 100.0%	74 30.6%	87 36.0%	74 30.6%	58 24.0%	82 33.9%	69 28.5%	54 22.3%	35 14.5%	46 19.0%	31 12.8%	3 1.2%	71 29.3%
③産後2週～8週	全体	1,900 100.0%	712 37.5%	786 41.4%	875 46.1%	870 45.8%	502 26.4%	731 38.5%	529 27.8%	351 18.5%	511 26.9%	406 21.4%	26 1.4%	407 21.4%
	1回	999 100.0%	391 39.1%	470 47.0%	554 55.5%	540 54.1%	105 10.5%	461 46.1%	280 28.0%	184 18.4%	310 31.0%	254 25.4%	13 1.3%	183 18.3%
	2回	649 100.0%	246 37.9%	243 37.4%	236 36.4%	246 37.9%	312 48.1%	199 30.7%	180 27.7%	126 19.4%	144 22.2%	109 16.8%	10 1.5%	156 24.0%
	3回以上	242 100.0%	72 29.8%	71 29.3%	83 34.3%	82 33.9%	84 34.7%	70 28.9%	69 28.5%	41 16.9%	57 23.6%	43 17.8%	3 1.2%	63 26.0%
④現在	全体	1,900 100.0%	877 46.2%	431 22.7%	985 51.8%	1,116 58.7%	571 30.1%	711 37.4%	1,040 54.7%	820 43.2%	924 48.6%	805 42.4%	32 1.7%	234 12.3%
	1回	999 100.0%	489 48.9%	261 26.1%	627 62.8%	690 69.1%	109 10.9%	425 42.5%	573 57.4%	447 44.7%	547 54.8%	503 50.4%	16 1.6%	91 9.1%
	2回	649 100.0%	292 45.0%	128 19.7%	266 41.0%	319 49.2%	361 55.6%	206 31.7%	338 52.1%	268 41.3%	266 41.0%	216 33.3%	12 1.8%	99 15.3%
	3回以上	242 100.0%	94 38.8%	40 16.5%	90 37.2%	105 43.4%	100 41.3%	78 32.2%	125 51.7%	101 41.7%	107 44.2%	83 34.3%	4 1.7%	41 16.9%

【妊娠が分かった時の気持ち別】

妊娠が分かった時に「不安が大きかった」人では、妊娠中の不安を解消するために必要なサービスとして、「悩み相談などや精神的支援」が42.7%、「妊娠婦同士の交流の場」が37.3%であった。

図表2-123 妊娠が分かった時の気持ち別 妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービス:(Q5) (複数回答)

		合計	必要なサービス										その他	無回答
			外出時のサポート	自分の体のトラブルへの助言	育児の相談	子どもの発達・発育チェック	上の子についての相談・支援	悩み相談などや精神的支援	日帰りで休息・利用できる場	宿泊で休息・利用できる場	地域で利用できるサービスの紹介	妊娠婦同士の交流の場		
①妊娠中	全体	1,900 100.0%	400 21.1%	532 28.0%	272 14.3%	226 11.9%	408 21.5%	507 26.7%	389 20.5%	332 17.5%	450 23.7%	653 34.4%	19 1.0%	577 30.4%
	嬉しかった	1,424 100.0%	297 20.9%	404 28.4%	173 12.1%	156 11.0%	299 21.0%	362 25.4%	288 20.2%	253 17.8%	334 23.5%	489 34.3%	11 0.8%	437 30.7%
	予定外だが嬉しかった	298 100.0%	65 21.8%	79 26.5%	56 18.8%	41 13.8%	68 22.8%	79 26.5%	62 20.8%	47 15.8%	70 23.5%	104 34.9%	4 1.3%	91 30.5%
	とまどった	77 100.0%	17 22.1%	22 28.6%	19 24.7%	16 20.8%	22 28.6%	26 33.8%	19 24.7%	15 19.5%	21 27.3%	26 33.8%	3 3.9%	20 26.0%
	不安が大きかった	75 100.0%	15 20.0%	23 30.7%	20 26.7%	11 14.7%	16 21.3%	32 42.7%	16 21.3%	14 18.7%	21 28.0%	28 37.3%	1 1.3%	15 20.0%
	困った	9 100.0%	3 33.3%	1 11.1%	2 22.2%	2 22.2%	2 22.2%	5 55.6%	4 44.4%	3 33.3%	4 44.4%	3 33.3%	0 0.0%	0 33.3%
	特になんども思わなかつた	5 100.0%	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	3 60.0%
②産後2週未満	全体	1,900 100.0%	530 27.9%	967 50.9%	791 41.6%	691 36.4%	486 25.6%	705 37.1%	372 19.6%	284 14.9%	386 20.3%	283 14.9%	20 1.1%	446 23.5%
	嬉しかった	1,424 100.0%	387 27.2%	736 51.7%	583 40.9%	523 36.7%	376 26.4%	518 36.4%	280 19.7%	215 15.1%	275 19.3%	207 14.5%	12 0.8%	321 22.5%
	予定外だが嬉しかった	298 100.0%	87 29.2%	139 46.6%	126 42.3%	110 36.9%	72 24.2%	111 37.2%	58 19.5%	43 14.4%	70 23.5%	51 17.1%	4 1.3%	81 27.2%
	とまどった	77 100.0%	23 29.9%	39 50.6%	39 50.6%	28 36.4%	20 26.0%	36 46.8%	18 23.4%	12 15.6%	19 24.7%	12 15.6%	3 3.9%	17 22.1%
	不安が大きかった	75 100.0%	27 36.0%	42 56.0%	35 46.7%	25 33.3%	15 20.0%	34 45.3%	13 17.3%	11 14.7%	19 25.3%	11 14.7%	1 1.3%	17 22.7%
	困った	9 100.0%	2 22.2%	4 44.4%	4 44.4%	3 33.3%	2 22.2%	3 33.3%	3 33.3%	2 22.2%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%	2 22.2%
	特になんども思わなかつた	5 100.0%	1 20.0%	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%
③産後2週～8週	全体	1,900 100.0%	712 37.5%	786 41.4%	875 46.1%	870 45.8%	502 26.4%	731 38.5%	529 27.8%	351 18.5%	511 26.9%	406 21.4%	26 1.4%	407 21.4%
	嬉しかった	1,424 100.0%	529 37.1%	598 42.0%	646 45.4%	659 46.3%	379 26.6%	545 38.3%	394 27.7%	259 18.2%	374 26.3%	302 21.2%	18 1.3%	296 20.8%
	予定外だが嬉しかった	298 100.0%	116 38.9%	111 37.2%	141 47.3%	133 44.6%	85 28.5%	107 35.9%	85 28.5%	57 19.1%	89 29.9%	72 24.2%	3 1.0%	71 23.8%
	とまどった	77 100.0%	28 36.4%	30 39.0%	41 53.2%	34 44.2%	21 27.3%	34 44.2%	24 31.2%	17 22.1%	23 29.9%	14 18.2%	3 3.9%	14 18.2%
	不安が大きかった	75 100.0%	32 42.7%	36 48.0%	37 49.3%	35 46.7%	14 18.7%	38 50.7%	23 30.7%	15 20.0%	22 29.3%	15 20.0%	2 2.7%	15 20.0%
	困った	9 100.0%	3 33.3%	5 55.6%	6 66.7%	6 66.7%	2 22.2%	6 66.7%	3 33.3%	2 22.2%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%	2 22.2%
	特になんども思わなかつた	5 100.0%	2 40.0%	3 60.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%

(続き)

		合計	必要なサービス											
			外出時のサポート	自分の体のトラブルの助言	育児の相談	子どもの発達・発育チェック	上の子についての相談・支援	悩み相談などや精神的支援	日帰りで休息・利用できる場	宿泊で休息・利用できる場	地域で利用できるサービスの紹介	妊産婦同士の交流の場	その他	無回答
④ 現在	全体	1,900 100.0%	877 46.2%	431 22.7%	985 51.8%	1,116 58.7%	571 30.1%	711 37.4%	1,040 54.7%	820 43.2%	924 48.6%	805 42.4%	32 1.7%	234 12.3%
	嬉しかった	1,424 100.0%	656 46.1%	316 22.2%	737 51.8%	836 58.7%	433 30.4%	524 36.8%	777 54.6%	604 42.4%	692 48.6%	622 43.7%	19 1.3%	171 12.0%
	予定外だが嬉しかった	298 100.0%	142 47.7%	70 23.5%	156 52.3%	181 60.7%	92 30.9%	106 35.6%	162 54.4%	140 47.0%	149 50.0%	121 40.6%	6 2.0%	39 13.1%
	とまどった	77 100.0%	29 37.7%	15 19.5%	39 50.6%	43 55.8%	26 33.8%	40 51.9%	45 58.4%	34 44.2%	36 46.8%	26 33.8%	4 5.2%	13 16.9%
	不安が大きかった	75 100.0%	40 53.3%	23 30.7%	46 61.3%	46 61.3%	17 22.7%	34 45.3%	44 58.7%	32 42.7%	37 49.3%	30 40.0%	2 2.7%	4 5.3%
	困った	9 100.0%	6 66.7%	4 44.4%	4 44.4%	6 66.7%	2 22.2%	5 55.6%	6 66.7%	4 44.4%	4 44.4%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%
	特になんとも思わなかった	5 100.0%	2 40.0%	1 20.0%	2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	2 40.0%	1 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	3 60.0%

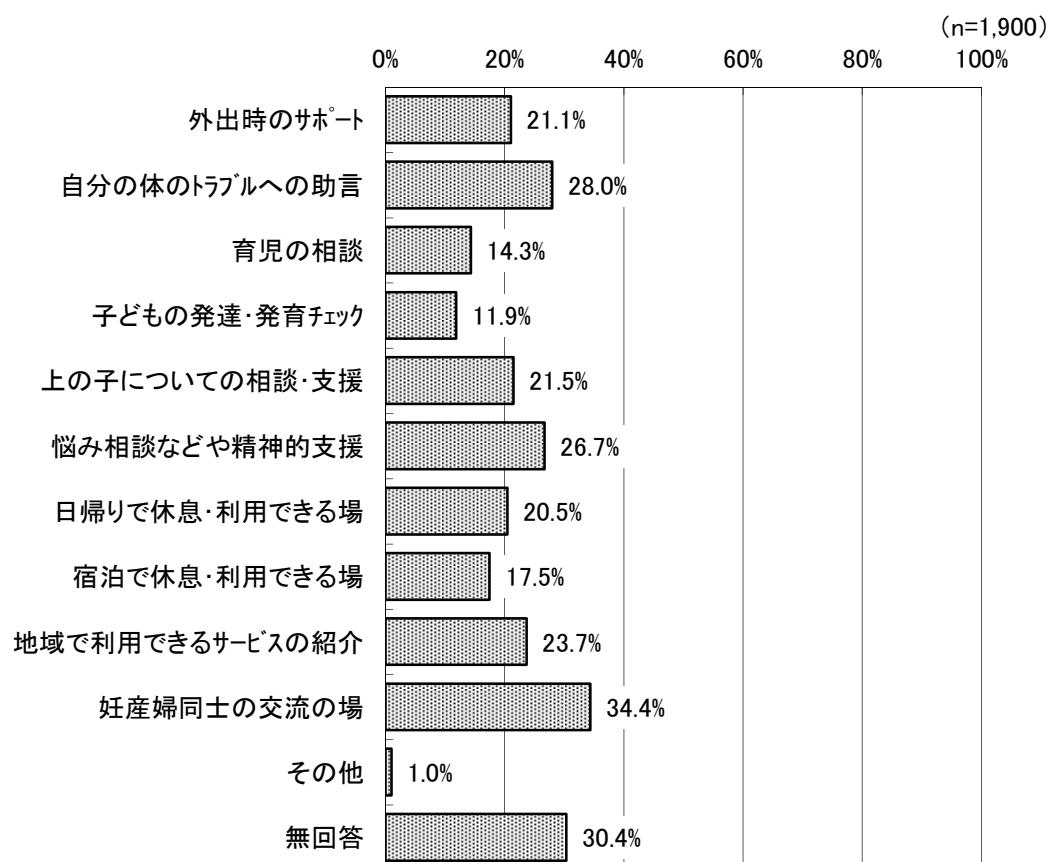
【時期別】

(1) 妊娠中

妊娠中は、「妊娠婦同士の交流の場」が 34.4%で最も高かった。次いで、「自分の体のトラブルへの助言（28.0%）」であった。

図表 2-124 妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービス

①妊娠中 (Q5①) (複数回答)

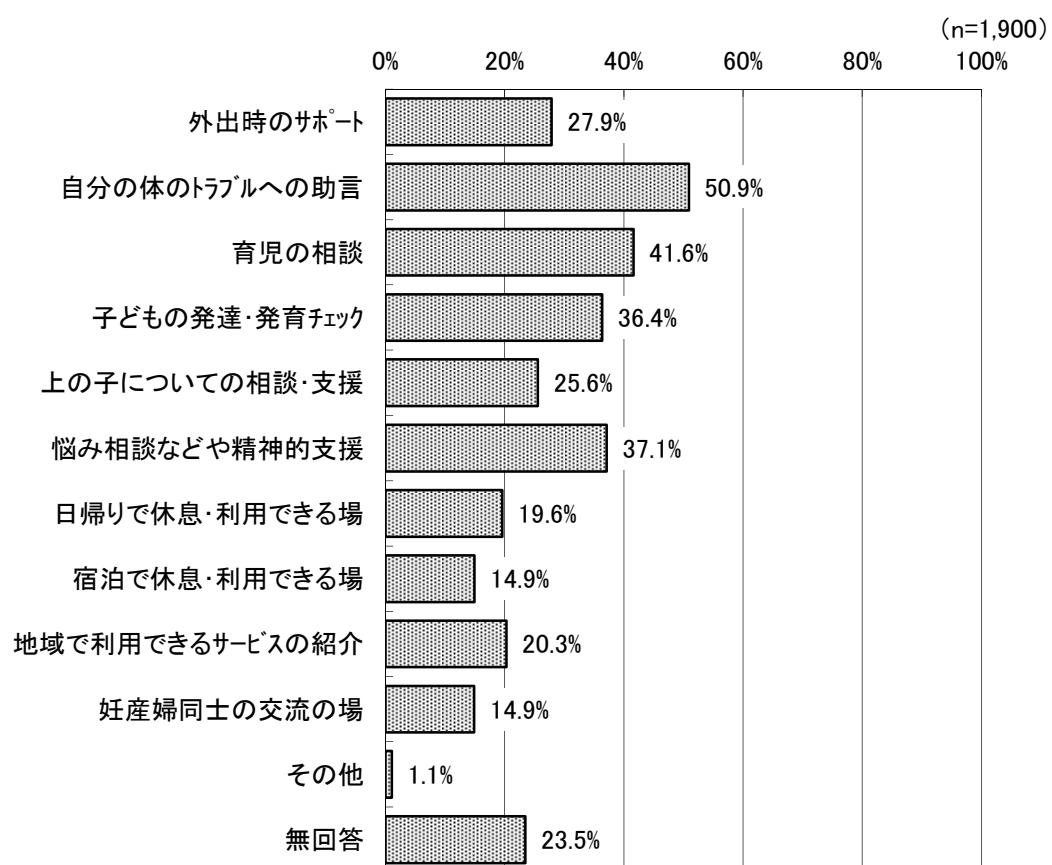


(2) 産後2週未満

産後2週未満は、「自分の体のトラブルへの助言」が50.9%で最も高かった。次いで、「育児の相談（41.6%）」、「悩み相談などや精神的支援（37.1%）」であった。

図表2-125 妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービス

②産後2週未満(Q5②) (複数回答)

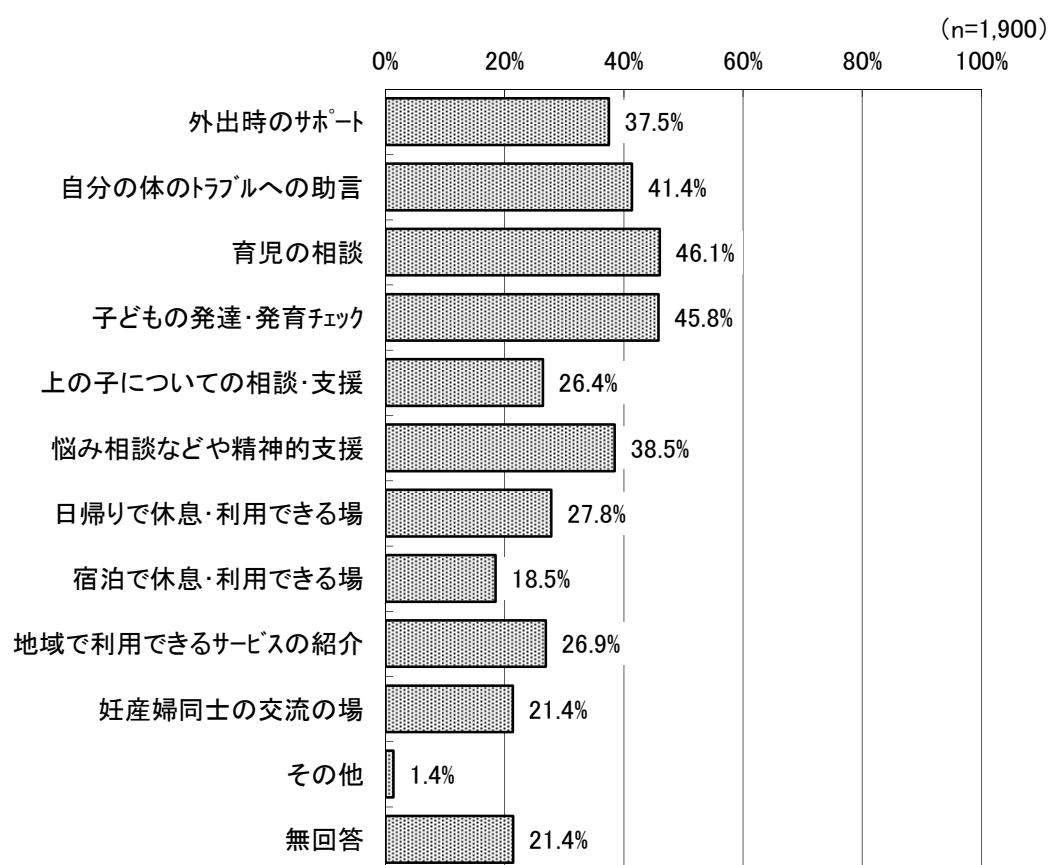


(3) 産後2週～8週

産後2週～8週は、「育児の相談」が46.1%、「子どもの発達・発育チェック」が45.8%であった。次いで、「自分の体のトラブルへの助言（41.4%）」であった。

図表2-126 妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービス

③産後2週～8週(Q5③) (複数回答)

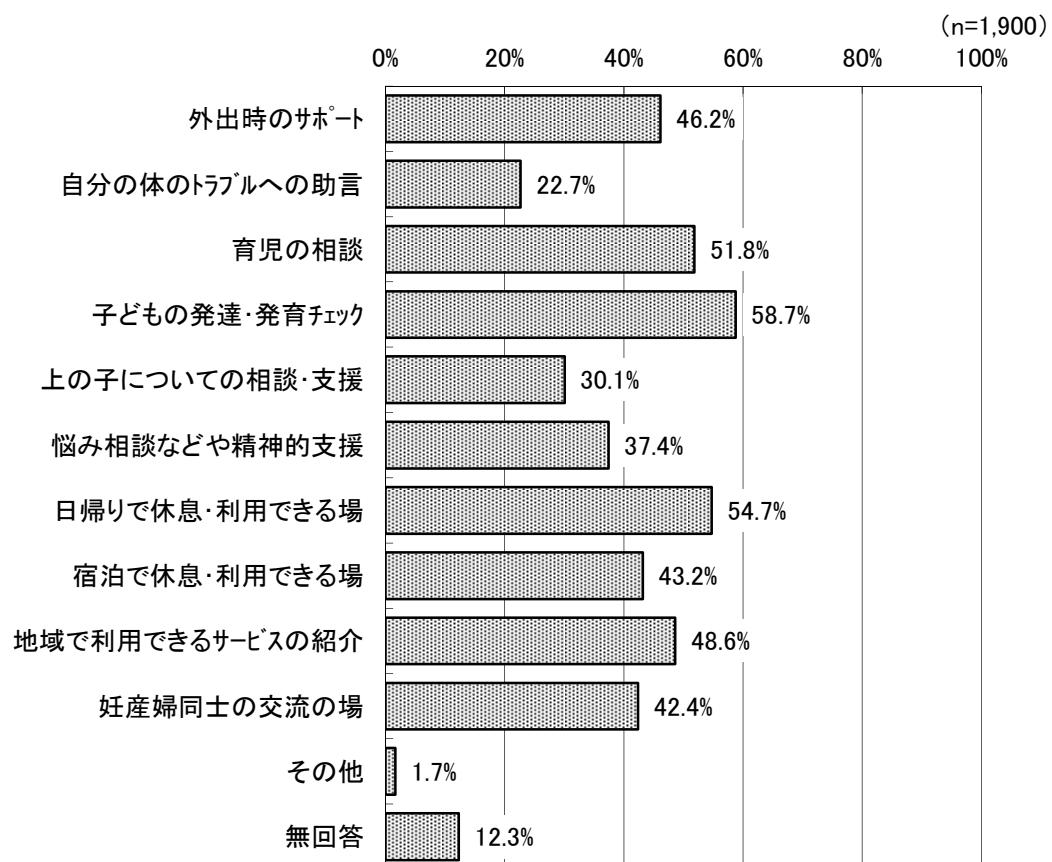


(4) 現在

現在は、「子どもの発達・発育チェック」が58.7%で最も高かった。次いで、「日帰りで休息・利用できる場（54.7%）」、「育児の相談（51.8%）」であった。

図表 2-127 妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービス

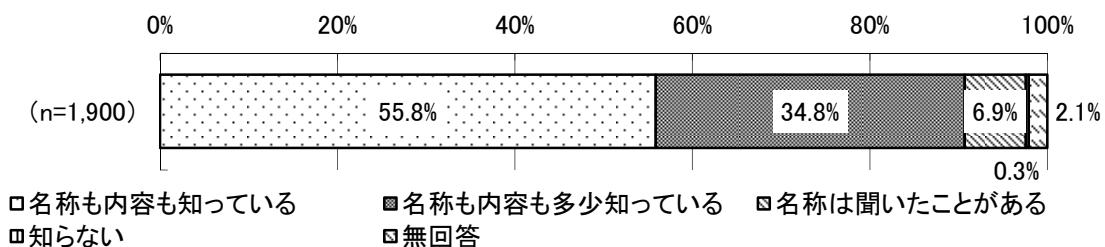
④現在(Q5④) (複数回答)



6. 「産後うつ」の認知状況

「産後うつ」の認知状況は、「名称も内容も知っている」が 55.8%であった。「名称も内容も多少知っている」が 34.8%、「名称は聞いたことがある」が 6.9%であった。「知らない」は 0.3%（6 件）であった。

図表 2-128 「産後うつ」の認知状況(Q6)



7. 国や自治体に期待する産前・産後の支援（自由記入）

産前・産後の支援として、国や自治体に期待することをたずねたところ、次のような回答があった。ここでは主な回答内容を記載する。

(情報について)

- ・妊娠期にもう少し情報を収集しておきたかった。しかし産前の交流イベントや勉強会などは全て平日だった。休める人ばかりでもないから、土日や夜間に手続きや情報収集の場があるとよい。
- ・マタニティ教室の回数が少なく、参加できなかったことが残念である。
- ・赤ちゃんの健康状態を比較できるガイドブックなどもあると嬉しい。今はネット社会で、正しい情報かどうかの判断がつかないので。子育てサポートブックがあるといいなと思う。
- ・同じ時期や1年ぐらい前に出産したママ友とは悩みも似ていて、共感できることが、実際に役立つ情報を得られることが多かった。そういう友達ができるような“場”的提供が充実するとよいと思う。児童館の充実もママ友づくりにはよいと思う。

(産後の支援)

- ・産後、訪問指導員の方がもっと早く来てくれたら産後の一番大変な時の相談ができるて良い。
- ・産後特に退院して1～2か月が、育児、生活するのがとても不安でつらかった。この時期は、ホルモンのバランスも崩れ、こうした心身の変動が大きい時期という理解はあっても、感情のコントロールも難しく、なんともいえない不安があったので、この時期のサポートをぜひ強化できるようなことをして欲しい。
- ・健康診査の回数が少ないので、もっと増やして欲しい。1か月から～ほぼ5か月近くまで何もないと、悩みもほぼ解決していく時間が経ち過ぎている。
- ・子育てで不安が出てくるのが生後1か月を過ぎた所からだと私は感じたので、赤ちゃんの検診は、2か月とか、2か月半検診もあるとさらに今より良いと思う。
- ・健康診査時の医師や保健師・看護師・助産師の言葉に傷つくことがあった。配慮が欲しい。
- ・産後1回だけでなく2か月、3か月の時も専門員の訪問があればうれしかった。
- ・子供が1か月になった時に助産婦さんが訪問してくれたが、1回のみだった。希望者のみでもよいので、訪問回数が増えるとうれしい。
- ・地方にも、24時間、育児をサポートしてくれる場ができるほしい。
- ・国や自治体には海外のように産後のお母さん向けの施設をつくってほしい。
- ・産後1か月はほんとうに疲れがたまっていたので、安く泊まれる支援などを十分にしてほしいです。
- ・私の場合、実母に頼ることができなかったので、義母に助けてもらったが、遠慮もあり、国や自治体に頼れるといいなと思った。
- ・子どもが1歳になるころまで、定期的に電話もしくはLINE等で現状の確認（困っている事・不安な事）をして頂けたら、お母さん達の心の負担が少し楽になるのではと思う。

(産後うつ対策)

- ・産後の精神的ケアをもうすこしきちんと行政がやるべきだと思う。まずは産前にうつについて父親も交えて説明する機会があるととてもよい。産後はきちんと地域の保健師さんなどが家を訪問してその目で母子の様子を見るべき。1人で抱えてしまっている母親はかなりいると思うので気付けるようなシステム作りをして欲しい。
- ・なかなか自分から積極的になれず、あまりグイグイこられるのも嫌。今思えば、上の子の時に産後うつ状態だったと感じる。助けてほしかったけど（助けてもらう＝ダメな親）みたいなネガティブな気持ちになる。気軽に利用できる、相談できるシステムがほしい。
- ・生後3か月以内の期間は気軽に外出もできず産後うつになりそうだったので、同じ月齢のママ達で交流できる場がほしかった。
- ・産後うつ等、妊娠婦自身の身体や精神面の変化をパートナーをはじめとする家族に周知するような支援を期待する。
- ・産後すぐの母親には、とにかくまとまって寝られる数時間と、それをすることが可能な環境（赤子や家事、任せられる人がいる）が必要である。眠れないとすごく精神状態が悪化する。少しでも産後の母親が休めるようにしてほしい。
- ・1人目の出産後に当時は無知だったが、軽い産後うつになった。先日見たドラマの産後うつの描き方がとてもリアルで、是非若い世代に分かりやすい形で伝わればと思う。
- ・私は産後うつにならなかったのですが、夫がその傾向にあり、大変だった。パパ向けの産後うつチェックが必要。

(買い物や家事等のサポート)

- ・頼れる人がいざ、一人で子育てをしているママに、買物や簡単な家事をしてくれるサポートがあると嬉しい。

(外出時の対応)

- ・産後、授乳室がない、又は整っていないということで、外出をひかえてしまう。リフレッシュすることに対する手助けも必要。
- ・授乳室やオムツ交換出来る場所が分かる様な市内のマップがあると嬉しい。

(外出時の預かり)

- ・自分が病院に行くときに子供を見てほしい。
- ・一日単位、数時間単位で預ってくれる場所があると医者、買い物の時など行きやすくなると思う。

(移動手段)

- ・里帰り出産時、私の実家の地方では、陣痛タクシーが無く、困った。
- ・産後の1か月検診時に、タクシーの補助があると助かる。
- ・外出用にタクシーの助成が欲しい。

(保育所の充実)

- ・保育所の充実が必要。
- ・育休をとるとそのせいで、短時間保育になったり、お盆や年末年始に預けにくい状況であり困る。
- ・保育所の入所について、出生月によって大きな差がある（入所の可能性）、上期出生は有利、仕事をもつ者にとっては、ストレス源の1つになるので、安心して育休をとり復帰できるようしてほしい。

(夫の育児支援)

- ・夫がもっと育児に関われるよう、会社の育休や時短などを気軽に利用できるようにしてほしい。
- ・パパ用のイベントなどパパとしての自覚を深める場がほしい。夫の支援が一番助かるのに、それが不十分。自治体などでそんなイベントがあれば参加したい。

(実母や義母向けの教育)

- ・実母や義母の経験によるサポートは時として誤っていることもあるので、実母や義母向けの支援として、保健師さんや保育士さんと話す機会をつくって欲しい。

(経済的支援)

- ・児童手当の額をあげてほしい。
- ・出産時の費用の補助の増額。
- ・任意の予防接種の料金をもう少し安くしてほしい。

(不妊治療の助成)

- ・私は顕微授精で赤ちゃんを授かりました。不妊治療の助成をもっと手厚くしてください。

(産休)

- ・産前6週まで働くのは体的にかなり辛い人もいると思うので、もう少し早く産休に入れるようにしてほしい。

第3章 自治体アンケート調査

第3章　自治体調査の結果

第1節　回収状況等

自治体調査の実査概要、回収結果は表のとおり。

図表 3-1 実査概要・回収結果

対象	市区町村向けアンケート	都道府県向けアンケート
配布方法	郵送配布・郵送回収	電子メールにてファイルを配布・同メールにてファイル回収
調査期間	平成 29 年 11 月～12 月	平成 30 年 1 ～ 2 月
有効発送数	1,741 市区町村	47 都道府県
有効回収数・率	1,160 市区町村・66.6%	47 都道府県・100%

第2節 市区町村アンケート結果

1. 回答自治体の保健医療資源の状況¹

(1) 産科／産婦人科

① 病院数

産科／産婦人科について、病院・診療所をあわせた施設数（グラフ内「病院・診療所計」以下同様）をみると、回答自治体のうち、38.9%が「0施設」である²。また、「1施設」が13.3%、「2～5施設」が22.2%、「6施設以上」が11.8%との構成比であった。病院のみでは（グラフ内「病院計」以下同様）、51.2%が「0施設」と回答し、同様に、診療所のみでは（グラフ内「診療所計」以下同様）47.5%といったように、約半数は当該自治体行政区域内には産科／婦人科を持たない状況となっている。

精神科／心療内科について、病院・診療所計をみると、回答自治体のうち32.2%が「0施設」である。また、「1施設」が16.7%、「2～5施設」が22.3%、「6施設以上」が15.6%との構成比であった。病院のみについてみると、42.3%が「0施設」と回答しており、同様に、診療所のみでは46.6%であった。

一方で、産科／産婦人科と精神科／心療内科の両方を備えた機関についてみると、病院・診療所計では63.8%が「0施設」であり、回答のあった自治体の6割の地域に立地がない。

小児科について、病院・診療所計をみると、回答自治体のうち「0施設」との回答割合は、18.8%である。また、「1施設」が14.9%、「2～5施設」が23.7%、「6施設以上」が29.4%との構成比であった。病院のみについてみると、「0施設」と回答は35.5%、同様に、診療所のみで28.4%であるなど、回答のあった自治体では、産科や精神科に比べると比較的医療機関数が多い様子がうかがえる。

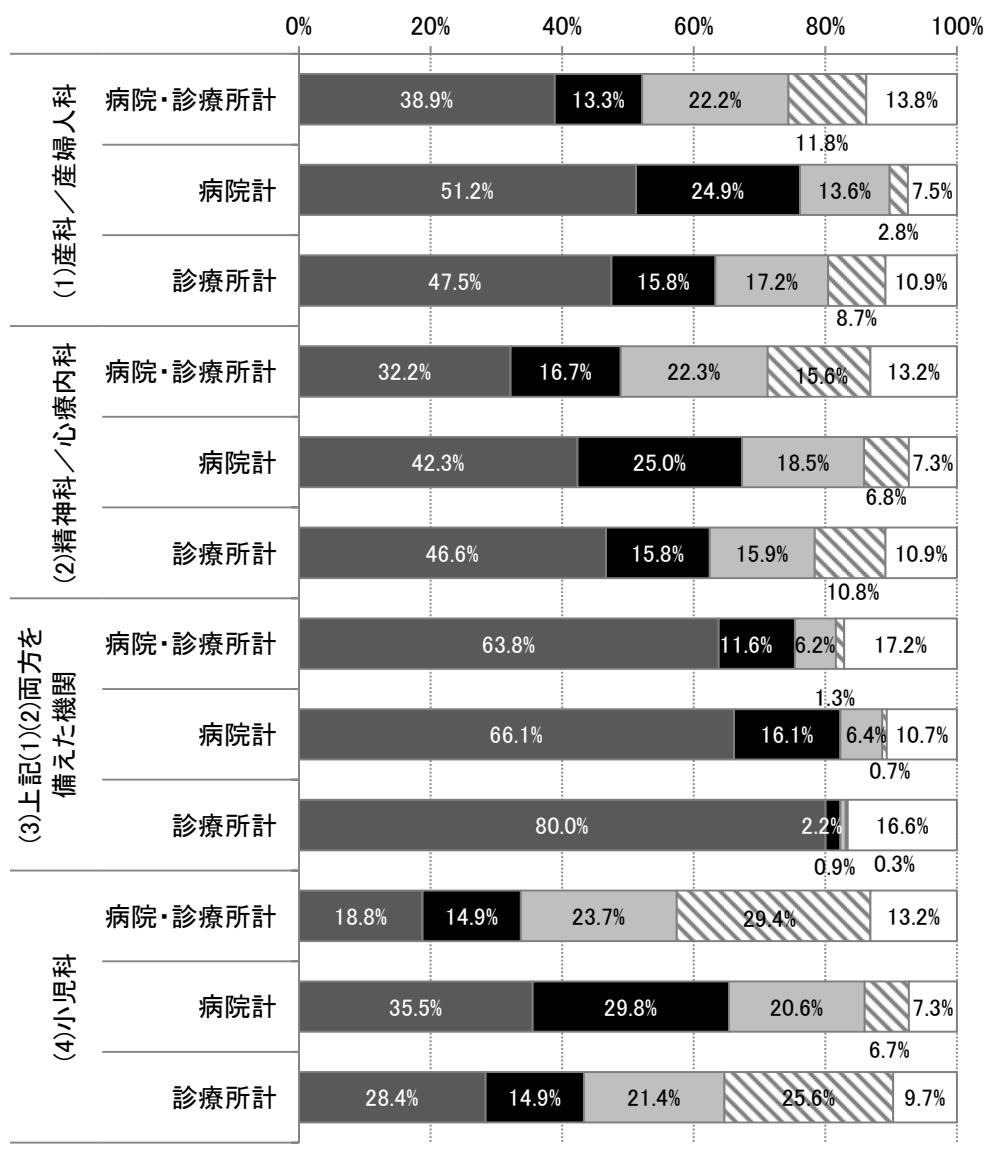
助産所についてみると、回答自治体のうち62.8%が「0施設」との回答である。また、「1施設」が12.6%、「2～5施設」が9.5%、「6施設以上」が15.1%といった構成比であった。

助産所について、1施設以上との回答のあった自治体の施設数計は1,280件であり、このうち、分娩取扱施設は216件であった。

¹ 平成29年11月1日現在

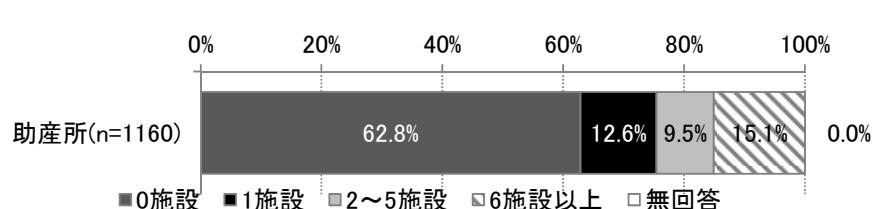
² 病院・診療所計では、病院か、診療所のいずれかの実数について空欄（無回答）であった場合に、無回答扱いとした。

図表 3-2 回答自治体の医療機関数(n=1,160)(問1)

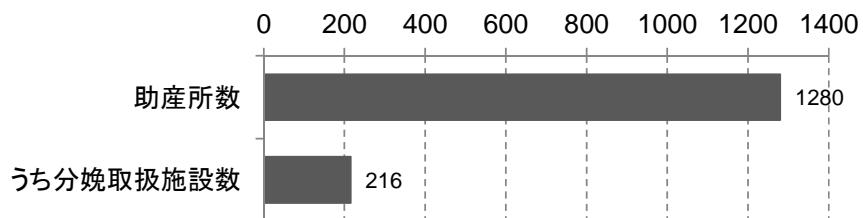


注) 病院・診療所計では、病院、診療所のいずれかの回答について、空欄（無回答）であった場合には、無回答扱いとした。

図表 3-3 回答自治体の助産所数(人口規模別)(問1)



図表 3-4 回答自治体の助産所数とうち分娩取扱施設数(問 1)



図表 3-5: 回答自治体の医療資源 基本統計量(人口規模別)その1(問 1)

市区町村人口 10 万人あたりの施設数 (単位: 施設)

	病院・診療所計	病院計	診療所計
(1)産科/産婦人科	3.14	0.95	2.21
(2)精神科/心療内科	5.60	1.72	3.85
(3)上記(1)(2)両方を備えた機関	0.51	0.43	0.10
(4)小児科	11.94	1.76	9.93

図表 3-6:回答自治体の医療資源 基本統計量(人口規模別)その2(問 1)

市区町村人口 10 万人あたりの施設数 (単位: 施設／10 万人)

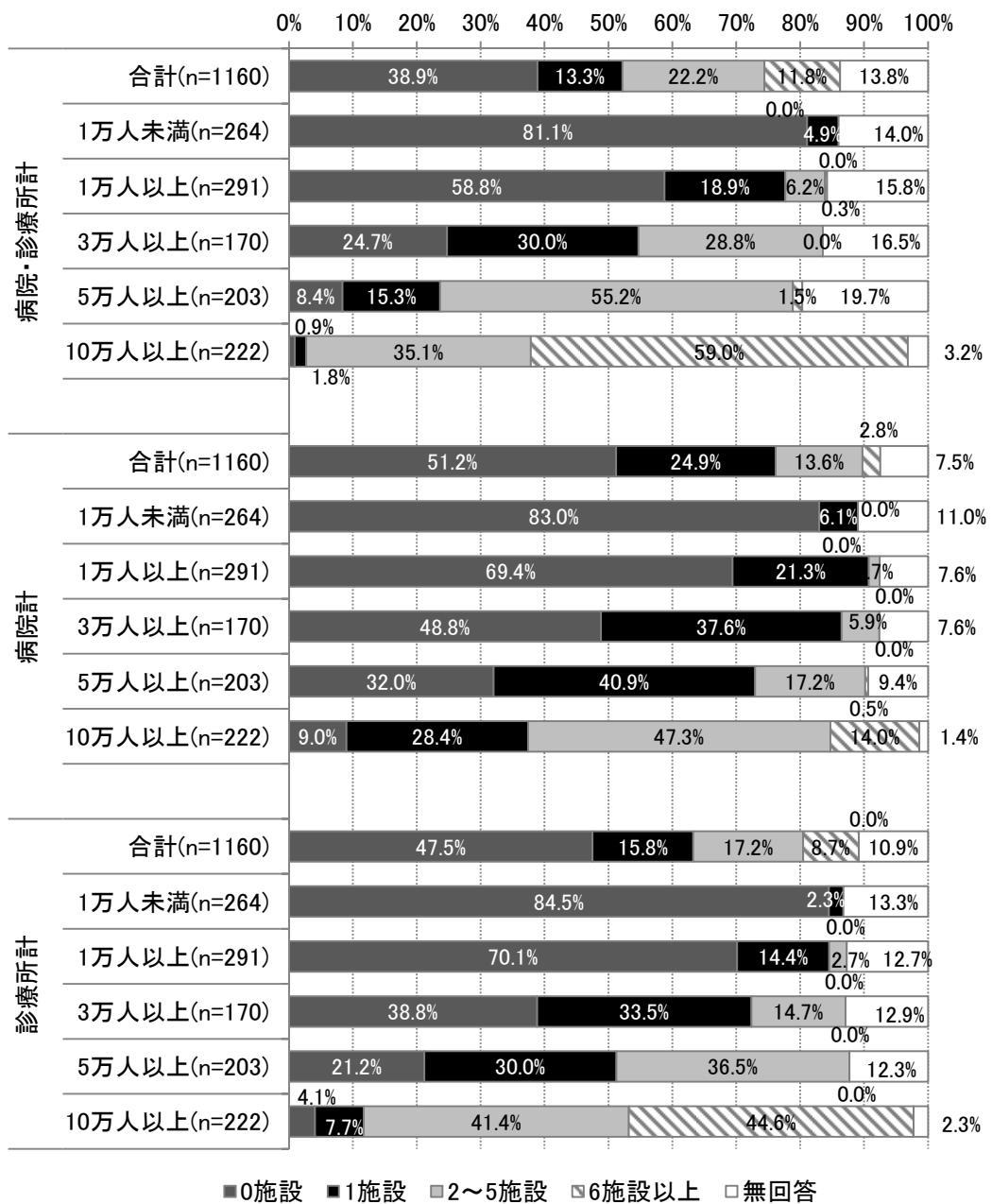
人口規模	(1)産科/産婦人科	(2)精神科/心療内科	(3)左記(1)(2)両方を備えた機関	(4)小児科
合計	3.62	6.53	0.6	13.88
1 万人未満	1.05	2.91	0.99	8.98
1 万人以上	2.31	3.15	0.68	8.52
3 万人以上	3.19	4.07	0.5	9.45
5 万人以上	3.17	4.02	0.34	10.68
10 万人以上	3.84	7.49	0.63	15.22

産科／産婦人科、精神科／心療内科、およびその両方を備えた機関、小児科、助産所について、人口規模別に施設数の分布を確認したものが、次ページ以降の図表である。

なお、人口区分は、各区分に含まれる自治体数のバランスを勘案し、1 万人未満 (n=264)、1 万人以上 (3 万人未満) (n=291)、3 万人以上 (5 万人未満) (n=170)、5 万人以上 (10 万人未満) (n=203)、10 万人以上 (n=222) とした。

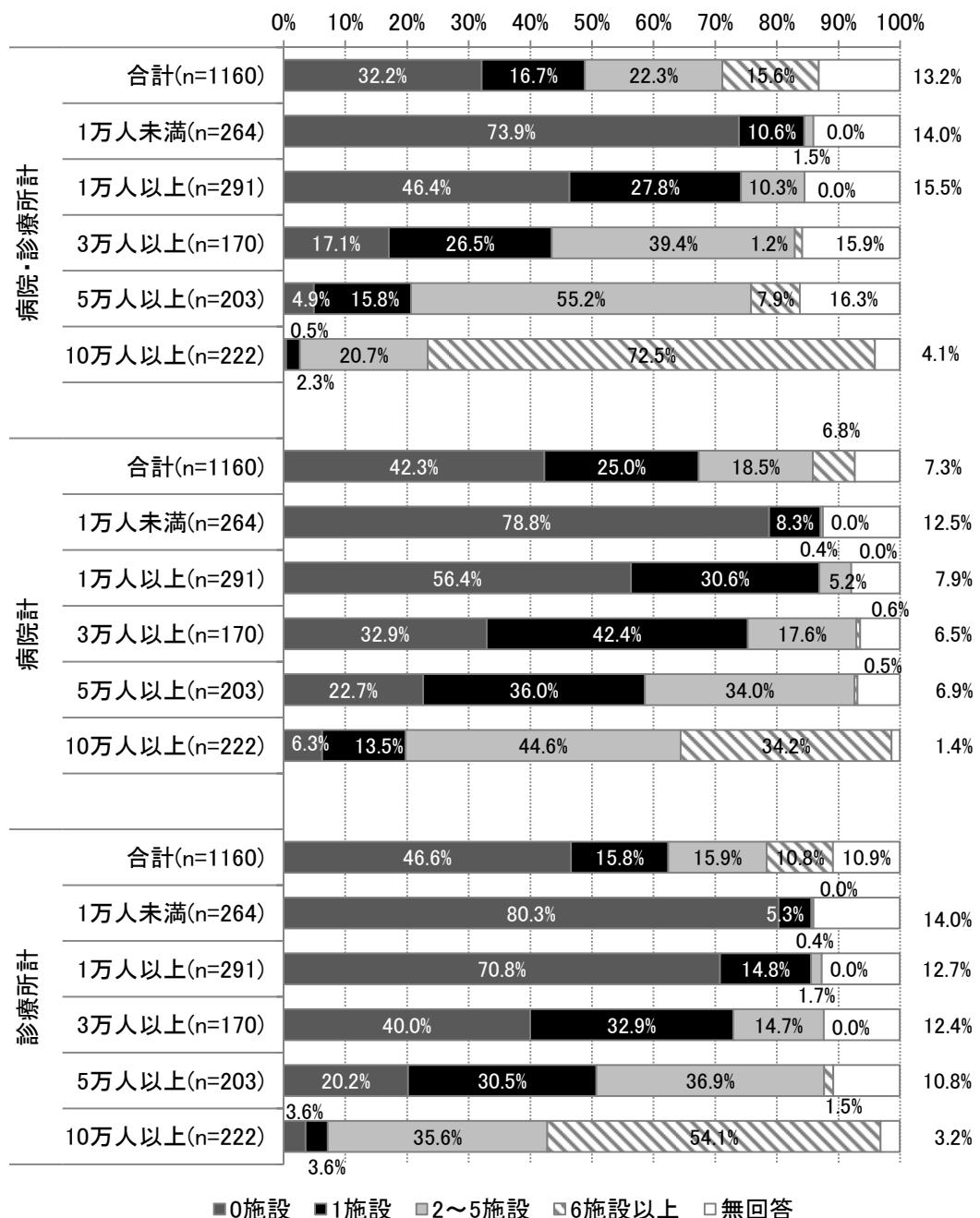
総じて、人口規模の大きな自治体ほど、各診療科の病院・診療所、助産所が充足する傾向にあり、特に、10 万人以上の人口規模においては 0 施設との回答は数%にとどまっている。

図表 3-7 回答自治体の医療機関数(1)産科／産婦人科(人口規模別)(問 1)



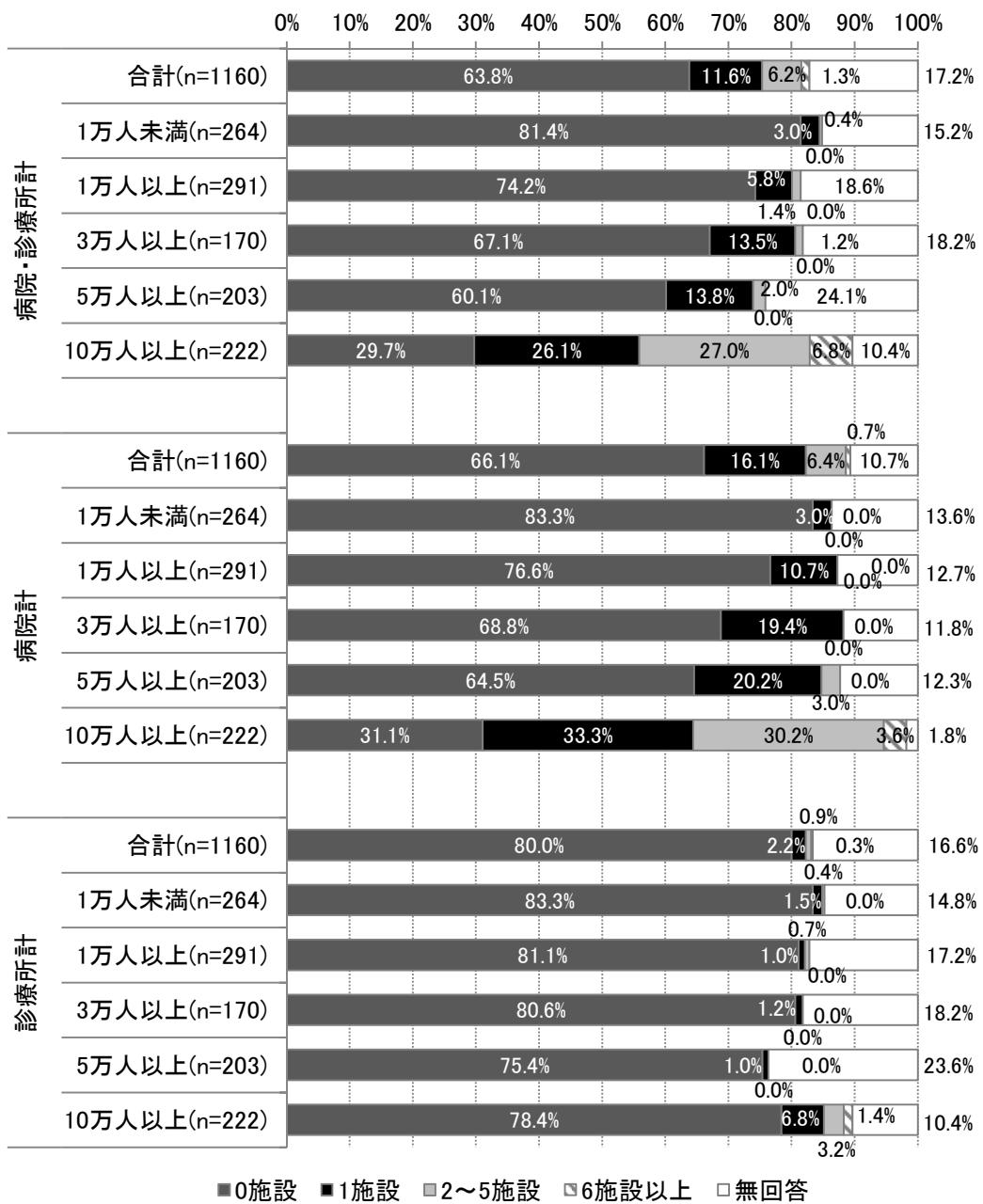
注) 病院・診療所計では、病院、診療所のいずれかの回答について、空欄（無回答）であった場合には、無回答扱いとした。

図表 3-8 回答自治体の医療機関数(2)精神科／心療内科(人口規模別)(問 1)



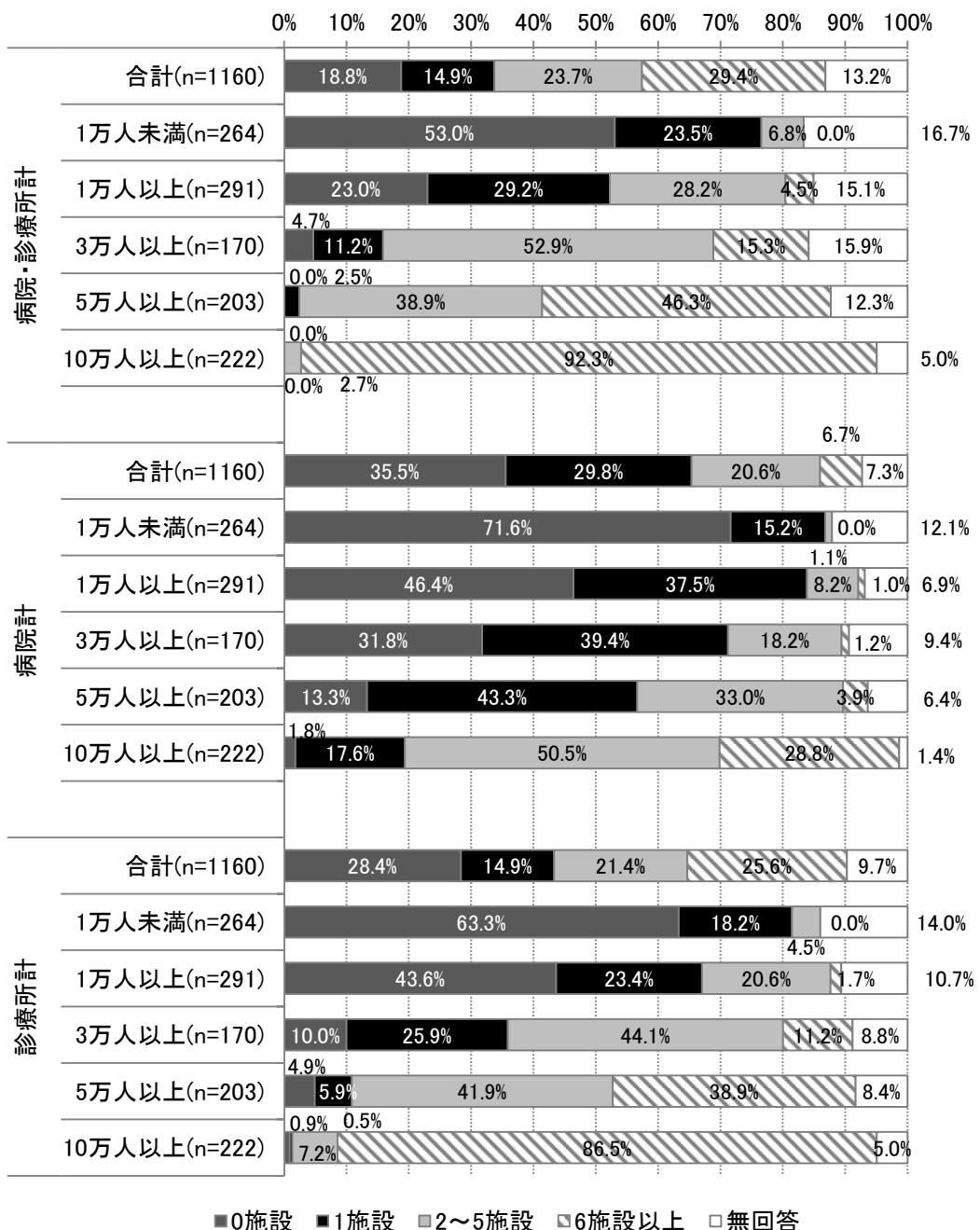
注) 病院・診療所計では、病院、診療所のいずれかの回答について、空欄（無回答）であった場合には、無回答扱いとした。

図表 3-9 回答自治体の医療機関数(3)産科・婦人科、精神科を備えた機関(人口規模別)(問 1)



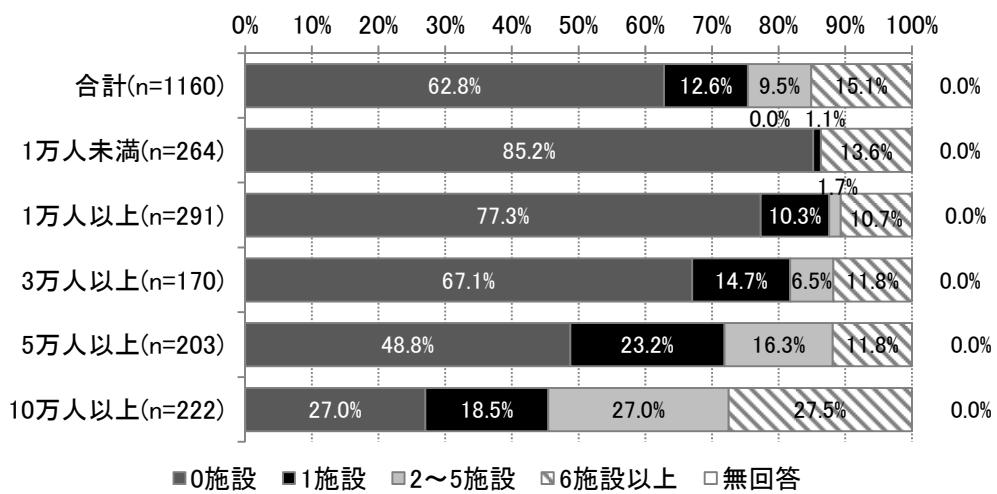
注) 病院・診療所計では、病院、診療所のいずれかの回答について、空欄（無回答）であった場合には、無回答扱いとした。

図表 3-10 回答自治体の医療機関数(4)小児科(人口規模別)(問 1)



注) 病院・診療所計では、病院、診療所のいずれかの回答について、空欄（無回答）であった場合には、無回答扱いとした。

図表 3-11 回答自治体の助産所数(人口規模別)(問 1)



図表 3-12: 回答自治体の医療資源 基本統計量(人口規模別)その1(問1)

		人口規模	平均値	標準偏差	中央値
(1)産科/産婦人科	病院・診療所計	合計	3.14	7.64	1.00
		1万人未満	0.06	0.23	0.00
		1万人以上	0.43	0.82	0.00
		3万人以上	1.23	1.14	1.00
		5万人以上	2.23	1.39	2.00
		10万人以上	11.45	13.32	7.00
	病院計	合計	0.95	2.01	0.00
		1万人未満	0.07	0.25	0.00
		1万人以上	0.27	0.48	0.00
		3万人以上	0.56	0.70	0.00
		5万人以上	0.98	1.05	1.00
		10万人以上	3.00	3.53	2.00
	診療所計	合計	2.21	5.97	0.00
		1万人未満	0.03	0.16	0.00
		1万人以上	0.24	0.56	0.00
		3万人以上	0.80	0.93	1.00
		5万人以上	1.43	1.19	1.00
		10万人以上	8.42	10.83	5.00
(2)精神科 ／心療内科	病院・診療所計	合計	5.60	18.74	1.00
		1万人未満	0.16	0.41	0.00
		1万人以上	0.59	0.75	0.00
		3万人以上	1.57	1.25	1.00
		5万人以上	2.82	1.84	2.00
		10万人以上	22.19	36.13	10.00
	病院計	合計	1.72	4.18	1.00
		1万人未満	0.10	0.32	0.00
		1万人以上	0.45	0.61	0.00
		3万人以上	0.91	0.93	1.00
		5万人以上	1.41	1.26	1.00
		10万人以上	5.83	7.82	3.00
	診療所計	合計	3.85	15.25	0.00
		1万人未満	0.07	0.27	0.00
		1万人以上	0.22	0.49	0.00
		3万人以上	0.75	0.85	1.00
		5万人以上	1.54	1.37	1.00
		10万人以上	16.26	30.37	7.00

		人口規模	平均値	標準偏差	中央値
(3)上記(1)(2)両方 を備えた機関	病院・診療所計	合計	0.51	1.56	0.00
		1万人未満	0.05	0.32	0.00
		1万人以上	0.13	0.51	0.00
		3万人以上	0.19	0.43	0.00
		5万人以上	0.23	0.48	0.00
		10万人以上	1.90	2.92	1.00
	病院計	合計	0.43	1.04	0.00
		1万人未満	0.04	0.18	0.00
		1万人以上	0.12	0.33	0.00
		3万人以上	0.22	0.42	0.00
		5万人以上	0.30	0.53	0.00
		10万人以上	1.48	1.78	1.00
	診療所計	合計	0.10	0.89	0.00
		1万人未満	0.03	0.24	0.00
		1万人以上	0.04	0.34	0.00
		3万人以上	0.01	0.12	0.00
		5万人以上	0.01	0.11	0.00
		10万人以上	0.39	1.88	0.00
(4)小児科	病院・診療所計	合計	11.94	32.90	3.00
		1万人未満	0.49	0.78	0.00
		1万人以上	1.59	1.71	1.00
		3万人以上	3.66	3.01	3.00
		5万人以上	7.46	4.89	6.00
		10万人以上	45.34	60.71	24.00
	病院計	合計	1.76	3.68	1.00
		1万人未満	0.21	0.48	0.00
		1万人以上	0.70	1.02	1.00
		3万人以上	1.03	1.14	1.00
		5万人以上	1.84	2.27	1.00
		10万人以上	5.15	6.62	3.00
	診療所計	合計	9.93	29.74	2.00
		1万人未満	0.33	0.64	0.00
		1万人以上	0.98	1.37	1.00
		3万人以上	2.68	2.62	2.00
		5万人以上	5.77	4.61	4.00
		10万人以上	40.21	56.44	20.00

図表 3-13:回答自治体の医療資源 基本統計量(人口規模別)その2(問 1)

市区町村人口 10 万人あたりの施設数

	人口規模	病院・診療所計	病院計	診療所計
(1)産科/産婦人科	合計	3.62	1.23	0.48
	1万人未満	1.05	1.23	0.48
	1万人以上	2.31	1.42	1.29
	3万人以上	3.19	1.45	2.08
	5万人以上	3.17	1.4	2.04
	10万人以上	3.84	1.02	2.84
(2)精神科/心療内科	合計	6.53	1.23	0.48
	1万人未満	2.91	1.9	1.3
	1万人以上	3.15	2.38	1.16
	3万人以上	4.07	2.34	1.93
	5万人以上	4.02	2.02	2.2
	10万人以上	7.49	1.99	5.46
(3)上記(1)(2)両方 を備えた機関	合計	0.6	1.23	0.48
	1万人未満	0.99	19.07	0.58
	1万人以上	0.68	5.98	0.22
	3万人以上	0.5	3.14	0.04
	5万人以上	0.34	1.86	0.02
	10万人以上	0.63	0.7	0.13
(4)小児科	合計	13.88	1.23	0.48
	1万人未満	8.98	3.78	6.21
	1万人以上	8.52	3.71	5.28
	3万人以上	9.45	2.65	6.87
	5万人以上	10.68	2.63	8.29
	10万人以上	15.22	1.74	13.5

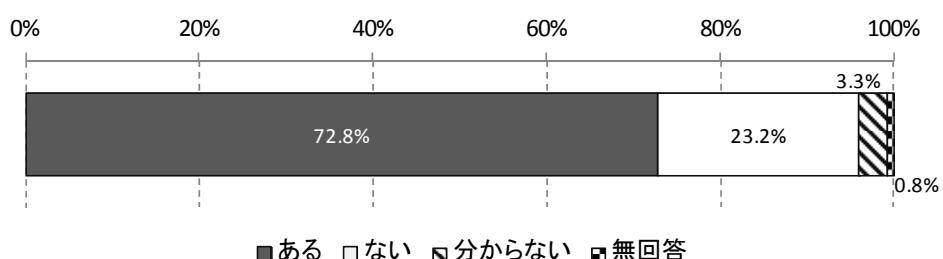
2. メンタルヘルスケアに係る受診勧奨

(1) 受診勧奨の有無

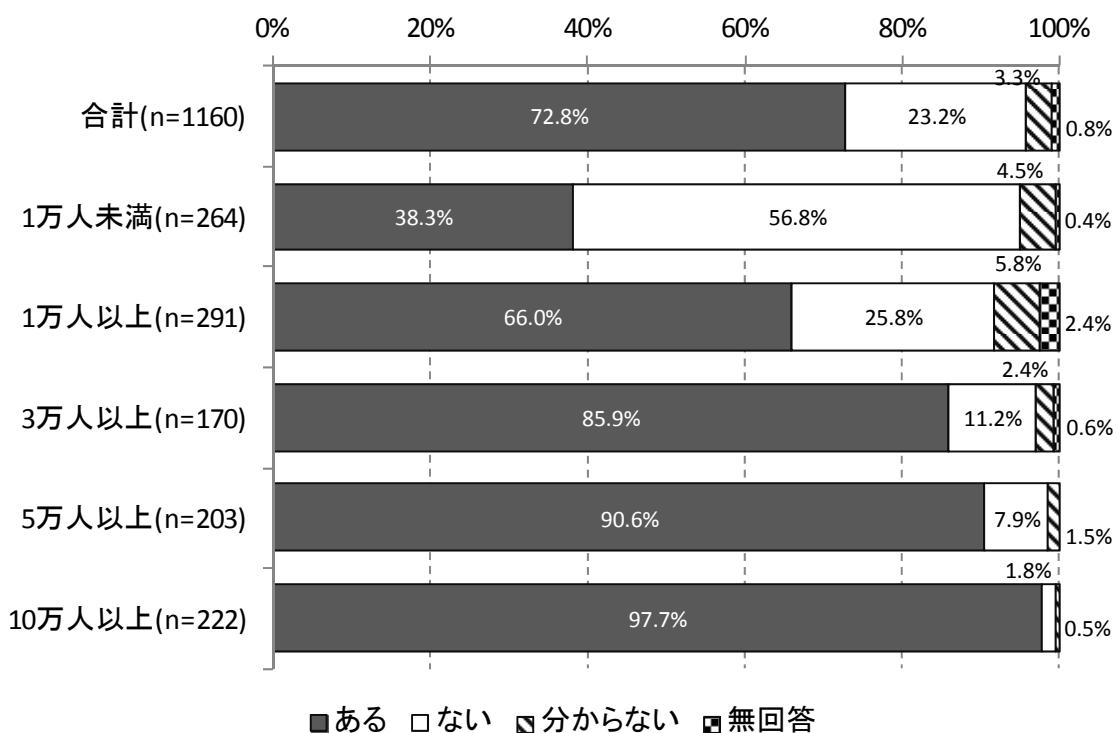
母子保健事業等の機会を利用した、妊産婦のメンタルヘルスケアの観点からの受診勧奨の有無についてたずねた結果、「ある」が72.8%、「ない」が23.2%であった。

人口規模別にみると、1万人未満の自治体では「ある」と回答した割合は38.3%となっており、自治体規模が大きくなるほど、その割合が徐々に高まる傾向がみられる。10万人以上の自治体ではその割合が97.7%である。

図表 3-14 受診勧奨の有無(n=1,160)(問2)



図表 3-15 受診勧奨の有無(人口規模別)(n=1,160)(問2)

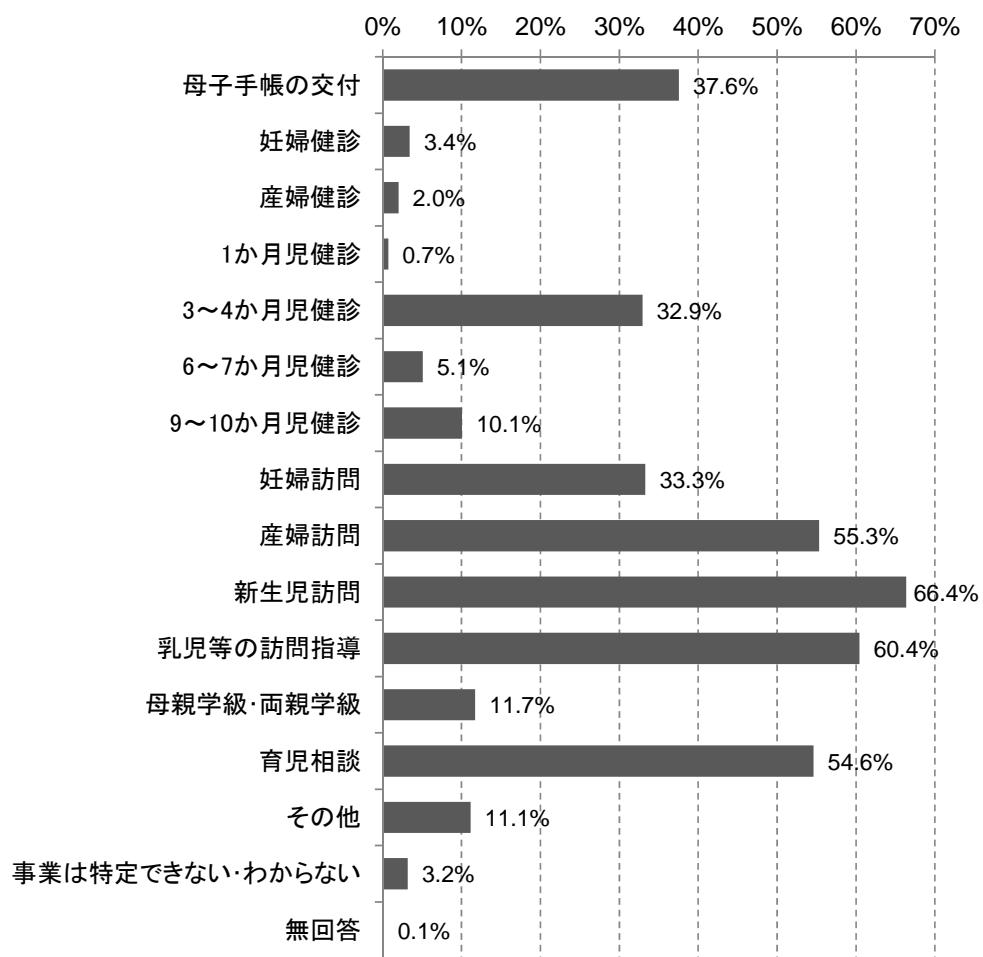


(2) 受診勧奨を行った機会（事業）

前設問において、受診勧奨を行った事が「ある」と回答した 844 自治体について、どのような機会（事業）に行ったのかをたずねた。訪問（訪問指導）、相談といった場面を通じての実施が多く、「新生児訪問」が 66.4%、「乳児等の訪問指導」が 60.4%、「産婦訪問」が 55.3%、「育児相談」が 54.6%といずれも半数をこえている。

このほか、「母子手帳の交付」の段階で行ったとする回答が 37.6%、「3～4か月児健診」時に行ったのが 32.9%であった。

図表 3-16 受診勧奨を行った機会(複数回答)(n=844)(問 2)



図表 3-17 受診勧奨を行った機会(その他の記載(抜粋))(問 2)

相談時：妊婦栄養相談、電話相談、臨床心理士による個別心理相談、親と子の相談室

訪問時：養育支援訪問、乳児家庭全戸訪問時

その他：地区担当保健師が継続的な支援をする中ですすめる、出生届出時

図表 3-18 受診勧奨を行った機会(複数回答)(人口規模別)(問 2)

	母子手帳の交付	妊婦健診	産婦健診	1か月児健診	3～4か月児健診	6～7か月児健診	9～10か月児健診	妊婦訪問	産婦訪問	新生児訪問	乳児等の訪問指導	母親学級・両親学級	育児相談	その他	事業は特定できない・わからない	無回答
合計 (n=844)	37.6%	3.4%	2.0%	0.7%	32.9%	5.1%	10.1%	33.3%	55.3%	66.4%	60.4%	11.7%	54.6%	11.1%	3.2%	0.1%
1万人未満 (n=101)	17.8%	2.0%	0.0%	1.0%	7.9%	2.0%	6.9%	9.9%	30.7%	39.6%	35.6%	2.0%	31.7%	5.0%	3.0%	0.0%
1万人以上 (n=192)	23.4%	2.1%	1.0%	0.5%	24.5%	5.7%	9.4%	18.8%	44.3%	55.2%	43.8%	5.7%	41.1%	7.3%	4.2%	0.5%
3万人以上 (n=146)	32.2%	2.1%	2.1%	0.0%	32.9%	4.8%	10.3%	23.3%	48.6%	64.4%	55.5%	11.6%	50.0%	5.5%	3.4%	0.0%
5万人以上 (n=184)	42.9%	3.3%	0.5%	1.1%	42.9%	7.6%	12.5%	37.5%	61.4%	70.1%	68.5%	11.4%	59.2%	16.3%	1.6%	0.0%
10万人以上 (n=217)	58.5%	6.0%	4.6%	0.9%	43.8%	4.1%	10.1%	60.4%	76.0%	87.6%	83.9%	22.1%	77.0%	17.1%	2.8%	0.0%

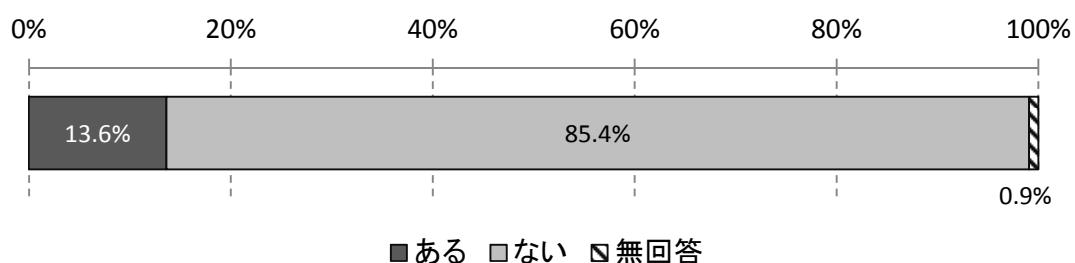
3. 妊産婦のメンタルヘルスに特化した事業

(1) 事業実施の有無

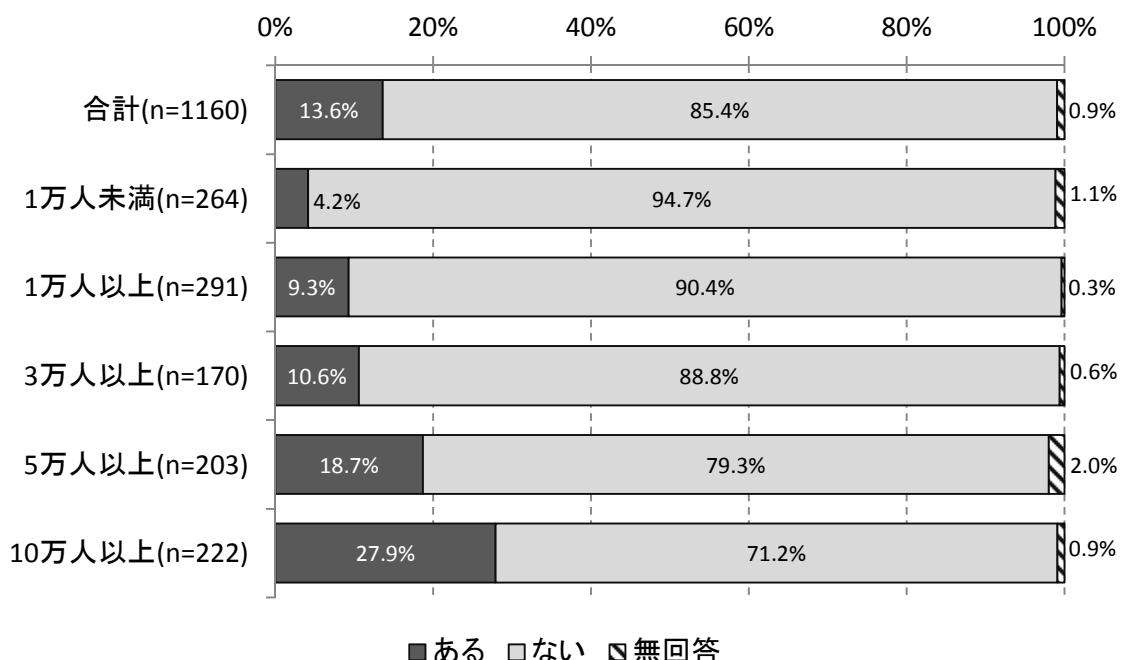
妊産婦のメンタルヘルスに特化した事業の有無についてたずねたところ、13.6%が「ある」と回答している。

人口規模別にみると、自治体規模が大きいほど、「ある」の割合は高まる傾向がみられ、人口規模1万人未満の場合の「ある」の割合は4.2%であるが、10万人以上では27.9%となっている。

図表3-19 メンタルヘルスに特化した事業の実施の有無(n=1,160)(問3)



図表3-20 メンタルヘルスに特化した事業の実施の有無(人口規模別)(問3)



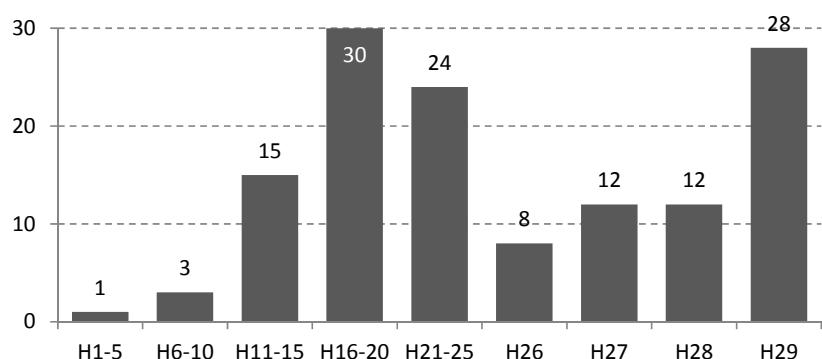
(2) 事業の概要

前設問において、妊産婦のメンタルヘルスに特化した事業を実施した事があると回答した 158 自治体について、その概要をたずねた。

① 開始年

158 自治体のうち、開始年について回答のあった 133 自治体についてみると、平成元年以降取組は徐々に増加しており、平成 29 年には 28 自治体が開始している。

図表 3-21 メンタルヘルスに特化した事業の開始年(n=133)(問 4)



注) 単位 : 自治体数

② 取組概要

158 自治体のうち、事業内容の紹介のあったものの代表的な取組を示す。調査票で例示した、妊産婦のメンタルヘルスケアを対象とした電話相談等の紹介はない一方で、妊産婦を対象としたカウンセリング、電話相談などの活動の中で、メンタルヘルスケアも重要な視点と位置づけられているという回答が多くみられた。

図表 3-22 事業概要(問3)

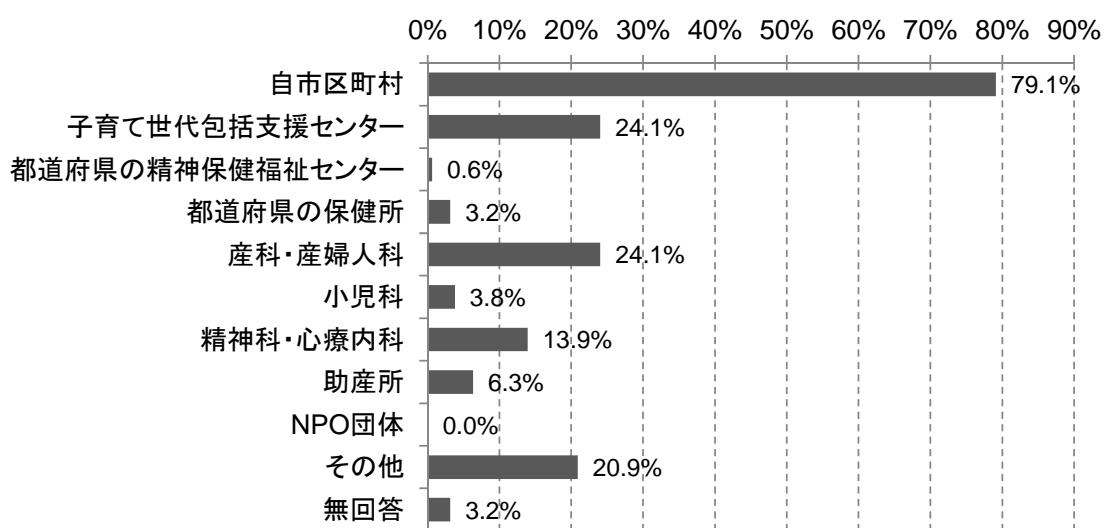
- ・乳幼児の虐待予防に重点を置いた親支援事業として、子育ての不安や負担感が強い親や、家族関係の問題を抱えている親子を対象にグループミーティングを実施。
- ・母親学級、乳幼児健康診査にて GHQ28 間診票により 7 点以上の母に対して聞き取り、必要に応じて事業案内をしている。カウンセラー、臨床心理士によるカウンセリングを実施。
- ・子育てに不安を感じている保護者に対して、小児科医師による専門相談の機会を提供し、メンタルヘルス不調の早期発見、早期ケアを推進。
- ・妊産婦、幼児を持つ母親と家族が、安全に子どもの成長を見守ることができる環境をつくるため、精神保健福祉士による相談を毎月 1 回実施する。
- ・産後うつ対策、乳児健康診査（集団）に来所した母親・父親と心理判定員との個別面接（全数）
- ・心理カウンセラーによる個別相談。対象は妊婦、産婦、乳幼児（就学前）を子育て中の保護者
- ・母親が自分の気持ちを語り、自身を振り返り安心感を持って育児が出来るようなグループケア
- ・出生後 2 週間～1 か月の間に、贈呈するギフトを選んでもらうため、電話連絡を行う。それにあわせて、産後気持ちが不安定になりやすい時期の支援として母子コーディネーターが電話での面談を行う。
- ・赤ちゃん訪問や乳幼児健康診査等で気になる母を対象に実施。臨床心理士による相談。

③ 事業の参加・協力機関

79.1%は「自市区町村」が加わっている。このほか、「子育て世代包括支援センター」と「産科・産婦人科」がそれぞれ24.1%である。小児科が3.8%、精神科・心療内科が13.9%であることからも、医療機関との連携については、産科・産婦人科が中心となっている様子がうかがえる。

また、助産所との連携は6.3%、NPOとの連携は、0%であった。

図表3-23 事業の参加・協力機関(複数回答)(n=158)(問3)



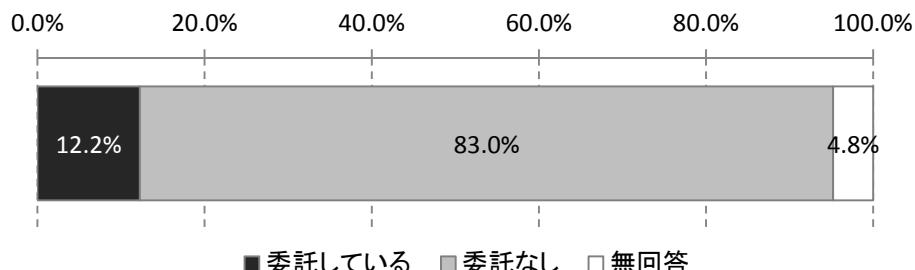
図表3-24 事業の参加・協力機関(その他の記載(抜粋))(問3)

- ・臨床心理士、心理療法士、心理カウンセラー、個人の心理職、心理相談員、心理士
- ・大学
- ・子育てボランティア団体
- ・県

④ 事業委託の有無

「委託している」が12.2%、「委託なし」が83.0%であった。

図表3-25 事業委託の有無(n=148)(問3)



注)158自治体のうち、10自治体は複数回答であったため除外した(事業毎に委託の有無が異なるなど)

4. 関係機関との連携体制

(1) 連携体制の有無と今後の意向

① 連携体制の有無

メンタルヘルスケアに係る関係機関との連携体制について、取組毎に把握した。

取組が「ある」と回答した割合の高いものとして、「2：医療機関（産科）との連携体制」が 80.3%、「5：都道府県や保健所との連携体制」が 55.9%で過半を占める。医療機関との連携に着目すると、小児科、精神科や心療内科に比べて、産科との連携が進んでいる。

また、「6：妊産婦のメンタルヘルスケアに関する勉強会・研修会」「7：妊産婦のメンタルヘルスケアに関する個別ケースの検討会」「8：妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関が集まる連絡会議」については、いずれも「ない」と回答した割合が高く、あると回答した割合は、各々 18.1%、28.8%、18.9%であった。「1：妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関の活動などの把握」も 25.3%と低水準である。

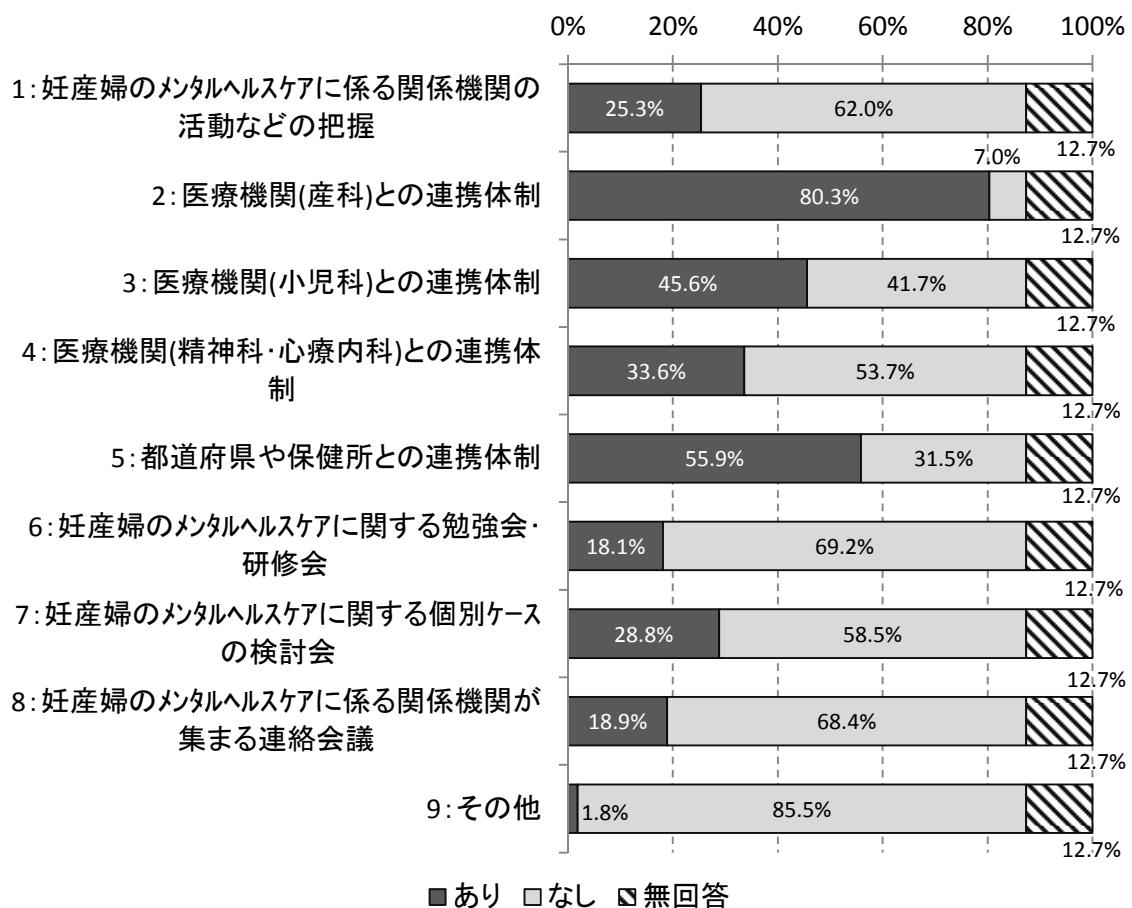
次に、それぞれの取組について、「ある」と回答した自治体を人口規模別にみたところ、「5：都道府県や保健所との連携体制」については、規模によらず 5～6 割程度となっている。

なかでも、医療機関との連携（「2：医療機関（産科）との連携体制」「3：医療機関（小児科）との連携体制」「4：医療機関（精神科・心療内科）との連携体制」）は、いずれも、人口規模が大きくなるほど連携体制が「ある」と回答した割合も高くなる傾向がみられる。

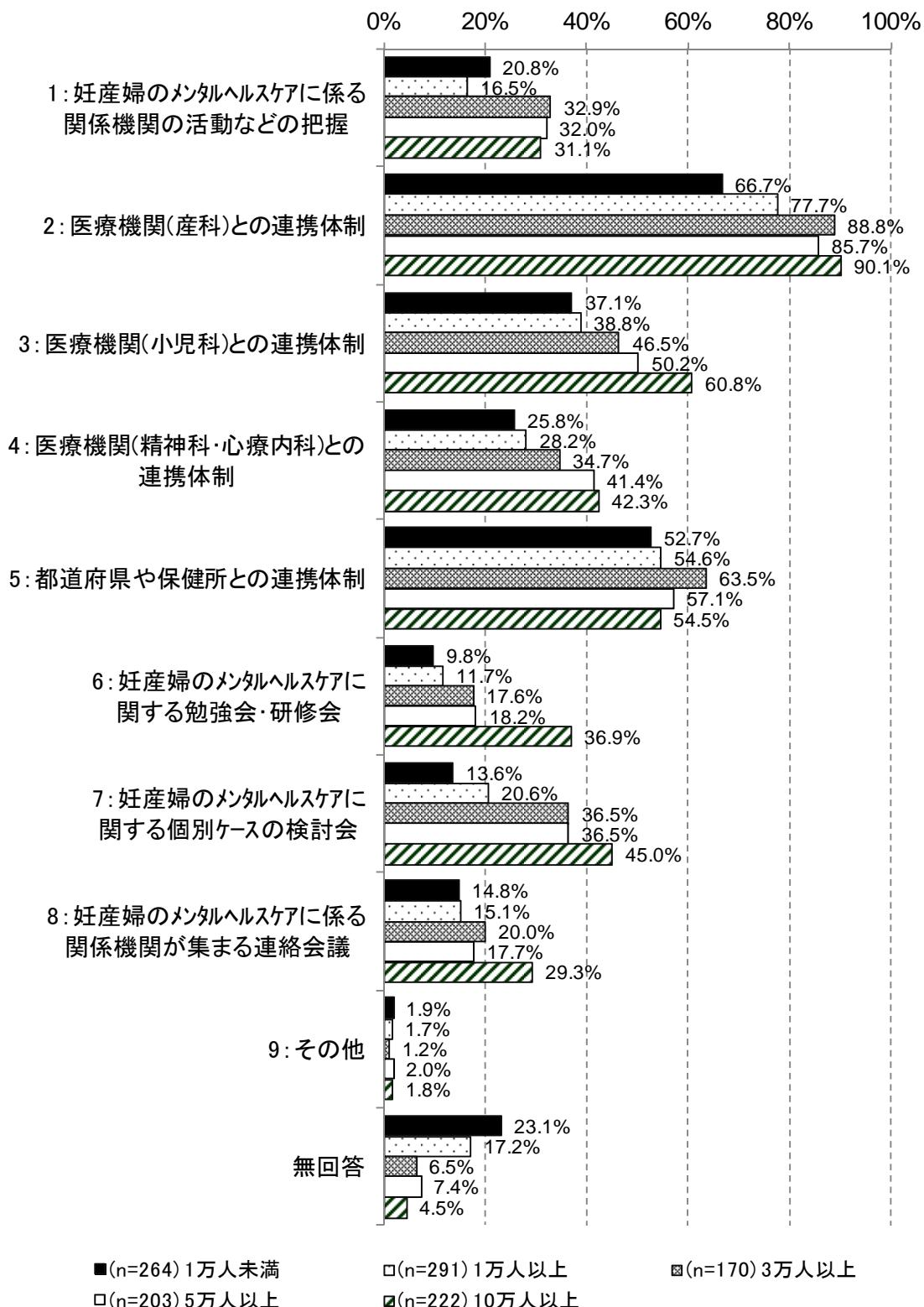
「2：医療機関（産科）との連携体制」については、全体の 80.3%が、連携体制が「ある」と回答している。「1 万人未満」の自治体では 66.7%であり、人口規模が大きくなると回答の割合が高まる傾向がみられ、「10 万人以上」では 90.1%となっている。

このほか、「6：妊産婦のメンタルヘルスケアに関する勉強会・研修会」「7：妊産婦のメンタルヘルスケアに関する個別ケースの検討会」「8：妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関が集まる連絡会議」についても同様の傾向がみられる。

図表 3-26 連携体制の有無(n=1,160)(問 4)



図表 3-27 連携体制があると回答した自治体(人口規模別)(問 4)



② 今後実施・強化したい連携

メンタルヘルスケアに係る関係機関との連携体制について、今後、実施・強化したい取組をたずね、前設問において把握した、現在の連携体制と、比較を行った。

全体として、前設問において、既に連携体制がある（グラフの「連携体制あり（既に実施している）」）との回答率が低かった取組ほど、今後実施・強化したいと回答する割合が高い傾向にある。

まず、医療機関との連携体制では、「4：医療機関（精神科・心療内科）との連携体制」をあげたものが 53.5% と最も高く、「3：医療機関（小児科）との連携体制」が 39.8% とこれに続く。一方、既に現在、連携体制が「ある」と回答した割合が高かった「2：医療機関（産科）との連携体制」については、29.3% であった。

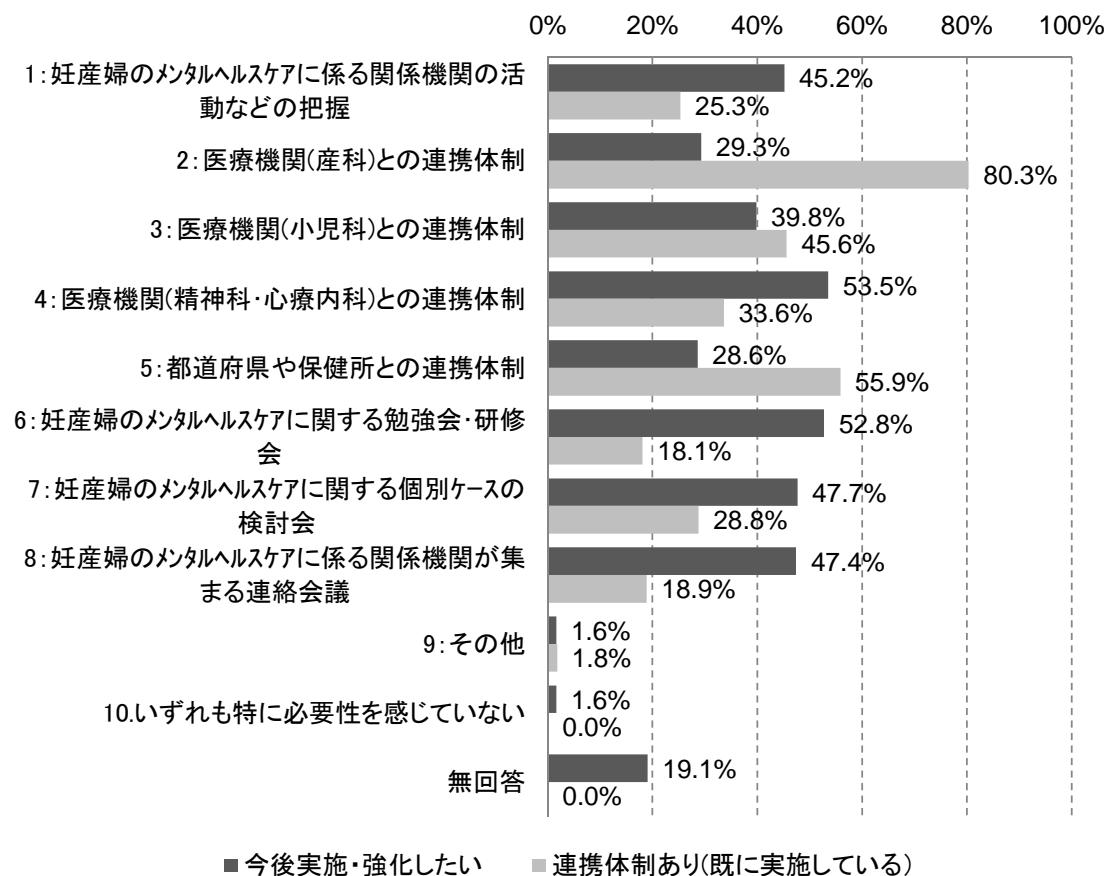
このほか、「6：妊産婦のメンタルヘルスケアに関する勉強会・研修会」「7：妊産婦のメンタルヘルスケアに関する個別ケースの検討会」「8：妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関が集まる連絡会議」については、いずれも現時点での取組が「ある」自治体は 2～3 割程度であったが、今後については、いずれも 5 割程度の自治体が「今後実施・強化したい」と回答している。

なお、「10. いずれも特に必要性を感じていない」と回答した割合は 1.6% であった。

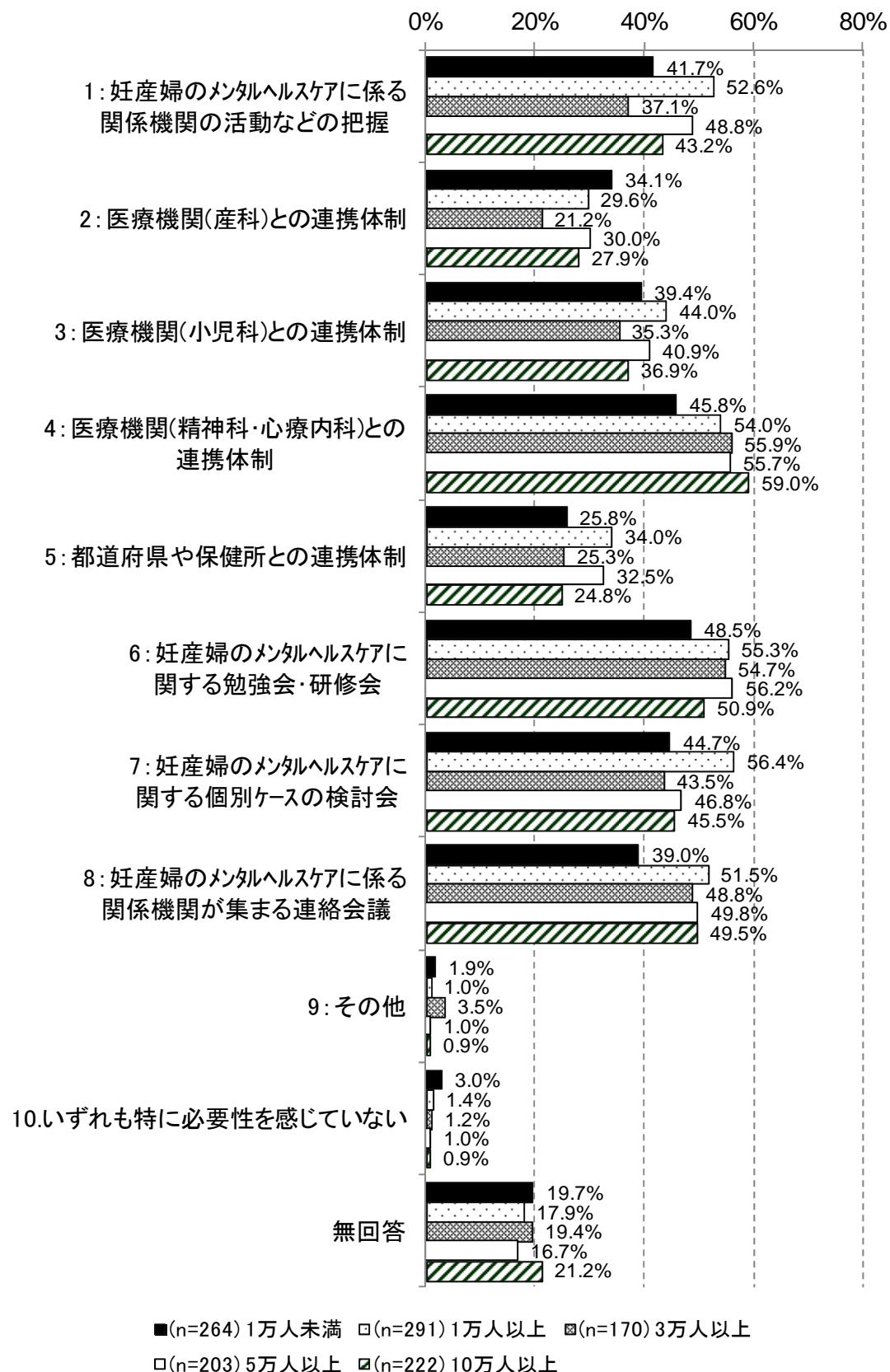
次に、それぞれの取組について、「実施・強化したい」と回答した自治体を人口規模別にみたところ、医療機関との連携のうち、「2：医療機関（産科）との連携体制」「3：医療機関（小児科）との連携体制」については、小規模な自治体ほど「実施・強化したい」との回答が高まる傾向がややみられる一方で、「4：医療機関（精神科・心療内科）との連携体制」については、人口規模が大きな自治体であっても「実施・強化したい」割合が比較的高い。

その他の項目については、人口規模によらず「実施・強化したい」割合は人口規模との強い関係性が見られないものの、「人口 1 万人以上 3 万人未満」については、「3：医療機関（小児科）との連携体制」のほか、「7：妊産婦のメンタルヘルスケアに関する個別ケースの検討会」「8：妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関が集まる連絡会議」において、「実施・強化したい」と回答する割合が他の人口規模と比べて高い傾向がみられる。

図表 3-28 今後実施・強化したい連携(n=1,160)(問4)



図表 3-29 今後実施・強化したい連携(複数回答)(人口規模別)(問 4)



(2) 連携体制『医療機関との連携』

前設問の連携体制のうち、医療機関との連携体制を有すると回答した自治体の特徴を把握した。「2：医療機関(産科)との連携体制」「3：医療機関(小児科)との連携体制」「4：医療機関(精神科・心療内科)との連携体制」のいずれかについて「あり」と回答した自治体。

回答のあった 1160 自治体のうち、22.8% (265 自治体) は 3 種の診療科(産科、小児科、精神科・心療内科)すべてと連携している。

また、26.4% (306 自治体) は 2 種の診療科との連携があると回答している。このうち、220 自治体は、産科と小児科、また 84 自治体は産科と心療内科との連携であり、産科が連携の中心となっている。

このほか、1 種の診療科との連携があると回答した割合は、31.0% (360 自治体) であり、うち 348 自治体は産科との連携となっている。

図表 3-30: 医療機関との連携体制について(診療科別)

連携状況		自治体数	構成比
3 種の診療科すべてと連携体制がある		265	22.8%
2 種の診療科との連携体制がある	合計	306	26.4%
	産科と小児科	220	19.0%
	産科と心療内科	84	7.2%
	小児科と心療内科	2	0.2%
1 種の診療科との連携体制がある	合計	360	31.0%
	産科のみ	348	22.9%
	心療内科のみ	6	0.4%
	小児科のみ	6	0.4%
医療機関との連携なし		57	4.9%
無回答		172	14.8%
合計		1,160	100.0%

(3) 連携体制『妊産婦のメンタルヘルスケアに関する勉強会・研修会』

前設問の連携体制のうち、「6：妊産婦のメンタルヘルスケアに関する勉強会・研修会」について、「ある」と回答した210自治体について、その概要をたずねた。

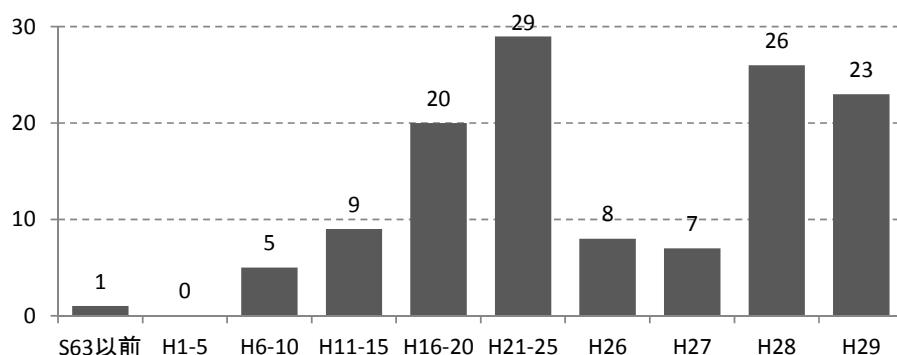
① 開始年

開始年については、210自治体中193自治体の記入が得られた。

昭和63年以前に活動を開始した自治体は1件で、次に平成6～10年には5件、平成11～15年には9件、平成16～20年には20件、平成20～25年には29件と、平成に入り、徐々に活動する自治体が増えていく様子がうかがえる。

平成26年以降について1年単位でみると、平成28年と平成29年が20自治体をこえている。

図表3-31 開始年(n=193)(問4)



注) 単位:自治体数

② 取組概要

事業内容の紹介のあったもののうち、代表例を次に示す。

図表3-32 取組概要

- 勉強会（講師を招聘し、テーマとして妊産婦のメンタルヘルスケアも取り上げるケース）
 - ・虐待やDVなどの被害を受けるなどして、関わりが難しいケースの理解や関わり方、ケース会議の進め方について学ぶ。こころのケアセンターを通じて講師を派遣して頂いている。
 - ・産科・小児科・保健所・市町村・子育て支援団体が集まる連絡会議を月1回実施。個別のケースの情報交換及び対応の協議。月1回の研修会のうち、テーマとして取り扱うこともある。
 - ・管内保健所と市町村、医療機関が年に1回集まって情報交換したり、大学病院の医師の講演会を開催して勉強会を実施。妊産婦のメンタルヘルスケアについて事例検討という形で実施。
- 研修会・グループワークなど
 - ・市内及び隣市の市民病院の産科医師及び助産師、精神科医を講師に招き、産後相談事業の相談内容やEPDS、支援内容等をまとめ、効果について検討。事例検討を行う中で、精神科医から専門的な視点からの気づきや助言を受けたり、EPDSの質問項目と点数の捉え方について指導を受けた。精神科医との連携や母子支援のスキルアップと連携の強化が図られた
 - ・医師または心理職を講師に招き、親支援事業の理解を深め保健師個々の個別支援、グループ支援のスキルを向上させるための研修を実施

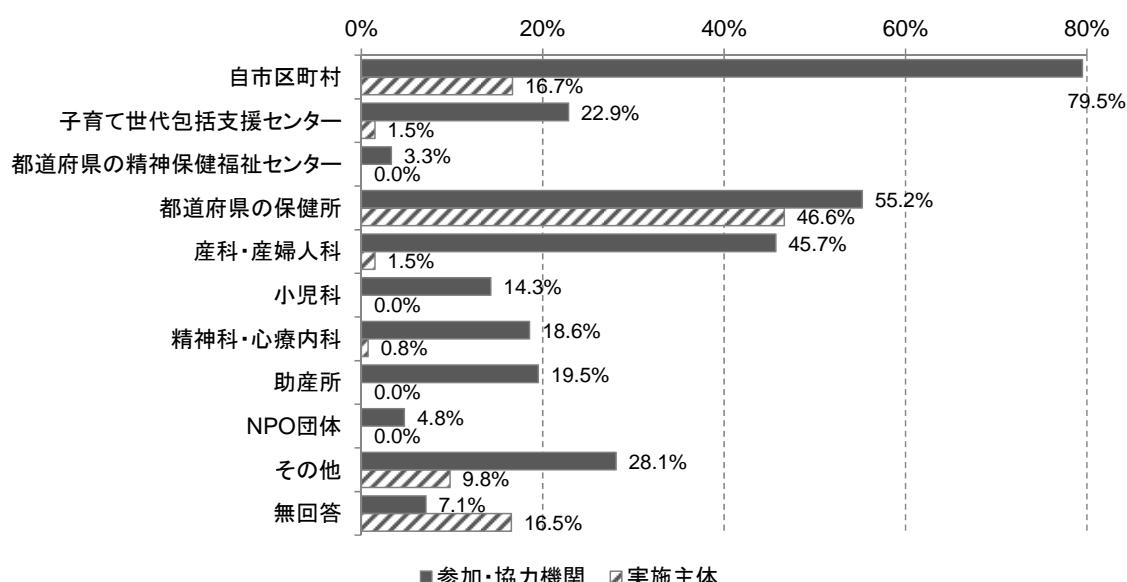
③ 参加・協力機関と実施主体

参加・協力機関についてみると（複数回答）、「自市区町村」が最も多く 79.5%であった。また「都道府県の保健所」が 55.2%、「産科・産婦人科」が 45.7%とこれに続く。さらに、「精神科・心療内科」「助産所」はそれぞれ 2割程度が参加・協力していた。

その他としては、児童相談所との連携についてあげる自治体が多くみられた。そのほか、養護教諭などの教育関係や、救急や消防関係等もあげられている。また、地理的範囲として、隣接自治体や管内市町村をあげる自治体も数件みられた。

次に、上記活動の実施主体についてみると（上記参加・協力機関のなかであてはまるもの 1つを選択）、46.6%が「都道府県の保健所」と回答しており、「自市区町村」（16.7%）と続き、自治体が中心となっている様子がうかがえる。

図表 3-33 勉強会・研修会の参加・協力機関と実施主体（複数回答）(n=210) (問 4)



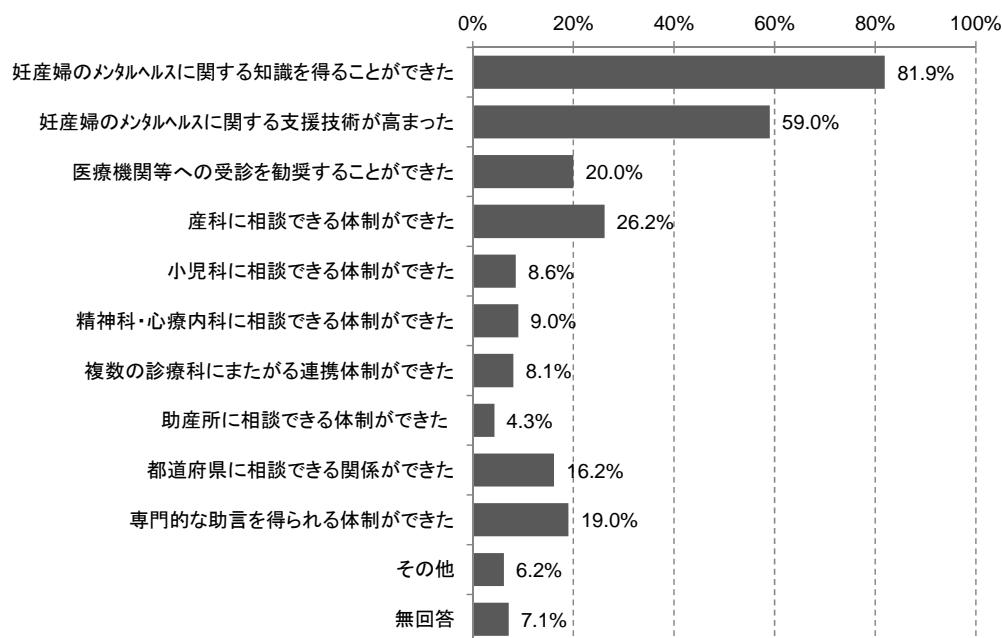
図表 3-34 勉強会・研究会の参加・協力機関（その他の記載（抜粋））(問4)

- ・児童相談所
- ・救急・消防関係
- ・母子保健活動に従事している保健師や助産師の任意団体
- ・ヘルパー事業所、子育て支援センター、ファミリーサポートセンター
- ・民生委員
- ・養護教諭
- ・大学
- ・隣接する自治体、管内の他市町村

④ 活動の効果

勉強会・研修会の効果については、81.9%が「妊産婦のメンタルヘルスに関する知識を得ることができた」ことをあげている。また、59.0%が、「妊産婦のメンタルヘルスに関する支援技術が高まった」と評価している。このほかに、26.2%は「産科に相談できる体制ができた」と、医療機関との連携を評価している。

図表 3-35 勉強会・研修会による連携効果(複数回答)(n=210)(問 4)



図表 3-36 勉強会・研修会による連携効果(その他の記載(抜粋))(問 4)

- ・年 1 回でも会議を持ち、情報交換などをすることで、何かあった時の相談とその受入れがで
き、交流が出来る。
- ・他機関の従事者の意見が聞くことができた。
- ・助言はうけられるが医療機関への広がりは少ない。
- ・関係機関の担当者と会うことができた。
- ・相談機関の情報
- ・父親の産後うつの知識獲得
- ・多職種との連携や知識の共有

(4) 連携体制『妊産婦のメンタルヘルスケアに関する個別ケースの検討会』

前設問の連携体制のうち、「7：妊産婦のメンタルヘルスケアに関する個別ケースの検討会」について、「ある」と回答した 334 自治体について、その概要をたずねた。

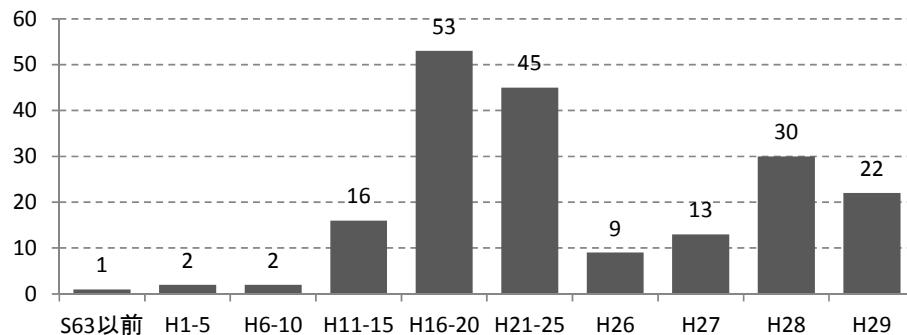
① 開始年

開始年については、334 自治体中 193 自治体の記入があった。

昭和 63 年以前に活動を開始した自治体は 1 件で、平成 1～5 年には 2 件、平成 6～10 年には 2 件、平成 11～15 年には 16 件、平成 16～20 年には 53 件、平成 21～25 年には 45 件と平成 16 年頃より、大きく伸びている。

平成 26 年以降について 1 年単位でみると、平成 28 年が 30 件、平成 29 年が 22 件となっている。

図表 3-37 開始年(n=193)(問 4)



注) 単位：自治体数

② 取組概要

事業内容の紹介のあったもののうち、代表例を次に示す。

図表 3-38 取組概要

- 全員に実施している新生児訪問後、①EPDS の合計点が 9 点以上②EPDS の「項目 10」が 1 点以上③産後の気分変調が続いている④その他必要と認められる場合、に個別ケースの検討会を実施し、2 回目以降の支援計画について確認する。
- 妊娠中、産後の関わりの中で把握したメンタル不調者または産科等からの情報提供者について課内全保健師で情報を共有し、今後の対応を検討。課を超えた支援が必要なケースは要保護児童対策地域協議会担当課につなぎ、必要に応じ、児童相談所や医療機関等との連携開始。
- ケース検討会議として、退院時、精神科で治療中の場合は、病院、助産師から情報提供いただき、病院で退院後の支援について検討する。
- 定例（月 1 回）及び緊急性のある事例は隨時開催。市町村、医療機関それぞれが把握した養育力が不十分な恐れや産後うつを発症する恐れ等のある妊産婦について、母子支援検討会で情報共有と支援を検討する。支援結果について 6 か月後に評価。
- 母子保健事業の中で、精神的な不調がある妊産婦の支援をしている。子ども家庭支援センターに情報提供し、特定妊婦としてケース検討会。

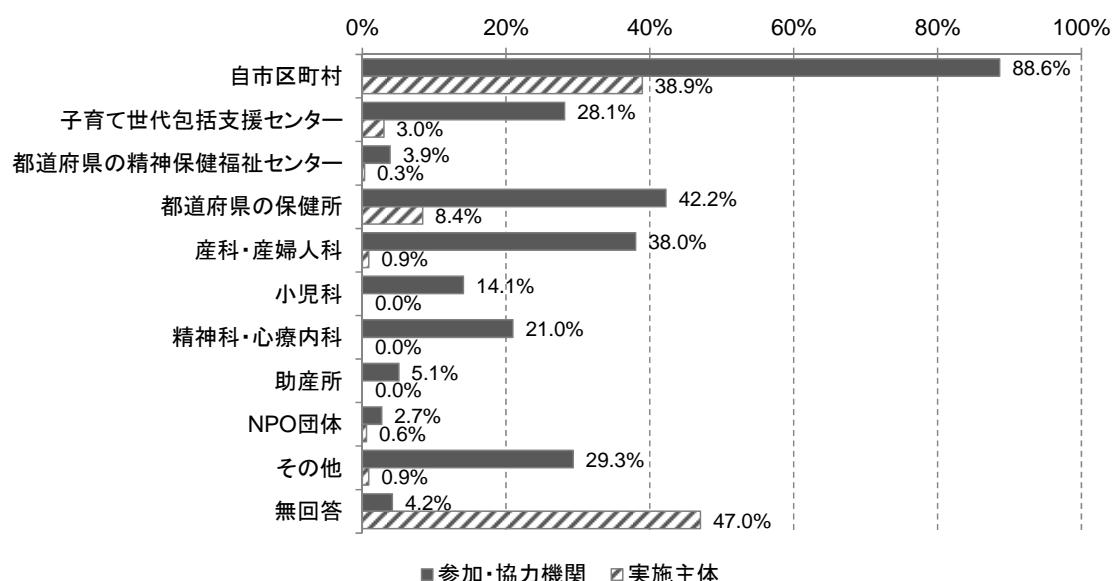
③ 参加・協力機関と実施主体

参加・協力機関についてみると（複数回答）、「自市区町村」が最も多く 88.6%であった。また「都道府県の保健所」が 42.2%、「産科・産婦人科」が 38.0%とこれに続く。また、「精神科・心療内科」が 21.0%、小児科は 14.1%であった。

その他としては、児童相談所との連携についてあげる自治体が多くみられたほか、警察などがあげられた。このほかに、社会福祉協議会や、訪問看護ステーションなどが示された。また、地理的範囲として、隣接自治体をあげる自治体も数件みられた。

次に、実施主体についてみると（上記参加・協力機関のなかであてはまるもの 1 つを選択）、「自市区町村」が 38.9%となっており、勉強会・研修会と比べて基礎自治体が中心的役割をはたしている様子がうかがえる。

図表 3-39 個別ケースの検討会の参加・協力機関と実施主体(複数回答)(n=334)(問 4)



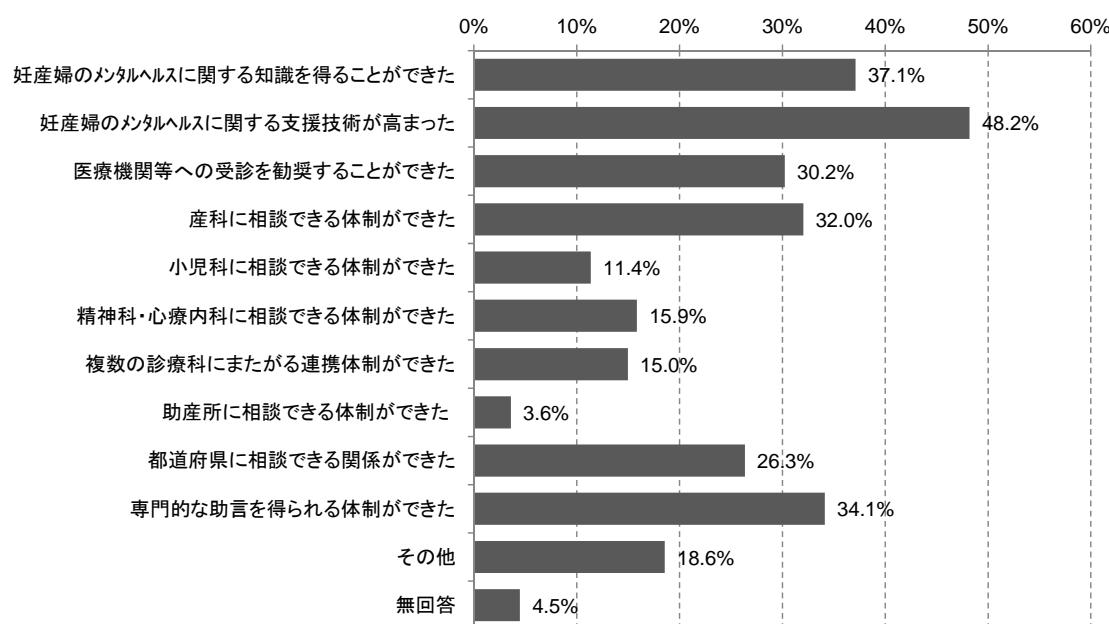
図表 3-40 個別ケースの検討会の参加・協力機関(その他の記載(抜粋))(問4)

- ・児童相談所、児童相談員、家庭児童相談室
- ・警察
- ・大学の教授等
- ・臨床心理士
- ・社会福祉協議会
- ・保育園
- ・助産院、助産所
- ・訪問看護ステーション
- ・隣接する自治体、管内の他市町村

④ 活動の効果

個別ケースの検討会の効果については、「妊産婦のメンタルヘルスに関する支援技術が高まった(48.2%)」ことが最も高い。さらに「妊産婦のメンタルヘルスに関する知識を得ることができた(37.1%)」「専門的な助言を得られる体制が出来た(34.1%)」「産科に相談する体制ができた(32.0%)」「医療機関等への受診を勧奨することができた(30.2%)」がこれに続いており、医療機関を中心とした専門的な対応体制の構築や、それによる受診勧奨等に結びついた点が評価されている。

図表 3-41 個別ケースの検討会による連携効果(複数回答)(n=334)(問 4)



図表 3-42 個別ケースの検討会による連携効果(その他の記載(抜粋))(問 4)

(情報の共有、多角的な視点の醸成)

- ・対応の共有が出来た、情報の共有が出来た。
- ・視点が広がり、より多くの情報が得られた。
- ・多角的な視点でケースの支援方法を検討する機会が出来た。

(連携の円滑化、多職種連携の実現)

- ・課同士の連携がスムーズになった。
- ・複数の支援者が連携し、見守り、支援体制の強化につながった。
- ・情報共有・多職種によるアプローチが可能

(支援の方向性の確認・共有、役割分担の明確化)

- ・支援の方向性を確認することが出来た、今後の支援の方向性が明らかになった。
- ・それぞれの機関が課題を共有し、支援の方向性を共有できる。
- ・関係機関における役割分担の明確化、対象者への関わりの方向性の統一が取れた。

(ケースへの理解)

- ・個別ケースの対応に必要な体制や支援の方向性を確認できる場となっている。
- ・ケースを知り、支援方法を学びほかのケースへの支援に役立てることが出来た。
- ・エリア内の事例について把握でき、対応について検討できる。

(様式の確認・計画策定等)

- ・共通のスクリーニング様式を共有出来た、アセスメントの方法が理解出来た。
- ・ケースの支援計画立案、ケースの共有、関係機関との連携

(その他)

- ・地域に必要な資源について話し合うことが出来る（施策化）
- ・保健師の気持ちの整理
- ・病院と相談できる、支援方法の確認、医療機関との連携の大切さを再認識した。

（5）連携体制『妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関が集まる連絡会議』

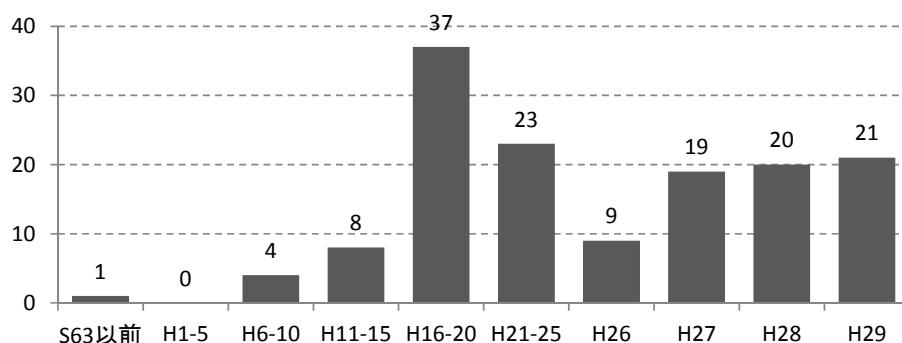
前設問の連携体制のうち、「8：妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関が集まる連絡会議」について、「ある」と回答した 219 自治体について、その概要をたずねた。

① 開始年

開始年については、219 自治体中 142 自治体の記入があった。

連絡会議については、平成 16～20 年に 37 自治体となっており、それまでよりも増加している。平成 27、28、29 年にはそれぞれ 20 自治体前後が取組を開始している。

図表 3-43 開始年(n=142)(問 4)



注) 単位：自治体数

② 取組概要

事業内容の紹介のあったもののうち人口規模別に具体的な記載のあった代表例を示す。

図表 3-44 取組概要

- 市内の産科のある病院、助産院、市外の近隣の産科のある病院、県立こども医療センター、こども健康課、保健福祉センター、こども青少年支援課で情報共有し、連携を図るために年 1 回周産期連絡会を開催している。
- 要支援妊産婦支援会議。保健所管内の医療機関・助産所・行政機関が集まり、定期的に会議を実施。
- 年 4 回、県内当該地域内の、県・市町・産科医療機関等の母子保健分野の関係者が、母子保健の情報交換、研修会の開催、事例検討等を行い、周産期の支援についてのスキルアップ、各関係機関との連携を深めている。
- 妊産婦メンタルサポートの事例検討会及び広域連携連絡会議にて、精神科医師の助言を受けたり他自治体、医療機関との情報交換が可能
- 年 1 回、保健所と市町村、産科医療機関連携推進会議を実施。今後、どのようなことで連携すべきか、そのために何をまずすべきか、等を議題に会議を実施。市町村と医療機関で 1 つずつくらい事例を出し、連携の良好例や課題を話し合う。現在年 1 回だが、互いに相談しやすい関係づくりに非常に役立っている。

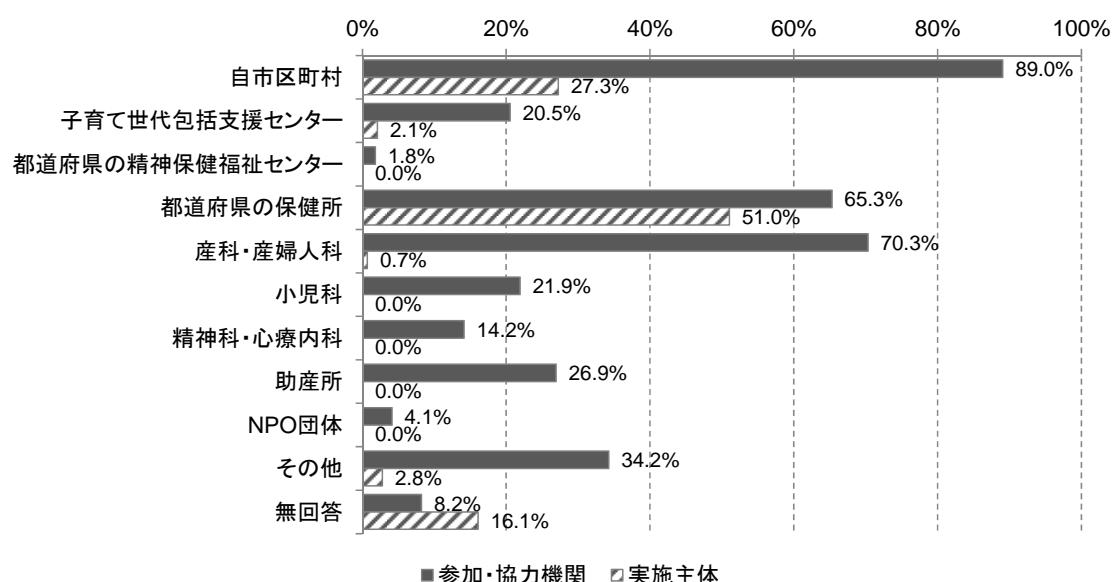
③ 参加・協力機関と実施主体

参加・協力機関についてみると（複数回答）、「自市区町村」が最も多く 89.0% であった。また「産科・産婦人科」が 70.3% 「都道府県の保健所」が 65.3% であった。また、「助産所」が 26.9%、「小児科」が 21.9%、「精神科・心療内科」が 14.2% と、産科・婦人科、助産所、小児科等の参加比率が、前出の 2 連携と比べて高い。

また、その他としては、児童相談所との連携についてあげる自治体が多くみられたほか、警察、社会福祉協議会などがあげられている。また、まちづくり団体など、民間の団体等も複数参加している。地理的範囲として、隣接自治体をあげる自治体も数件みられた。

次に、実施主体についてみると（上記参加・協力機関のなかであてはまるもの 1 つを選択）、51.0% が「都道府県の保健所」と回答しており、勉強会・研修会と同様に、都道府県の保健所が中心的役割を果たしている。

図表 3-45 関係機関間の連絡会議の参加・協力機関と実施主体(複数回答)(n=219)(問 4)



図表 3-46 関係機関間の連絡会議の参加・協力機関(その他の記載(抜粋))(問4)

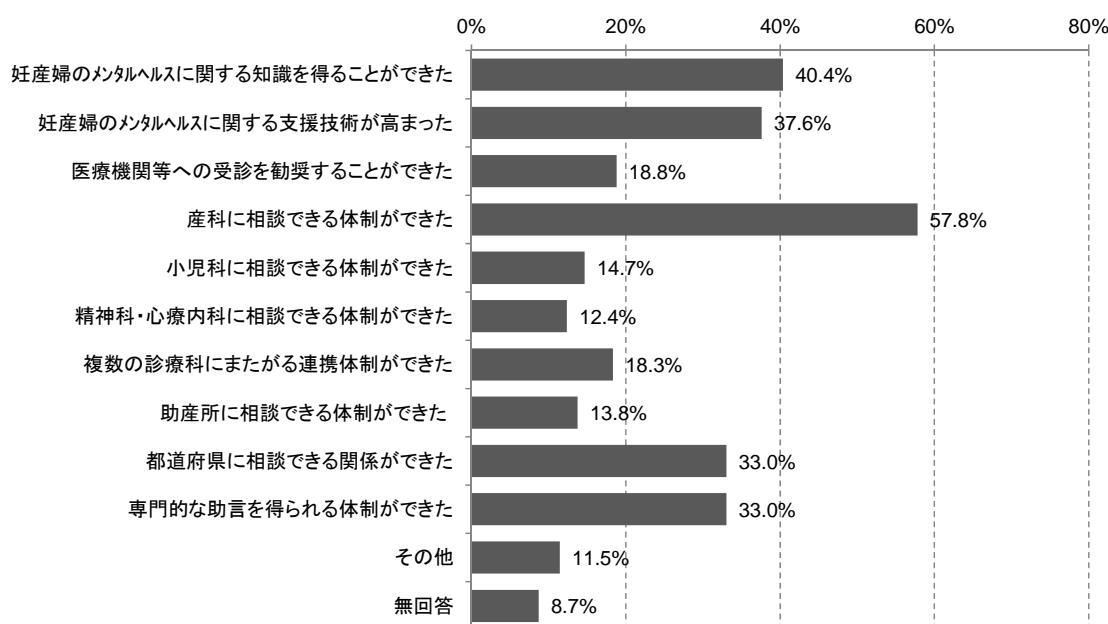
- ・児童相談所、家庭児童相談室
- ・警察
- ・社会福祉協議会、民生委員、自死遺族の会、まちづくり協議会連合会、商工会議所、司法書士会、ハローワーク、いのちの電話、警察署、市民
- ・医療機関のソーシャルワーカー
- ・隣接する自治体、管内の他市町村

④ 活動の効果

関係機関間の連絡会議の効果については、57.8%が「産科に相談する体制ができた」ことを評価している。このほか、「妊産婦のメンタルヘルスに関する知識を得ることができた(40.4%)」「妊産婦のメンタルヘルスに関する支援技術が高まった(37.6%)」ことも約4割が評価している。

「専門的な助言を得られる体制が出来た」「都道府県（本庁、精神保健福祉センター、保健所等）に相談できる関係ができた」も3割が評価している。

図表 3-47 関係機関間の連絡会議による連携効果(複数回答)(n=219)(問4)



図表 3-48 関係機関間の連絡会議による連携効果(その他の記載(抜粋))(問4)

(顔の見える関係の構築、連携強化)

- ・顔の見える関係となり、日頃の連携がスムーズになった。
- ・最新情報や今後の取組みについて直接伝えることができ、相談依頼等が円滑にできる。
- ・関係機関の中で情報共有と各機関の役割分担、今後の動きについて確認できた。
- ・他課との連携強化
- ・見守り、支援体制の強化
- ・連携体制の整備につながった。
- ・近隣市町村との連携がしやすくなった。

(地域の実情についての理解・共有)

- ・管内の母子保健状況が分かる。
- ・地域の状況を把握することが出来た。(県内でも支援が必要な妊産婦が多いなど)
- ・地域で暮らすケースの把握が出来、見守り体制が深まった。
- ・各施設の現状を知る機会となった。
- ・他の市町村でどのように事業を進めているかの情報が得られる。

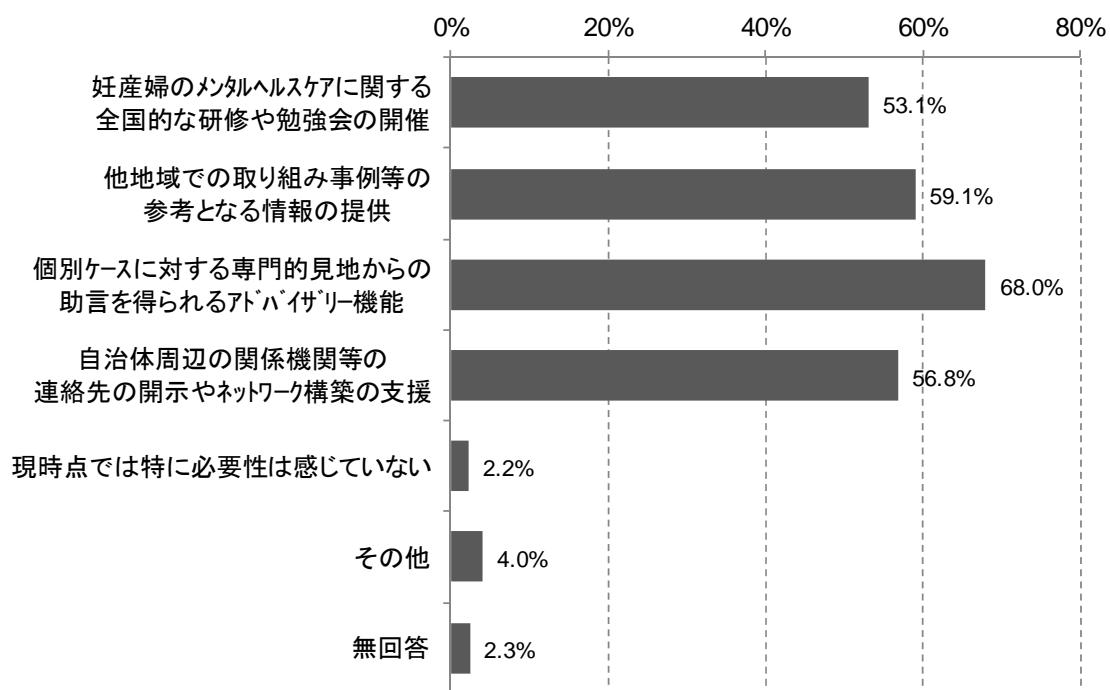
勉強会・研修会、個別ケースの検討会、関係機関間の連絡会議の効果をまとめると、まず、勉強会や研修会の効果として、「妊産婦のメンタルヘルスに関する知識を得ることができた」「妊産婦のメンタルヘルスに関する支援技術が高まったこと」が高く評価されている。これに対して、個別ケースの検討会は、突出して高くはないが、医療機関等への受診を勧奨することができたことや、専門的な助言を得られる体制が出来た点が評価されている。関係機関間の連絡会議に関しては、産科に相談できる体制ができたことを評価する割合が高い。現時点では、医療機関との連携が産科中心であることが、精神科・心療内科や小児科に対しても、関係機関の連絡会議等が体制構築に寄与する可能性がうかがえる。

5. メンタルヘルスケアの取組を進めていく上で必要な支援

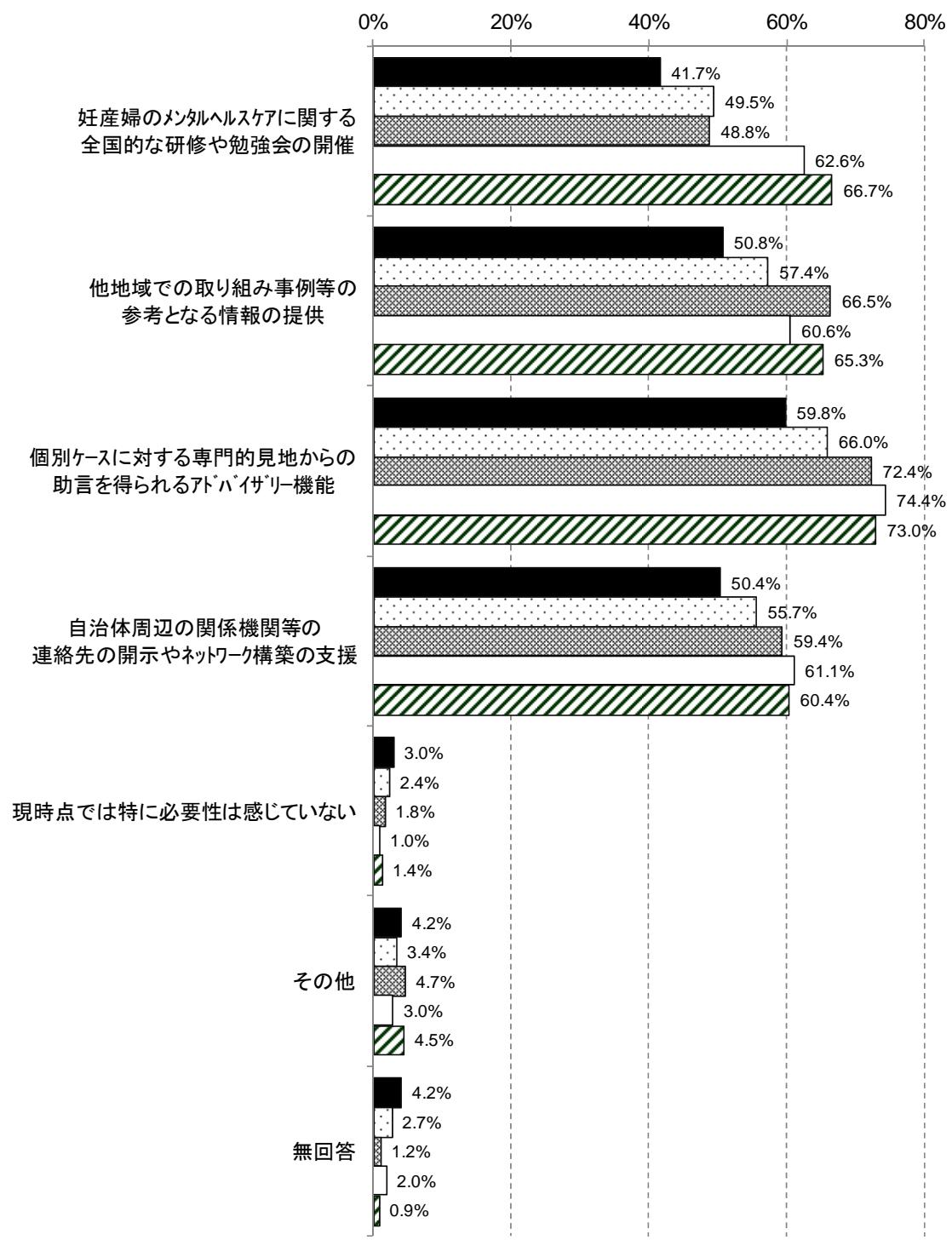
メンタルヘルスケアの取組を進めていく上で必要な支援については、「個別ケースに対する専門的見地からの助言を得られるアドバイザリー機能」が 68.0%、「他地域での取り組み事例等の参考となる情報の提供」が 59.1%であった。

人口規模別にみると、全体的に、人口規模が大きな自治体ほど、それぞれの支援を必要と考える割合も高くなっている。

図表 3-49 取組推進に必要な支援(複数回答)(n=1,160)(問 5)



図表 3-50 取組推進に必要な支援(複数回答)(人口規模別)(問 5)



■(n=264) 1万人未満 □(n=291) 1万人以上 ▨(n=170) 3万人以上 ▨(n=203) 5万人以上 ▨(n=222) 10万人以上

図表 3-51 取組推進に必要な支援(その他の記載(抜粋))(問 5)

(研修会)

- ・地域の特性を加味した研修会

(支援計画の標準化)

- ・標準的な支援計画

(圏域内連携の促進、県単位での連携の促進)

- ・小さな町村、出生数の少ないところは支援する事例が少なく、支援体制等、とりにくい場合もあるので圏域内の連携や支援体制がとれるといいのではないかと思う。
- ・県単位での、支援者の力量形成のための研修会、産前・産後サポート事業や、子育て世代包括支援センター職員など新たな、職責の者に対する研修の機会が必要。

(マンパワー不足への対応)

- ・小規模町村では、専門職や専門機関が少なく対応が困難なことも多い。県などで、マンパワーの支援をいただけるとよい。
- ・自治体保健師の増加や病院スタッフの充実。
- ・必要なケアを提供するサービス実施機関（受け皿があればいい）
- ・新規事業にとりくむのであれば、既存事業の整理を行わなければ、マンパワー不足が生じる。

(医療機関等の社会資源不足への対応)

- ・医療機関のない地域の活動等についての情報
- ・社会資源に乏しきすぎ、つなぐ先もない。丁寧なかかわりしかない。
- ・精神科の医療機関が 1 か所（無床）のため、メンタルヘルスケアは困難。まずは基盤整備
- ・妊産婦のメンタルヘルスケアの相談受け入れ医療機関の充実に向けた支援
- ・メンタル支援が必要な妊産婦を受け入れる産科の増設
- ・妊産婦の受入可能な精神科医療機関の情報提供・積極支援を促す仕組み、精神科との連携構築
- ・身边に妊産婦の精神疾患等について受診できる医療機関
- ・産科と精神科の連携
- ・妊産婦自身への周知（メンタルヘルスのこと、相談窓口など）
- ・土、日、夜間なども含む緊急時の精神科の相談、受診等の体制づくり
- ・精神科との連携のとりやすい仕組み（連絡をしても、時間がない、本人の了解を得ているのか、と言われることも多い。ただし、これは減少している）

(広域連携)

- ・他市町が産婦健康診査を実施できるよう体制整備、医療機関への周知連携依頼。
- ・都道府県単位の研修
- ・離島のため、必要とあればすぐに専門家が来島してくれる体制
- ・精神科医との連携体制の構築（県のサポートがほしい）
- ・近隣の医療機関、相談機関の充実。専門職の充実。

(専門機関・専門医)

- ・専門機関が少ない場合の助言を求められる相談機関を各県毎に作ってほしい
- ・専門医、専門的人材の確保

(理解深度化、知識獲得)

- ・今あるような保健所が実施している勉強会や事例検討をひきつづきおねがいしたい
- ・産後うつ等に関する知識の啓発、普及

第3節 都道府県アンケート結果

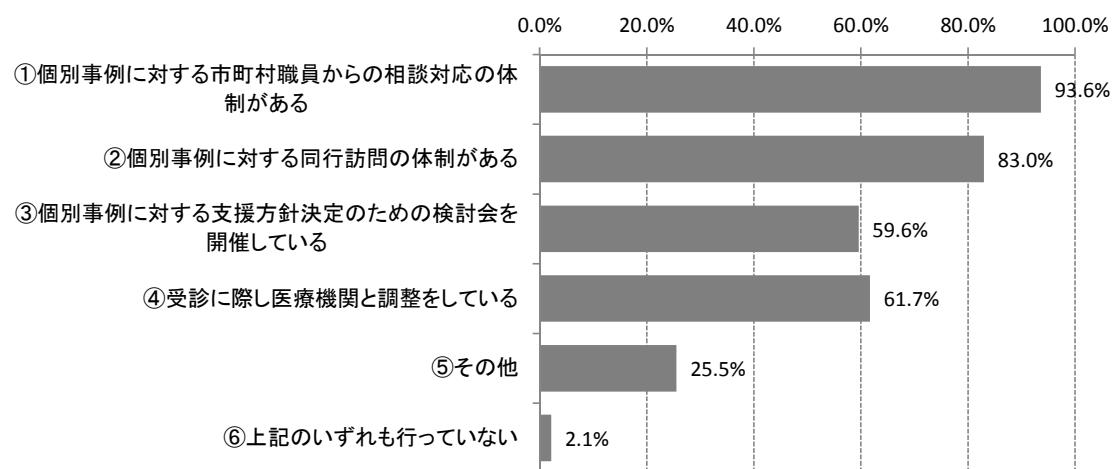
1. 市区町村が行う妊産婦のメンタルヘルスケアに対する支援

(1) 都道府県型保健所の取組

① 個別支援に関する取組

「個別事例に対する市町村職員からの相談対応の体制がある」と回答した都道府県は93.6% (44件)、「個別事例に対する同行訪問の体制がある」は83.0% (39件)、「受診に際し医療機関と調整をしている」は61.7% (29件)、「個別事例に対する支援方針決定のための検討会を開催している」は59.6% (28件)であった。

図表 3-52 「個別支援」に関する取組(n=47, 複数回答)



図表 3-53 その他の記載(抜粋)

(市町村からの求めに応じた対応)

- ・市町村からの求めがあった場合に実施
- ・市町同行訪問、検討会等は体制化されておらず必要時支援
- ・市町村や医療機関からの相談により、必要に応じて検討会に参加するほか、同行訪問、関係機関調整等を行っている。
- ・従来より市町村からの個別相談には対応している
- ・市町村主催の個別事例に対する検討会に出席
- ・体制の確立はないが要望があれば上記①～④について対応

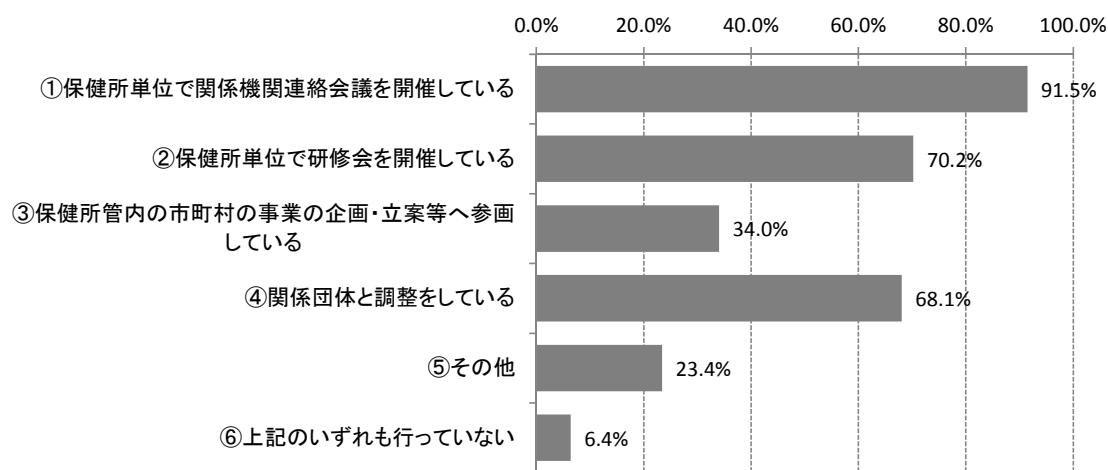
(相談の実施)

- ・保健所において精神科医等による産後うつ相談を実施。
- ・女性相談員による相談
- ・家庭児童相談員による支援、女性相談、他課の精神保健福祉相談
- ・保健所の精神保健相談で精神科医の相談にうけることができる。
- ・妊産婦を対象とした臨床心理士による心の相談
- ・産後うつを含め、育児不安のある妊産婦対象にグループケア、個別相談による支援

② 組織体制に関する取組

「保健所単位で関係機関連絡会議を開催している」と回答した都道府県は 91.5% (43 件)、「保健所単位で研修会を開催している」は 70.2% (33 件)、「関係団体と調整をしている」は 68.1% (32 件) であった。「保健所管内の市町村の事業の企画・立案等へ参画している」は 34.0% (16 件) であった。

図表 3-54 「組織体制」に関する取組(n=47, 複数回答)



図表 3-55 その他の記載(抜粋)

(虐待予防の観点からの取組)

- ・メンタルヘルスケアに特化はしていないが、妊産婦支援についての関係機関との連絡調整会議を実施。必要に応じて市町村の企画立案への参加や関係団体の調整を行っている。
- ・メンタルヘルスに限らず、周産期からの虐待予防事業として行っている。
- ・養育支援連絡票（医療機関との虐待予防ツール）の活用
- ・管内市町の要保護児童対策協議会への出席
- ・虐待未然防止に係る連携会議や研修・事例検討の中で、ハイリスク妊産婦支援を実施

(連絡調整会議の実施)

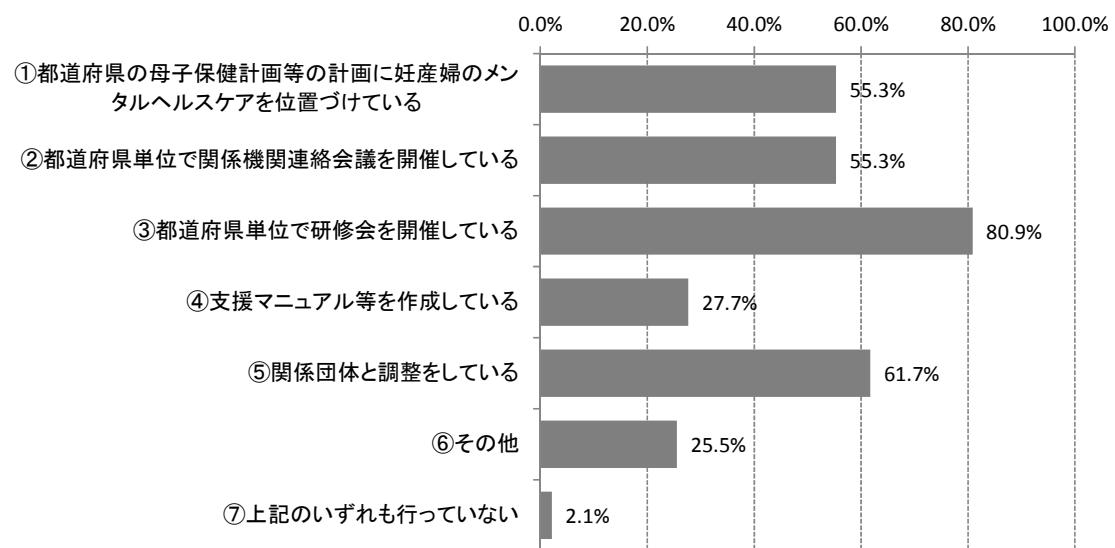
- ・連絡調整会議や事例検討会で地域の関係機関と検討する（母子保健関係機関以外、精神科在勤の精神保健福祉士や相談支援所等）
- ・産婦健康診査後の相談窓口体制を構築（市町村と産科医療機関）
- ・地域の母子保健の連携会議や研修会などでメンタルヘルスケアをテーマとする場合がある。
- ・今後、市町村及び産科医療機関研修会等実施予定
- ・定期的に関係機関との連絡会議及び研修会を実施

(2) 都道府県庁の取組

都道府県庁における「組織体制」に関する取組をたずねた（複数回答）。

「都道府県単位で研修会を開催している」と回答した都道府県は 80.9% (38 件)、「関係団体と調整をしている」は 61.7% (29 件)、「都道府県の母子保健計画等の計画に妊産婦のメンタルヘルスケアを位置づけている」と「都道府県単位で関係機関連絡会議を開催している」はそれぞれ 55.3% (26 件) であった。「支援マニュアル等を作成している」は 27.7% (13 件) であった。

図表 3-56 「組織体制」に関する取組 (n=47, 複数回答)

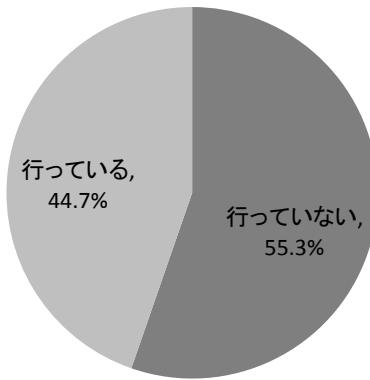


2. 妊産婦のメンタルヘルスケアに特化した事業

(1) 事業実施の有無

「行っている」と回答した都道府県は44.7%(21件)、「行っていない」と回答した都道府県は55.3%(26件)であり、およそ4割が事業を実施している。

図表 3-57 事業実施の有無(n=47)



(2) 妊産婦のメンタルヘルスケアに特化した取組について

① 事業概要

代表的な取組について下記に示す。

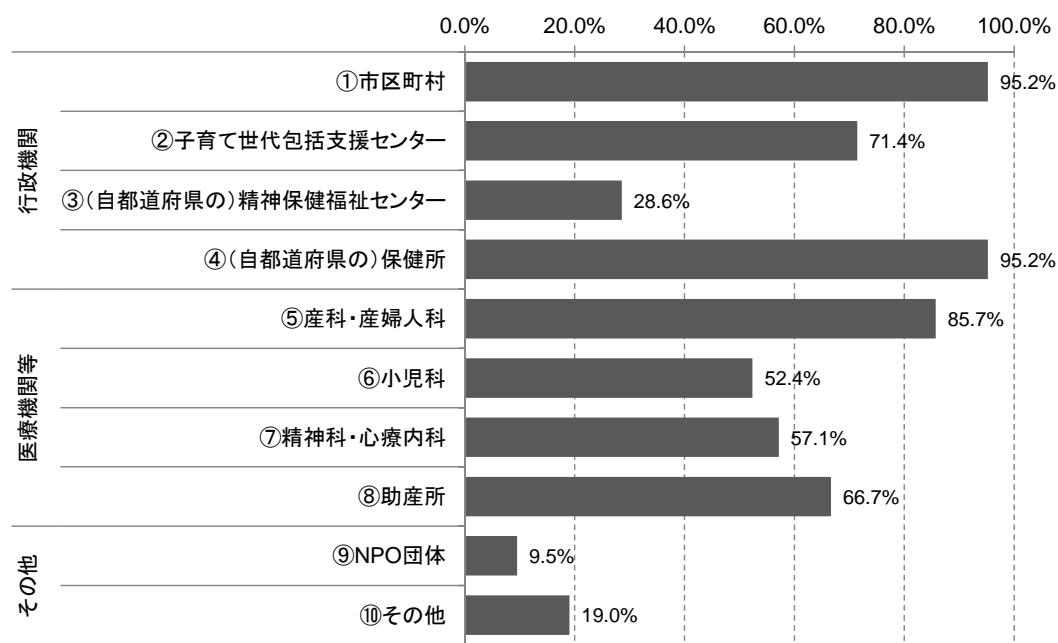
図表 3-58 メンタルヘルスケアに特化した事業の概要

事業概要
・母子健康手帳交付時から、特定妊婦となり得る妊婦を早期に発見し対応する為には、産後うつ質問票の活用や特定妊婦への具体的指導・支援法を専門職は習得しなければならない。よってEPDS及び周産期医療分野の専門家から支援方法を学ぶ研修会を開催。
・「産後うつ」のリスク要因を分析し、市町村における効果的な産後対策の実施と普及啓発を行うとともに、核家族化が進む中、産後における父親の役割が重要となっていることから、父親向けのサポートブックを作成し、家庭内サポートの向上を図り、「産後うつ」予防を促進する。
・産後うつ予防のため、市町・産科医療機関・小児科医療機関が、母親の精神的な健康状態の情報共有を行い必要な支援を行うためのツールを作成し、市町が行う産後ケア事業の推進及び妊娠期からの保健指導と妊産婦に関わる行政と医療の連携体制の構築を図る。
・電話相談（平日午前9時～午後5時、緊急時は24時間対応可）を開設し、特定妊婦等（出産後の養育について、出産前に支援を行うことが特に必要と認められる妊婦や妊婦健診を受けずに出産に至った産婦等）を対象に、関係機関と連携を取りながら子育て支援や自立支援等を行っている。
・若年妊娠や妊娠・産後うつ、感染症などのあるハイリスク妊産婦や病気・障害の子どもをもつ家族に対し、臨床心理士等による相談支援や関係機関との連携を図ることで、病気に対する不安や子育てに関する不安の軽減を図る。
1)妊娠初期に「メンタルヘルス質問票」を用いてリスクの早期発見のためのスクリーニングを行う。 2)メンタルヘルスにリスクのある妊婦を精神科医療機関・行政に繋ぎ、より安定した状態に保つシステムを構築する。 3)特にリスクの高い妊産婦は要保護児童対策地域協議会の個別検討会議で支援方針を決定する。
・精神的・身体的又は生活環境等の理由から、妊娠や出産、育児に支障を及ぼす恐れのある妊産婦（以下「ハイリスク妊産婦」という。）や、未熟児や長期にわたり療養を必要とする児童やその親等の困難事例について、市町村と支援方法を検討しながら、母体の健康管理や児童の健全な育成を促すため訪問指導等の支援を実施するとともに、関係機関と連携し、妊娠早期から児童虐待の視点も考慮に入れた出産、育児期を通じた切れ目ない継続的な支援体制づくりを行う。

② 事業の参加・協力機関

メンタルヘルスケアに特化した事業があると回答した 21 自治体についてみると、「行政機関①市区町村」、「④(自都道府県の)保健所」と回答した都道府県はそれぞれ 95.2% (各 20 件)、「医療機関等⑤産科・産婦人科」は 85.7% (20 件)、「行政機関②子育て世代包括支援センター」は 71.4% (15 件)、「医療機関等⑧助産所」は 66.7% (14 件) となって いる。

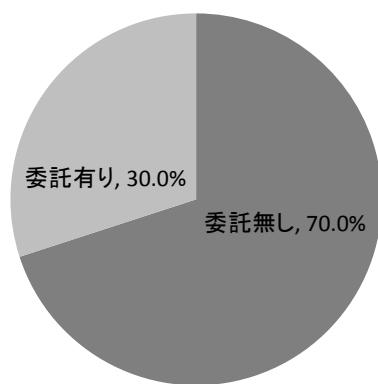
図表 3-59 メンタルヘルスケアに特化した事業の参加・協力機関 (n=21,複数回答)



③ 委託の有無

メンタルヘルスケアに特化した事業があると回答した 21 自治体についてみると、「委託無し」と回答した都道府県は 70.0% (14 件)、「委託有り」と回答した都道府県は 30% (6 件) であった。1 自治体は無回答である。

図表 3-60 委託の有無(n=47)



④ 開催実績

回答のあった自治体のうち、回答実績について回答があった自治体をみると、1回が 7 自治体、2~5 回が 4 自治体、6~10 回が 3 自治体、10 回以上が 1 自治体であった。

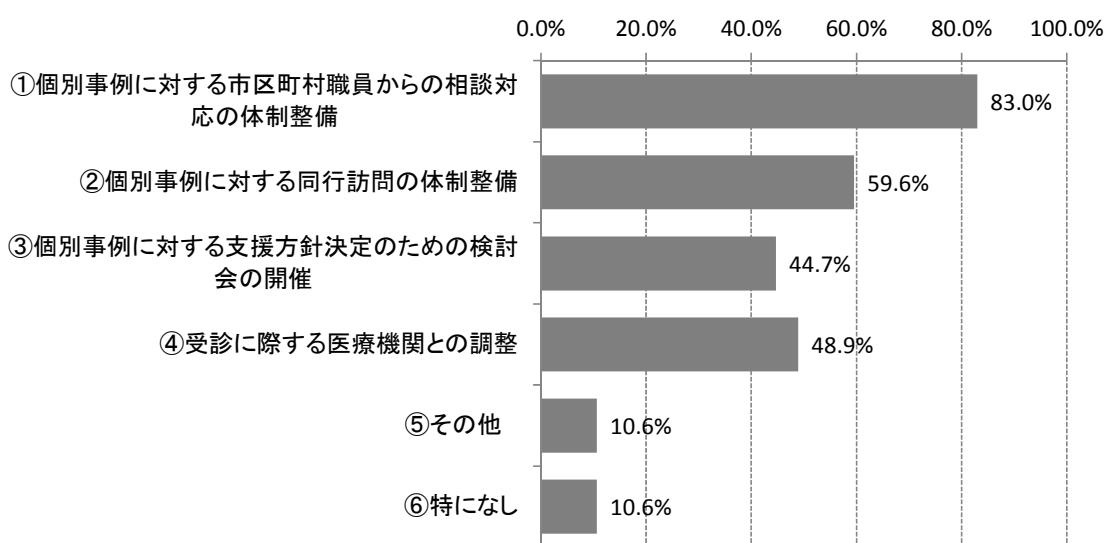
3. 実施・強化したい取組

(1) 都道府県型保健所

① 個別支援に関する取組

「個別事例に対する市区町村職員からの相談対応の体制整備」と回答した都道府県は83.0%（39件）、「個別事例に対する同行訪問の体制整備」は59.6%（28件）、「受診に際する医療機関との調整」は48.9%（23件）、「個別事例に対する支援方針決定のための検討会の開催」は44.7%（21件）であった。

図表 3-61 都道府県型保健所における「個別支援」に関する取組(n=47,複数回答)



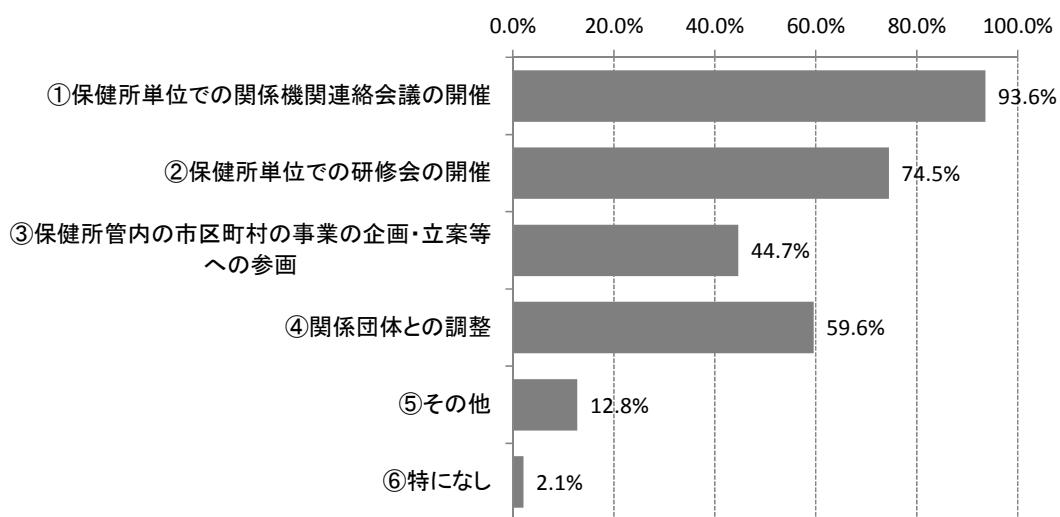
図表 3-62 その他の記載(抜粋)

- ・事例検討会の開催
- ・5か所の保健所において精神科医等による産後うつ相談を実施予定。
- ・ケース会議への参加
- ・育児不安解消サポート事業の継続
- ・市町村の現状・要望に基づき体制を検討したい
- ・取組を実施している保健所もあるが、保健所毎に差があるため一層の推進を図る

(2) 都道府県型保健所における「組織体制」に関する取組

「保健所単位での関係機関連絡会議の開催」と回答した都道府県は93.6%（44件）、「保健所単位での研修会の開催」は74.5%（35件）、「関係団体との調整」は59.6%（28件）、「保健所管内の市区町村の事業の企画・立案等への参画」は44.7%（21件）であった。

図表3-63 都道府県型保健所における「組織体制」に関する取組(n=47,複数回答)



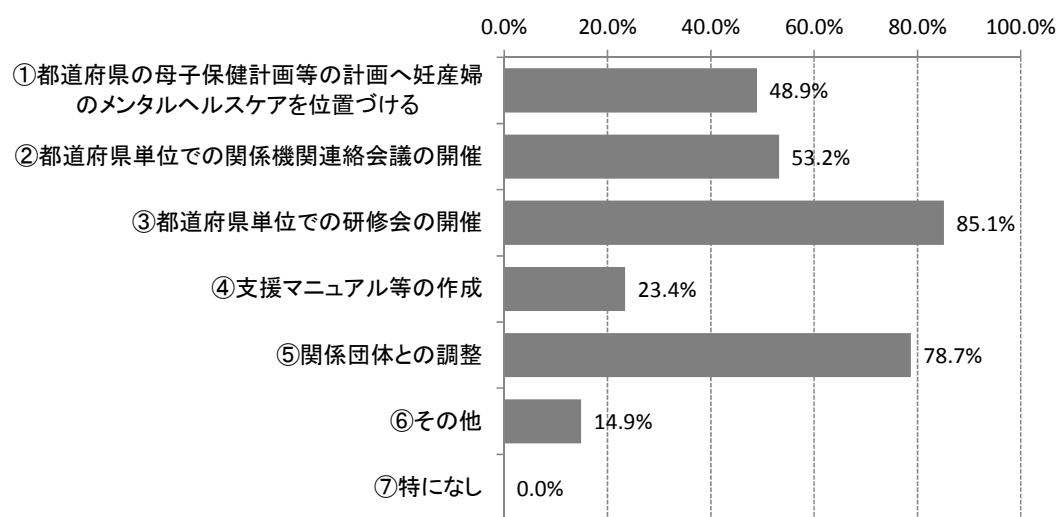
図表3-64 その他の記載(抜粋)

- ・県の妊産婦支援事業（県内統一の連絡票を活用）により、医療機関と市町村の連携を図る。
- ・女性健康支援センター電話相談事業での対応。
- ・市と分娩を実施している医療機関間で、リスクアセスメントシートを活用した支援体制整備。
- ・メンタルヘルスに限らず、周産期からの虐待予防事業として実施。
- ・県内事業の連携の充実（母子保健で実施している妊娠SOSの支援状況を、県域福祉事務所に所属する女性相談員と共有できるとよい。（女性相談員より））
- ・保健所の母子保健会議の場を活用し、会議・研修会を開催
- ・精神科との連携
- ・地域により精神科医療機関の状況が異なるため、保健所単位での一律な事業実施は困難、従来の母子保健の連携会議等で取り上げていくよう働きかける予定

(3) 都道府県庁における「組織体制」に関する取組

「都道府県単位での研修会の開催」と回答した都道府県は 85.1% (40 件)、「関係団体との調整」は 78.7% (37 件)、「都道府県単位での関係機関連絡会議の開催」は 53.2% (25 件)、「都道府県の母子保健計画等の計画へ妊産婦のメンタルヘルスケアを位置づける」は 48.9% (23 件)、「支援マニュアル等の作成」は 23.4% (11 件) であった。

図表 3-65 都道府県庁における「組織体制」に関する取組 (n=47,複数回答)



図表 3-66 その他の記載(抜粋)

(医療機関との連携)

- ・県産科医会活動との連携
- ・精神保健担当課との連携について

(関係者会議の開催)

- ・産後ケア事業の推進委員会の中で関係者会議・研修会を開催
- ・周産期医療連絡調整協議会での検討

(その他)

- ・メンタルヘルスケアに関する啓発、相談体制の充実
- ・市町村と医療機関とのネットワークの構築に向けた支援
- ・各地域における支援ネットワークの形成

4. 妊産婦のメンタルヘルスケアに関する意見

(1) 市町村が困っていることに関する認識（自由回答）

都道府県が認識している、市町村が困っている事に関する意見として、医療機関の立地、連携の方法、支援技術の取得といった点にかかるものが多く指摘された。

図表 3-67 市町村が困っている事に関する主な意見

(医療機関の立地)

- ・圏域内に、受診できる医療機関がない地域が複数ある。
- ・受診が必要な場合の受診先（精神科）がない。
- ・精神科治療に対応出来る産科が都市部の病院に限定されており、受診は困難。
- ・受診が必要な場合、妊産婦を受入れる受診先（精神科）が地域に偏在していること。
- ・分娩ができる精神科医療機関が1か所しかないこと。
- ・早急に受診につなぎたい場合でも受診予約がなかなか取れないこと。
- ・精神合併妊婦が出産できる医療機関が少ない。

(連携の方法)

- ・具体的な連携方法が不明。
- ・医療機関との連携方法がわからない。
- ・市町村や産婦人科医療機関から、精神科につなげたいが、どこにつなげてよいかわからないとの意見があつたため、県医師会が、精神科医療機関のリストを作成し、県が市町村へ周知した。
- ・市町村から産後ケア事業の協力について医療機関に依頼したが、受け入れ困難と回答する医療機関もあると聞いている。

(支援技術)

- ・受診に抵抗した時の関わり方に自信がない、受診を勧めたい方に強く受診勧奨できないなど支援技術の研鑽が必要である。
- ・外国人の母親に対して、それぞれの母国語に対応した問診や EPDS の実施が困難。
- ・知識や技術を取得する機会が少ない
- ・相談支援担当者の人員不足。
- ・上記により、ケース対応の時間が制限される。さらに、ケース対応について、組織として検討する時間が十分に確保できない。そのため、ケース対応が担当者任せになりがちで困難ケースへの対応に担当者が苦慮している。
- ・マンパワーの不足

(2) 妊産婦のメンタルヘルスケアに対して課題と感じること（自由回答）

都道府県が認識している、妊産婦のメンタルヘルスケアについての課題として、支援技術を如何に研鑽するか、また、医療機関との連携体制の構築といった点が多くあげられた。その他として、都道府県の面積が広い場合など、医療資源の偏在についての意見もあげられた。

図表 3-68 妊産婦のメンタルヘルスケアに対して課題と感じることについての主な意見

(支援技術の研鑽)

- ・県内全市町村で EPDS が行われるようになったが、保健師の世代交代により誤った活用方法となっている市町村も見受けられる。正しい活用方法に関する知識と技術の習得が必要。また、世代交代にも対応できるような人材育成が必要。
- ・周産期医療の現場においても、妊産婦のメンタルヘルスに関する知識等が不足している看護職が多いので、保健師に限らず看護職全体での正しい知識等の習得が必要。
- ・周産期医療と母子保健では、妊産婦のメンタルヘルスに関する情報を共有する仕組みがあるが、精神科医療や精神保健、児童福祉との情報共有や連携の仕組みがないため、現在ある仕組みの見直しが必要。

(医療機関との連携体制)

- ・産科医療機関と精神科医療機関の連携体制
- ・精神科医療機関の新患受付が数か月先の場合もある。緊急を要する場合は、県型保健所が医療機関調整等実施しているが、希望の受診先とならない場合も多い。

(その他)

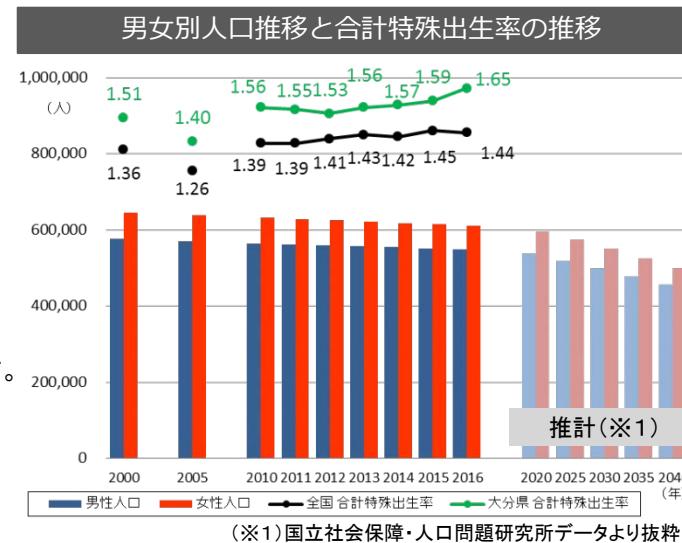
- ・都道府県面積が広く、受診先が広域とならざるを得ない場合がある。(医療機関等が偏在)

第4章 事例調査

【大分県】妊産婦の支援のため複数の多職種連携の枠組みを整備

地域の概要

- 人口 1,151,579人(平成29年11月時点)
 - 年間の出生数(平成28年) : 9,112人
 - 合計特殊出生率(平成28年) : 1.65
 - 大分県の特徴
 - ✓ 別府や由布院など、温泉が多く源泉数や湧出量は日本一。第三次産業が盛ん。カボスや乾しいたけ、関アジ・関サバ、豊後牛等のブランド食材も有名。
 - ✓ 人口は大分市・別府市に集中し、平成21から「子育て満足度日本一」を掲げ子育て世帯の増加を目指す
 - 医療資源
 - ✓ 産科/産婦人科 8か所(病院)、31か所(診療所)(分娩取扱はうち30か所)
 - ✓ 精神科/心療内科 32か所(同上)、23か所(同上)
 - ✓ 小児科 24か所(同上)、55か所(同上)



取組みの概要

- **事業概要**
 - ✓ 「ペリネイタルビギット事業」……妊産婦のもつ育児不安の解消を目的として、産婦人科医と小児科医が連携し、小児科医による育児に関する保健指導を実施。(平成13年～)
 - ✓ 「ヘルシースタートおおいた」……妊娠期から出産後の新生時期、乳幼児期等の各ライフステージごとに、母子が受けられる医療や母子保健等のサービスを体系的に整理し、医療・保険・福祉・教育の連携による「地域母子保健・育児支援システム」を構築。(平成20年～)
 - ✓ 「周産期メンタルヘルスケア体制の整備事業(大分トライアル)」……ヘルシースタートおおいたやペリネイタルビギット事業で構築された多職種連携体制の中で、特に精神科医療機関との連携体制の強化に重点をおき、精神的リスクをもつ妊産婦のピックアップと、行政や精神科医療機関等と連携する、地域としてのフォローアップ体制の確立を目指す。(平成28年～)
 - **実績**
 - ✓ ペリネイタル・ビギット 平成28年実績 産婦人科⇒小児科への紹介 713件、 小児科医による保健指導 620件(事業参加産婦人科16/37、小児科50/59施設)
 - ✓ ヘルシースタート連携状況 妊娠期:160件、産後乳幼児期:1,310件(平成28年)
 - ✓ 妊娠・出産に満足している者の割合(平成28年) 86.5%(全国10位)、合計特殊出生率(平成28年) 1.65(全国7位)、
 - ✓ 周産期死亡率(平成28年) 3.5(全国19位)

【大分県】妊産婦の支援のため複数の多職種連携の枠組みを整備

取組みの詳細

● ヘルシースタートおおいた、ペリネイタルビジット事業の取組を基盤に大分トライアルを開始

✓妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を実現するための「ヘルシースタートおおいた」、産婦人科医と小児科医の連携（「ペリネイタルビジット事業」）により培われた多職種連携の枠組みを活かし、精神的リスクを有する妊産婦を地域で支援する周産期メンタルヘルス体制整備を目指す。

● 運用上の工夫

✓ヘルシースタートおおいたにおいて「つなぐ」仕組みづくりを推進

各ステージ（母子健康手帳交付、妊婦健康診査、分娩のための入院、出生届、新生児訪問、こんにちは赤ちゃん事業、乳幼児健康診査、保育所、幼稚園）で、誰が何をみるのか（情報収集と観察）を明確にしたうえで、支援が必要な親子をどう抽出し、どのような手段でその情報を関係機関につなぐのかのガイドラインを策定し、各機関が連携。

✓ペリネイタルビジット事業の連携体制を活用

ペリネイタルビジット専門部会（産科医・小児科医・精神科医・保健師・助産師・児童相談所等/月1回）や、保健所単位の母子保健連絡会、ヘルシースタート地域推進専門部会（年1～2回）、県全体の同推進委員会（年2回）等において、地域の医療機関と母子保健担当が情報提供や意見交換を行い、互いに顔の見える関係を構築。

✓フォローが必要な妊産婦に対して、本人の意思に寄り添いつつ、皆が同じ方針で向き合うことで、精神科の受診につなげられた事例もでてきている。

✓ペリネイタルビジット事業はすべての市町村が参加しているわけではないが、事業を実施していない市町村であっても保健指導を受けられるようにしてしたり、自治体を移動した妊産婦についても、切れ目のない支援を提供している。

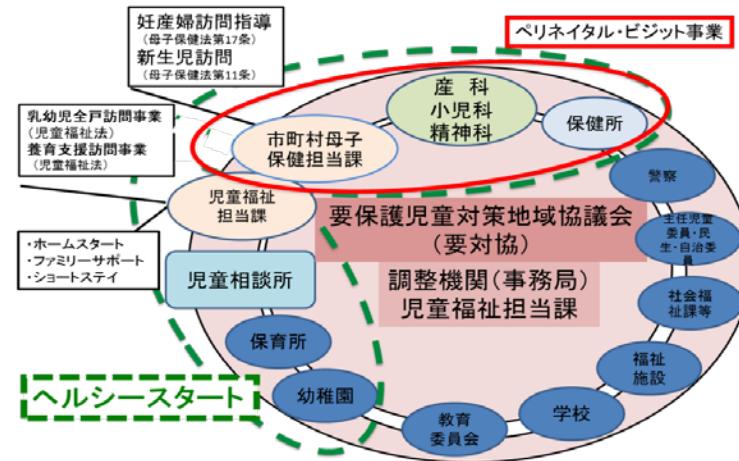
● 現状の課題と今後の予定

✓精神的リスクを有する妊産婦の支援には、現状では精神科との距離感がある関係に課題があるという認識に基づき、大分トライアルを開始。

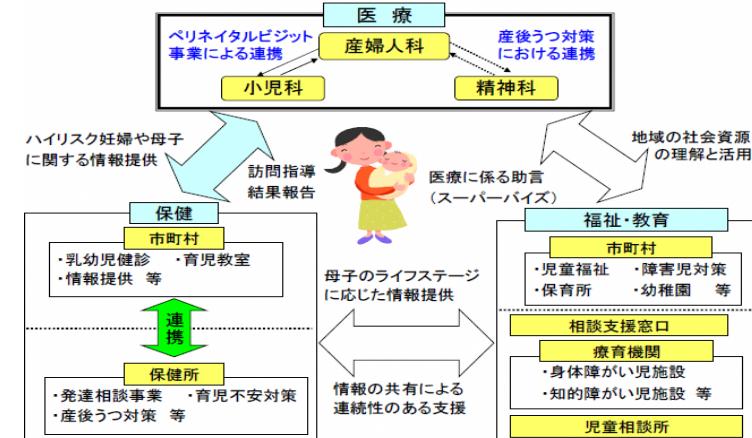
✓産科でチェックリストを用いたリスク評価を実施、精神科へつなげる必要のある妊産婦をピックアップ。

✓行政として精神科医療機関に協力を要請、妊産婦を診てくれる精神科のリストを作成してバックアップし連携強化を図る。

大分トライアルの目指すハイリスク妊産婦対応の連携図



「ヘルシースタートおおいた」の全体像



【福岡市】「子育て世代包括支援センター」を設置、各機関と連携しながら支援を実施

地域の概要

● 人口

1,553,778人(平成28年10月1日時点)

● 年間の出生数(平成28年) :14,794人

● 合計特殊出生率(平成27年) :1.33

● 福岡市の特徴

✓九州北部に位置し、アジアの玄関口として、観光・ビジネスが集まっている。

✓政令指定都市における人口増加数・人口増加率は全国1位(平成22年10月～平成27年10月)

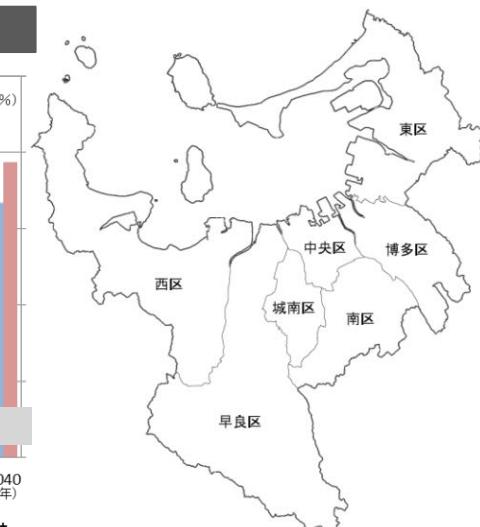
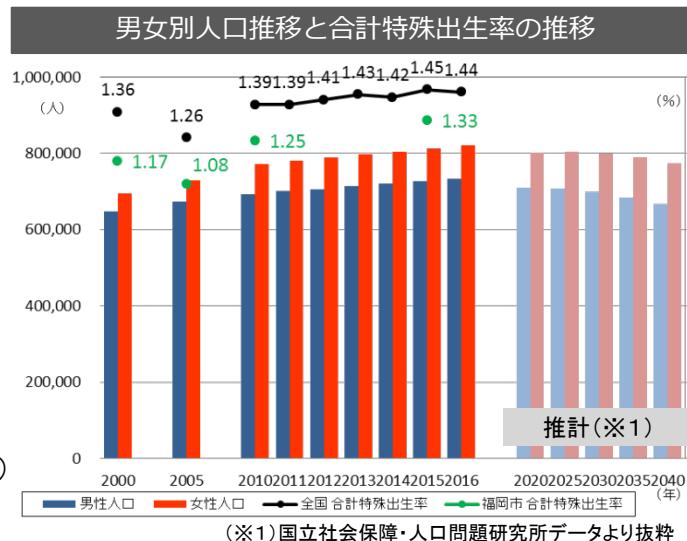
● 医療資源

✓分娩施設 11か所(病院)、20か所(診療所)

✓助産所 16か所(うち、分娩できる助産所1か所)

✓精神科/心療内科 56か所(同上)、227か所(同上)

✓小児科 17か所(同上)、187か所(同上)



取組みの概要

【母親のこころの健康支援事業】

● 事業概要

✓ 産後の母親に対し、適切な支援を行うことを目的に、新生児・乳児の訪問時に、エジンバラ産後うつ病スケール(EPDS)を活用し、母親の育児不安や産後うつ病の早期発見を行う(平成13年から導入)。

✓ EPDS調査全体の約1割がフォロー対象となり、地区担当保健師が家庭訪問等の支援を行っている。

● 実績

約1割が対象

H28年度の実績	訪問実数(対象者数)	EPDS等調査数		EPDS等高得点者	高得点者のフロー状況(含、重複)					
		実数	延数(回数)		継続訪問(実)	専門医受診	心の相談のすすめ	子ども家庭のすすめ	支援員派遣	その他
母子訪問指導員	7,784	7,719	7,737	632	201	11	1	0	71	
保健師	2,132	2,002	2,709	338	668	451	28	40	1064	
計	9,916	9,721	10,446	970	688	46	29	40	1,135	

[EPDS高得点者(EPDS9点以上、等)数と、高得点者率]

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
高得点者数(人)	541	490	495	499	485	540	636	708	878	970
高得点者率	10.7%	9.2%	9.4%	9.1%	8.6%	8.4%	9.3%	10.0%	9.8%	10.0%

【産科医療機関と行政が連携した妊娠期からの支援事業】

● 事業概要

✓ 平成24年度のモデル事業からスタート、年々、産科医療機関と、連携が進むことで妊娠時期からの支援が充実してきた。

✓ 福岡県産婦人科医会(福岡県産婦人科医会福岡ブロック会)が実施主体となり、ハイリスク妊婦を把握した場合、妊婦が居住する区の保健福祉センターに情報提供を行い、各区が対応を協議し、連携して支援を行う。

(ハイリスク妊婦...出産後の養育について出産前からの支援が必要な妊婦)

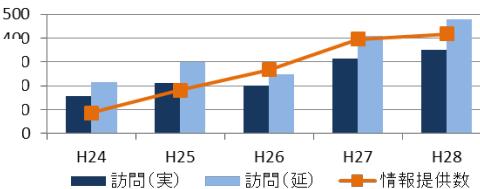
● 実績

[情報提供書の受理状況]

	全市
H28	418
H27	396
H26	267
H25	181
H24	86

○ H28は速報値
○ 8月よりスタート

[妊娠期の家庭訪問状況]



【福岡市】「子育て世代包括支援センター」を設置、各機関と連携しながら支援を実施

取組みの詳細

● 子育て世代包括支援センターの設置

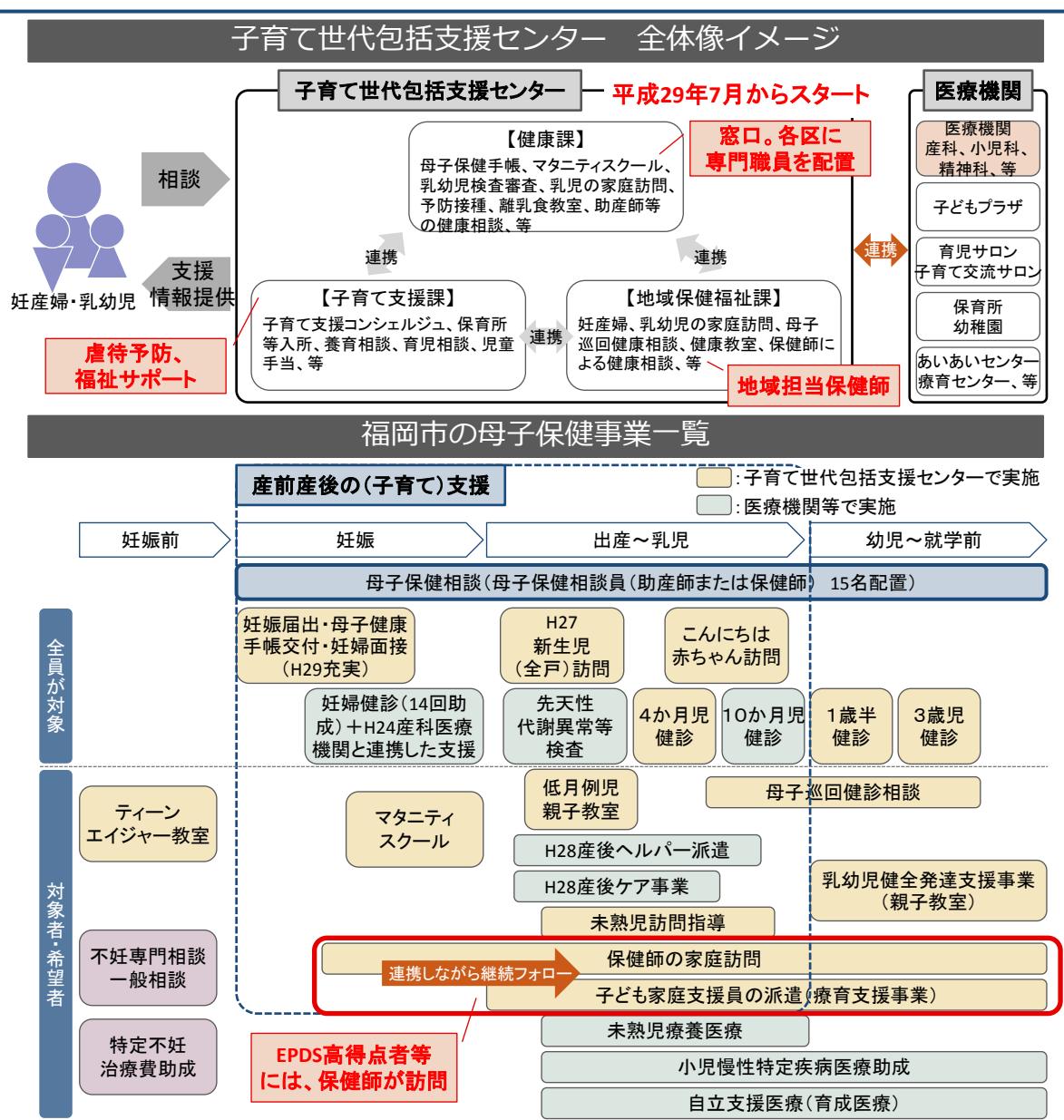
- ✓ 改正母子保健法を受け、平成29年7月に、相談・支援機能を備えた「子育て世代包括支援センター」を各区役所に設置。
- ✓ 「健康課」が窓口となり、「子育て支援課」「地域保健福祉課」と連携しながら、妊産婦・乳幼児の支援・情報提供を行っている。

● 運用上の工夫

- ✓ 妊娠期からの相談支援体制を強化する為、各区の健康課に専門職員（助産師または保健師）を増員、嘱託の母子保健健康相談員も15名配置（平成30年1月時点）している。
- ✓ 妊娠届出時に専門職が全数面接しアンケートを実施。不安が強い、精神疾患などにより、妊娠中からの支援が必要な方については、特定妊婦のチェックリストを用いて、関係課（子育て世代包括支援センター）で支援の時期や方法について協議し、支援を行っている。

● 現状の課題と今後の予定

- ✓ 福岡市では、転出入が多く育児不安を抱える世帯も多い。また、特定妊婦等のきめ細やかな支援が必要な世帯も増加しており、充実した支援を行うための体制づくりをすすめていく必要がある。
- ✓ 小児科医会や産科医会とは定例的（年に1回程度）に連絡会議を実施しているが、精神科医については、ケースの状況に合わせて、必要時連絡を取っている状況である。現在、妊産婦の自殺予防等問題提起もされているため、精神保健の担当と連携しながら取り組んでいきたい。



【函館市】母子支援連絡システムを活用した、産後うつ・育児支援事業の実施

地域の概要

● 人口

261,685人(平成30年2月末日時点)

● 年間の出生数(平成28年) : 1,532人

● 合計特殊出生率(平成28年) : 1.22

● 函館市の特徴

✓ 北海道南端の渡島半島南東部に位置し、札幌市、旭川市に次ぐ人口を有する中核都市。

✓ 市内北東部～北部地区に、比較的新しい住宅地が広がりアミラー層が多い。

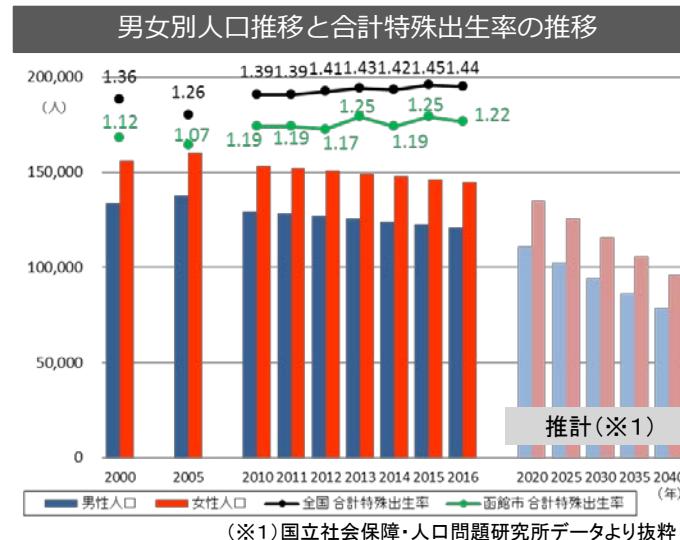
● 医療資源

✓ 産科/産婦人科 5か所(病院)、8か所(診療所)

✓ 助産所 2か所

✓ 精神科/心療内科 8か所(同上)、10か所(同上)

✓ 小児科 9か所(同上)、22か所(同上)



取組みの概要

● 事業開始の経緯

- ✓ 平成18年12月、函館市近隣の市町を管轄する道保健所(渡島(おしま)保健所)が、「母子保健支援システム(支援が必要な家庭に関する情報を把握し、医療機関との相互協力、連携のもとに、地域における母子保健サービスの推進を図る仕組み)」を活用し、産後うつ対策試行事業を実施。
- ✓ 平成19年度からは、「函館市産後うつ・育児支援事業」として事業を開始した。

● 「産後うつ・育児支援事業」の事業概要

- ✓ EPDS高得点など保健指導が必要な妊産婦および養育支援が必要な児(低出生体重児、医療機関から連絡があった児、等)をもつ母親を主な対象とし、おおむね生後1～2カ月までに保健師等が家庭訪問を実施。質問紙等を用い、養育支援が必要な母親のスクリーニングを行い、産後うつ・育児不安など、養育支援の必要な母親に対して、保健師等により必要な支援を行う。
- ✓ 北海道渡島保健所(北海道渡島総合振興局保健環境部保健行政室)と情報交換などをしつつ、事業を推進。なお、年1回開催の「道南圏域母子支援連絡会議」に、函館市も参加し、広域での医療機関、自治体、道保健所との連携体制が構築されている。
- ✓ 現在、函館市内の7か所の分娩取扱産科医療機関(病院5か所、診療所2か所)と連携し、必要に応じ、母子支援連絡票を函館市に送ってもらっている。また、周辺自治体も同様の事業を実施しており、連絡票は同じ様式で共有しており、病院にとって煩雑にならないような仕組みとなっている。

● 母子支援連絡票の受理状況

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
出生数	1,611	1,622	1,532
総受理件数	405	406	491
対象者別			
妊婦	13	47	62
産婦	191	186	219
乳児	200	166	205
幼児	1	7	5
診療科別			
産婦人科	245	247	306
小児科	21	35	43
NICU	139	124	142

【函館市】母子支援連絡システムを活用した、産後うつ・育児支援事業の実施

取組みの詳細

● 母子支援連絡票の活用

✓函館市内の病院・診療所と連携し、医療機関側から、養育者の状況(子供への思い・態度、周囲のサポート状況、等)や子どもの状況(入院期間・発育・発達状態、情緒面、等)が記載された連絡票を市へ送る仕組みを構築(同意を得たうえで、対象者のみ連絡)。連絡票の対象者は原則全員訪問し、継続的なフォローの対象としている。

● 運用上の工夫

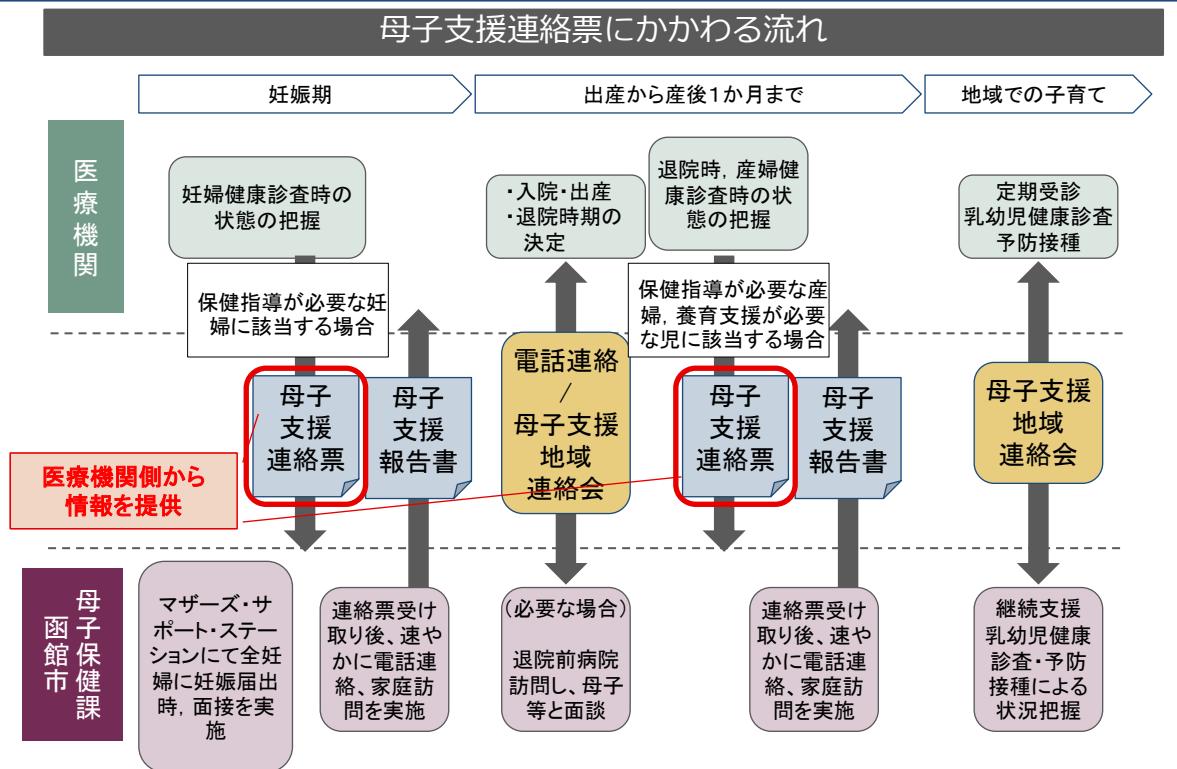
✓EPDSを産後退院時に実施しており、病院と市の連携の機会にできている。また、従来、産後退院時、保健師の家庭訪問時が主であったが、医療機関において、妊娠期にも活用するようになった。平成29年8月から産婦健康診査時(産後2週間、1か月の時期)にもEPDSを実施し、お母さんの状態把握を頻度高く行っている。

✓EPDS高得点者は、個別に点数等の管理を行い、気持ちの変化等を把握できるようにしているほか、お母さんや家庭の状況を踏まえた上で、必要に応じて精神科への受診勧奨を行っている。

● 現状の課題と今後の予定

✓少子化、核家族化が進み、身边に育児モデルが少ないためか、以前と比べ育児負担感を強く感じるケースや、家庭環境が複雑なケースが増えている。そのことに伴い、保健師等がサポートする内容が複雑化し、多岐にわたるようになった。様々な場面・状況に即時対応できる能力が求められている。

✓出生数は微減傾向にあるが、連携相談件数は年々増えている。限られたマンパワーで、充実した支援を行うことができるよう、さらに効率化を図り、工夫しながら事業を進めていきたい。



母子支援地域連絡会

● 目的

✓ 医療機関側と市側から関係者が集まり、養育支援が必要な家庭・対象者に関する意見交換や具体的な支援のあり方の検討を行う

● 参加者

✓ 10～15名程度(医療機関側からは医師・助産師・看護師、医療ソーシャルワーカー等が参加)

【須坂市・小布施町】広域での多職種連携を可能にする枠組みづくり

地域の概要

● 人口

(須坂市) 51,118人(平成30年2月1日時点)
(小布施町) 11,068人(平成30年2月1日時点)

● 年間の出生数(平成28年)

:348人(須坂市)・70人(小布施町)

● 合計特殊出生率

:1.52(須坂市 平成28年)
:1.26(小布施町 平成26年)

● 須高地区の特徴

- ✓長野県北部に位置し、長野市の東側に隣接。
- ✓ぶどうやりんご、もも、なし、ブルーンなど県内トップクラスの生産量をほこるフルーツ王国。

● 医療資源

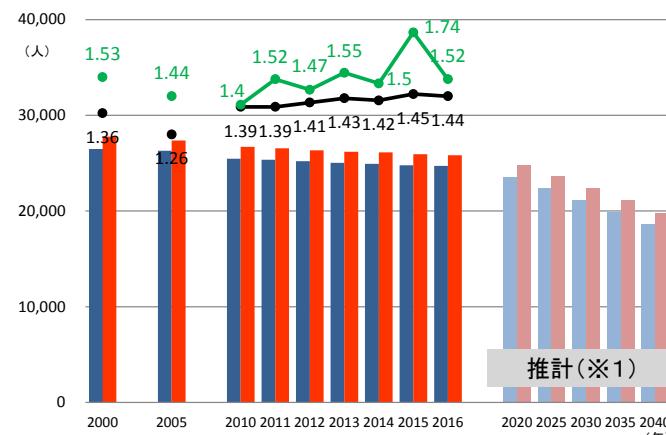
- ✓産科/産婦人科 1か所(病院)、1か所(診療所)
- ✓助産所 1か所(分娩取り扱いなし)
- ✓精神科/心療内科 1か所(同上)、2か所(同上)
- ✓小児科 2か所(同上)、6か所(同上)

✓須坂市・高山村・小布施町が広域で共通課題解決に取り組むため、平成22年に地域医療福祉ネットワーク推進室を設置。

✓須高地区をエリアとする、須高医師会、歯科医師会、薬剤師会と三市町村で「須高地域医療福祉推進協議会」を設立し、広域での医療福祉に関する連携に取り組んでいる。

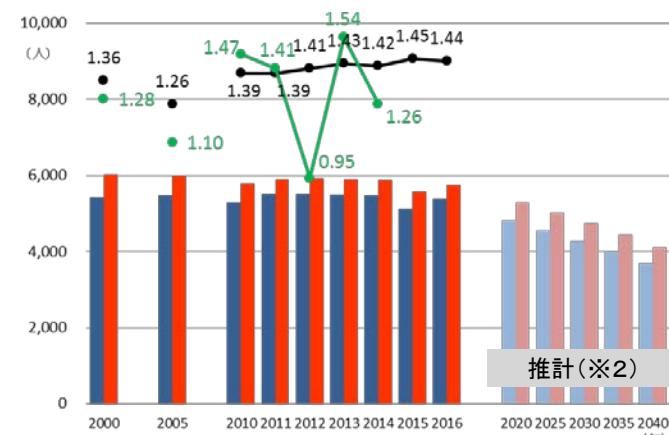


男女別人口推移と合計特殊出生率の推移（須坂市）



(※1) 国立社会保障・人口問題研究所データより抜粋

男女別人口推移と合計特殊出生率の推移（小布施町）



(※2) 国立社会保障・人口問題研究所データより抜粋

【須坂市・小布施町】広域での多職種連携を可能にする枠組みづくり

取組みの概要

● 事業開始の経緯

- ✓ 須坂市内の県立信州医療センターから市町村に対し、連携の可能性について提案があったのが事業開始のきっかけ。
- ✓ EPDSを導入して医療機関と市町村との間で情報を共有し、メンタルヘルス不調の既往を持つ妊婦、若年妊婦等に対し支援することで、産後うつ病の早期発見・早期支援や虐待の防止につなげようと連携を開始。2か月に1回支援者が集まり、周産期メンタルヘルスケア実務検討会を開催し、事例検討を行う(平成25年2月より開始)。
- ✓ 乳児家庭全戸訪問時にEPDS、赤ちゃんへの気持ち質問票、育児支援チェックリストの3つの質問票を母親のメンタルヘルスのスクリーニングに活用(同年7月より開始)。

● 事業概要

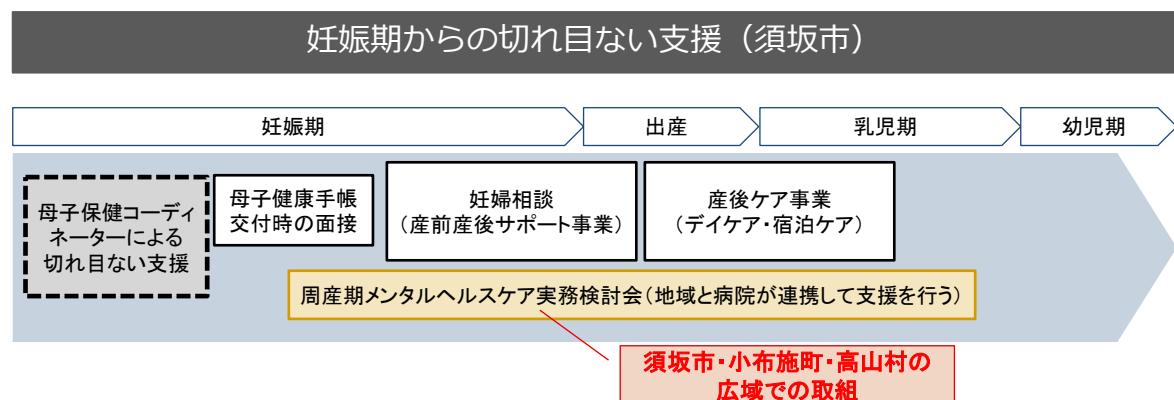
- ✓ 母子健康手帳交付時に「妊婦さんおたずね票」を用いて高リスク妊婦を把握、電話や面接等による妊娠中からの切れ目ない支援を提供。
- ✓ 新生児訪問指導、乳児家庭全戸訪問事業においてEPDSを活用した産後うつ病等の早期発見・支援。
- ✓ 須高地区の保健師と医療機関、県精神保健福祉センター等が参加し、ケースを基にした情報共有・支援方針の検討のための「周産期メンタルヘルスケア実務検討会」を開催(概ね2か月に1度)。

【須坂市独自の取組】

- ✓ 須坂市では、「母子保健コーディネーター」を配置し、妊娠期から出産・乳幼児期へと切れ目のない支援を提供。
- ✓ 妊娠期から出産、子育て期にわたるまでの、母子保健や育児に関するさまざまな悩みなどの相談や支援をする窓口須坂市子育て世代包括支援センター 妊娠・子育てなんでも相談「おひさま」を平成28年4月から開設。

● 実績

- ✓ ハイリスク妊婦として、平成28年度は妊婦315名中、延87名を対象に支援(須坂市)。
- ✓ EPDS9点以上の4名(68名中、平成27年)、8名(70名中、平成28年)を支援(小布施町)。
- ✓ 周産期メンタルヘルスケア実務検討会においては、40弱の事例について情報共有・検討し、スーパーバイザーとして参加している県精神保健福祉センター、国立成育医療研究センター医師の助言も受けつつ、フォローの方針を立て、支援につなげている。



【須坂市・小布施町】広域での多職種連携を可能にする枠組みづくり

取組みの詳細

● 広域での多職種連携の取組

- ✓ 県立信州医療センターにおいて、概ね2か月に1回、県立信州医療センター関係者（小児科医師2名、産科医師2名、病棟や外来の助産師・看護師、MSW等から、参加可能な者）と、須坂市・小布施町・高山村の保健師（課長を含む）とが参加し、「周産期メンタルヘルスケア実務検討会」を開催。
- ✓ 毎回15名前後が集まり、懸念のある事例を中心に情報を共有し、今後の支援方針を検討し、必要な支援につなげている。
- ✓ 課題を抱える妊産婦であればあるほど、地域の保健師からアプローチしても、なかなか連絡がつかないことがあり、実態を把握することが難しいケースが多いが、医療機関の妊婦健康診査等を受診している場合には、医療機関の側から情報を提供してもらうことができる点は大きなメリット。

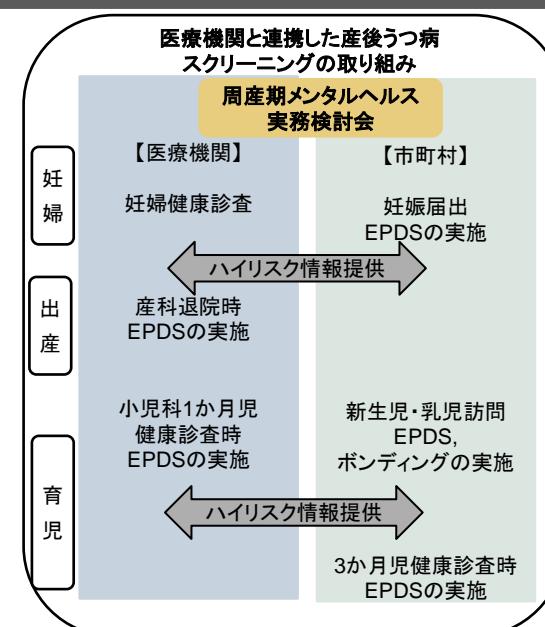
● 運用上の工夫

- ✓ 須坂市・小布施町・高山村の3市町村において須高医師会が組織されていることもあり、医師会の協力も得やすいため、広域での取り組みを推進しやすい環境にある。
- ✓ 母子健康手帳交付時には母子保健コーディネーターや保健師が全件で面接を実施。面接において、「妊婦さんおたずね票」を活用し、家族関係や妊娠に対する気持ち、妊娠・出産における協力体制の有無、精神科受診歴等を詳しく聴き取り、支援が必要な妊婦をスクリーニング。妊娠期からのフォロー（電話や訪問、マタニティ・セミナーの受講勧奨、兄弟の健康診査の際の様子確認）につなげている。
- ✓ 精神疾患の既往歴のある妊婦で、母子健康手帳交付時の面接において育児不安が強く、EPDSの値も高かったことから、フォローを開始。その後、電話等では明るく、落ち着いた様子であったので、一度は継続支援の頻度を下げようかと考えていた。ところが、周産期メンタルヘルスケア実務検討会において、医療機関側から妊婦健康診査時の様子から、支援が必要ではないかとの情報提供を得て、母子保健コーディネーターや保健師が、妊婦の夫も交えて面談をするなど、妊娠中からのサポート体制を構築することができた。産後も不安や悩みは抱えているものの、妊娠中に構築したサポート体制を活用し、産後ケア事業等への連携をすることで、状態の悪化を防ぐことができた事例などが好事例として挙げられる。
- ✓ 須坂市では、母子保健コーディネーターに情報を集めることで、地区担当の保健師だけが情報を抱え込むことのないようにしている。また児童虐待実務担当者会議とも母子保健コーディネーターを中心に連携している。

● 現状の課題と今後の予定

- ✓ 須高地区には入院の出来る精神科がなく、課題のある妊産婦の搬送先が地域にない点で連携に課題。来年度からは、地域の精神科診療所の医師に周産期メンタルヘルスケア実務検討会に参加してもらう予定であり、精神科との連携を強化していく予定。
- ✓ 小布施町では、分娩可能な施設がないため、須高地区以外の病院・助産所（近隣の長野市・中野市等）にて出産する妊婦が多いが、そのような医療機関（特に個人医院）から、妊婦の情報を得ることが困難。昨年度より、長野県が、産科医療機関と市町村が連携しハイリスク妊産婦との情報共有ツールの活用を推進する事業に取り組んだことで、病院との間では情報を共有するケースが増えた。今後は、個人医院等との情報共有の仕組の構築が課題。

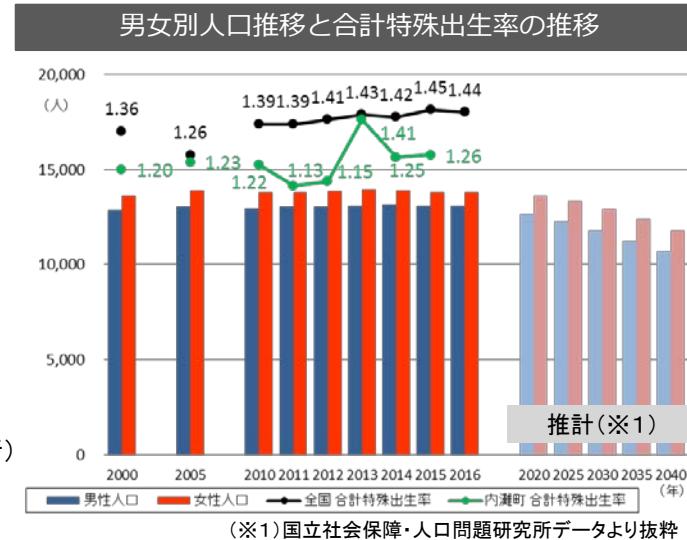
医療機関と地域との連携の枠組み（須坂市）



【内灘町】県が示した「母親のメンタルヘルス支援事業」の枠組みを参考にフットワークよく仕組みを具現化

地域の概要

- 人口
26,827人(平成29年11月時点)
- 年間の出生数(平成28年) : 187人
- 合計特殊出生率(平成27年) : 1.26
- 内灘町の特徴
 - ✓ 西に日本海、東に河北潟を擁し、白山・立山連峰を望む光溢れる砂丘のまち。隣接する金沢市(10キロ圏内)のベッドタウン。
 - ✓ 私立の金沢医科大学と包括連携協力に関する協定を締結(平成18年)。
- 医療資源
 - ✓ 産科/産婦人科 1か所(病院)、0か所(診療所)
 - ✓ 精神科/心療内科 1か所(同上)、0か所(同上)
 - ✓ 小児科 1か所(同上)、0か所(同上)



取組みの概要

- 事業開始の経緯
 - ✓ 石川県における「健やか妊娠育児支援事業」(平成8年開始)の中で、産婦健康診査・新生児訪問におけるEPDSを活用した産後うつ病の早期発見支援として「母親のメンタルヘルス支援事業」を開始(平成15年)。
 - ✓ 上記を受け、内灘町でも新生児訪問を全数実施し、育児支援チェックリスト、エジンバラ産後うつ病質問集(EPDS)、赤ちゃんへの気持ち質問集の3点セットを活用した母親のメンタルヘルスや育児に関する状況や気持ちを把握し、支援につなげる取組みを開始(平成15年)。

事業概要

- ✓ 産婦健康診査(1か月時)・新生児訪問におけるEPDSを活用した産後うつ病等の早期発見・支援。
- ✓ 内灘町にて毎月、支援事例検討会(「母子検討会」)を開催。県主催の地域ネットワーク会議に参加したり、県の実施する研修会等へ参加したりする中で、取組みを深化。
- ✓ ハイリスク妊産婦に対しては、担当の保健師が必要に応じたフォローを実施。

実績

- ✓ ハイリスク妊産婦として、平成28年は延64名を対象に支援。
- ✓ 毎月開催する母子検討会(県の保健師・内灘町の保健師・委託助産師・子育て支援センター職員)では、1回あたり60~70名について情報共有・検討しフォローの方針を立てる。
- ✓ メンタルヘルスに関しての把握経路及び支援状況(実績)は右図参照。

		EPDS受診数180人		(H28年度)		
		産科医療機関からの紹介 電話・連絡票	町が把握 (新生児訪問など)	合計	約1割 が対象	
要支援産婦 支援内容	EPDS高得点 (問10該当含む)	5	3	14	22 (12.2%)	
	その他 (うつ以外の精神疾患、 育児不安が強いなど)	2	0	12	14	
	合計	7	3	26	36 (200%)	
	他機関紹介 (精神科医療機関等)	1	0	0	1	
	保健師支援 (訪問・相談)	6	3	26	35	
	関係者事例検討会	0	0	0	0	

取組みの概要

- 地域の産科・小児科・精神科を有する金沢医科大学病院等医療機関と連携、妊産婦のメンタルヘルスに対応
 - ✓ 内灘町が産婦健康診査や新生児訪問等で把握した、メンタルヘルスにつきフォローが必要な妊産婦(EPDS高得点者や、うつ以外の精神疾患、育児不安が強い妊産婦等)について、近隣の金沢医科大学病院を含めた医療機関と連携し、情報を共有。医療機関から内灘町へ、電話や連絡票、産婦一般健康診査による情報提供もある。
 - ✓ 関係者の事例検討会の中で、その事例においての対応方針(手段(訪問・電話等)、頻度、手法等)を議論し、精神科医療機関の受診勧奨、保健師による訪問・相談等の支援を継続的に行う。

● 運用上の工夫

- ✓職員数が少なく、新生児訪問も全数で実施できていなかったが、県の母親のメンタルヘルス支援事業によって妊産婦へのメンタル面での支援の必要性を感じ、委託の助産師も活用して、全戸訪問を開始、EPDSの導入を行った。その際、内灘町職員の保健師と委託の助産師との役割分担を決め全戸訪問を可能にした。

- ✓事業を続ける中で、石川県の「母親のメンタルヘルス支援事業」において、県保健所主導で開催される「地域ネットワーク会議」を参考に、内灘町独自の「母親のメンタルヘルス支援検討会」を設置・運営。産婦人科医師・助産師・看護師等10名以内で委員を選任、年1回以上の会議を開催することで、顔の見える関係をつくり、内灘町としても、多職種の連携を可能にしている。

- ✓ 妊娠届出時に、対応した保健師がきちんと妊婦の状況を把握できるように、アセスメントシートを用意し、メンタルヘルスの課題を抱えている妊婦を取りこぼさないような工夫を実施。アセスメントシート上で、支援経過や今後の方針等を記録し、関係者間での情報共有にも利用。

● 現状の課題と今後の予定

- ✓特に精神科との連携体制の構築が課題。引き続き、一事例一事例での連携実績を積み重ねる中で関係性を強化していく。

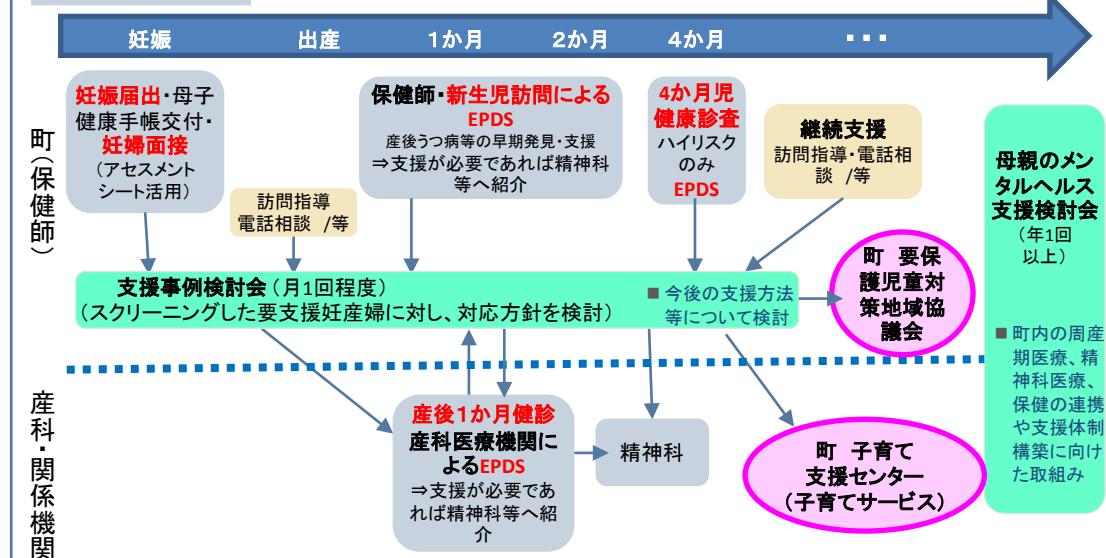
- ✓ 産後2週間の産婦健康診査においてもEPDSを用いたスクリーニングを行うか、県と共に対応検討中。

内灘町における「母親のメンタルヘルス支援事業」の概要

目的

- 母親の育児不安や産後うつ病棟の状況を早期にとらえて支援するとともに、妊産婦の心のケアが実施できる体制を整備することにより、親と子の健やかな成長を促すこと

事業の内容



第5章 まとめ

第5章 まとめ

1. 産婦調査の結果のまとめ

本事業では、産後の女性を対象に、不安の状況や受けているサポートの状況、メンタルヘルスケアに関するニーズを把握するための調査を実施し、1,900人から回答を得た。ここでは主な結果をまとめます。

(里帰りの実施状況)

本調査の対象者では、出産にあたって、里帰りをした人が50.1%と約半数であり、「25～29歳」では62.7%が里帰りをしていた。

出産回数が「1回」の人は60.7%が里帰りをしていた。出産回数が増えるにつれ、里帰りをしなかった人の割合が高くなっています。

(心配ごと・悩み等を相談できる相手)

家事や育児、その他の心配ごとや悩み等を相談できる相手は「夫・パートナー」が88.6%で最も高かった。次いで、「実母(82.0%)」、「友人(67.1%)」であった。「行政サービス」が9.5%、「子育てサークル」が4.7%、「民間サービス」が2.2%であった。

年齢別にみると「20～24歳」では「実母」が83.0%、「夫・パートナー」が76.8%であった。

また、「自身の親」と同居している場合は「実母」が90.2%であった。

「職場・同僚」については、妻が、「就労中」では21.7%、「産休・育児休業中」では20.6%であった。

出産回数が「1回」では、「夫・パートナー」は88.2%、「2回」では88.8%でほぼ同じ割合、「3回以上」では91.7%とやや増えている。「実母」は出産回数が「1回」で84.6%、「2回」では80.6%、「3回」では76.4%と出産回数が多くなるにつれ、減少した。

「里帰りをした」場合は、「実母」が90.1%、「夫・パートナー」は88.7%であった。「里帰りをしなかった」場合は、「夫・パートナー」が89.3%、「実母」は74.0%であった。「行政サービス」についてみると、「里帰りをした」場合は8.1%、「里帰りをしなかった」場合は11.1%であった。

妊娠が分かった時の気持ち別にみると、「嬉しかった」では、「夫・パートナー」が90.1%、「実母」が83.6%であった。「不安が大きかった」では「夫・パートナー」が78.7%、「実母」が74.7%、「とまどった」では「夫・パートナー」が76.6%、「実母」が68.8%であった。「行政サービス」についてみると、「不安が大きかった」で10.7%であった。

(今回の妊娠・出産、産後期間の相談・支援)

「夜間の赤ちゃんの世話」以外の項目では、「夫・パートナー」や「実母」から十分

な支援を受けたという回答が5割以上であった。「夜間の赤ちゃんの世話」は「夫・パートナー」からは「十分に支援を受けた」が41.9%、「実母」からは34.5%であった。「夫・パートナー」からの支援は、里帰りの有無別に、大きな違いは認められなかった。

出産回数別に「夫・パートナー」からの支援をみると、相談に関する項目は特に増減はみられず、「夜間の赤ちゃんの世話」について「3回以上」が「1回」に比べて12.6ポイント下がったのが項目別にみて最大の減少であった。「実母」からの支援は全体的に「1回」が高く、回数が多くなるほど、下がる傾向があり、1回と3回を比べると、おおむね20ポイント程度下がっていた。

「実母」からの支援についてみると「25～29歳」の年齢層で、いずれの項目についても「十分に支援を受けた」が他の年齢層に比べて高かった。

「実母」からは、里帰りしているほうが、「十分に支援を受けた」割合が高かった。

「行政（市・県）」からは「十分に支援を受けた」割合が比較的高かった項目は、「赤ちゃんの健康や発達についての相談」が33.0%、「自身の体調が母乳・授乳などの相談」が25.5%であった。

「民間サービス」から「十分に支援を受けた」割合が比較的高かった項目は、「自身の体調や母乳・授乳などの相談」が17.4%、「赤ちゃんの健康や発達についての相談」が14.4%であった。

（妊娠が分かったときの気持ち）

妊娠が分かった時の気持ちは、「嬉しかった」が74.9%で最も高く、次いで、「予定外だが嬉しかった」が15.7%であった。

「とまどった」が4.1%（77件）、「不安が大きかった」が3.9%（75件）、「困った」が0.5%（9件）、「特になんとも思わなかった」が0.3%（5件）であった。

「不安が大きかった」について年齢別にみると「20～24歳」で8.0%、「40～44歳」7.5%であった。

「とまどった」について年齢別にみると「20～24歳」で6.3%であった。

（今回の妊娠・出産・産後期間の不安や負担）

今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担について、回答の割合が高い上位3位までの項目は、いずれも産後2週未満の時期で「自分の体のトラブル（56.1%）」「十分な睡眠がとれない（54.2%）」「妊娠・出産・育児による体の疲れ（53.4%）」であった。

時期別に詳しくみると、妊娠中は、「自分の体のトラブル」が34.7%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が34.1%、「家事が思うようにできない」が22.5%、「職場・仕事関係」が22.2%であった。

「孤独だと感じる」について年齢別にみると、「20～24歳」では14.3%であった。また、「経済的な不安がある」について年齢別にみると、「20～24歳」で25.0%であった。

「自分の体のトラブル」について出産回数別にみると、「1回」では38.0%であった。「育児方法に自信が持てない」についてみると、出産回数が「1回」で12.9%であった。「職場・仕事関係」についてみると出産回数が「1回」で25.4%であった。

妊娠が分かったときの気持ちとして、「不安が大きかった」人では、「自分の体のトラブル」「妊娠・出産・育児による体の疲れ」がそれぞれ37.3%、「経済的な不安がある」が30.7%であった。

産後2週未満は、「自分の体のトラブル」が56.1%、「十分な睡眠がとれない」が54.2%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」53.4%であった。

「孤独だと感じる」について年齢別にみると「20～24歳」で17.0%であった。

出産回数別にみると、「1回」では、「自分の体のトラブル」が68.6%、「十分な睡眠がとれない」が64.8%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が61.2%で6割を超えていた。「育児方法に自信が持てない」が34.6%、「自分の時間がない」が42.4%、「家事が思うようにできない」が35.0%、「生活リズムの作り方がわからない」が35.3%、「孤独だと感じる」が17.8%で、いずれも回数が少ないほうが、高い割合であった。

「特になし」についてみると「3回以上」で18.2%であった。また、「経済的な不安がある」についてみると、「3回以上」で19.4%であった。

産後2週から8週は、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が50.4%、「十分な睡眠がとれない」が49.2%、「自分の体のトラブル(41.6%)」「家事が思うようにできない(40.1%)」「自分の時間がない(38.0%)」であった。

出産回数別にみると、「1回」では、「十分な睡眠がとれない」が59.5%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が55.9%で「自分の体のトラブル」が50.5%であった。「育児方法に自信が持てない」が28.9%、「自分の時間がない」が44.4%、「家事が思うようにできない」が45.3%、「生活リズムの作り方がわからない」が32.4%、「孤独だと感じる」が15.5%で、いずれも回数が少ないほうが高い割合であった。

「特になし」についてみると「3回以上」で16.1%、また、「経済的な不安がある」についてみると「3回以上」が19.0%であった。

現在は、「自分の時間がない」が37.8%、「家事が思うようにできない」が35.9%、「妊娠・出産・育児による体の疲れ(32.8%)」であった。

出産回数別にみると、「1回」の場合、「家事が思うようにできない」が39.2%で最も高かった。「2回」では「上の子の世話」が43.6%で最も高かった。「3回以上」で

は「妊娠・出産・育児による体の疲れ」が32.6%、「上の子の世話」が32.2%であった。「経済的な不安がある」についてみると「3回以上」では29.8%であった。このように、時期別に、不安や負担の内容に変化がみられることが分かった。また、年齢や出産回数によって、不安や負担を感じている人の割合が異なっていた。

(妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービス)

妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービスは、現在の「子どもの発達・発育チェック」が58.7%で最も高かった。次いで、「現在：日帰りで休息・利用できる場(54.7%)」、「現在：育児の相談(51.8%)」、「産後2週未満：自分の体のトラブルへの助言(50.9%)」であった。

時期別にみると、妊娠中は、「妊娠婦同士の交流の場」が34.4%で最も高かった。次いで、「自分の体のトラブルへの助言(28.0%)」であった。

産後2週未満は「自分の体のトラブルへの助言」が50.9%で最も高かった。次いで、「育児の相談(41.6%)」、「悩み相談などや精神的支援(37.1%)」であった。

産後2週から8週は、「育児の相談」が46.1%、「子どもの発達・発育チェック」が45.8%、次いで、「自分の体のトラブルへの助言(41.4%)」であった。

現在は、「子どもの発達・発育チェック」が58.7%で最も高かった。次いで、「日帰りで休息・利用できる場(54.7%)」、「育児の相談(51.8%)」であった。

このように時期に応じて、必要としているサービスが異なっていることが分かった。

(「産後うつ」の認知状況)

「産後うつ」の認知状況は、「名称も内容も知っている」が55.8%であった。「名称も内容も多少知っている(34.8%)」、「名称は聞いたことがある(6.9%)」であった。「知らない」は0.3%(6件)であった。

(まとめ)

今回の調査では、妊娠・出産、産後期間の不安や負担の状況、心配ごとや悩み等を相談できる相手や妊娠・出産、産後期間の相談支援の状況を把握することができた。

時期や年齢、出産回数等に応じての不安や負担の状況等も明らかになった。特に産後2週未満の不安・負担が大きいこと、時期によって不安・負担の内容・性質が変わってくることを明らかにすることができた。「20~24歳」で、産後2週未満で「孤独だと感じる」が17.0%であった点にも注目される。

25~29歳の年齢層で他の年齢層に比べて実母からの支援をうけており、また、初め

ての出産に向けては実母の支援が大きかった。出産回数が増えるにつれ、その割合が下がってくることが明らかになった。一方で、「夫・パートナー」は出産回数が増えても、かわらず相談相手であることが分かった。

国や自治体に期待する産前・産後の支援（自由回答）より、情報についてのニーズや、産後の支援、産後のうつ対策についての回答があった。また、買い物や家事等のサポート、外出時の対応、外出時の預かり、移動手段、保育所の充実、夫の育児支援、実母や義母向けの教育、経済的支援、不妊治療の助成、産休についての意見があった。

2. 自治体調査の結果のまとめ

本事業では、地方自治体や民間団体などによる保健サービスと産科、小児科、精神科等の医療機関による医療サービスとの連携体制の構築の実態や、その効果、課題等を把握するために、市区町村・都道府県を対象に紙面調査を行った。ここでは得られた結果をまとめることとする。

（受診勧奨の状況）

まず、28年度～29年度（調査時期まで）の約2年間に、市区町村が、母子保健事業等の機会を利用して、妊産婦に対しメンタルヘルスケアの観点からの受診勧奨を行ったことが「ある」のは72.8%で、「ない」が23.2%であった。「ある」と回答したうち、「新生児訪問」の機会に行ったのが66.4%、「乳児等の訪問指導」が60.4%、「産婦訪問」が55.3%、「育児相談」が54.6%、「妊婦訪問」が33.3%であった。このように本人または子どもに対する訪問や相談の機会を活用し、受診勧奨を行っていることがわかった。他に、「母子手帳の交付」の機会が37.6%、「3～4か月児健診」が32.9%であり、このような機会も利用されていることが分かった。

（妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関との連携）

妊産婦のメンタルヘルスケアに係る医療機関との連携体制としては、「産科医療機関との連携」がある、という回答が80.3%と約8割にのぼった。ただし、「小児科」とは45.6%、「精神科・心療内科」とは33.6%であった。「産科・産婦人科」「小児科」「精神科・心療内科」の3領域すべてと連携体制があったのは22.8%であった。

都道府県や保健所との連携体制は「あり」が55.9%で、「なし」が31.5%であった。妊産婦のメンタルヘルスケアに関する「勉強会・研修会」を実施していた市区町村は18.1%、「関係機関が集まる連絡会議」は18.9%で実施していた。これらの事業は「都道府県の保健所」が実施主体の割合が高く、それぞれ、46.6%、51.0%と約半数であった。妊産婦のメンタルヘルスケアに関する「個別ケースの検討会」は28.8%で実施していた。これは市区町村が実施主体である割合が高く、38.9%と約4割であった。また、この3事業について医療機関の参加状況をみると、いずれの事業も、産科・産婦人科の

協力・参加割合が小児科、精神科・心療内科に比べて高い。

都道府県や保健所との連携体制以外の項目は、自治体の規模が大きくなるほど、実施率が高くなる傾向がみられた。

勉強会・研修会、個別ケースの検討会、関係機関間の連絡会議の効果についてみたところ、勉強会・研修会では「妊産婦のメンタルヘルスに関する知識を得ることができた」が 81.9%であった。また、「妊産婦のメンタルヘルスに関する支援技術が高まった」が 59.0%であった。個別ケースの検討会は「妊産婦のメンタルヘルスに関する支援技術が高まった」が 48.2%、「専門的な助言を得られる体制ができた」が 34.1%であった。また、「産科に相談できる体制ができた」が 32.0%、「医療機関等への受診を勧奨することができた」が 30.2%であった。連絡会議では「産科に相談できる体制ができた」が 57.8%と最も高かった。また「都道府県に相談できる関係ができた」、「専門的な助言を得られる体制ができた」がそれぞれ 33.0%であった。

今後実施・強化したい項目としては、「精神科・心療内科の医療機関との連携体制」が 53.5%で最も高く、妊産婦のメンタルヘルスケアに関する「勉強会・研修会」は 52.8%、「妊産婦に関する個別ケースの検討会」が 47.7%、「関係機関が集まる連絡会議」が 47.4%であった。「妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関の活動などの把握」も 45.2%であった。

(妊産婦のメンタルヘルスケアに特化した事業)

妊産婦のメンタルヘルスケアに特化した事業を実施している割合は市区町村では 13.6%であった。都道府県府県では 47 都道府県中、21 都道府県であった。

市区町村において、特化した事業を実施している場合、市区町村の事業への医療機関の参加状況をみたところ、産科・産婦人科で 24.1%、精神科・心療内科は 13.9%、小児科は 3.8%、助産所は 6.3%であった。都道府県の事業の場合、回答のあった 21 都道府県のうち、産科・産婦人科は 18 都道府県、精神科・心療内科は 12 都道府県、小児科は 11 都道府県、助産所は 14 都道府県であった。

(メンタルヘルスケアの取組を進めていく上で必要な支援)

メンタルヘルスケアの取組を進めていく上で必要な支援については、「個別ケースに対する専門的見地からの助言を得られるアドバイザリー機能」が 68.0%で最も高かった。「他地域での取組事例等の参考となる情報の提供」が 59.1%、「自治体周辺の関係機関等の連絡先の開示やネットワーク構築の支援」が 56.8%、「妊産婦のメンタルヘルスケアに関する全国的な研修や勉強会の開催」が 53.1%でいずれも 5 割を超えていた。

人口規模別にみると、全体的に、人口規模が大きな自治体ほど、それぞれの支援を必要と考える割合も高くなっている。

(都道府県による市区町村支援)

都道府県調査では、都道府県型保健所において個別支援に関する取組について、「個別事例に対する市町村職員からの相談対応の体制がある」が 47 都道府県中 44 都道府県であった。実施・強化したい取組として、39 都道府県が「個別事例に対する市町村職員からの相談対応の体制整備」と回答していた。また、個別支援に関する取組として、「個別事例に対する同行訪問の体制がある」が 39 都道府県、「個別事例に対する支援方針決定のための検討会を開催している」が 28 都道府県、「受診に際し医療機関と調整をしている」が 29 都道府県であった。それぞれ 28、21、23 の都道府県が実施・強化したいと回答していた。

都道府県型保健所の組織体制に関する取組として、「保健所単位で関係機関連絡会議を開催している」は 43 都道府県、「保健所単位で研修会を開催している」は 33 都道府県、「関係団体と調整をしている」は 32 都道府県、「保健所管内の市町村の事業の企画・立案等へ参画している」は 16 都道府県であった。今後、取組実施・強化したいという回答はそれぞれ 44、35、28、21 都道府県であった。

都道府県庁における「組織体制」に関する取組について、「都道府県単位で研修会を開催している」38 都道府県、「関係団体と調整をしている」は 29 都道府県、「都道府県の母子保健計画等の計画に妊産婦のメンタルヘルスケアを位置づけている」は 26 都道府県、「都道府県単位で関係機関連絡会議を開催している」は 26 都道府県、「支援マニュアル等を作成している」は 13 都道府県であった。今後、取組を実施・強化したいという回答はそれぞれ 40、37、23、25、11 都道府県であった。

(医療機関数)

市区町村内の医療機関数をたずねたところ、産科・産婦人科がない市区町村が 38.9%、「1 施設」が 13.3%、精神科・心療内科がない市区町村が 32.2%、「1 施設」が 16.7%、小児科がない市区町村が 18.8%、「1 施設」が 14.9%で、医療機関がない場合や 1 施設といった回答があった。

(まとめ)

今回の調査では受診勧奨や妊産婦のメンタルヘルスケアに係る医療機関との連携体制の構築等、保健サービスと医療サービスの連携が行われていることが分かった。ただし、診療科では、まずは「産科・産婦人科」との連携が図られており、「小児科」「精神科・心療内科」については、今後の課題であることも分かった。

妊産婦のメンタルヘルスケアに関する「勉強会・研修会」、「妊産婦に関する個別ケースの検討会」、「関係機関が集まる連絡会議」、「妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関の活動などの把握」等、市区町村が今後実施・強化したい項目も明らかになった。「勉強会・研修会」、「妊産婦に関する個別ケースの検討会」、「関係機関が集まる連絡会

議」について実施している市区町村が考える効果も明らかになったので、今後取り組む市区町村の参考となると考える。

都道府県は市区町村に対して支援の体制について、今後実施、強化を図りたいという回答が多かった。市区町村の回答としても都道府県や保健所との連携体制は「あり」が55.9%で、「なし」が31.5%であった。

市区町村がメンタルヘルスケアの取り組みを進めていく上で必要な支援については、「個別ケースに対する専門的見地からの助言を得られるアドバイザリー機能」「他地域での取り組み事例等の参考となる情報の提供」、「自治体周辺の関係機関等の連絡先の開示やネットワーク構築の支援」、「妊産婦のメンタルヘルスケアに関する全国的な研修や勉強会の開催」等が挙げられた。

3. 事例調査結果について

本事業では、他の自治体の参考となるような取り組みをしている自治体を事例として取り上げ、詳しく聞き取り調査を行った。

大分県は妊産婦の支援のため複数の多職種連携の枠組みを整備し、県内市町村の取り組みを支援している。福岡市は子育て世代包括支援センターを設置し、各機関と連携しながら妊産婦の支援を実施している。内灘町は、石川県が提示した「母親のメンタルヘルス支援事業」の枠組みを参考に産科・小児科・精神科を有する大学病院が町内に立地する利点も活かし、医療機関と連携をはかり、妊産婦のメンタルヘルスケアに対応している。函館市は母子支援連絡システムを整備し、医療機関側と市側とで母子支援連絡票と母子支援報告書で状況を確認し合い、療育支援が必要な家庭・対象者に関する意見交換や支援のあり方の検討を行っている。須坂市・小布施町は高山村も含めた須高地区における広域での医療機関との連携体制を構築し、情報共有や事例検討等を通じてメンタルヘルスに課題を抱える妊婦に対して必要な支援を実施していることが分かった。

調查票

妊娠から産後に必要な支援に関するアンケート



1. あなたの基本的な情報についてお伺いします。

F1 お住まい	() 都道府県 () 市				
F2 年齢	1. 19歳以下	2. 20~24歳	3. 25~29歳	4. 30~34歳	5. 35~39歳
	6. 40~44歳	7. 45歳以上			
F3 同居家族 【複数回答可】	1. 子 →今回の出産:()人、今回の出産以外:()人 2. 夫・パートナー 3. あなたの親 4. 夫の親 5. その他()				
F4 現在のあなたの就労状況	1. 就労中 2. 産休・育児休業中 3. 妊娠または出産を機に退職した 4. もともと働いていない 5. 学生 6. その他()				
1. ~3. の場合:就労形態	1. 正社員・正職員 2. 非常勤・パート・派遣 3. 自営業・家族従業員・自由業 4. その他()				
F5 夫の就労状況	1. 正社員・正職員 2. 非常勤・パート・派遣 3. 自営業・家族従業員・自由業 4. 学生 5. 無職 6. 育休中 7. 夫・パートナーはいない 8. その他()				
F6 出産回数	1. 1回	2. 2回	3. 3回以上		
F7 今回の出産週数	1. 妊娠33週未満	2. 妊娠33週~36週	3. 妊娠37週以上		
F8 出産にあたっての「里帰り」の有無と里帰り先	1. 里帰りをした → 場所 : a. 同一市町村内 b. 同一都道府県内 c. 都道府県外 → 期間 : 産前 [] 週間 ~ 産後 [] 週間程度 2. 里帰りは、しなかった				

2. 妊娠・出産・産後期間の不安感や負担感と必要な支援等についてお伺いします。

Q1 家事や育児、その他あなたの心配ごと・悩み等を相談できる方はいますか。(あてはまるもの全てに○)

0. いない	1. 夫・パートナー	2. 実母	3. その他の家族	4. 友人	5. 職場・同僚
6. 子育てサークル	7. ボランティア	8. 行政サービス	9. 民間サービス	10. その他()	

※行政サービスとは、自治体が提供するサービスのことをいう(例:妊婦健診、新生児訪問、こにちは赤ちゃん事業(乳児家庭全戸訪問事業)、乳幼児健診、育児相談など)。

Q2 今回の妊娠・出産・産後期間に、誰がどのようにあなたの育児等を相談・支援しましたか。下記①~⑤のそれぞれについて、十分に支援を受けたものに○、支援を受けたが十分とは思わなかったものに△、支援を受けなかったものに× を付けてください。①~③に該当する人がいない場合は×を付けてください。

(※原則、すべての欄に○△×のいずれかを記入)	①夫・パートナー	②実母	③その他の家族	④行政(市・県)	⑤民間サービス
あなたの体調や母乳・授乳などの相談					
赤ちゃんの健康や発達についての相談					
日中の赤ちゃんの世話(授乳や沐浴など)					
夜間の赤ちゃんの世話(夜泣きなど)					
上の子の世話(遊び、勉強、食事、入浴など)					
※上の子が「いない」場合は、空欄のままにしてください。					
家事(食事、洗濯、掃除、等)					
外出時のサポート					

Q3 妊娠が分かった時の気持ちについて、最も近いもの1つをお選びください。

1. 嬉しかった	2. 予定外だが嬉しかった	3. とまどった	4. 不安が大きかった
5. 困った	6. 特になんとも思わなかった		

Q4 今回の妊娠・出産・産後期間に、どのような不安や負担を感じましたか。次の①~④の期間ごとに、あてはまる項目すべてに○を付けてください。

(※あてはまるものすべてに○)	①妊娠中	②産後2週未満	③産後2週~8週	④現在
1 特になし	1	1	1	1
2 自分の体のトラブル(乳房、出産時の傷等)	2	2	2	2
3 育児方法に自信が持てない	3	3	3	3
4 上の子の世話(赤ちゃん返りなど)	4	4	4	4
5 妊娠・出産・育児による体の疲れ	5	5	5	5
6 十分な睡眠がとれない	6	6	6	6
7 自分の時間がない	7	7	7	7
8 家事が思うようにできない	8	8	8	8
9 生活リズムの作り方がわからない	9	9	9	9
10 孤独だと感じる	10	10	10	10
11 経済的な不安がある	11	11	11	11
12 職場・仕事関係	12	12	12	12
13 その他()	13	13	13	13

Q5 妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために、どの時期に、どのようなサービスが必要だと思いま
すか。次の①~④の期間ごとに、あてはまる項目すべてに○を付けてください。

(※あてはまるものすべてに○)	①妊娠中	②産後2週未満	③産後2週~8週	④現在
1 外出時のサポート	1	1	1	1
2 自分の体のトラブルへの助言(乳房、出産時の傷等)	2	2	2	2
3 育児の相談	3	3	3	3
4 子どもの発達・発育チェック	4	4	4	4
5 上の子についての相談・支援	5	5	5	5
6 悩み相談などや精神的支援	6	6	6	6
7 1日帰りで休息・利用できる場	7	7	7	7
8 宿泊で休息・利用できる場	8	8	8	8
9 地域で利用できるサービスの紹介	9	9	9	9
10 妊産婦同士の交流の場	10	10	10	10
11 その他()	11	11	11	11

Q6 「産後うつ」について知っていますか。※詳しくは同封の依頼状を参照ください。

1. 名称も内容も知っている	2. 名称も内容も多少知っている	3. 名称は聞いたことがある	4. 知らない
----------------	------------------	----------------	---------

Q7 その他、産前・産後の支援として国や自治体に期待されることがありましたらご自由に記入ください。

--



アンケートは以上で終了です。ご協力いただき、ありがとうございました。
回答いただいた調査票は、お手数ですが、同封の封筒に入れ、1月5日までに投函いただければ幸いです(切手不要)

地域における妊産婦のメンタルヘルスケアのための連携体制に関するアンケート調査

問1 貴自治体内の保健医療資源について、下記に記入ください。(平成 29 年 11 月 1 日現在) 市区町村向け

(1) 産科／産婦人科	(a)病院数	か所	(b)診療所数	か所
(2) 精神科／心療内科	(a)病院数	か所	(b)診療所数	か所
(3) 上記(1)(2)両方の診療科を備えた機関数	(a)病院数	か所	(b)診療所数	か所
(4) 小児科	(a)病院数	か所	(b)診療所数	か所
(5) 助産所	(a)助産所数	か所	(b)左記(a)のうち 分娩取扱施設数	か所
(6) 貴自治体において、母子保健に係る業務 に従事する保健師・助産師数	(a)保健師	人	(b)助産師	人

問2 貴自治体では、母子保健事業等の機会を利用して、妊産婦に対しメンタルヘルスケアの観点から受診勧奨を行ったことはありますか。平成 28~29 年度の実績を回答ください。(あてはまるもの 1 つに○)

1. ある 2. ない ⇒問 3 へ 3. 分からない ⇒問 3 へ

「1. ある」と回答いただいた方にうかがいます。どのような機会に受診勧奨を行いましたか。(複数回答可)。

- | | | | |
|-------------|------------------|---------------------|---------------|
| 1. 母子手帳の交付 | 2. 妊婦健診 | 3. 産婦健診 | 4. 1か月児健診 |
| 5. 3~4か月児健診 | 6. 6~7か月児健診 | 7. 9~10か月児健診 | 8. 妊婦訪問 |
| 9. 産婦訪問 | 10. 新生児訪問 | 11. 乳児等の訪問指導 | 12. 母親学級・両親学級 |
| 13. 育児相談 | 14. その他 (事業名 :) | 15. 事業は特定できない・わからない | |

問3 貴自治体では、妊産婦のメンタルヘルスケアに特化した事業を行っていますか(委託事業も可) (例: 電話相談事業、子育てメンタルサロンなど)。「1. ある」と回答いただいた場合、事業概要を記入ください。

※ 複数の事業がある場合、お手数ですが、以下の回答欄をコピーの上、記入をお願いします。

1. ある 2. ない ⇒問 4 へ

「1. ある」と回答いただいた方は、事業概要をご紹介ください。

(1)事業名称	
(2)開始年	平成 () 年
(3)事業概要	
(4)事業の参加・ 協力機関名	(あてはまる番号全てに○) 【行政機関】 1. 貴市区町村 2. 子育て世代包括支援センター 3. 都道府県の精神保健福祉センター 4. 都道府県の保健所 【診療科等】 5. 産科・産婦人科 6. 小児科 7. 精神科・心療内科 8. 助産所 【その他】 9. NPO団体 10. その他 ()
(5)事業委託の有無	※いずれかに○ ⇒ 1. 委託している 2. 委託なし
(6)実績(平成29年 4/1~9/30)	(a)実施内容 (例: 相談数、サロン開催回数) : (b)実績数と単位 (例: 10件、3回) :

問4 妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関との連携体制についてうかがいます。

4-1 貴自治体では、以下に示すような連携体制はありますか(a)。また、今後、どのような取り組みを実施・強化したいですか(b)。(a)(b)の回答欄について、それぞれあてはまるもの全てに○をつけてください。

[回答欄]	(a)ある	(b)今後実施・強化したい
1) 妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関の活動などの把握		
2) 貴自治体と、医療機関(産科)との連携体制	→4-2(A)へ	
3) 貴自治体と、医療機関(小児科)との連携体制	→4-2(B)へ	
4) 貴自治体と、医療機関(精神科・心療内科)との連携体制	→4-2(C)へ	
5) 貴自治体と、都道府県や保健所との連携体制	→4-2(D)へ	
6) 妊産婦のメンタルヘルスケアに関する勉強会・研修会	→4-3(A)へ	
7) 妊産婦のメンタルヘルスケアに関する個別ケースの検討会	→4-3(B)へ	
8) 妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関が集まる連絡会議	→4-3(C)へ	
9) その他 ()		
10) いずれも特に必要性は感じていない		

4-2 前問4-1の、2) 3) 4) 5)において「a. ある」と回答いただいた自治体にうかがいます。

連携体制の概要を下記の回答欄に記入ください。

※ 概要がわかる既存の資料等があれば、同封いただけますと幸いです。

[回答欄]	連携体制の概要について(相手先機関名や、連携の内容など)
(A)産科との連携体制	
(B)小児科との連携体制	
(C)精神科・心療内科との連携体制	
(D)都道府県や保健所との連携体制	

4-3 前問4-1の「6（勉強会・研修会）」「7（個別ケースの検討会）」「8（連絡会議）」について「a.ある」と回答いただいた自治体にうかがいます。それぞの概要について、下記の回答欄に記入ください。

- ※ 複数の事業がある場合、お手数ですが、以下の回答欄をコピーの上、記入をお願いいたします。
- ※ 概要がわかる既存の資料等があれば、同封いただけますと幸いです。

【回答欄（A）】 「6. 妊産婦のメンタルヘルスケアに関する勉強会・研修会」について

(1)開始年	平成（ ）年
(2)事業概要	
(3)当該事業の参加・協力機関名と実施主体	<p>(i)当該事業の参加・協力機関（あてはまる番号全てに○）</p> <p>【行政機関】 1. 貴市区町村 2. 子育て世代包括支援センター 3. 都道府県の精神保健福祉センター 4. 都道府県の保健所</p> <p>【診療科等】 5. 産科・産婦人科 6. 小児科 7. 精神科・心療内科 8. 助産所</p> <p>【その他】 9. NPO団体 10. その他（ ）</p> <p>(ii)実施主体〔上記(i)の選択肢番号を記入〕：</p>
(4)平成29年度実績(予定含む)	1. 開催実績：約（ ）回（含予定） 2. わからない
(5)活動の効果	下記の点線枠「選択肢」から ⇒ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 番号を選び○(複数回答可) 11(その他) ()

【選択肢（「(5)活動の効果」）】

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1. 妊産婦のメンタルヘルスに関する知識を得ることができた | 2. 妊産婦のメンタルヘルスに関する支援技術が高まった |
| 3. 医療機関等への受診を勧奨することができた | 4. 産科に相談できる体制ができた |
| 5. 小児科に相談できる体制ができた | 6. 精神科・心療内科に相談できる体制ができた |
| 7. 複数の診療科にまたがる連携体制ができた | 8. 助産所に相談できる体制ができた |
| 9. 都道府県（本庁、精神保健福祉センター、保健所等）に相談できる関係ができた | |
| 10. 専門的な助言を得られる体制ができた | 11. その他 |

【回答欄（B）】 「7. 妊産婦のメンタルヘルスケアに関する個別ケースの検討会」について

(1)開始年	平成（ ）年
(2)事業概要	
(3)当該事業の参加・協力機関名と実施主体	<p>(i)当該事業の参加・協力機関（あてはまる番号全てに○）</p> <p>【行政機関】 1. 貴市区町村 2. 子育て世代包括支援センター 3. 都道府県の精神保健福祉センター 4. 都道府県の保健所</p> <p>【診療科等】 5. 産科・産婦人科 6. 小児科 7. 精神科・心療内科 8. 助産所</p> <p>【その他】 9. NPO団体 10. その他（ ）</p> <p>(ii)実施主体〔上記(i)の選択肢番号を記入〕：</p>
(4)平成29年度実績(予定含む)	1. 開催実績：約（ ）回（含予定） 2. わからない
(5)活動の効果	上記の点線枠「選択肢」から ⇒ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 番号を選び○(複数回答可) 11(その他) ()

【回答欄（C）】 「8. 妊産婦のメンタルヘルスケアに係る関係機関が集まる連絡会議」について

(1)開始年	平成（ ）年
(2)事業概要	
(3)当該事業の参加・協力機関名と実施主体	<p>(i)当該事業の参加・協力機関（あてはまる番号全てに○）</p> <p>【行政機関】 1. 貴市区町村 2. 子育て世代包括支援センター 3. 都道府県の精神保健福祉センター 4. 都道府県の保健所</p> <p>【診療科等】 5. 産科・産婦人科 6. 小児科 7. 精神科・心療内科 8. 助産所</p> <p>【その他】 9. NPO団体 10. その他（ ）</p> <p>(ii)実施主体〔上記(i)の選択肢番号を記入〕：</p>
(4)平成29年度実績(予定含む)	1. 開催実績：約（ ）回（含予定） 2. わからない
(5)活動の効果	前頁の点線枠「選択肢」から ⇒ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 番号を選び○(複数回答可) 11(その他) ()

問5 全ての自治体にうかがいます。今後、妊産婦のメンタルヘルスケアに関する取り組みをすすめていくために、どのような支援があればよいですか。（複数回答可）

1. 妊産婦のメンタルヘルスケアに関する全国的な研修や勉強会の開催
2. 他地域での取り組み事例等の参考となる情報の提供
3. 個別ケースに対する専門的見地からの助言を得られるアドバイザリー機能
4. 貴自治体周辺の関係機関等の連絡先の開示やネットワーク構築の支援
5. 現時点では特に必要性は感じていない
6. その他（ ）

問6 妊産婦のメンタルヘルスケアに関する連携体制について感じていること（自由記入）

--

■本アンケートにご協力いただいたご担当者の連絡先について、うかがいます。■

貴自治体名	都道府県	市区町村
所属課	役職・お名前	
電話番号	E-MAIL	

以上でアンケートは終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。
回答いただいた調査票は、お手数ですが同封の封筒に入れ、12月6日（水）までに投函いただければ幸いです（切手不要）

妊産婦のメンタルヘルスケアに関する都道府県調査

一ご回答にあたっての留意事項

- <1> ご回答にあたり、本シート名称を、貴自治体名に変更してください。
- <2> 水色のセルは、数字や具体的な内容を記入頂く設問です。
回答いただく内容にそって、回答欄の行を適宜調整してください。
- <3> 黄色のセルは、あてはまる選択肢を選択頂く設問です。
複数回答可の場合、あてはまる選択肢について、回答欄に「1」が表示されますので、選択してください。
- <4> 原則として、2017年12月1日現在の状況について回答ください。

基本情報: 貴都道府県について

F1 都道府県名	か所
F2 県型保健所数	

I 市区町村が行う妊産婦のメンタルヘルスケアに対する貴都道府県の支援の取組について

市町村が行う妊産婦のメンタルヘルスケアに関する取組を支援するため、貴都道府県では、どのような取組を行っていますか。<①都道府県型保健所の取組>は下記「Q1-1」「Q1-2」について、また、<②都道府県庁の取組>は「Q1-3」について、それぞれ該当する項目の回答欄より「1.」を選んで下さい。また、その他取組があれば、回答欄より「1」を選んだ上で、具体的な内容を、水色のセルに入力してください。いずれも行っていない場合は、「上記のいずれも行っていない」の回答欄より「1.」を選んで下さい。

※計画や連絡会議の要綱、マニュアル等がありましたら、提供いただけますと幸いです。

<1. 都道府県型保健所の取組>

Q1-1 都道府県型保健所における「個別支援」に関する取組(複数回答可)	
① 個別事例に対する市町村職員からの相談対応の体制がある	
② 個別事例に対する同行訪問の体制がある	
③ 個別事例に対する支援方針決定のための検討会を開催している	
④ 受診に際し医療機関と調整をしている	
⑤ その他	
その他について、具体的にご記入ください→	
⑥ 上記のいずれも行っていない	

Q1-2 都道府県型保健所における「組織体制」に関する取組(複数回答可)	
① 保健所単位で関係機関連絡会議を開催している	
② 保健所単位で研修会を開催している	
③ 保健所管内の市町村の事業の企画・立案等への参画している	
④ 関係団体と調整をしている	
⑤ その他	
その他について、具体的にご記入ください→	
⑥ 上記のいずれも行っていない	

<2. 都道府県庁の取組>

Q1-3 都道府県庁における「組織体制」に関する取組(複数回答可)	
① 都道府県の母子保健計画等の計画に妊産婦のメンタルヘルスケアを位置づけている	
計画名称をご記入ください→	
② 都道府県単位で関係機関連絡会議を開催している	
③ 都道府県単位で研修会を開催している	
④ 支援マニュアル等を作成している	
⑤ 関係団体と調整をしている	
⑥ その他	
その他について、具体的にご記入ください→	
⑦ 上記のいずれも行っていない	

II 貴都道府県における、妊産婦のメンタルヘルスケアに特化した事業について

Q2	貴都道府県では、妊産婦のメンタルヘルスケアに特化した事業を行っていますか。 実施している場合、回答欄より「1.行っている」を選び、 Q2-1へ進んでください。 実施していない場合、回答欄より「2.行っていない」を選び、 Q3へ進んでください。	
----	---	--

→Q2において、「1. 実施している」と回答いただいた場合、事業概要をご記入ください。

(「エフ上で公開されている場合、「参考URL」欄にURLをご案内ください。）

※事業に関する資料等がありましたら、提供いただけますと幸いです。

Q2-1 事業名	名称を右にご記入ください→
Q2-2 開始年度	平成(1~29)
Q2-3 事業概要	(下記にご記入ください)
参考URL	
Q2-4 事業の参加・協力機関(複数回答可)	
行政機関	① 市区町村 ② 子育て世代包括支援センター ③ (貴都道府県の)精神保健福祉センター ④ (貴都道府県の)保健所
医療機関等	⑤ 産科・産婦人科 ⑥ 小児科 ⑦ 精神科・心療内科 ⑧ 助産所
その他	⑨ NPO団体 ⑩ その他 その他について、具体的にご記入ください→
Q2-5 委託の有無:回答欄より「1.有り」「2.無し」を選択してください	
Q2-6 H29年度の開催回数(予定含む)	回

III 今後、妊産婦のメンタルヘルスケアに対し、都道府県として実施・強化したい取組について

市町村が行う妊産婦のメンタルヘルスケアに関する取組を支援するため、貴都道府県では、今後、どのような取組を実施・強化したいですか。<①都道府県型保健所において、今後、実施・強化したい取組>は下記「Q3-1」「Q3-2」について、<②都道府県庁において、今後、実施・強化したい取組>は、「Q3-3」について、それぞれ該当する項目の回答欄より「1.」を選んで下さい。また、その他取組があれば、回答欄より「1.」を選んだ上で、具体的な内容を、水色のセルに入力してください。いずれも行っていない場合は、「特になし」の回答欄より「1.」を選んで下さい。

<1. 都道府県型保健所において、今後、実施・強化したい取組>

Q3-1 都道府県型保健所における「個別支援」に関する取組(複数回答可)	
① 個別事例に対する市町村職員からの相談対応の体制整備	
② 個別事例に対する同行訪問の体制整備	
③ 個別事例に対する支援方針決定のための検討会の開催	
④ 受診に際する医療機関との調整	
⑤ その他	
その他について、具体的にご記入ください→	
⑥ 特になし	

Q3-2 都道府県型保健所における「組織体制」に関する取組(複数回答可)

① 保健所単位での関係機関連絡会議の開催	
② 保健所単位での研修会の開催	
③ 保健所管内の市町村の事業の企画・立案等への参画	
④ 関係団体との調整	
⑤ その他	
その他について、具体的にご記入ください→	
⑥ 特になし	

<2. 都道府県庁において、今後、実施・強化したい取組>

Q3-3 都道府県庁における「組織体制」に関する取組(複数回答可)	
① 都道府県の母子保健計画等の計画へ妊産婦のメンタルヘルスケアを位置づける	
② 都道府県単位での関係機関連絡会議の開催	
③ 都道府県単位での研修会の開催	
④ 支援マニュアル等の作成	
⑤ 関係団体との調整	
⑥ その他 その他について、具体的にご記入ください→	
⑦ 特になし	

IV 妊産婦のメンタルヘルスケアに関して市区町村が困っていることについて、
貴都道府県が把握している事をご記入ください。

(例:知識や技術を取得する機会がない、医療機関との連携方法がわからない、受診が必要な場合の受診先(精神科)がない等)

V 貴都道府県として妊産婦のメンタルヘルスケアに関して課題と感じていることをご記入ください。

VI その他、ご自由にご意見等をご記入ください。

アンケート調査は以上で終了となります。ご協力いただき、ありがとうございました。お手数ですが、本ファイルの、
ファイル名、本シート名の、「○○」部分を貴自治体名に変更し、ファイルをメール添付し、返信をお願いします。

平成 29 年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業
妊産婦に対するメンタルヘルスケアのための
保健・医療の連携体制に関する調査研究
報告書

平成 30 (2018) 年 3 月
三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社
〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2
電話 : 03-6733-1024